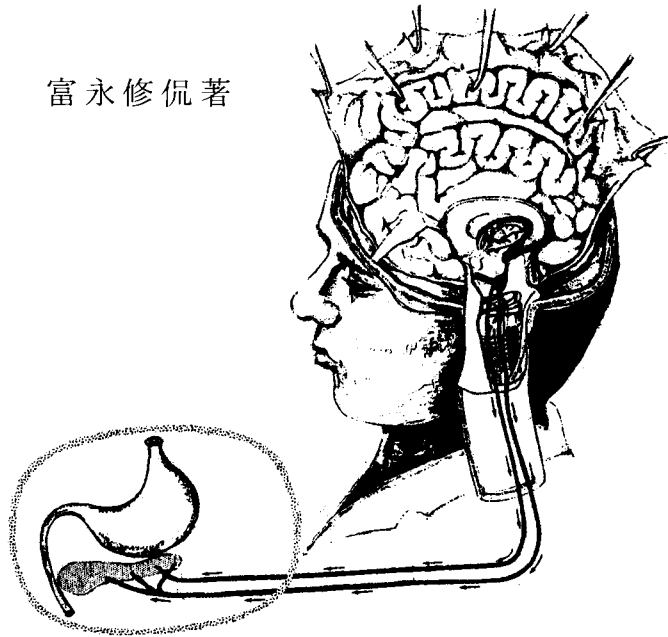


パクパク食べて 糖尿病 の治療

薬も注射も使わない食事制限なしの治療

富永修侃 著

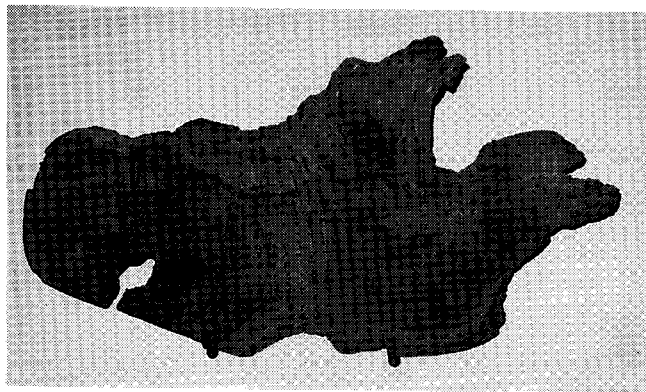




癒導医学創始者・講道館柔道八段・祖父今村喜太郎・先生



岩倉 具視 翁



岩倉具視翁より今村喜太郎先生へ贈られたもの

(生前、今村整骨院の診療室にかけられていたもの。長女房江氏より贈る)

はじめに

糖尿病は治らないものだとなっており、全ての人がそう信じ込んでいる。また今まで治療をした人達もそう信じている。

たまたま治った人は、比較的初期で軽く、医療者や病院の言うことをきちんと守って食事制限をし、またインシュリンの注射をしたために治ったと言う人もいるであろう。

しかし、ほとんど皆さんは体質が変化してしまったということで諦めている。

私は自律神経失調症の病気を、薬も注射も使わずまた薬物療法を行うことなく治してきた。

私のところにお出でになる方は、一般的な自律神経症状、いわゆる吐き気、眩暈^{めまい}、イライラ、または登校拒否にいたるまで、知られている病状でおいでになる。

しかしその方々の家族、あるいは近所の方で糖尿病は治らないもんじゃないかという相談が多くある。

それで私自身は、糖尿病は自律神経失調症の一症状としてこれまで多くの人達を治してきたが、そういう紹介を受けた糖尿病の方を色々診て、話を聞いていくうちに、どうも糖尿病が自律神経失調症の一つの症状であると考えていないということが私に分かってき

た。

そう考えているうちに本文中にあるMさんの息子さんが糖尿病の治療で来られた。その時、かねてから、近所のお医者さんが亡くなられたとMさんから世間話として耳にしていたが、本当にそのお話しからして、一般の人が、糖尿病は自律神経失調の結果生じるということを全然わかっていないということを私は認識したのである。

それから約半年から一年たち、次第にそのMさんと世間話的に色々な会話をするうちに、これは世の人に知らせておかなければならないとMさんもおっしゃったし、私もそう思うようになってきた。

特別に、私は糖尿病は、こうすれば治りますよ、と宣伝するつもりはないが、自律神経失調症の症状でなく、脾臓そのものが悪くなる体質に変化してしまったという考え方、またその信じこみかたに私は疑問がある。

よってこの糖尿病に関する本を出すことにしたのである。しかし自律神経失調症によって生ずる病気には変わりないので私の所で行っている基本的な治療の方法とまた考え方も変わりない。

だから以前出している自律神経関係の本と重複する点はある。しかし糖尿病が自律神経失調症だと世間の人は思っていないので、この本を読まれる方は私がすでに出版している自律神経失調症に関する本をお読みにならないものと思う。

だから二つ並べれば四分の一くらい重複している部分があるが、そういう考えからして

私がかまわないと思ったので、あえて重複させた。世の中で色々な治し方がある。

死後の世界があると言う人も、ないと言う人もある。それはいずれにしても大脳皮質が考え出したことであり、信じる信じないは勝手である。私の治療法も信じる信じないは勝手である。

しかし結果として治っていくと言う人がいるということは、治った人だけは信じていると思う。

自分が正しいと信じることを世の中に発表することは必要であり正しいと思う。

目次	
■ バクバク食べて糖尿病の治療	
― 薬も注射も使わない食事制限なしの治療	

糖尿病は自律神経失調症の末期症状	13
------------------	----

■ 自分で自分をコントロールできない―自律神経の分野	14
----------------------------	----

■ どんな生命体ももっているふしぎな蘇生力―生体恒常性	19
-----------------------------	----

■ 素人や中途半端な医学知識による治療は危険!	24
-------------------------	----

■ 癒導医学の治療技術は素人が気軽に使うべきでない	30
---------------------------	----

Mさんの体験から

糖尿病は医者でもお手あげ	34
--------------	----

白髪が黒くなった!	36
-----------	----

何事にも無気力な息子の治療を頼まれて	39
--------------------	----

■ 糖尿病は治せる	46
-----------	----

遺伝体質と温和な人があぶない	46
----------------	----

ストレスが引き金に	48
-----------	----

「臓器」の治療にとらわれて「患者」忘れた現代医療	54
体の調節機能を活性化させる	61
細胞のもつ二つの働き	65
ネズミに希望ある?	69
インシュリン生産は自律神経が左右	74
尿量1日2リットル、血糖値120ミリグラム／デシリットル以上は危険信号	77
調和あるホルモン作用こそ健康の要件	85
■糖尿病は自律神経失調症の一症状	86
サイロキシン過剰は大汗、眼球突出誘う	86
両刃の剣・ステロイドホルモン	88
Kさんの体験	
食事制限しなくていい!?	94
二週間で尿の糖値が半分に	96
完治して性格も前向きに	98
ふつうの生活維持しながら糖尿病克服	105

全ての生命を支える自律神経の働き.....	112
人間の脳の基本的な働きは認識、判断、実行である.....	118
自律神経の活性化が治療の根本.....	119

Sさんの体験

厳父の子供は自律神経失調症に.....	123
S氏自身重度の糖尿病.....	124
2ヵ月で回復.....	127
大切なインシュリンの三大作用.....	131
夫・インシュリンに妻・グルカゴン.....	135

現代医学では糖尿病の克服は困難

■薬物療法は治すのではなく延命手段.....	140
現実的でない食事・運動療法.....	140
インシュリン療法で大きな代償.....	144
命長らえるだけのイ療法.....	149
四〇歳以上の頭脳労働者は要注意！.....	155

糖尿病は性欲さえも奪う.....	159
■合併症で命取りに.....	162
クル病、脱水症をひき起こす.....	162
心臓病、脳内出血で人生の終えん.....	169
痛風と結石の真犯人.....	171
神経とホルモン.....	174
やっかいなカンジダ症にとりつかれると.....	184
感染症にかかりやすい体質.....	189
ウイルス性肝炎で命とり.....	198
癒導術（自律神経活性化療法）の原理と実際.....	201
■自律神経と糖尿病の関係.....	202
一般的な病気とは.....	202
自律神経活性化療法（癒導術）の原理.....	205
自律神経活性化療法は、理学的薬物療法である.....	207
自律神経活性化療法こそ唯一無二の方法である.....	210

治療する側の熱意と、治療を受ける人の熱意が一致したとき早く完治する……………	214
レットテル志向(高名な教授や有名人たち、病院神話を盲信する者は治らないで不幸な人生を歩む……………)	216
これが癒導術(自律神経活性化療法)の実際だ(癒導術の歴史・西洋医学の一分野)……………	221
指圧・マッサージとの違い……………	227
癒導医学(自律神経活性化療法)で治せる病気と、治せない病気……………	229
数回の治療で改善されたという自覚がない治療法は、まやかしか気休めである……………	232
糖分不足は脳を破壊する……………	235

■自律神経失調……………

耳鳴り……………	239
不眠……………	241
イライラする……………	241
吐き気……………	243
胸痛……………	244
足がだるい……………	245
めまい……………	246
首・肩の凝り、腰の痛み……………	247
外出できない、人が多い場所を嫌う……………	248
対人恐怖……………	249
赤面……………	250

■癒導術(自律神経活性化療法)は理論的には簡単	251
施術について	251
安易に行うと危険	255
神経の働きに変化が生じる初回は、翌日休日がよい	260
相談時のこと	262
治療の実際	264
治療に來られない人は、どうするか	267
現代人に黎明をもたらす癒導医学(自律神経活性化療法)	271
■望まれる癒導医学の習得	272
新しい病氣發生の兆し	272
動物は全て「糖尿病」になる可能性がある	274
カルテより	277

糖尿病は自律神経失調症の 末期症状

自分で自分をコントロールできない

自律神経の分野

わたしたちは、日常生活のなかで、心のもちかたや、ふだん心がけていることでもイザというとき、自分で自分はどうにもならないことが多い。

そんなとき、街頭の占い師や霊能者に相談してみたり、印鑑の鑑定師に印相をみてもらおうとするものだが、もちろんなんの効果もないのは当然。(遊びとしては有効かもしれないが……)。

現代はまた交通戦争といわれるほどに自動車による死傷者数が多い。六十年道の道路交通事故による死傷者数は約七〇余万人、発生件数は五五万件にのぼっている(警察庁資料)。

第二次大戦終了後に年間何万人も死亡したが、その数倍もの半身不随者、身障者となって社会で働けなくなる不幸な人たちを目のあたりに見聞するとき、かつてのベトナム戦争と同じくらしいの死傷者数を示している異常さは、決して見逃すことができない。

そして事故の多くは夜間に生じている。時間帯は夜半四時過ぎから翌朝六時ごろまでの時間に多発している。

人間の身体のリズムは太陽光線の増量とともに活動的狀態となり、日没の光線減少にしたがって休息狀態となる。

動・植物も同様のリズムにしたがっている。生活機能を活動狀態にすることがすなわち交感神経の働きであり、休息的身体狀況に導くのが副交感神経の働きである。

いずれも自律神経の両側面であって、わたしたちが意識的にこの両神経のバランスを完全に支配しコントロールするということは難しい。

自制心の強い人や気まま勝手な人など差違はあるが、究極的に自分の意識ではどうすることもできないのが自律神経である。これを、心理学的には無意識下の世界という。

人間（動物）は自律神経のオートメーション作用によって、体内の条件（脈拍数、まばたき回数、呼吸回数、体温など）を一定値に保っている。（生体恒常性）

動物でも、動物園の狭い檻（おり）の中に入られていたり、鎖につながれている犬などは不自然であるために、生命・身体条件維持の自律神経両側の交感・副交感の機能がアンバランスになって活動能力が低下してくる。

この結果、不測の病氣や歯・骨格などが弱くなり、食事も不安定になってくるなどの生理的現象がおこる。

事故が起きやすい場所についても、人間のリズム、身体動作の自然性に合致しないような状況を無意識下につくりだす場所がある。

人間工学（人間の機能を機械に見たてたときの動き方・習慣を研究、実生活に応用する学問）では、学術的研究が進歩し、高速道路（このような名称をつけるためにスピードをだしたくなる習性もある）のカーブや、山間部での見晴らしのよい場所に目隠しを設置するなどの努力もされてはいるが、実際に道路交通事故は防止されてはいない。

夜間に頻発する事故は、交感神経の活動が低下し、すばやい認識力、迅速な判断、適切な対応ができないとき、大脳皮質の働きによる意識的コントロールによって自律神経の働きを強化しようとして無理が生じて、おもわぬ（予期しない）事故となるのである。

とくに狭い自動車の車内に坐ると、ゆったりした気分の人でも緊張やイライラ傾向になるものだ。ふだんは温厚で、めったに喧嘩をしない人でも、前方の車が少しでもゆっくり走ろうものなら、すぐにクラクションを鳴らしたり、からぶかしをしてイライラから無意識に逃避しようとする。

体力や気力が充実しているときには、身体各機能の敏捷性も高く、無意識下でも自律神経がしっかり働いて危険を予防している。こんなとき車内の天井桙部に頭をぶつけることはないだろう。

しかし、二日酔いや睡眠不足のときには、強くぶつけることがある。そのことで出発時点から気分的に不愉快で、おもわずスピードをだし過ぎて白バイに切符をきられたり、事故を起してしまう。

ふだんの日常時でも、朝起床したときからいつもは何でもないことが、スムーズにできないことがある。台所にたっても包丁で指を切ったり、ドアに指をはさまれたり、車に乗るとき頭をぶついたりする。出勤時にも定期を忘れたりする。

また、こんなこともある。ふつう私たちは平坦な舗道を歩いているとき、小さな石ころが転っていれば——おや、石があるから避けて通ろう——と考えなくても靴先は小石を踏むこともなく避けている。

これは無意識のうちに眼で小石を見て自律神経が無意識下に足の筋肉を操作し小石を避けて不意に踏みつけて足首をくじいたり転ばないように防御しているからである。

しかし、自律神経の活動力（活力）低下の状態では、この操作が自然に働かないのだ。自律

神経機能低下の人には、はっきりと見えていて、つまずくことがないようにおもわれても、不覚にもつまずいて足をくじいてしまう。

自動車の運転中であっても、危険に対応して瞬間反射的にブレーキを踏むまでの時間が長くなり、間に合わないで追突や事故を起こしてしまうことになる。

先祖の悪霊が憑いているのでもなく、狐(きつね)が畏を仕かけたものでもない。

一般的に、休息日の翌日は本格的に交感神経の活動がまだ覚醒されていない場合が多くて、事故の多発を誘うことが起きやすい。このような休日あけには、濃いコーヒーや緑茶を飲むことによって、交感神経の興奮活動をあらかじめつくりだしておく配慮がほしいものである。

どんな生命体ももっているふしぎな蘇生力

—— 生体恒常性 ——

文化庁の保護下で、繁殖してきたニホンカモシカも、数が増えてこれまでの個体保護指定から、区域指定へと変更になった。

個体保護のとき、杉や松（ひのき）を植林した幼木を、ニホンカモシカが無遠慮に食い荒し、林業で生計をたてている人たちが大変に迷惑していた。

しかし、彼らが生活を守るためにニホンカモシカを殺傷することも、生獲ることさえも法律違反となるので、泣き寝入りするしかなかったという。この様子がテレビで紹介されていた。

彼らいわく。「この法律は徳川の悪政『お犬様』そのものだ」と。

このとき、彼らが手にしていたものは、ニホンカモシカに葉を食いちぎられた植木だった。

一年前に植えられたものは、側芽がたくさん出てしまい、本来のスナナリ成長した幹の姿からはほど遠い。

「これでは植え替えしなればならない」と、なげく顔が、深く刻みこまれたシワとともに印象的であった。

木の芽が、生長点を切りとられたとき、側芽を出して、さらに生長を続けようとする。これを「生体恒常性」という。

生長点を側から出し、まったくもとの姿に復元しなくとも、なんとか芽を出して生きぬこうとする力だ。

わたしたちの手指にも同じ働きがある。切りさけた部分には両側から肉や皮膚がもりあがり、傷口がふさがっていく。

傷痕は残るが、機能は回復する。これがもとへもどそうとする生体恒常性の働きである自然治癒力である。

もちろん、個人差で治癒する日数に差はあるが……。

だいたい、若い人ほど早く、暖かい時期ほど早い。

反対に、老人になるほど、そして寒い時期ほど遅いものだ。

切傷はその断面が、細菌など多く含んだ空気や水にさらされている。

当然、菌は増殖し肉体を侵していき、その結果、化膿する。

さらには血中に入りこみ、全身をめぐり、体の各所に病魔がしのびこみ、襲うことになる。

これに対抗しようと、生体恒常性が働き、自己免疫力の主体である白血球が増産され、病魔にたち向かっていく。

しかし、菌の増殖力が白血球の防御力よりも強いと、ついにはおさえることができなくなつて、化膿が広がる。

傷口がふさがることなく、さらに開いて腐っていく。

現代医療では、ここで投薬し傷口をふさごうとするわけだ。

使用する薬物は抗生物質で、この薬は菌を殺す作用をもっている。

つまり、白血球で間にあわない殺菌力を補助する役割りをもっているのである。

ここで賢明な読者には、もうおわかりのことと思うが、抗生物質の働きは、あくまで“殺菌作用”であって、壊された細胞をつくり治したり、皮膚をつくって傷口をふさぐものではないということだ。

これらの主体は、あくまで生体恒常性の働きによる自然治癒力による。

薬はあくまで、その補助であるということを知っていただきたい。

糖尿病の場合も、膵臓のランゲルハンス島細胞は、けんめいに自己の破壊された細胞を回復させ、インシュリンを分泌して糖尿病を治してゆこうとしている。

しかし、インシュリンを体外から注射して補給すると、ネガティブフィードバックの原則で、ランゲルハンス島細胞はインシュリンを分泌しない方向に向いてしまう。

つまり、外からのインシュリン補給が、かえって、自然治癒力を阻害するというマイナスの効果を生んでしまう。

ここで大切なことは、インシュリン分泌を活発化するには、ランゲルハンス島細胞の働きを活性化することだ。

そのためには、自律神経（迷走神経）を刺激して支配されている、ランゲルハンス島細胞を活性化するしかない。

癒導医学は、迷走神経を刺激して、糖尿病を患者本人の力で治すためにある。

わたしたちは、日常生活のほか、意識せずに、呼吸をしている。

そのとき、いっしょに空気中のほこりを吸いこんでしまう。

各家庭にある掃除器の、フィルターをみると、たまったゴミやほこりで目づまりしてい

るだろう。

わたしたちは、一日二万五〇〇〇回も呼吸しているが、同じほこりを含んだ空気を吸ってもふしぎなことに、肺のなかは、まったく清潔に保たれている。

肺が、呼吸による目づまりで、呼吸困難で死亡した、などという話は聞いたことがない（石工に多発する珪肺や公害病などは別だが）。

これは、肺の中にある白血球（マイクローファージ）が外からの異物をつねに食べて分解し、処理して清潔に保っているからだ。

わたしたちが、健康に生きていられる根本の力は、この生体恒常性が働くように自律神経がうまくコントロール機能を發揮しているからといえよう。

病気になる——これは生体恒常性が劣え、体を構成する各部分の機能が低下するところに発生するものだということを、ここで知っていただきたい。

素人や中途半端な医学知識による治療は危険！

日常、体の活動状態の変化は、自律神経のオートメーション的機能によることは前述したが、もう少しわかりやすく説明することにしよう。

だれでも食事をとった後には睨がおもくなって眠くなる。“腹の皮が張ると、目のたるむ”という諺もある。

眠くなることは副交感神経が高まったことの裏づけで、こんなとき、めんどろな計算や帳票の書き写しなどを行うと、計算ちがいや転記ミスが生じる。

無理に熱中して作業を続けていると、胃の辺りがけいれんして局所的に痛くなったり、敏感な人は下痢をしたりすることもある。

事務作業などは交感神経の高揚したときにスムーズに行われる。このとき副交感神経は活動を抑制されているので、この切り換えは体重の十三分の一ある血液量の流れを自律神経の血管

運動作用によって変化させて行われている。

身体の機能に大きな変化を与える自律神経の作用を活用している『癒導医学の自律神経活性化療法』では、十分の医学知識と患者の生活様式、職業、身体的な特徴を把握して熟知しておくことが必要である。

とくに、診断の技術がポイントになる。

こんにちでは、実に多くの人々がなんらかの治療を受けている。そして期待した効果が得られない場合、根ぶかい不信任を抱くようになる。

慢性的な症状に苦しんで病院通いをしたり、街の占い師や漢方薬、心理療法、神霊治療にかかったりする。いろいろな健康食品を買い求めたり、迷っているのが現実である。

この人たちに対して、病気の原因を的確に把握できないで、いい加減なごまかしの治療で応待し続けるならば、さらにいつその不信任と疑いを抱かせてしまうことにもなる。

治療は相互の信頼関係がいちばん大切である。

癒導医学は自律神経に潑刺^{はくし}とした刺激を施すとき、おもに指を使用して行うので、外側から見るとどうしても指圧と同じようにみえる。

そのために指圧の免許などをもって、指圧療法を行っている人たちが、見よう見真似で施術

したり、なかにはわざわざ来所して、私の著書を買っていくこともある。

また、念のいった人は仮病を装って治療を受けて、私の施療法を見極めようとする人もいる。研究心は結構なことでもある。

本場に「自律神経活性化療法」による治療を受けた人たちは「街の指圧とは、まったく違いますね」とその差違をいつている。全く異なるのである。

神経は、きわめて繊細な組織体で、身体の部位によっては体表のすぐ裏側に迫っている。

この部分を主体的に神経への刺激を与えて治療するのが「自律神経活性化療法」である。

ただ強く指で局所を圧するだけで有効かというと、決してそうではない。ちからまかせに指で圧しても痛くて、アザが生じるだけでなんの効果もないのだ。

「自律神経活性化療法」は骨へのカルシウム代謝、磷（リン）の蓄積に微妙な作用を与える治療法でもある。

失調症の患者の特徴に、骨が脆くなっている病的骨折を生じやすくなっている場合がある。

数年まえのこと。私の著書を読んで治療を受けにこられて元気に回復された六五歳の主婦が、お友だちを連れてこられた。

「先生、六八歳になる幼な馴染みですが、なにかしらすべて本調子でなく——元気になりた

い、元気になりたい——と訴えてますので、本当に病気があるのか、本人の気のせいで、そういう状態なのか、診ていただきたいのです」とその婦人を紹介していった。

ここでは、その老婦人をSさんと呼ぶことにしよう。Sさんは、かぼそい元氣のない声で

「……どうも四〇歳ごろから、なんとなく疲れるし、なにをやっても、いわゆる“張り”がないんです、なぜでしょうか？」と自身の体調を語りはじめた。

さっそく、仔細に診ると、脈拍は弱く、外見以上にガリガリに痩せている。喘息^{ぜんそく}ぎみでゼーゼーと呼吸音が聴こえ、頭の髪の毛もバサバサで油気がなく、蒼白い顔色で生気に乏しかった。

「喘息の自覚症状がありますか？」

「そうなんです。なんとなく夜、寝床についても睡眠が浅くて熟睡感がありません……夜中に四、五回はトイレにいきますし……」

これは明らかに自律神経の機能の低下から、血圧の低下も生じており、全身の栄養の摂取と新陳代謝機能の障害と判断した。

背部から指で肋骨を押すと、抵抗感もよわいので、これは骨が弱っていて骨軟化症か、骨粗鬆症（こつしょうしょう）ではないかと考えられた。その点をまず確認してから治療を始めようとおもった。

「明日でも、病院か保健所にいった、骨のレントゲン写真をとってもらい、骨の状態を聞いてきてください。どうも、骨が弱ってるようなので、この点を確認しないと治療を行うとき骨折が生じたりすると危険ですし、もう高齢なので骨折は万一のとき命とりになりかねないことが多いのですよ」と懇切に説明してさしあげた。

それから十日余りして、初めに紹介してこられた主婦から電話があって

「Sさんは、入院しました。骨が極度に弱っていて、あちこちの部分に（ひび）が入っているといわれたそうです」と伝えてきた。

たぶん骨粗鬆症であったと考え合わせた。このような患者さんの場合に、簡単な診断だけで引き受けては取り返しのつかない結果になるだろう。初診の大切なことは中途判断な医学知識は危険であることはいうまでもない。

マッサージ、指圧、灸、ハリなどの施療を行なっている所では、施術する対象者はほとんど健康人である場合が多い。

というのも病氣全般にわたっての診断知識も必要としないだろうし、指圧、マッサージなどは世間一般的には、肩の凝りを揉みほぐしたり、温泉旅行の副次的な気休め、慰安と受けとめているのである。重症の患者や病人に接することなく、安易な方法が現実には氾濫（はんらん）して

いる。

『癒導医学療法』は、厳密には、内科的知識を基本にしている。そして精神・神経・皮膚・婦人・小児・眼・歯その他の医学的知識を備えて行われている。さらに現実の社会的な知識、職業別の特徴、心理学の理論、栄養学、衛生等に及ぶ幅広く深い知識が必要で、これらを熟知して初めて施術できるものである。

癰導医学の治療技術は素人が気軽に使うべきでない

『癰導医学』は、西洋医学が主として用いている薬物療法と原理的に同じである。

動物や植物は自己の組織体の内部において、自身のためのいろいろな物質をつくりだして摂取し役だてている。身近な例では、小学校でも学習する「発芽の実験」において、よく理解できるだろう。

実験に用いるペトリ皿か小鉢の中に水に浸した綿かガーゼを入れて、その上に大豆や豌豆（えんどう）の種子をのせて窓際に置いておく。やがて若芽がでて、双葉が伸びて窓側の光線の方に向かって傾いてゆく様子が見られる。

これは太陽の光線の当たる側の茎と、その裏側の陽射しの蔭になるほうの茎の細胞にそれぞれの変化・生長が生じているためである。容器を一八〇度回転させて傾いた双葉を陽射しの方に向き直すと、一両日して窓の明るい方向へと双葉が傾いている。

双葉生長のメカニズムは、太陽光線の当たらない側の茎の細胞が、植物生成ホルモンをより多く産出して生長率を高めているのである。また、直接に光線の当たっている側の茎は植物生長リズムであり、生長リズムのバランスから当然のこととして窓側の方向へと傾いてゆくことになるのである。

動物の体内においても、類似のメカニズムが働いている（なお、詳細は、既刊著書「自律神経活性化療法」七八頁～八一頁を参照してください）。

元気のよい子供たちははつらつと遊び、ふざけあったり喧嘩^{けんか}などもする。このとき、つねつた、ぶつたと派手に行動しているが、これもゲームの一種であることが多い。

そしてつねったり、ぶつたりされた部分の皮膚は赤く腫^はれあがる。このことは血管反射で毛細血管が膨張するために、まわりの細胞から「ヒスタミン」が分泌されて収斂^{しゅうれん}するためである。わたしたちが食事をとるときに、食卓の「梅干し」を見ただけで唾液が分泌されることは、なにも不思議におもっていないが、唾液分泌も「見た」ことの刺激で、唾液分泌細胞からうまれてくる。唾液の中にはホルモン、消化液、粘質液などが含まれていて食事をうながす役目を果たしている。同時に、小腸や脾臓、胆のうからも消化液が分泌されている。

このように身体細胞からは常時いろいろな有効物質が産出分泌され、自分自身の細胞や体内

の各内臓器官に作用してその機能を高めたり、反対に抑制したりしている。

分泌を円滑に促進させるために自律神経は、細胞に命令し、細胞に伝えるからである。

癒導医学では、自律神経の活動状態を刺激・変化させることによって、「糖尿病」や「非病理性の病気」までも治してゆくことを使命としている。

原理的には西洋医学と同じように、薬物（分泌）産出を多くしたり少なくしたりするように、身体の各部位に適切な命令を与えているのである。

薬局や病院で求める「薬（くすり）」とは、われわれ自身の体内で産出分泌されている有効物質を、工場で大量に合成して作りだしているものと考えればよいだろう。

この薬物を注射液や服用薬として与えて、特殊なその有効成分が身体内で濃度を高めることによって目標とする内臓器官の障害および疾患部に作用して病気を治していくものだ。

癒導医学での治療法は、ある意味では薬物療法と考えるもよいメカニズムに基礎がおかれている。

病院では専門の製薬工場内につくった「薬物（インシュリン）」を与えて、有効物質の身体内濃度を高めることを目標にしている。

癒導医学では自律神経を操作することによって身体内のインシュリンやグルカゴン分泌を

促進したり、コントロールして体内濃度を適切に調整しているのである。

薬物の作用には、使い方を誤ると病気を進行させることもある。死に至る場合もみられる。

よく効く薬物は、適正量を用いることによってこそ著しい効果をあげることができる。これを裏がえしていうと、分量や服用方法を間違えると効果を頭わさないばかりか有害になる。

専門分野の医学的知識をもって病気の治療経験（臨床実績）をふまえて、神経刺激の方法も各症によって変化させ適切に行わなければならないということである。

臨床的にも、吐き気、気分が悪くなる、骨折、反射運動が鈍い、細かい作業ができないなどさまざまな自覚症や、個人によって体調には大きな差違があるものだ。

糖尿病の人は重病でない限りは仕事や勉強を続けながら治療しようという人たちが多い。

たとえば計算事務、運転手、パイロット、看護婦などの職業にたずさわっている人々の中にもこの傾向があって、薬物投与性低血糖でときにはおもわぬミスを生じてあわてる場合も多いのである。

自律神経は無意識下で作用している。自分では健康でしっかりしているつもりでいても、気づかないところに機能障害や病気の原因を抱えている場合が多いことを指摘しておきたい。

Mさんの体験から

糖尿病は医者でもお手あげ

「先生この前、わたくしお葬式に行ってきましたよ」と、以前から通ってきておられたMさんがおっしゃった。

「どなたのお葬式ですか」

「いえね、この前言ったでしょう。うちの近所の内科のお医者さんで、糖尿病で目が見えなくて歩いておられたという、あの方ですよ」。

「ああ、なんかそのような話がありましたね」。

「いえ、ですけども大変な病気ですね。お医者さんなんだから、治そうとおもえば治るでしょうに。あんなことになっておきのどくにね」。

このMさんは嘆いておられた。

近所のお医者さんというのは、開業医の方で、Mさん一家がずっと以前からお世話

になっているお医者さんであるそうだ。

半年前、もうほとんど目が見えないらしくて、ご挨拶してもこちらの顔がわからな
いらしく、別なほうを向いて、「ああ、こんにちは」と言っておられましたと、この
Mさんの言葉を思い出した。

実は、このMさんは今年六九歳で子供さんが三人おられる。長男は父親がつくった
会社（菓子製造業）を継ぎ、次男はその会社で専務をしておられる。三番目の妹さん
はやはり同じ会社で経理を担当しておられる。

Mさんが来られたいきさつは、四年前にさかのぼる。前に出している『よくわかる
心の病気と自律神経失調症』および、それ以前の『自律神経活性化療法』にもこのMさん
の例がよくでてくるが、これはMさん一家はもちろんのこと親戚ご一同、私どもの研
究所によく来ておられることをもの語っている。

最初はあるヨガの先生が治療に通っておられたが、そのお弟子さんがMさんのご長
男の奥様であった。

彼女のご主人が交通事故の後遺症、つまり鞭打ち症で非常に悩んでおられ、そこで
このヨガの先生の紹介でご主人を連れて来られたのが最初である。

鞭打ち症が三か月ほどスッキリと治ったことで信頼をよせて下さり、次に二〇歳になるその娘さんが五、六年以来悩んできた頭痛の治療に來られた。それもすっかり消えてしまった。

そこでMさんが二四、五歳のときから足が夜中につつて眠れないということの相談を受けたのであった。この病氣も半年ほどの治療ですっかり熟睡できるようになり、足がつかなくなった。

白髪が黒くなった

しかし高齢でもあり、定期的に月二回ほど治療に通ってこられているのである。

最近一年ほど前から前髪が総白髪であったのが黒くなってきた。本人もビックリ、家族もビックリ、私も毛根が活発に働きたすということは、若い人の場合では経験があるが、六九歳で前頭部の頭髮が本当に黒くなってきたのには正直いってビックリした。

「いやあ、不思議なものですね、癒導術は」と、おっしゃった。わたしは、「え

え、わたしもビックリしました。こんなこと初めてです」ともいえないし、「ええ、まあそういうことです」と、お茶をにごしておいたものだ。

このMさんの二番目の息子さん（以後Kさんと呼ぶ）、つまり会社で専務をやっている人が糖尿病だという。最初、長男である社長さんが鞭打ち症のとき、当研究所までは来所できないのでわたくしが出張治療で通っていた。

治療を始めてから一月ほどたってこちらに通院できるようになった。

それからしばらくして、そのKさんが、なんだかいつもイライラして具合が悪く、変人でどうしようもないという話が長男をはじめ家族の全員から、治療にこられる度に聞かされるのである。

まったくどうしようもない人間なんですよ。挨拶はしないし、つっけんどんだし、仕事も午後三時ごろになると、プイといなくなって、みんな仕事しているのに、いっこうにおかまいなし。

うちは、手作業が多いから忙しいときは手早くやって欲しいのに、いかにも自分は一生懸命仕事をしているように大汗をかいているけど、手先のろろしているんです。

ちょっと注意をすると、すぐ反抗する、「どうしようもないやつだ」。

と、家族のいうことをまともにとらえてみるとういうことである。

なるほど、わたしもその鞭打ち症の治療で出張にいったとき、廊下ですれちがってもズボンのポケットに手をつっ込んでしらんぷりして、こっちが「こんにちは」と言っても返事もしない男の人がいたことを思い出した。顔が大きくて体がムッチリと肥り、しかめっつらをしていた男性がいたのだ。そのときは、従業員の一人かなと思いつつ私もあんまりよい感じがしなかったことを思いだした。

「弟さんて、あのぶっきらぼうの人ですか」と、Mさんに聞くと、

「ええそうなんです。もう、どうしようもないやつで、甘ったれで、どうかならないもんでしょうか」。

「どうかならないってどうゆうふうに」。

「ええ、実は息子の糖尿病で困ってるんです。最近、三か月で体重が五、六キロも減ったのが、すっかり肥ったことで一応胸をなでおろしたんですが、近所のお医者さんが糖尿病で亡くなったことをみると、糖尿病は治らないものだということがわかりました。」

お医者さんで自分の病気だからとってもいい薬を使いになったでしょうに。また、その治し方も仲間のお医者さんあるいはご自身で研究なさって必ず治せるものだと思っていました。

だから、うちの息子もそのうち治ると思っていたんです。でも、その亡くなったお医者さんが『糖尿病には気をつけなさいよ』と、うちの息子に道で合うたびに言っておられたことを思い出したんです。

そうしてそのお葬式のおときにお医者さんでも治せないということを実にわかってわたしもこの息子が生きてるうち、またわたしが生きてるうちに何とかしてあげなければと思ったんです。」

『だから、どうか先生見てやって下さい』と懇願されてしまった。

何事にも無気力な息子の治療を頼まれて……

しかし、私も人の病気を治すのをお手伝いしているが、人間であるから人の好き嫌いもある。

「あのぶっきらぼうの人でしょう」と言った。

「そうなんです」。

「いやあ、あの方は私はちょっと手がたくありませんよ。」

「五、六回、社長さんの鞭打ちの治療に行ったとき、一度、お見かけしましたがけど、非常に無愛想でいやな感じを受けましたからね。」

わたしの治療は病院や、町のお医者さんのように、嫌いな患者さんが来ても横向いて、「おい薬を出しとけ」と、看護婦さんに命令して、しらんぷりしてすませられるものではないんです。」

「わたし自身がその人の体にさわって、実際に神経を刺激して、治療する方法ですから、気分的に嫌な人には触れません」といった。

それから二、三日たって「先生、Mさんから電話です」とうちの講師の女性から車の電話に連絡が入ってきた。

なんだろうと思って電話をとってみると、Mさんが涙声で、

「先生なんとか診て下さい。あの子は浪費癖でお金を出すことはできないと自分で言っていますけど、治療費はわたくしが出しますから。」

また、「自分自身でそんな病気は大したことないと言いはっているんですけど、体がきつくてきつくてどうしようもないといっているんです。どうかお願いします」と、泣かれてしまった。

その長男の奥さんも「先生おばあちゃんのお願いですから、聞いてあげて下さい。なんとかして治してあげて下さい。」

「義弟のだからしない原因はその病気で、そのために自分がだらけた生活しかできないということをわかっていないんです」という。

「でも、わたしが電話をしたということは内緒にしておいて下さい。でしゃばったと思われるいやですから。」

むこう（次男）にはお嫁さんも子供もいるし、りっぱな社会人ですから、わたしがこのように電話をかけたということをいわないで下さい。

しかし、私はおばあちゃんが大好きなんです。「大好きなそのおばあちゃんが困っているのを見たと、どうしても電話をせずにはいられなかったんです」。

そこまで二人に懇願されて、ついにわたしもことわりきれなくなった。

「では、とりあえずお出でになって下さい。態度が大きいと打ち切りますよ。こち

らも人間ですからね」。

クギをさして電話は終わりになった。

あくる日おばあちゃんがおいでになった。

「先生ありがとうございます。診ていただけるということで、よく下の息子にも言っておきましたから。わたしが生きてる間におまえも健康になって、兄弟三人でしっかり父さんがつくった会社をもり立てておくれ、と言っておきました。」

ですから、失礼なことがあったら、もうそれで打切りにして下さってけっこうです。あの子は見込みがないということ、わたしも見切りをつけます。

しかし本人が知らない、本人が特別な悪いこともしていないのに、あと何年かでわたしより先に廃人になり、死んでいくということが分かり切っている以上、このままはおっておくわけにはいかないのです。

あの子を実際に小さいときから、その亡くなったお医者さんとのつき合いがないからわからないのですが、わたしはうちの主人と結婚して二人でいまの所に住み、そのときから大体同じような年齢で、学生さんとして大学に行っておられた、その先生を見て知っております。

そうして数年前亡くなったうちの主人とよく遊びにもいっていた人なんです。

そのような人が、お医者さん自身でも治せない糖尿病でお亡くなりになったということは、ましてうちの息子はたすからないということです。治してやってください。」ということでした。治療が始まりました。

それから二、三日して仕事の都合をつけてKさんは来られた。

そのとき、すでに近所の病院で血液の血糖値と尿の検査をしてその検査結果をもらうようにいっておいたので、その数字を書いた紙を持ってこられた。

尿から出る糖の数字が六〇〇と記されてあった。

そこで、週二回治療を行った。最初はその自律神経系統を全般的に刺激していったので、彼は相当にその刺激部位を痛く感じていた。

糖尿病になりやすい体質

身体の特徴	皮下脂肪厚く、丸顔 頭髪は秀げやすい 脂ぎった皮膚 見かけ上やり手タイプ 身体は丸っこい感じがする
生活リズム	早寝早起き、寝つき良好 どこでも眠る 午前中好調 午後から夕方に事故を起し易い
食事	間食・大食をする、野菜や漬物などサッパリしたものを好む 少い酒ですぐ寝込む 食べることが好きで肥り悩む 冷たい物を好む
対人関係	愛想がよく、社交好き 話好きで人前に進んで出る 友人は多いが深い交際でない 自然と人が集ってくる
職場・職業	セールス・接待に向く 優秀に見られやすいので秘書などに望まれる ラインの長に向く 計算間違いが多いので経理には向かない 結論を先に説明を後に要求する 作業処理速度が早いので疲れが早く出る、時々休む事、但しサボリに見られやすい 労働災害、交通事故を起し易い 寒い職場（肉・魚・八百屋・屋外労働）に向く 早のみこみで取りかかりも早いが永く続かない 早のみこみで誤解されやすい 汗かきの為、仕事してるように見られ得する
身体生理	病気は急に悪化し寝込むが、長びかない 暑さに弱い

	汗かきであるから努力家に見られる 筋肉が強い 脳卒中、心臓病で死亡しやすい、糖尿病、痛風で苦しむ 物事への反応が遅い 暖色を好み、感覚が豊か 異性好き、性に寛容
精 神 病	そううつ病になり易い 高所恐怖症
生活態度考え方	全て寛大、寛容主義 体を動かすことが嫌い 開放的な態度や生活様式を好む 資格取得を好み自己満足する 他人に気が向き世話役を進んで引受ける 行きづまり打開には他人の助言を求める 夫、妻に甘える かっこうをつける事を好む ほめたりほめられたりすることを大げさに表わす 物事にくよくよしないが、あき易くあきらめやすい 直観的に理解する 熱意に弱い為努力する姿で動かされ易い 涙もろい 人生は太く短く
遊 び 趣 味	かけ事が好き ゴルフ、マージャンをいつもやる 大勢でワッと騒ぐお祭りのな事を好む キャバレー好き 色彩豊富な服装を好む 暖色一辺倒
叱り叱られ方	頭ごなしに叱られても大して気にとめない ごちゃごちゃ説明して叱る事を嫌う 怒鳴った後で一杯おごればいい
犯 罪 傾 向	暴力、粗暴

糖尿病は治せる

遺伝体質と温和な人があぶない

なぜ、糖尿病になるのでしょうか。

まず、遺伝的な体質を親から受け継いでいるという背景がある。

血筋の人たちで糖尿病になりやすい体質の人がいれば、自分もそのなりやすい要素をもっているということを、まず認識する必要がある。

この糖尿病になりやすいということは、父および母のいずれかの一方に糖尿病体質があれば、その似たほうの体質と受け継いだ人は大体において糖尿病になりやすい。

性格的には物静かで温和な性格、体格的な傾向としては皮下脂肪が厚く髪の毛が細くいいわゆるハゲやすい体質、反面、色白でふっくらとしている体格で、痩せや白髪の人にも多く発生する。

性格的に闘争的であるという場合には少ないものだ。

Mさんの息子さんであるKさんもこの例にもれず、いわゆる心臓病、脳卒中体質の典型的な体つきで、大柄のむっくりとした皮下脂肪の付き具合は、いかにも営業に向くような風ぼうの人である。

このような性格の人、また体格の人は家内工業的規模で機械類を操作したり、手作業でお豆腐づくり、パンをこねる、また内職的な作業のハンダ付けなどのような作業はあまり向かない。この向かない仕事を、ガマンして長年行ってくれば、ストレスがたまらないほうがおかしい。考えてみれば、生きることそれ自体がストレスの渦中にいるといえる。嫌な人といっしょに仕事しなければならぬ環境にある場合も、ガマンをし続けることになる。

嫁・姑の関係、また男性で養子にいったなどという場合にもたまるものである。

男性にとくに多いのが、自分に合わない仕事をガマンしてやっているというときだ。

さらには意志が強すぎて、体が疲れたときに、体のほうでは自動的にブレーキをかけるものであるが、それを意志の力で無理してしまい、なかなか仕事を止めないで、疲労困憊してしまう。そうして最後には倒れてしまうような生活形態をしている人である。

さらにはサービス精神が非常に旺盛で、仕事もめいっぱい行い家族サービスも十分に行い、

また友人知人とおつき合いも非常に多彩にこなしていく人がいる。

ストレスが引き金に

このような人は、非常な過労状態にあっても疲れたという意識に乏しく、また体質的にも頑強な人の場合には、その疲れた状態を体力で押し切ってしまう。

こうなると自律神経そのものは特別に強いこともないので、本当は疲労しているのに表面上は活発に活動するから、本人も周囲も気がついていない。しかし内臓を動かす自律神経系はかなり抑圧されてしまっている。

人間を活動させる神経は、自律神経のうちの一系統、交感神経で、内臓の動きを高めるのはもう一つの神経系の副交感神経である。常に体が興奮状態にあり活動的であると、交感神経は自然に副交感神経を押さえこんでしまう方向に働く。でも、交感神経だけで人間の生命活動を維持することはできない。

そうなると下痢、便秘のくり返し、あるいは腹痛、女性では月経不順、またそうした不都合が体のあらゆる部分に発生して、ついには五年一〇年とたつうちに脾臓を刺激する迷走神経の働きが不十分になって、インシュリンが分泌されなくなり、ついには糖尿が発生し、病気の状

態になる。これが糖尿病である。

このKさんの性格も非常に社交的で、うさ晴らしに近所の子供を集めては草野球の監督をやっていたという。

職人的な仕事を、営業的気質の人が長年やり続けるのは、どこかに無理が生じるものだ。

彼は、こうやってストレスを解消していたのだろう。

営業と事務、また営業と工場のラインの生産。このようなものは相反するものであり、適材適所こそが、人がイキイキと働ける、あるいは生きていける大切な条件の一つだ。

このことから、Mさんの息子さん二人をみると、長男で社長さんをやっている方は非常に職人的な性格的で、ちまちましたような行動をとることを好む。

だからこの病気にはかかりにくいのが、自分の性格にあっている作業であるから、どうしても面白く、それゆえ、やり過ぎてしまう。

そうして、いわゆる自律神経失調の症状が発生し、痩せ過ぎ、また副腎機能低下が発生して、疲労困憊から体全般の働きが悪くなり、ついには交通事故などという大きな事故を誘発してしまふ。

しかしその大事故の前に、黄色信号が点滅しているのだ。少しかすったり、ちょっとぶつけ

たりするという小さな事故が多発していたという。

Kさんの場合は、まったく逆の性格で、これは母親似だとわたしは判断している。

非常によくしゃべり、社交的である。また細かいことが嫌いで作業が大雑ぱだ。

和菓子の方を担当したということだが、Kさんにはこれは非常に不向きであって、彼は手先の仕事はまったく用をなさない。またできの悪い品のない和菓子をつくってしまったりするのだ。

そのために周囲からもっと上手にやれと言われるし、自分自身もう少し上手にやれないものと非常に努力をする。しかし成果が上がらない。

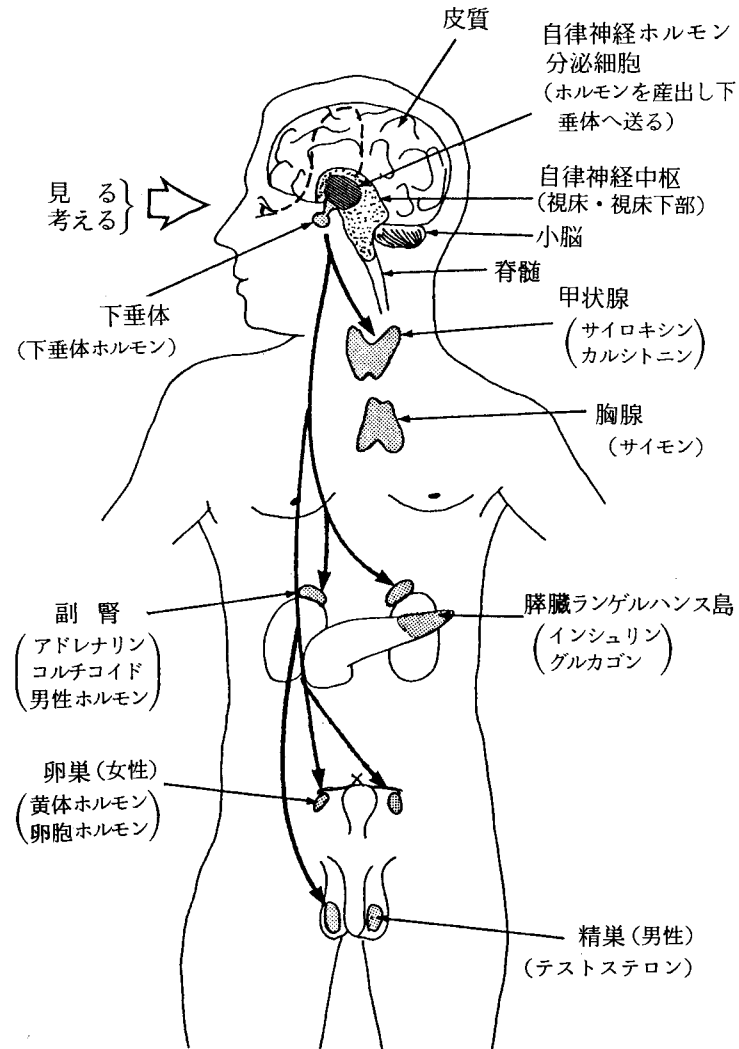
つまりKさんには仕事の適性がないということである。そのような作業を続けていると、糖尿の体質的遺伝をもつ人は糖尿病が発生してくる。

いままでのわたしの治療の経験からして、おおよそ自律神経失調症にかかっている人は、この仕事の適性を考えずに恰好がいい仕事とか、また楽だからとかいう理由で漫然と引き受けて仕事をしている人に多く発生している。

つまり職場の環境が合わない、職場に対して不満であるというのが男性の場合に多い。

女性は大体、夫との生活が合わず相性が悪い、また家庭内ではかの家族との折り合いが悪い

ホルモンによる体のコントロール



ホルモンの種類

ホルモン名	作用	過剰	欠乏
メラニン細胞刺激ホルモン	色素生産細胞の活動促進	口唇、舌、歯根が黒くなる	白なまず
脳下垂体成長ホルモン	小児・身長が伸びる 成人・空腹時身体活動可能 ・正常な細胞活動	・身長が2 m以上になる ・あごの伸長 ・ひたいの突出 ・糖尿 ・関節炎 ・盲、眼球突出	・成長停止 ・性欲減退 ・性毛脱落 ・やせる ・寒さに弱い ・月経停止、異常
甲状腺ホルモン	小児・正常な発育 ・女らしくなる 成人 正常維持 { 身体活動 体温維持 精神活動	・眼球突出 ・寒さに不感症 ・微熱、動悸 ・手のふるえ イライラ	・大人にならない ・全身発育不全 ・月経異常 ・皮膚がカサカサになる ・寒さに弱い ・肥満 ・記憶力減退 ・動作がのろい
上皮小体パラトルモン	・骨の硬度維持 ・血液中カルシウムの維持	・腎結石、骨折 ・手足痛、多尿 ・動作がのろい ・食欲不振	・手足のけいれん ・足のひきつれ ・顔面筋肉がびくびく動く
胸腺サイモン	リンパ組織の正常な免疫活動維持	・重症筋無力症	・細菌性病気にかかりやすい
副腎 アドレナリン コルチコイド 男性ホルモン 女性ホルモン	外界の状況変化に応じ身体を適応させる (心臓活動発動時→血圧上昇) 体内水分量、正常血圧維持 血液中糖量 ・陰毛、腋毛発育 ・活発活動の可能	・精神異常 ・高血圧 ・多飲多尿 ・脱力 ・肥満 ・女性でひげが濃い ・早発月経(少女) ・女性のすね毛が多い	・胃かいよう ・疲れやすい ・アレルギーになり易い ・色が黒くなる ・唇が黒くなる ・驚き、寒さでのショック死 ・やせ細る、下痢 ・低血圧になる
膵臓インシュリン	蛋白の合成促進 細胞の糖利用を高める 糖を脂肪へと合成促進	・頭がはっきりしない ・めまい、立ちくらみ ・顔色が悪い	・糖尿病 ・皮膚病の多発 ・やせる ・疲れやすい

ホルモン名	作用	過剰	欠乏
卵巣 卵胞ホルモン (エストロゲン)	- 卵巣、子宮等正常発育(少女) - 女性らしさ - 正常月経の維持(成人) - コレステロール減少 - 性欲増進		- 女性らしい体格にならない - 乳房未発育 - 未月経 - 月経不順
黄体ホルモン (プロゲステロン)	- 正常な妊娠継続 - 体温上昇	月経不順	- 流産しやすい - 不正出血
精巣 男性ホルモン 卵胞ホルモン	- 少年の成人男性化(ひげ、声、陰毛、腋毛) - 男らしい性格 - 性欲増進	- 身長停止(少年) - 男性乳房肥大	- 男性らしい体格にならない - ひげ、体毛不足
黄体形成ホルモン	- 卵巣からの黄体ホルモンの分泌促進 - 睾丸からの男性ホルモンの分泌促進 - 正常な性器の発育、成長(少年、少女)	- 月経が早すぎる - 少年の早期筋骨化	- 思春期以降男性的、女性的体格にならない - 月経停止
脳下垂体 バソプレシン	- 体内水分量正常維持 - 尿量適正量維持 - 血液量正常維持 - 血圧維持		- 多尿症 - 夜尿症
脳下垂体 オキシトシン	- 授乳中女性の乳汁排出 - 出産時子宮収縮	流産	- 乳汁分泌不全 - 難産
脳下垂体 催乳ホルモン	乳汁分泌	- 無月経 - 乳汁漏出	乳汁分泌不全
脳下垂体 卵胞刺激ホルモン	- 卵胞成熟促進 - エストロゲン分泌促進(月経正常維持) - 精子成熟促進		月経停止
腎 エリスロポエチン レニン	- 赤血球生産量の調節 - 血圧調節	高血圧	

が、自分の亭主が味方になってくれない、などという一人ぼっちの状況におかれ、情緒不安定となつて多食多飲をする場合に発生をみることが多い。

とくに、単身赴任などで亭主があまり帰つてこないようなときにはストレスが多くなると、つい多く食べたりしてしまう。

糖尿病とは、自律神経失調症の一症状であるということはずでに記述したが、このことは世間あまり知られていない。

膵臓インシュリンが不足するので糖尿が発生する。では、なぜインシュリンが不足するのか——膵臓の働きが悪いからだ——つまり膵臓本体が悪いからだ——このような解釈で終わっている。

「臓器」の治療にとられて「患者」忘れた現代医療

人間の臓器は自律神経の電気のパルス、つまり短い電気の刺激によって動いている。

またゆっくりと長い時間かけて動かしているのがホルモンである。

しかし、このホルモンを支配しているのも自律神経の中枢である。視床、および視床下部その周辺の細胞からつくり出すホルモンによって総合的にコントロールされている。

わたしたちの日常生活や家庭の文化的生活を向上させているものは、電化製品である。

電化製品は、それ本体で自分は動くものではない。

テレビ、電子レンジ、冷蔵庫、これらすべてはその機器本体が故障した場合は動かなくなることは当然、発電所の発電機の電圧が低かったり、コンセントから抜けかかっている、コンセントが焼けて接触が悪い、そこで電圧がドロップされている、というようなことはあまり気にしないものである。

敗戦直後の電気不足の状態では、よく、ちょっと風が吹くと電球が点滅したり、また停電をしたものだ。

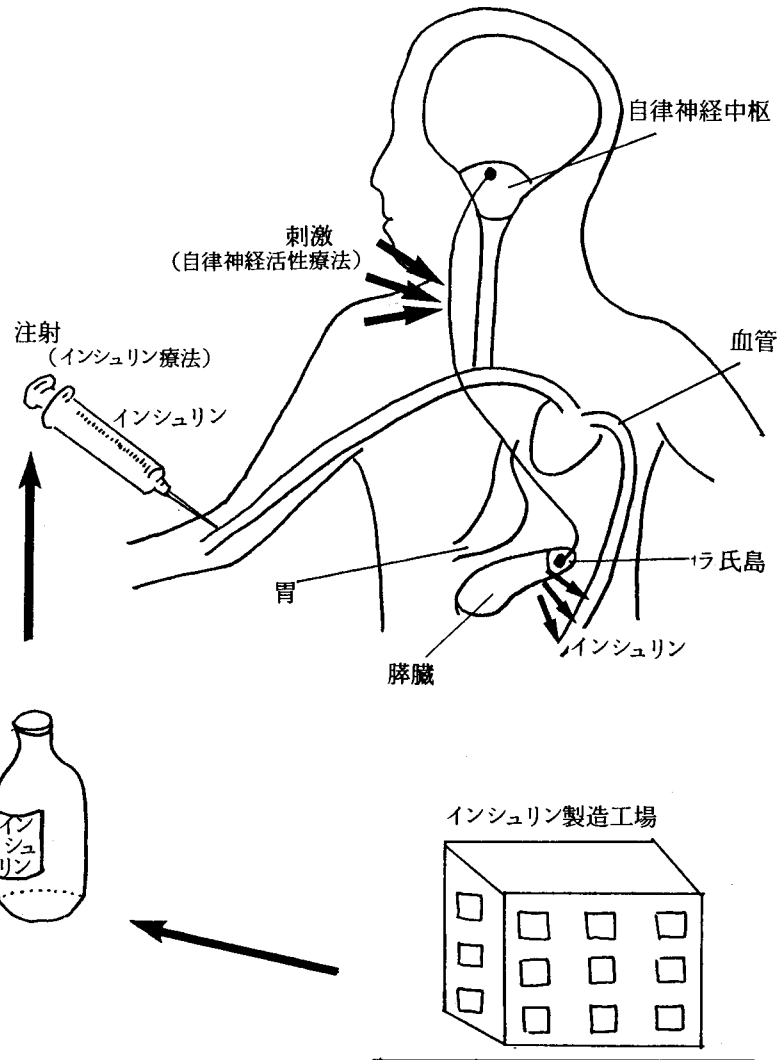
そのことでもかえって発電所の存在に対しての認識が高かったが、いまは機械が整備され、発電所から送電線などが整備されすぎてこのような発電所に対しての危機感がまったくない。

だから、電化製品の故障にはテレビ、冷蔵庫本体が悪いとまず思い込んでいる。

人間の体の故障にもそのような誤った思い込みが現在非常に多くなっているような気がしてならない。

日本現代医学は、かなり西洋医学の影響を受けており、そのためか、ものごとを科学的に分析するあまり、患者の病気を細分化しすぎているきらいがあるように思える。

薬物療法と自律神経活性療法



そのため、人間が病気になってもすぐにその臓器、つまり体を構成しているパーツ、部品の欠陥を治そうと考える。

このことがかえって病気の本体や、本質をわからなくしてしまっていることになる。

つまり、糖尿病はインシュリンが不足——インシュリンは膵臓が作る——だから膵臓が悪い悪い膵臓には頼れない——では工場でインシュリンを作って注射しましょう（あるいは飲ませましょう）——ということになる。

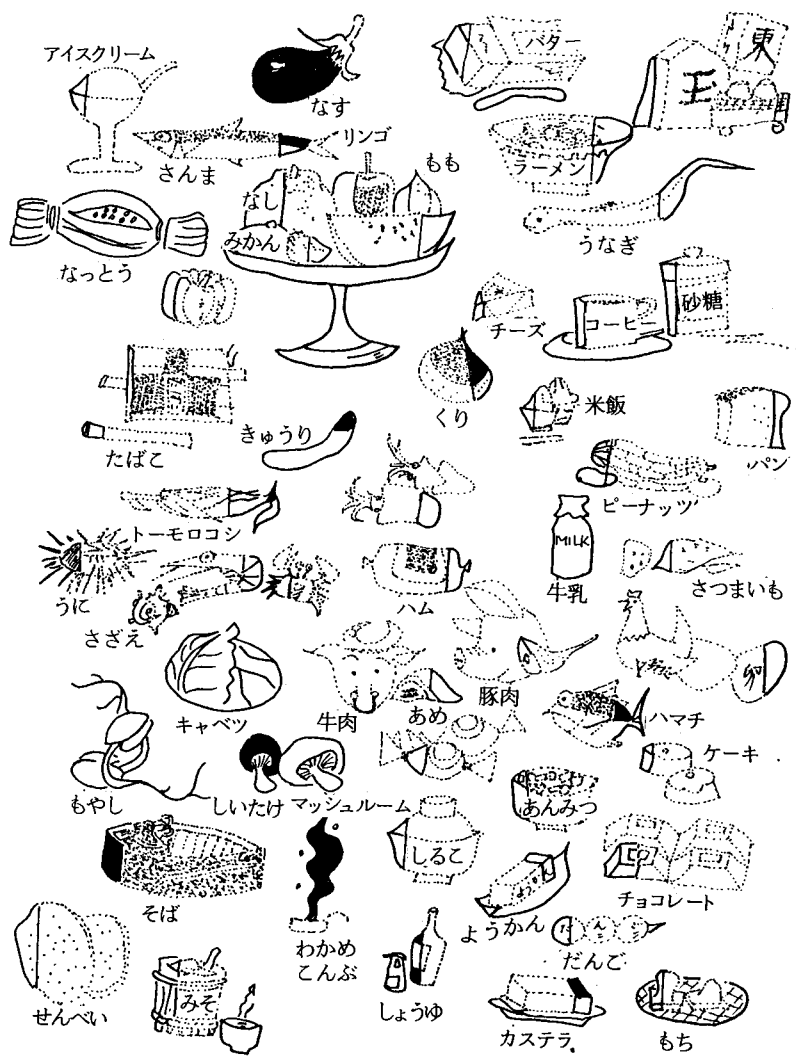
逆にインシュリンは少ない——じゃあ入ってくるカロリーの量を制限しましょう——などとする医療師もいる。

人間は働いて生活の糧を得ているが、そのことには全然おかまいなし。ただ病気を治すことだけに専念して、その人の生活や家庭環境が破壊されていくところまでは心をいたさないのが昨今での病院的考え方ではなからうか。

病気だけを治すのであって、病いにかかっている人間、およびその人の家庭まで心配する必要はないという考え方なのだ。

それでは患者さんの立場からみれば、はなはだ困るのであり、なんとかして現在の生活を維持しながら、自分の病気を治していきたいというのがだれしもがもつ人情である。

糖尿病者の食べ物



健康人の食べ物



Kさんの例でも、たまたま自分の親が経営する会社で仕事をしているため、生活に対する不安というのがほとんど必要なく、非常に恵まれた環境にあった。

しかし、一般の勤め人では、仕事をしなくても生活費の心配をする必要がないということはまったく不可能で、仕事をだらだらとやり、時間の中で抜け出したりすることは確実に首を切られることになってしまう。よくても、三か月ともたないだろう。

しかし、病気そのものは進行していき、ここから家庭が破壊され、本人の病気はさらに悪化していくという状況になってしまう。

Kさんは最初、「食事制限をしなくていいのですか」と、不思議な顔をしてわたしに質問をした。

Kさんにとってみれば、食事制限こそ最大の関心事であったにちがいない。

Kさんには今まで食事制限を試しにやってみたけれども、そのために仕事ができなくなり、そのうえ仲間とのつき合いも悪くなり、いろんな不都合ができて食事制限を止めたといういきさつがあった。

わたくしからの『食事を普通にとってもよろしい』という指示に対して、非常に疑問をもったようだ。

体の調節機能を活性化させる

一般的には、糖尿病は、膵臓から出るインシュリンが足りなくなつて、糖尿病になるという通説がまかり通っている。

さらに知られていることは、食べすぎるからこの糖分が体の中に多くはいり込み、それがあふれて尿に出てくる。

そして体の中の糖分もついでに、どんどん流れだしてついには病気になるてしまふ――。

糖尿病に関しての知識はこの程度だ。ここで少しの疑問ももつ人はいないであろう。たくさん食べすぎることで、糖尿病になるのなら、すべての人は、糖尿病にならねばならない。

しかし、食べすぎで肥りすぎている人は、全て糖尿病になっているとは限らない。

つまり、人によって糖尿病になるか、ならないか、これは非常に個人差があつて、食べ過ぎることそのものが糖尿病を引き起こすとは限らないのである。

また少し詳しい人でも、糖尿病はインシュリンが、出なくなるといふ病気だという程度で、食べすぎ、あるいは、飲みすぎの不摂生がたつたてこの病気になるという考え方が支配的であ

る。

しかし食べすぎても、あるいは飲みすぎても糖尿病になる人よりも、ならない人のほうが多いのは事実である。

では、食べすぎとはどの程度か、飲みすぎとはどうか。多く飲んだり食べたりしても、人間の体の中の状態が正常であれば、このような病気は起こらない。

動物の体、人間の体は常に体の中の成分を一定量に保つ調節機能が働いている。

物を食べない、あるいは物を飲まない、このような状態が数日間も続くことがある。山登り、あるいは、海に出て二、三日遭難をした人でも、生きているのはこの調節機能が働いているからといえる。

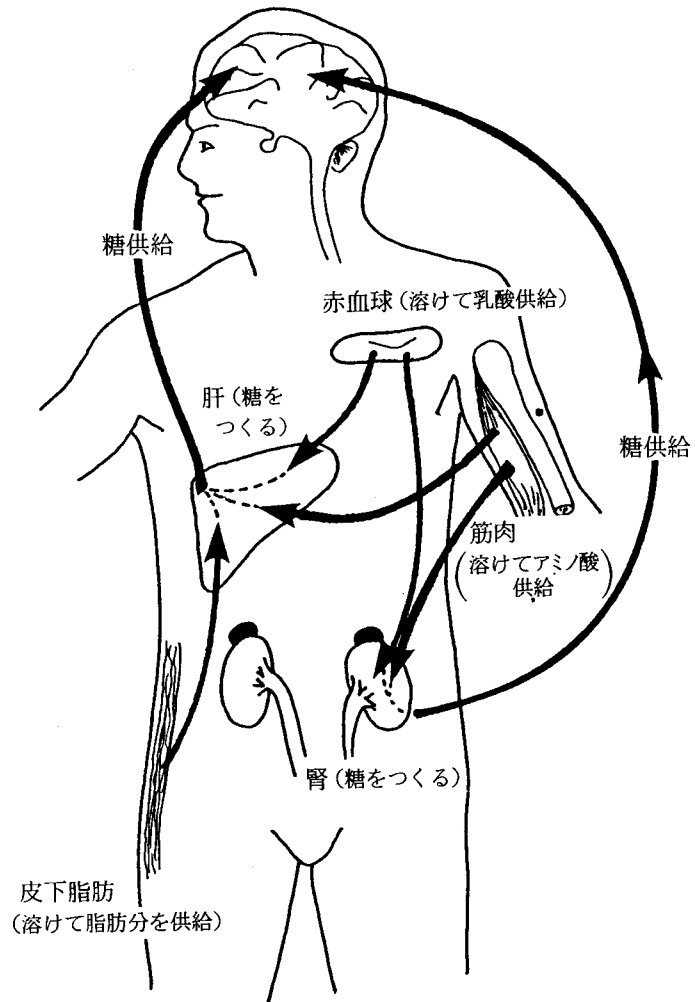
食べすぎの逆である。

つまり、多少ものを食べなくても、体のなかに栄養分を貯蔵したり必要ときにそれをだしたりつくりだしたりする働きがある。

体のなかの骨肉、血液、皮膚、脂肪、これらのものに調節機能が働きかけ、エネルギー源となるものをつくりだす。この調節を保とうとする働きが種々の病気や困難から守っているのだ。健康な体であれば、その働きも活発になり、食べすぎても多少のものは処理をしてしまう。

身体内で作る糖分

脳(神経組織) 1日100g使用する



また、栄養分が多少不足しても、それを補い人間の生命を保っていく機能もある。

これらの働きを専門的な言葉でいうと、生体恒常性という。

エネルギー源である糖分は、体の外からとり入れられたり、また少ないと体の中でつくられたりする。

そして体の中で糖分の量を一定の値にしている。この一定の値にする働き手がインシュリンで、また体の中で合成をしたり、またエネルギー源として、消費させたりしていく働きの調節をインシュリンがしている。

このインシュリンの働きさえ、正常な量を保てば糖尿病にはならない。たとえ食べすぎてもならないのである。

無限に肥りつづけ、皮下脂肪が増大し、心臓を圧迫をするとか、肝臓に脂肪が溜まるとか、そのような病気は発生するが、糖尿病にはならない。

糖尿病になる一番の原因は、インシュリンをつくり出す膵臓のランゲルハンス島の各細胞の働きは、自律神経のコントロールによる。

次の章では、自律神経について詳しく述べたい。

細胞のもつ三つの働き

まず脳細胞の仕組みから。

細胞の種類には三つあり、一つは筋肉細胞で、一つは神経細胞だ。

基本的に、筋肉細胞は刺激で収縮する。収縮することで作業をする。

神経細胞は、刺激がきたら電気を発生させる。

それからもう一つの細胞は分泌細胞といって、刺激がきたら、中で、必要物質をつくり出す。大きく分けてこの三つがある。

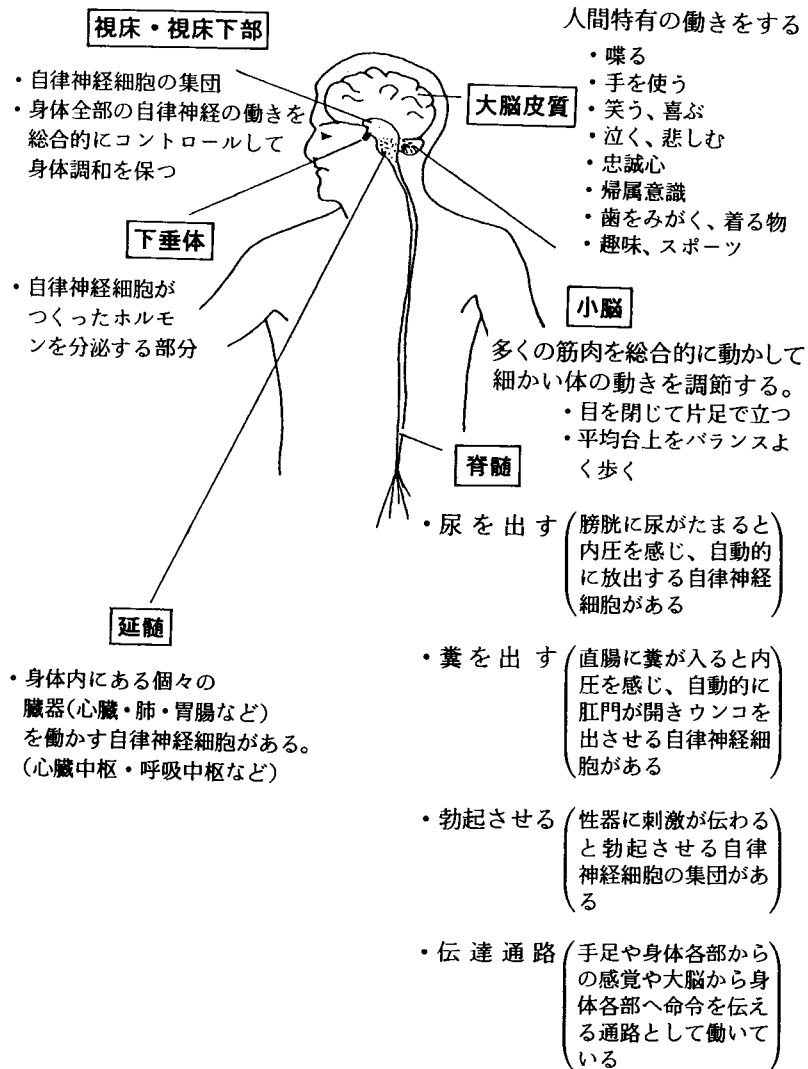
刺激を受けて収縮する筋肉は、内臓の筋肉、骨格筋の筋肉を構成している。

分泌細胞は、たとえば膵臓のなかのランゲルハンス島、汗や皮脂分泌細胞、また消化液を分泌する細胞などで、こういうものはある刺激がきたら、そのなかで、必要物質を作り出し、それを細胞の外へ放出する作用をする。

神経細胞とは、刺激が来るとこの中で電氣的な、いわゆる発電機の状態になって電気（パルス）を発生する。

細胞が働くということは刺激があって、そこに酸素と栄養分を与えられて、そのなかで加工

脳とその関連の働き（神経細胞）



して、エネルギーを使って収縮し、そのとき代謝物や、カスを出す。

神経細胞も刺激がきたら電圧を上げるためにエネルギーをつかってカスを出す。これも同じだ。

筋肉の収縮疲労とは酸素と栄養が十分あるにもかかわらず、くり返し収縮しすぎて、この中で働くことができなくなった状態、それからカスがたまってきた状態をいう。

神経細胞も同じだ。一般的にストレス、たとえば、狭い部屋に閉じこめられる、嫌な人がそばにいる、嫌なものを見るなどの不愉快な状態が身近にあると、その刺激は筋肉細胞に間接的な影響をする。

分泌細胞にも間接的に影響する。

どこに直接影響するかというと、神経細胞を刺激する。

それは、目からきた光の刺激、耳からきた音の刺激、それらの外からの刺激に対して認識する、考える、記憶するということで電気パルスが活性化する。

これが度をすぎると、くたびれてくる。

すると学習をするとか、目で物を見るとか、考えるということを持続し、継続できなくなってくる。くたびれてくるので、自覚症状は面倒くさくなる。

嫌だということをガマンしていると、神経の興奮電圧が正常なパルスではなくて秩序をもたない異常なパルスを発生させてくる。

分泌細胞や、刺激されて動く筋肉細胞は、この神経細胞からでた電気的信号によって動いている。

神経細胞がホルモンを分泌する分泌細胞を刺激してホルモンをださせ、このホルモンの働きでいろいろな分泌細胞、神経細胞、筋肉細胞をコントロールしている。

おおもとのおおもとは生体の働きの根本にあって、それらを支配するのは神経細胞なのだ。それがくたびれてくると変な命令を出すようになる。この神経細胞というのは、ほかの細胞と違って自分で突起を出していく。突起をだして、自分で回路を組み立てていく。

どういうふうに突起をだし、ほかの細胞と結合するとどうなるのだろうか。

Aという文字を覚えるのに右へ伸びるか、なぜ左へ行かないのか。それはわかっていない。それは細胞体が自分でやっている。

それを学習能力といいます。

これが正常で健康な細胞だと、この樹状突起も正常に伸びていく。これが疲労状態にあると、樹状突起の芽が伸びない。樹状突起が伸びて細胞と細胞が結合したということは神経回路がで

きた。それでAという文字が覚えられる。だから記憶するわけです。

接合した細胞部分は正しく信号伝達伝導が行われるから、記憶が持続するということになる。

ネズミに希望ある？

しかし、たとえば、目から嫌なものを見るとか、耳で嫌な音を聞くとか、我慢しているという状態は、常に脳細胞にマイナスの影響を与えるから、くたびれる。

くたびれると突起がでにくいし、細胞同士が結合しにくいし、伝達物質がでにくいから働きがおかしくなってくる。

子供を例にとると、学校で先生に怒られたり、勉強したりでストレスがある、家に帰ったら、親に小言をいわれる、寝る時間もおしんで受験勉強しなければならない、こうなると、脳に負担がかかりすぎる。

疲れるわけだ。それで心の病気になるっていく。

つまり、この神経細胞の働きは収縮でもなければ分泌でもない。お互いに回路をつくって、いわゆる悲しみとか、忠誠心とか、それから未来に対する希望とかいう作業をしている。それがおかしくなるとどうなるだろうか。

その作業が人格を形成するといえる。

鼠には希望はないし、猫に忠誠心はない。

俺の子供のために魚をちよっと取ってきておこうとは思えない。これらは人間の特性といえる。その意味で、いわゆる世の中の乱れ、いつも自分が防御しなければならぬ状態、悩みにおしつぶされている状態などは脳に悪影響を与え、自律神経失調から糖尿病を誘発することになる。

それが、健康な状態だと一晩寝れば自分で自己回復して治るわけだ。

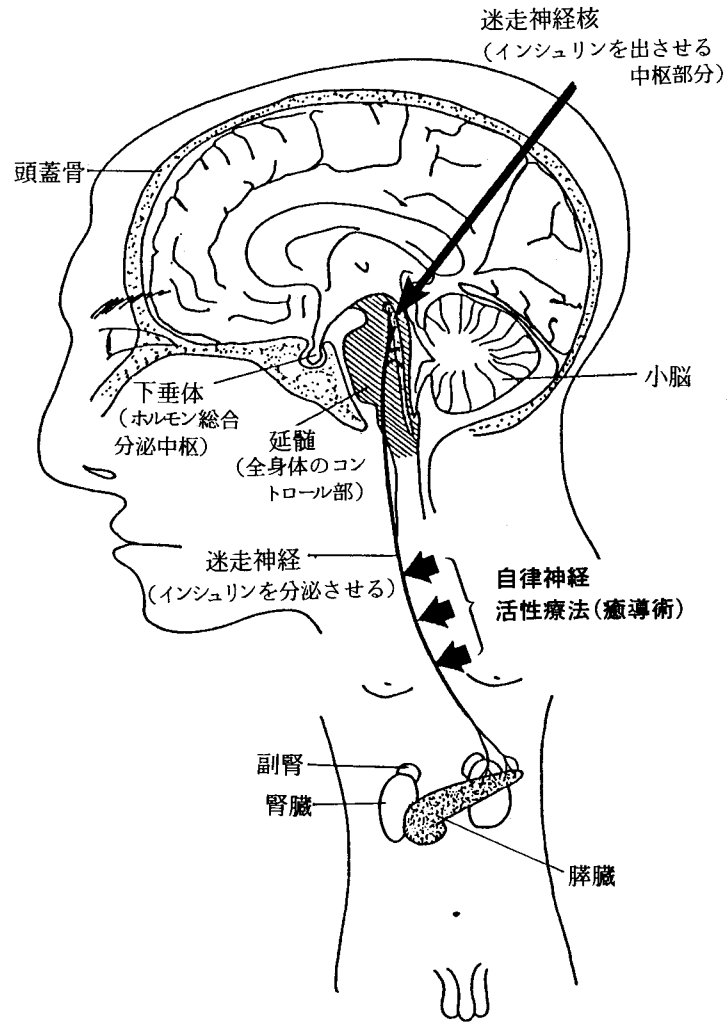
それが神経回路がうまくできていないと自己回復出来なくなってくる。

それほど疲労が蓄積していなければ、発散させたり遊んだりということをしていけば、これはもとに回復していく。その可逆反応（もとにもどせる）の範囲なら回復する。

不可逆的な疲れすぎは回復しない。だから、わたしがいう「故障したものは治しますよ」というのは、可逆的な範囲にあるものに対してである。

壊れたものは不可逆である。

駆け足をするときに、足が痛くなったり、筋肉がつったりする。それで筋肉が疲れたということとがわかる。



同じように脳の細胞も動きすぎると、収縮しないから脳の細胞は引きつることはないけれども、電気パルスを生じさせる作業がおかしくなる。

72

日本の医療の考え方は脳は内臓でない、内臓というのは首から下であるという感覚がある。脳も立派な内臓である。大脳皮質は自律神経のコントロールを受けている。

加えて、性ホルモンの影響で緩かにコントロールされている。女性は女性ホルモンが多いから女性らしい物の考え方、恥じらい、それから思いやり、人をいつくしむ、攻撃的なものの考え方をしない、保守的であるというのは女性ホルモンが脳に作用した結果だ。

だから脳も他の臓器もなにも変わらない。

自律神経失調が発生して、膵臓のコントロールができなくなって糖尿病に陥っていくことになる。

膵臓が自分自身で働いていないということはちょうど家庭の中の冷蔵庫やテレビ、これを臓と考えるとよい。これはそれ自体では働かない。

必ずエネルギー源である電気を電気線から供給されて、その力で働いている。そうしてその電気線は膵臓へいく神経と同じ働きで、電気の信号を伝える。

その神経は脳とつながっている。脳でもそれぞれ働く場所がある。

周辺部分が大脳の皮質、中心部分が大脳の自律神経部分だ。

人間以外のたとえば、豚、兎、鼠なども膵臓はもっている。しかし、これらの動物はしゃべったり、悲しんだり、あるいは将来への希望を持つ、また計画を立てて自分の行動を決定し、将来どのような鼠になろうか、とか決して思わない。

また自分の子孫は立派な兎として、なにか世の中に役立つように今から準備をしておいてあげようなどという兎もいない。また犬の社会で自民党や社会党、政党、政治結社を組織してお互いに論議をするということもない。

このような将来的なこと、また希望、物事を考えてつくりだすこと、これらを発動するのが周辺部分の脳皮質の働き。

これは直接、膵臓に対して、インシュリンの分泌を促進させるための電気信号を送ることはない。

インシュリン生産は自律神経が左右

しかし、間接的に周囲の状況に応じて、自律神経である脳の中心部分を、コントロールし、影響を与えて出さなくさせるということはある。

脳の中心部分にある自律神経は、視床、および視床下部、また延髄の部分がおもに体の働きをコントロールしている。

心臓を動かすのは延髄にある心臓運動中枢という、自律神経の細胞集団が電気信号を送り、心臓がかってに動くのを制御したり、体が非常に激しく働いているとき、つまり駆け足などをしているときなどに速くパルスを送っている。

また、夜眠っているとき、あるいは座って居眠りをしているときは、早く心臓を動かして血液を大量に全体に送り込む必要はない。そのときはゆっくりとしたパルスを送る。

また、胃および腸は、食物が入ってきて、消化を始めるとき以外は静かにしている。必要以外には体の各部分は働かないようになっている。それと同じように延髄の部分、あるいはそれをコントロールする視床下部からの自律神経の信号によって、胃、および腸の働きが制御され食物が入ってきたとき、あるいは入ってこないとき、この両方を判断して自然に胃腸の働きを

制御しコントロールしています。

自律ということは、自分で自分を制御して動かすという意味です。だから人間があしようにしようと考え意識は、大脳皮質で行われているが、自律神経はそれに関与しません。

つまり、自分で心臓の働きを止めようと意識したり、胃の働きを止めようとしたり、また、体の体温を低くしようとして血管を収縮させようとしても、まったく意のままにはならない。それが自律神経の自律神経たるゆえんです。

このように発電所である自律神経から電気信号が出て、体の各器官、つまり目、耳、筋肉、皮膚、また内臓の肺、心臓、胃、肝臓、膵臓の働きをコントロールし、早くしたり、遅くしたりしている。

当然、膵臓も神経の働きによって、コントロールされている。

膵臓の神経をたどっていくと、脳の中心部分にある迷走神経核というところに行きつく。

ここにはやはり自律神経の中枢である神経の細胞集団があります。

延髄よりずっと上に脳幹という部分があり、ここに迷走神経の背側核部分があります。

この細胞集団から神経の筋が出て、ずーと背骨の両側、右と左、これを通りおなかのなか全体に分布している。つまり胃、腸、大腸、また肝臓、膵臓、胆のうと、腹部のなかの全部の臓

器に分布している。

そのなかの一本が膵臓へいくわけです。

この背骨の両側の神経は、背骨のなかにある脊髄から出る神経と、内臓に接続されている神経と複雑に絡み合い、ある意味で漏電現象を起こしながら、お互いにいい意味での連絡をとり合っている。これを交通していると表現しています。

そして、インシュリンを分泌する膵臓の細胞に連結をし、細胞を刺激してインシュリンを送り出す働きをさせているのです。

つまり、インシュリンをつくり出す膵臓の細胞が正常であっても、インシュリンをつくり出す力を与えるのは迷走神経核であり、ここからの自律神経の信号の強弱が膵臓のインシュリンをつくり出す能力を左右させてしまう。

尿量1日2リットル、血糖値120ミリグラム以上は危険信号

このように膵臓のインシュリンは膵臓の細胞本体が自動的につくり出すものではなく自律神経の命令によってつくり出されていくことを理解していただきたい。もちろん膵臓が壊れてしまったとき、たとえば交通事故で強く背中を打ち、膵臓が圧迫されて破裂をしてしまった、また膵臓に癌ができてインシュリンが分泌するところが壊れてしまった、このような場合には、説明するまでもなくインシュリンを分泌することは障害されます。

糖尿病でないのかまた糖尿病になりかかっているのか、こういうことを十分に検査する必要があります。おなかを切って開いてみて、直接検査するということは不可能に近いし、また非常に危険であります。

私の研究所では、脳の働きを間接的に体の状態から推測して、多分こういうふうな働きになっているだろうと推定します。

その、間接的検査方法というのは、ほぼ正確で、糖尿病検査の方法として定着をし、いまでは病院などでも行っています。

また家庭でも検査をすることも可能なのです。薬局で売っている尿検査用の検査紙を買って

きとおしここに浸けてみればよい。

病院で行っている検査の方法は糖尿病にかかっている方は十分ご存知であるが、その方法を多少なりとも知識としてもおかなければ、自分がどのような検査をしてもらっているのかわからない。糖の検査には尿に含まれている糖分の測定と、血液のなかにある糖分の測定との両方がある。

まず、尿から出てくる糖分の測定が先であって、これで疑いをもった場合には血液の検査を行うのが普通です。

尿に出てくる糖の量は食事前と食事後、あるいはどのような食物を食べたかということ、またほかの病気との関連性で多少は違ってくる。

先ず食事をする前に測る。

正常な人の尿には糖分は出てこない。この検査紙を浸したときに色が変わらないのです。

この検査紙には糖分、つまりグルコースを酸化させる酵素を浸み込ませておき、それを尿につけると、尿中の糖分が酸化され、検査紙の色は変化してくる。糖分が多いほど色は変化し、その色の濃度によって糖分がどれだけ含まれるのかを知ることができる。

正常な人は、黄色だが、糖の量が多くなるにしたがって、だんだんと茶褐色に変化してきま

す。

この試験紙の変化とともにほかの尿の症状も出てくる。

まず、比重を測定すると、尿の比重が非常に高い。これは糖分が含まれているからで、含まれていないものよりも当然比重は高くなります。

しかし、腎臓の病気があると、つまり腎臓の働きが悪くなって尿を濾過する力がなくなるとこの比重は低くなります。これは、腎硬症などという病気。この場合、比重が低くても尿の量が多くなる。尿細管で再吸収する力が少なくなるため、尿の量が多くなるのです。

糖尿病の一般的な傾向は、尿の量が多いことがあげられます。この尿量が多いことも糖尿病の一つの目安。正常な大人は一日一リッターから一・五リッターなのに、糖尿病になるとこの倍は出ます。つまり二リッターから三リッターぐらい出たりする。

そして口が喝いてきてつまり水やお茶などをごくごく飲む。

比重の測定は糖尿病の初期には有効だが、長期化した場合は、意味がない。

つまり、糖尿病の状態が長く続くと毛細血管が破壊されて腎臓の働きが悪くなっていく。つまり、腎臓病も発生する。(腎硬症)

これを糖尿病の腎障害というが、このときには尿の比重は、高くなりません。

理論上では糖尿病は血液の比重が高くなることで発見できることもあるが、臨床的な実際の判断では、やはり尿のなかの糖の量を検査紙をつかって測定する。これが一般的であります。しかし、この尿に出る糖はほかの病気からも発生する。

つまり、迷走神経が壊れたとき、または、障害されたときには、強い信号を出して、糖分をコントロールすることができなくなります。

たとえば、交通事故で脳をケガをしたとき、また血管が切れて大量に出血をしたとき、それと体の状態が普通でないことが続く、つまり、妊娠状態の場合にも尿のなかに糖がわずかでも多く出てくる場合があります。

病気が原因で起こる場合では、腎臓に関係するネフローゼ、また腎炎、などによって腎臓の働きが障害され、腎臓のなかにある尿細管というところで糖分を再吸収する能力が障害されるために漏れてしまう。

しかし、糖分が高いのは糖尿病のせいなのか、あるいは、ほかの病気でこういうふう尿から糖が漏れているのか、との区別は、血糖値の測定をすればすぐにわかる。

尿に糖が出ていても、血糖値の検査では正常ならば、糖尿病ではないといえよう。これは、糖尿病ではなくて、尿に一時的に糖分が出てきたことを意味する。

問題は、膵臓から出るインシュリンの量が減少し、それによって糖尿病になるということだ。つぎにさらに詳しく測定するためには、血液の検査がある。血液を抜きとり、そのなかの糖分の量をはかる。

これを血糖検査、つまり「グルコース負荷テスト」という方法で行う。

正常の人は朝起きたときの何も食べていない空腹時の血液中の糖分は一〇〇ミリリットルあたり六〇〜一〇〇ミリグラム。これが、一二〇ミリグラム以上あれば病気の状態。

重症になると、一八〇〜三〇〇ミリグラムぐらい出てくる。

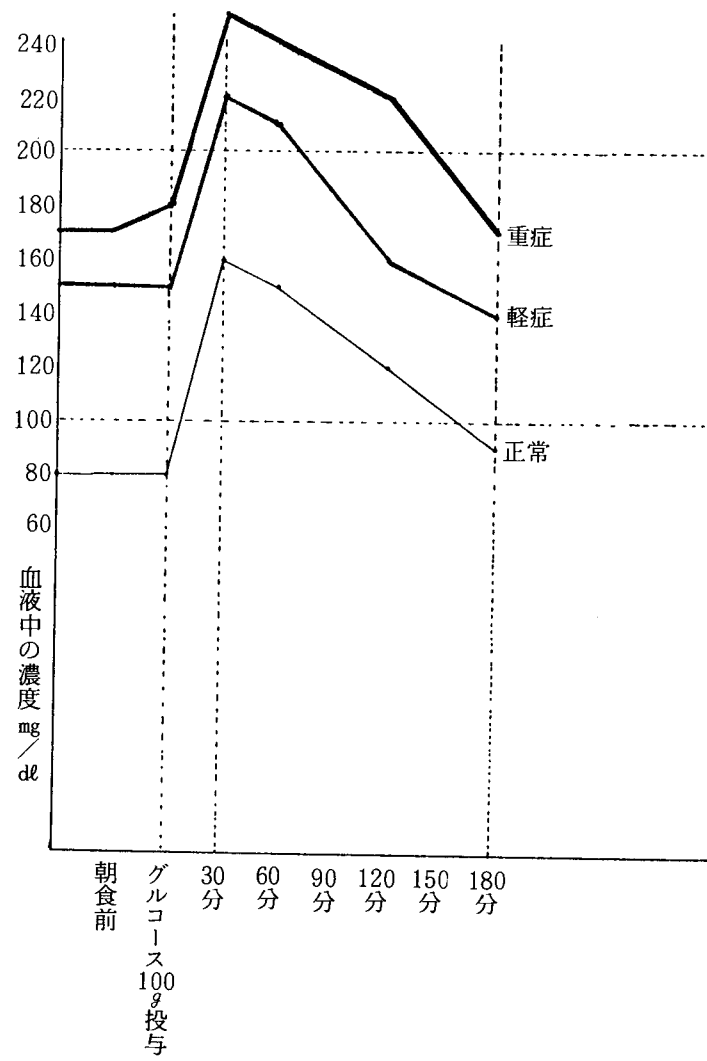
糖尿病があると、尿に出てくる糖の量は三〇〇ミリあるいは五〇〇〜六〇〇ミリという数値Kさんの例では六〇〇ミリグラムの糖分が尿に出ていた。このような方は、だいたい空腹時の血液中の糖分は一二〇ミリグラム以上ある。

これのグルコース負荷テストが一般的で、病院などで用いられる。

一〇〇グラムの糖分、つまりブドウ糖を水に溶かして飲ませる。その後30分、1時間半、2時間、と時間をくぎって静脈から血液を抜きとって検査する。

正常な人でもその糖分を飲んだり、食べたりした後には血液中の糖分は一時的に多くなります。

症状別血液中の濃度



当然、吸収されて血液のなかに入り込んできているから。つまり、30分後、60分後に大体一六〇ミリグラム、また一時間、二時間たったときに一二〇ミリグラムになる。

脾臓の働きが活発になって、血液のなかの糖分が必要以上に上がらないようにコントロールできているときは正常といえる。

しかし、病気の状態とは、グルコース、つまり糖分を飲んだり食べたりした後、30分、一時間たっても一六〇ミリグラムを維持していたり、2時間たっても一二〇ミリグラム以上の状態になっている。そのときは、脾臓から出るインシュリンの量が少ないため、血液のなかから細胞の中へ糖分を送り込むことができない状態であることを意味する。

また、この糖分負荷テストをより正確にするために患者さんに八時間前くらいにコウチゾン等という薬を注射をしてより正確な測定ができるようにしている。

調和あるホルモン作用こそ
健康の要件

糖尿病は自律神経失調症の一症状

糖尿病以外で尿に糖が出てくる場合では、まず腎臓が悪い場合、交通事故などで大量の出血があるようなケガをした場合、妊娠をしている時、つぎに食物を極端にとり過ぎて、体の中で処理しきれない状態、その次が、いわゆる膵臓のインシュリンを分泌するランゲルハンス島の働きが悪いときなど、そのほか多くの原因がある。

サイロキシン過剰は大汗、眼球突出誘う

まずバセドー病的な状態が長く続く、いわゆる甲状腺機能亢進症となって、喉ぼとけの両側にある甲状腺がサイロキシンというホルモンをつくっているが、これが異常になるとホルモンをたくさんつくりすぎてしまう。

こうなると体の中でエネルギーを利用して細胞が働く作用が活発になりすぎ、いろいろな症状が出てくるようになります。

つまり、細胞のなかに糖分をとり入れさせる働きは、インシュリンと同じように細胞へ入っていく扉をさらに押し開けて広げる働きがある。

インシュリンと甲状腺ホルモンの両方が糖分をとり込む細胞の力を強くする。

そのために細胞内に糖分が大量に入っていく、エネルギーが供給されすぎて細胞の働きが活発になりすぎる。

そうすると、神経の末端、いわゆる体のすみずみまで走っている血液のなかに糖分が残らなくなるため、末端では糖分のエネルギーとして入っていくことができなくなり、神経の働きが障害されてしまうことになる。

つまり、中央部分で糖分が大量に細胞の中に入っていくのに、末端のほうでは糖分が足りなくなり、とくに大量に糖分のエネルギーを必要とする末端神経では足りなくなってしまうことになるわけ。

そうすると甲状腺ホルモンの働きによって、肝臓から糖分をたくさんつくり出さなければ間に合わなくなってくる。

結論すると、血液の中の糖分が少なくなってしまうという現象が起こることになる。

体の細胞のなかで糖分が正常な量だけとり込まれ、正常な働きのもとに消費されるぶんにはちょうどバランスがとれて、末端のほうまで十分に血液にのって糖分がいく。

そうになると、中央部分と末端の部分が同じ割合いで糖分が配分され、吸収利用することができ。しかし、甲状腺のホルモンのアンバランスな働きによって、糖分が細胞の中に大量に消費されてしまうと、血液中の糖分が少なくなり、ついには末端の神経で利用できなくなる。

血液の中の糖分は少なくなるから肝臓でどんどん糖をつくりださねばならなくなる。

つぎにどうなるかといえば体が疲れる。また、非常に細胞の働きが活発になるため、大汗をかいて体温が上がったのを防ぐようになる。

また目が潤み、眼球の後ろにある脂肪の蓄積が多くなるために、眼球が飛び出してくる。

両刃の剣・ステロイドホルモン

ステロイドホルモンが大量に投与されて、いろいろな難病の治療に利用されている。

ステロイドホルモンは副腎皮質から分泌されるが、これが体の働きに非常に役立っているし、またいろいろな病気を治療するのに非常に有効である。

そのために、いわゆる通常の薬物投与では治りにくいとされている多くの病気を治すためや、おできを治すためにも使われている。

このホルモンは大きく分けて炎症を押さえる働きと、免疫系による病気の発生を押さえる働きをする。

さらに貧血、あるいは白血球の減少などに対して造血機能、つまり骨髓の働きをさかんにすることもできる。

しかしステロイドホルモンには、すばらしい役割を演じる反面、脂肪を体の中に取り込ませ、蓄積させてしまう役割もある。

これは、やせた人には非常に有効であるが、普通の人には非常な肥満をひき起こしてしまう。それで、顔がまん丸くなって、いわゆるムーンフェイスといわれる状態が発生したりする。

これが副腎皮質ホルモンの副作用である。

また、痛風などの病気を治すためにも用いられることがある。しかし、このステロイドホルモンの投与によって体の糖分をつくる働きがさかなくなるという副作用がある。

さかんになることは、ちょっと考えると大変良いことのように思えるが、体のなかの糖分は外から入ってこようと、自分の体の中できると、多すぎるとはいわゆる糖尿になってしまう。ステロイドホルモンの連続的な投与は、糖尿を発生させる。

体の中でどうして糖分が作られるか。わたしたちは一日や二日、たべものを口にしないで死ぬことはない。これは体の成分である蛋白質、あるいは体のなかに貯蔵されている糖分の源である、グリコーゲンを分解して糖分をつくっているからである。

体の中の蛋白質、つまり筋肉、あるいは内臓をつくっている筋肉、これらは分解されてアミノ酸となって血液のなかに入ってくる。

この筋肉が溶けだしたアミノ酸は肝臓、および腎臓で糖分をつくりだすのである。

副腎皮質ホルモンのコルチゾールは、いわゆる副腎皮質ホルモンの主成分であって、もっとも働きとして強い。体の中で糖分を新しくつくらせ、体の活動エネルギー、病気を治そうとする力、また体のエネルギー源として利用させようとする力、これらを非常にさかんにしてゆく。このため、ほかの病気の治療の目的でステロイドホルモンを大量に連続的に投与していくと糖尿になってしまう。

脂肪代謝異常。体のなかで、とり込まれた脂肪分をエネルギーとして利用してゆく力、つま

りこちらを上手にコントロールする酵素、およびそれを助けるホルモンの働きなど、この一連の働きが悪いと、体の中の脂肪分がエネルギー源として利用されない。

これは糖分を体のエネルギー源として利用する力が弱いということも同時に発生させる。よってぶくぶくと肥ってしまう。

この肥るというのは、筋肉が増殖して大きくなるということではなく、脂肪分が異常に増えて体の中に沈着してゆくことであって、ボディビルなどで鍛えた筋肉、たくましい体つきになるといふような肥り方とはまったく異なる。

この脂肪代謝がうまくいかない場合に、糖尿病は発生をする。

つぎに体の中の副腎、あるいは脳についている下垂体、また、この下垂体にホルモンをつくらせて送っている自律神経の細胞集団である脳の中心部分、これらに腫瘍や、いろいろなできものが発生すると、この下垂体成長ホルモンが分泌されすぎる。これは体のすべての働きをさかんにし、子供では発育を促し、大人では体の動きをさかんにする働きがある。このホルモンが多く出すぎると糖尿になってくる。

副腎のアドレナリンは体のなかで糖の再生産を促すために、また成長ホルモンも体の中でさかんにエネルギー源としての糖分をつくりだし、利用させるようにはたらきかけるので、血液

の中に糖分が多量に出てくる。

こうなると糖尿となってあるいは糖尿病に近い状態になってくる。

さらに、肝臓の働きが悪い場合は肝硬変や、脂肪が沈着した脂肪肝、バクテリア、ウイルスにおかされた肝炎、アルコールなどの影響で働きが悪くなった肝炎などと種類があるが、いずれにしても肝臓の働きが悪いと糖尿の傾向になる。

糖分はグリコーゲンとして肝臓の細胞に密着して蓄えられている。しかし、この肝臓に一時的に蓄えることができない場合には血液の中に糖分が溢れ出て、体の外に出ようとする。これが糖尿となって生じる。

大人になってから成長ホルモン、つまり下垂体成長ホルモンが継続的に大量に分泌されると末端肥大症という症状が生じる。

いわゆる顎が突出したり、目の上の骨が出てきて、巨人症的な感じの体つきになることがある。これは結果としては末端肥大症の症状であるが、原因は成長ホルモンの過剰分泌であるから前に述べたように体のなかの糖分の再生産が促進され、糖尿の傾向となる。

事故などで脳が一部分破壊されたり、圧迫を受けたりした場合には、血液の中の糖分をコントロールする自律神経中枢の脳の部分がうまく働かず、そのために、糖尿の傾向となる。圧迫

など、いわゆる外からの衝撃により、頭蓋骨が陥没したり、脳内出血で内側から圧迫されたりした場合、また徐々に脳の一部に腫瘍（できもの）が発生している場合には、糖尿の傾向となる。

さらに一時的であるが、強心症の発作、つまりこれは自律神経失調の一症状であるが、この場合にも糖尿の傾向となる。

Kさんの体験

食事制限しなくていい!?

Kさんが最初の治療の帰りがけに、こう聞いてこられた。

「食事はなにを食べてはいけないんでしょうか。医者に言われていることを守っていれば良いのでしょうか」。

「いえいえ、食事は特別に制限する必要はありません。いままで通りに食事をして下さい」。

「いままで通りといいますと、つまり、家族の者と同じ物を食べてよいと言うことですか。なんら食事制限をする必要はないと言うことですか」。

「でも先生、糖尿病は食事制限が重要なでしょ」。

「それは、薬物療法で治療する場合に必要なことです。わたくしのところの治療では、なんら食事制限も仕事制限も必要はありません。仕事も今まで通りできる範囲内

で行っておいて下さい」。

と、話をしておいた。なんだか附に落ちなさそうな「はあ、そうですか……」という返事で帰っていかれた。

それから三日おきの治療が始まった。四回目のとき、——「なんだか最近、体が軽いです。目覚めもいいし、いつも午後になると急に、気が滅入ってしまい、仕事を離れたくなるという衝動がないんですよ……」。

という報告。

「そうでしょう、体のなかの糖分が正常に燃焼をして一〇〇パーセントに近いエネルギーの効率が発生すると、脳や体の筋肉の活動が盛んになり、正常なエネルギーの消費ができるようになって、気分的にも壮快になり、ちゃんと働けるようになるんですよ」と話をした。

「はあ……本当に不思議なもんですね……。いままでは食事制限とかいろいろといわれても守れなくてそれで病気が治らないとばかり思っていました」。

しばらく、二三日たって、お婆さんがお出でになった。

「最近、息子がなんだかよくしゃべるようになりましたよ。陰気な人間だと思って

いましたけれど。明るい性格だったんですね。そういえば、中学、高校の時代には、明るくて良い子だったんですが、いつのまにか暗い、なんだか意地悪そうな性格になってしまって、周りのものが言うには、「親の跡を継いだ兄さんが社長をやり、次男坊だから専務ということが、不満なんだよ」という主人の代からの従業員の声からしてそう思い込んでいましたが、そうではなく、病気のせいだったんですね」。

「ああ、そういうこともありましたか。本来あの人は緻密な仕事には向かないけれど営業面、また外交や世話役的な仕事は向きますよ。だから市会議員か県会議員あたり、立候補すれば、演説もうまいし、立派に当選なさるんじゃないでしょうか」と話をした。

三週間で尿の糖値が半分に

六回目のとき、糖尿値を測ってくるように話をした。次の回に糖尿の数字を書いた証明書を病院から持参された。

これによると、糖尿の量が二八〇／三〇〇ミリと書いてあった。

最初は六〇〇であったから半分に減ったことを意味する。

約三週間で半分に減ったのである。つまり、その尿に出ない、残りの半分のエネルギーが体に全部消費されて活力となっていることを意味する。

そろそろリハビリをやりましょう——。ということでリハビリの指導をした。

その結果、からだの調子はどうか聞いてみた。

「いえ、足の太ももが突っ張って、なんだかおなかの表面が突っ張ってちょうど町内マラソン大会か、何かの後にトイレにしゃがめないような状態があります」。とのこと。

「まあそれは、多少し方がないですね。継続していけば一、二週間でそれもとれますよ。基礎的体力がいま落ちていますから。それがつけば大丈夫です」。

と指導をした。それから、数回、治療が始まってから一か月ちょっとでさらに尿の糖量を測定した。すると、一〇〇と証明書に書いてあった。

このとき、Kさんが「頭の皮にいつもでき物ができて、痒くてしょうがなかったんです。若ニキビかと思って、自分はまだ若いと思っていたんですが、これがなんだか全部消えてしまって、これで良いんでしょうか」との事。

「それは、皮膚病の一種ですよ。あたまの毛の穴に、細菌が入りやすくて、血糖値が

高いと、糖分が体の表面にまで滲み出てきます。糖分が皮膚の下のほうにもたまって、栄養十分で細菌が繁殖してしまうのです。空気中の水分でじめじめしていると、体温が三六度という最高の繁殖条件の状態にありますから、そういう出来物がつねにできて糖尿病の人は治らないんです。

それが治ったということは、糖分が相当少なくなり、回復に向っている証拠ですよ。ほらこの数字が示しているでしょう」。

完治して性格も前向きに

「あなたが最初お出でになったときは六〇〇ミリでした。いまは一〇〇ミリですよ」。

「そういえば最近顔がほっそりとなり、体がむくんでいたようなのがとれてきましたね……」。

「これも病気のせいだったんですか」。

「そういうことです。体がスリムになります。そうして体が軽くなります。さらに、気分的にも爽やかになり、仕事や人生に意欲がわいてくるものですよ。脳の働きが正しくなると、そうなるのです」。

その後、Kさんと交替で、母親であるお婆さんや、また、兄である社長さん、さらにそのお嫁さんなど入れ代わり、立ち代わり定期的に治療に来ておられる。

それで、皆さんが開口一番、口に出すことは、「いやあすっかり性格が変わりました、なんだか家のなかも明るくなりました」。

さらにそのKさんのお嫁さんも前からイジイジとしていた人が、最近、わらって鼻歌まじりで楽しそうなんですよ」。

という話を総合してみると良いほうに向いていると確信できた。

始めてから約一か月半たったとき、尿の糖値が六〇という数字の結果が出てきた。

そこで、週二回の治療を週一回に変更し、さらにリハビリを強化して、基礎体力をつけるようにもっていった。

このKさんの場合も、日常の仕事をしながら病気を治すのである。ほとんどの人たちが体の病気をかかえながら社会人として仕事をしているのがほとんどである。

入院しても、数週間から数か月で仕事に戻らねばならない。このとき糖尿というのは、非常に体がきつく根気が続かない。またイライラしてくる。さらに自分本位な行動をとりやすい。

これらは、糖尿性脳機能障害の、「心の病気」の部類にはいる。しかし、本人にはどうしようもないのだ。

Kさんの例でも日常の業務は同じようにこなしていかなければならない。それなのに、食事療法としてカロリーの制限や腹もちの悪いものを食べるという指示は守れというほうがどだいムリだ。

ご自分にもれず、このKさんも食事療法の制限を守ることができなかった。さらに、薬を使用していたようであるが、そこら辺はあまり詳しくは聞いていない。わたくしの治療法には、そういうことはまったく関係のない事だから。

そのうちにすっかりスリムになり、しかし体重は増えてきたという。当研究所で治療を始めたら四キロ〜五キログラム増えてきた。しかしみかけはスリムになって締まってきた。顔の輪郭ぼけも無くなり、キリッとした目許のすっきりした顔立ちになっている。

尿の糖量が五〇ミリくらいになって、その後二回ほど測定をしてこられた。その時、治療後二か月半である。それで、私はこう伝えた。

「もう来られなくても結構ですよ。ただし一か月に一度は二〜三か月間お出でにな

って下さい。自宅養生をきちんとしないとぶり返すことがありますので、そのチェックが必要です。自宅養生というのはなにも難しいことはありません。食事制限も何もありません。ただ、いま行っているリハビリをきちっと行って下さい。それだけです。

それはあなた自身がおやりになることでだれが強制することはありません。そうしてその後はリハビリも思い出す程度で結構です。ただ仕事が終わったら気晴らしに、スポーツやいろいろな趣味的なことを行って下さい。いままでは糖尿病で体がきつく仕事中でも三時ごろ放り出してプイと消えてしまう状態もあったそうですが、そういうことはそうありませんし、そういう習慣がついているだけなのです。

だから、定時の六時まで働いて、その後自分の人生を楽しむ趣味をスポーツを行っていただければ、特別な病気の状態にはなりません。

ただし、尿の糖量は一度糖尿病になりますと三〇や五〇はあります。さらに体に非常に無理を強いられたような精神的ストレス、肉体的過労が続くと、この糖が増えます。一〇〇になったりもします。ですから一か月に一度はこの試験紙を自分の尿にひたして常に睨んで測定をして下さい。

尿に糖が五〇ミリくらい、いつも出ていても大したことではありません」と話をした。

「ではそうします」と素直に返事をされた。お母さん、奥さんと一緒に挨拶にこられ、

「やっと普通の生活になりました。こういう人生があるんですね、いままでもう年だから仕方が無いと言うことで私も諦めていたんですが、元気になってもらって本当に嬉しいです」

と、Kさんの奥さんが感謝の心を込めて話しておられた。

その後Mさんのお婆さんが治療に来られる度に、

「まあ、Kはすっかり元気になって近所の子供達を集めて草野球の監督をしていますよ。」

それまでは面倒見が良いから監督をしながらいつも野球と言うことで出ていったんですが回りが「仕事はほどほどにして草野球に熱を上げてロクでもない奴だ」、といていたんで、わたしも肩身の狭い思いをしていたのが、すっかりそういうことがなくなつてせいせいしました。本人もその重荷から解放されていることでしょう」。

「本当に近所の、あの糖尿病で亡くなったお医者さんも、先生のところにきて治せば良かったものをねえ。もったいないことですよ、本当に」

と、しみじみと話される。

「それは寿命で仕方がないんじゃないでしょうか。人間は自分はどうだという信念のもとに生きていますから、お婆さんがそれとなくお医者さんに『癒導術で治したら、治りますよ』ということと話してあげようといわれましたけれども、その度に私は止めましたね。向こうから何か相談があったら話して上げればいいですよ。」

薬で治す方法と薬じゃない方法で治すやり方とありますが、わが国の医療制度は薬で治すことを大前提にして、それ以外は補助的に行うのだと、法律上の解釈がありますから、それは仕方がないことです。

だから皆さん癒導術を実行したり、こちらにこられるときに当初はうしろめたい気持ちを持つのは仕方がないんです。だけど、いま喘息でみえている神奈川の静岡に近いほうの方が、外科医の父親をもつ息子さんの喘息がひどくて、お母さんが連れて来ておられます。いま一〇回めくらいです。

薬で治す方法しか用いない人でも本当のことを理解している人はお出でになります。

歯医者さんも来ておられます。看護婦さんも来ておられます。

しかし、一つの考え方にこりかたまっている人にいくら良いことを言ってもそれは耳を貸しませんからおせっかいになります。

人に治療をおしつけることは、止めたほうがいいですよ。自分自身がお婆さんが病気を治しに来ておられるんですよ。自分のことが先ですよ。他人がどうなるか二の次です。

しかし、何とか救ってあげたいという気持ちはわかります。

でも、薬でしか治す方法がないということでもそれを信じて死んでいくのであればそれはし方がないんです。

ある宗教にこって輸血を拒否し死んでいくのも、それはその人の幸せの道でしょう。ですから、何でもかんでもこれが良いということで、おせっかいすることはわたくしは良いことではないと思いますよ」。

「まあそういうことですね。まあまあ、し方がないですね。これで私も安心して死ねますよ。そうですね、人間は死ぬまで元気でいなければいけませんよ」。

と言うことで、その糖尿病の話は終わりになった。

ふつうの生活維持しながら糖尿病克服

Kさんの治療は、脾臓の働きそのものが悪かったことが理由であり、比較的短い期間で終了をした。

通常は自律神経失調症の症状もからんで、この糖尿で痩せていく。また糖尿病からくる自律神経障害や、多様な皮質障害が酷く発生している場合には、このように簡単にはいかない。

糖尿病はいわゆる代謝障害という病気の一つである。

体の中の糖や脂肪などいろいろなものが栄養物としてとり込まれ、エネルギーとして活用され残ったものが体の外に出ていく、この一連を代謝という。

この障害から体の中に糖分が利用されないで溜り、溜りすぎるとそれが異物となって体の外に排泄される。この機構が糖尿という病気を生むのだ。

そのために結果からいうと、体のなかの糖分が多すぎるのなら、その分栄養としてとらなければ良いじゃないか、とされている。これらが食事制限である。

入ってくるものから消費するものを差し引いた残りが余りすぎ、それが糖尿として尿に出てくる。だからその分食べなければいいと。

しかし、食べること、これは動物の本能である、眠るなということと同じで非常に苦しい。また、男女の交わりは仲良くしている男女にとってこれを禁断されると非常に苦しみを感じる。正常な生活状態として男女の交渉がある人と、それが全然なかった人とを比べれば格段に人生の楽しみがちがうのはいうまでもない。

さらに排泄も同じだ。うんこやおしっこをガマンするということを強制されるとこれはきわめて拷問である。

このように、食事、生殖、睡眠、排泄などこれらは動物の四大基本欲求であるから、その一つの「食べる」を制限すると非常に苦しいし、実際それはできない。

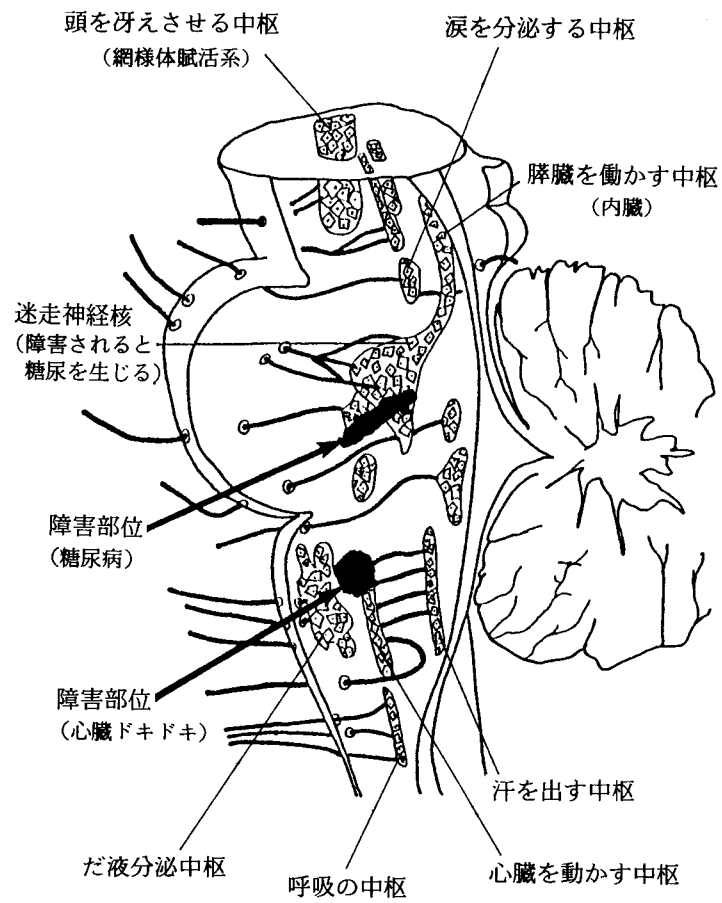
またKさんの例のように、仕事をしなければ、女房や家族の生活を支えられない。そのために、食べることをやめて仕事をやめるわけにはいかない。普通に仕事を続けながら病気を治さなければならぬ。

そこに薬物療法のある種の限界があり、最終的にみな、糖尿病関連の病気で死亡しているのである。

また、完全に食事療法を守り、薬を飲んでいる人は寝たり起きたりの生活になって社会人として廃人になってしまい、収入の道も途絶える。これが糖尿病の末路である。

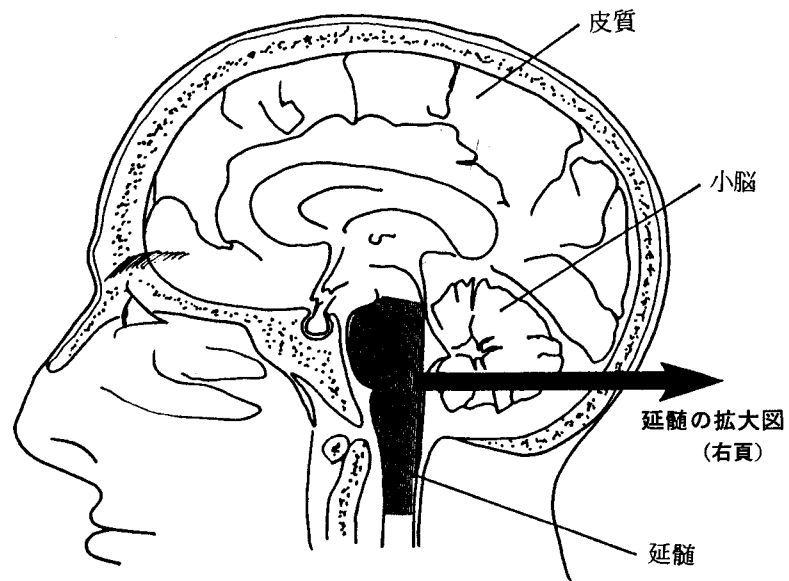
ここがわたくしの癒導術と薬物療法、または食事療法の違いだ。
世の人々には非常に奇妙に聞こえるかもしれない。食事制限しなくていいというのは糖尿病治療の最大ポイントである。

延髄の拡大図



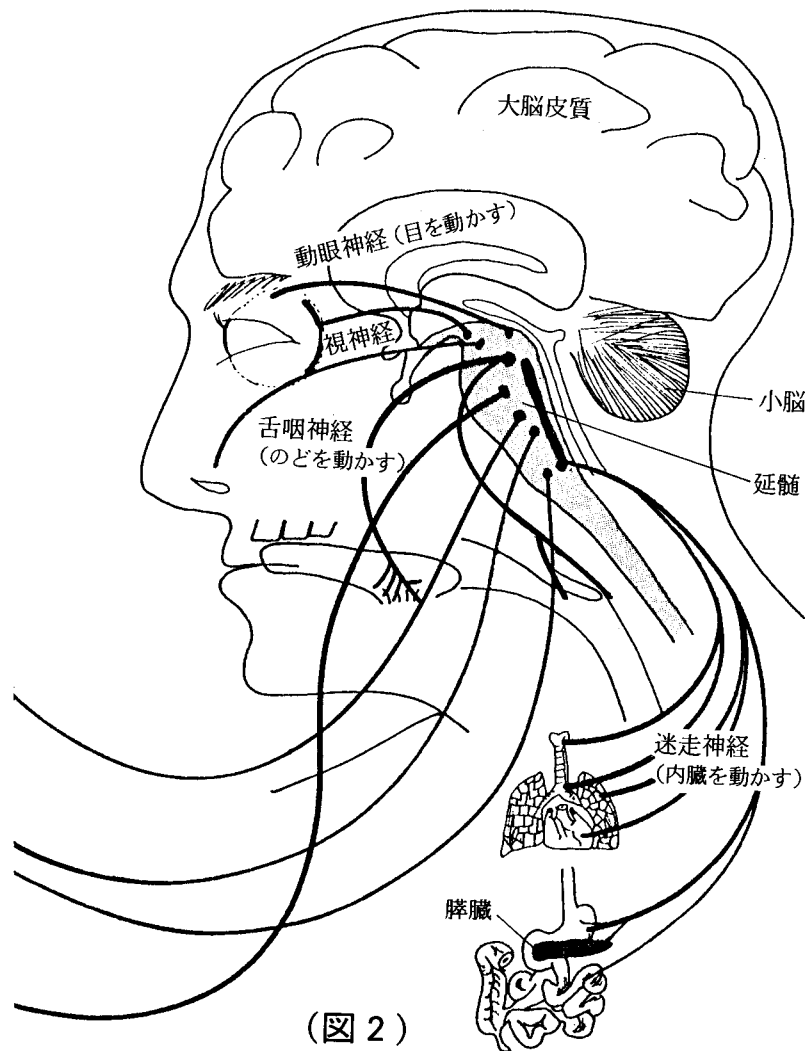
(図 1 — 1)

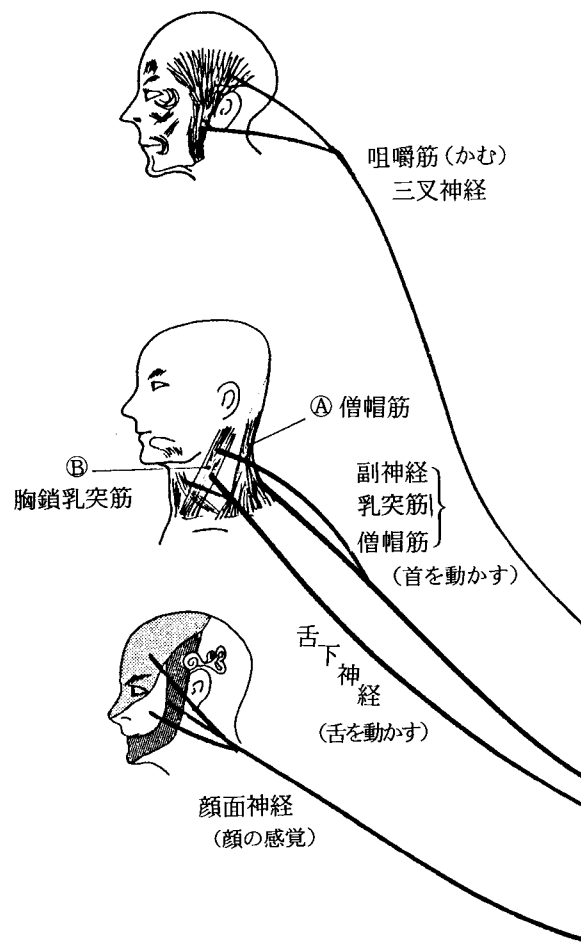
延髄（自律神経中枢）



(図—1)

自律神経は全身を動かす





(図 2)

全ての生命支える自律神経の働き

自律神経は、脳の中心部分に中枢部分がある。(図―1)

この中枢に、体の心臓、肝臓、胃、腸などをコントロールする神経細胞の集団があり図1―1はその拡大図。延髄を示します。

たとえばこの働きによって心臓を動かす部分の核(集団)、が呼吸をさせる、瞬きをさせる、唾液分泌する、胃腸を動かす、などというふうに役割分担をしています。

図2右頁は内臓の支配をしている自律神経、左頁は姿勢保持と顔を支配している神経を書いています。脳の上のほうに大脳皮質というものがあり大脳皮質も自律神経でコントロールされています。

人間以外のたとえば、魚、トカゲなどはこの自律神経の部分、橋、延髄だけで生きており、人間だけにこの大脳皮質という特有の発達した部分と働きがあるわけです。

もちろんチンパンジーとか犬にも大脳皮質はあるが、その働きがちがいます。体重が人間よりはるかに重いクジラなどは二キログラムも三キログラムもありますが、その働きは人間にまさることはないのです。

延髄部分から神経の枝が出ており、首と顎に筋肉、首の筋肉、心臓、胃腸、あるいは喉、声帯、平均感覚、唾液、嗅い、顔の表情、噛む、眼球を動かす、見るなどの人間や、動物が生きていくうえに、きわめて基本的な働きをさせて生命を保ち、外敵から自分を護るのが自律神経の働きである。

植物人間は、自律神経のみが働いて生命は保っているが、意識がある、喋ることは、これを司る大脳皮質が死滅しているのでできないのです。

つまり、自然のままに生きている魚、ヘビと同じように自律神経のみで生きているわけです。

図3は心臓から脳へ栄養と酸素を供給している血管を示します。

脳へ血液を供給する血管の系統は2系統あります。

一つは、おもに自律神経の系統に血液を供給している椎骨動脈で、首の骨の中を通過してま

つまり、生命を左右するわけだから骨の中の安全圏を通過しておかないと、外からの力が加わって、少しの傷がついてもこの自律神経集団の橋や延髄部分が破壊されてしまい、大変なことになるからです。

顔や大脳皮質の方は、外側の総頸動脈で、おもに栄養と酸素を供給しています。

首を絞めるとは総頸動脈を絞めることで、強くやると、気を失ってしまいます。しかし、椎骨動脈は絞めつけることはできないので失神しても自律神経は働いており、心臓も動いています。

図3の椎骨動脈と総頸動脈の系統から供給された血液が脳を循環して静脈へ流れこみ、心臓に戻る。総頸動脈は傷つかないように筋肉の中を通っています。

この筋肉は、脳から直接来た副神経の支配です。

図2のA、Bは僧帽筋と胸鎖乳突筋で、血管は筋肉の内側にかこまれて入ってゆきます。

脳を使いすぎると肩凝りが生じる現象があるが、この筋肉が硬くなると総頸動脈と椎骨動脈を絞めつけることになります。あるいは総頸動脈を絞めつけることになります。

すると、脳へ行く血液量が少なくなると、脳の栄養と酸素の量が少なくなる。そのため、自律神経の働きが悪くなってゆきます。

悪くなると、姿勢制御を担当している副神経が異常なパルスをたくさん出すようになります。すると、ますますこの筋肉は硬くなって凝っていく。

凝ってくると総頸動脈を絞めつける。自律神経が働かなくなりまた凝ってくる。

こういう悪循環が生じて、ますます自律神経失調に陥ってゆく。

脳への血液供給

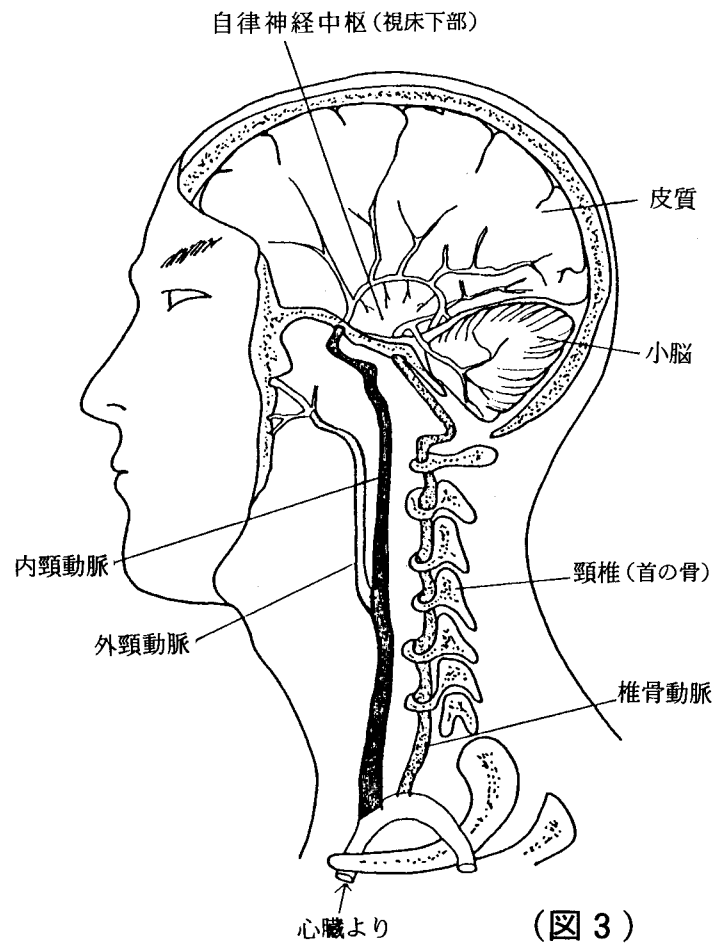


図4は上の図脳の中一個一個の細胞を拡大したもので、ほかの脳細胞からもこのように突起が出てきてます。突起は、樹状突起といい、これが別の神経細胞の本体に付着して、そういう回路をつくっている。

細胞本体と樹状突起先端は間隔がある。この間隔を神経の伝達物質が通って、一方の神経細胞から信号が伝達物質を介して他方の神経細胞に伝わる。

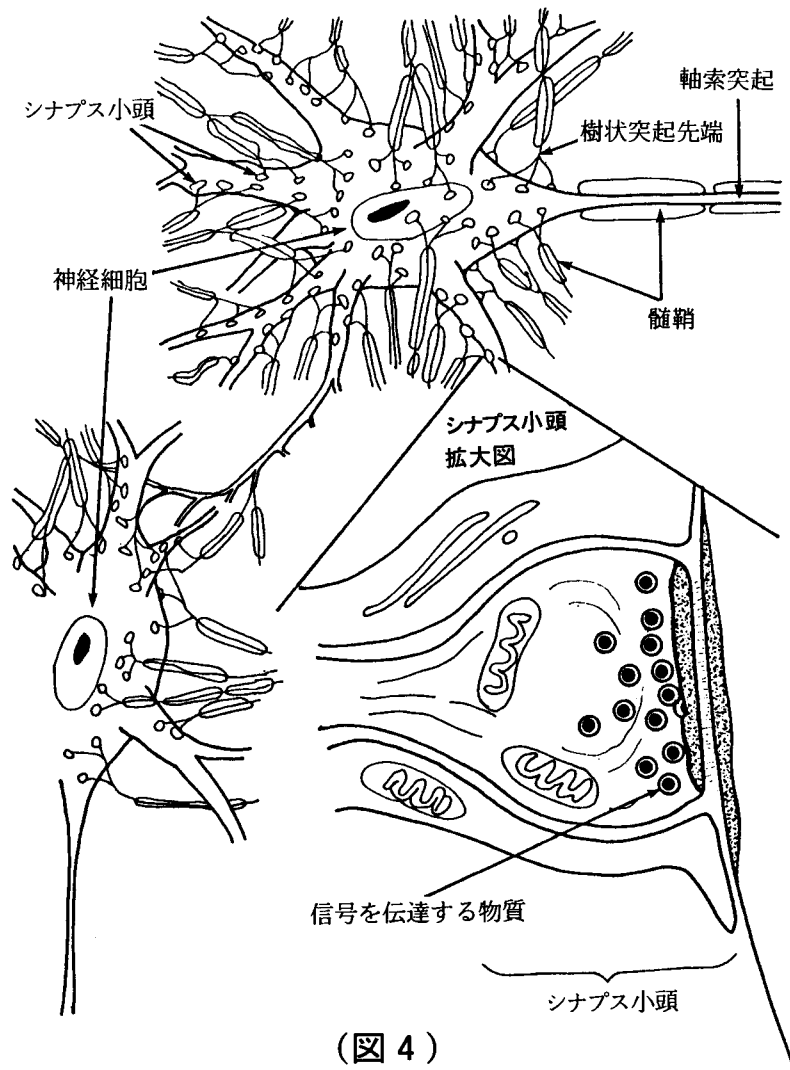
そうして一つの回路が構成されたために脳が働くことになります。

たとえば、カラーテレビの回路で、一部の線が外れたりすると白黒テレビとなってしまう。同様に脳の機能障害、自律神経失調症状とはこの神経の伝達が障害される、あるいはきわめて促進されるということ、また神経細胞本体が信号を出さなくなること。

基本的な回路構成をする一歳から三歳の時期に親が極端に甘かしたり、あるいは先廻りして物事を親がやってしまったり、逆に子供が施設に預けられたと同様に、親が直接手をくださないで、年長者の姉や祖母に育てられた状態におかれますと、この性格を形成する基本回路が歪んででき上がってしまうことになる。

諺で「三ツ子の魂百までも」というように、その人の生涯を通じて基本的性格を決定してしまう。

神経細胞の接続



(図 4)

そして思春期以降本人がいくら努力をしても、なかなかこの基本回路を組み替えることがむずかしくなってしまう。

ところで自律神経失調症というのは、正しい基本的な回路が部分的に外れたり、あるいは一部の伝達が促進されたりして正しい速度、正しい方法で物事を判断することができなくなってしまう。

人間の脳の基本的な働きは認識、判断、実行である

わかりやすい例をあげると、狼がきたということを認識しました。逃るのか、反撃するのか、判断をする。その結果、逃るのなら逃げますし、逃げないのなら反撃行動する。

認識・判断・行動、の一つのサイクルが壊れたときに生活ができなくなると、失調症になる。

失調症になりやすい人は、判断できない、人にやってもらおう、「どうしたらいいの」と、人に聞くこともできない。

「どうしよう…どうしよう…」となりストレスを発生させる。

自律神経の活性化が治療の根本

ホルモン障害というのがある。脳は神経を介して各臓器に命令をすることは前にお話ししたが、ほかに、もっと大事な働きがある。

脳はホルモンをつくっている。そのほかにホルモン分泌する臓器は、甲状腺、上皮小体、副腎、精巣、卵巣、脾臓、心臓も分泌しているし、肝臓もわずかに分泌している。

それぞれの働きしないホルモンを分泌する臓器に対して、臓器に対して、脳は自分ですべてを支配するホルモンをつくっている。これを下垂体ホルモンという。

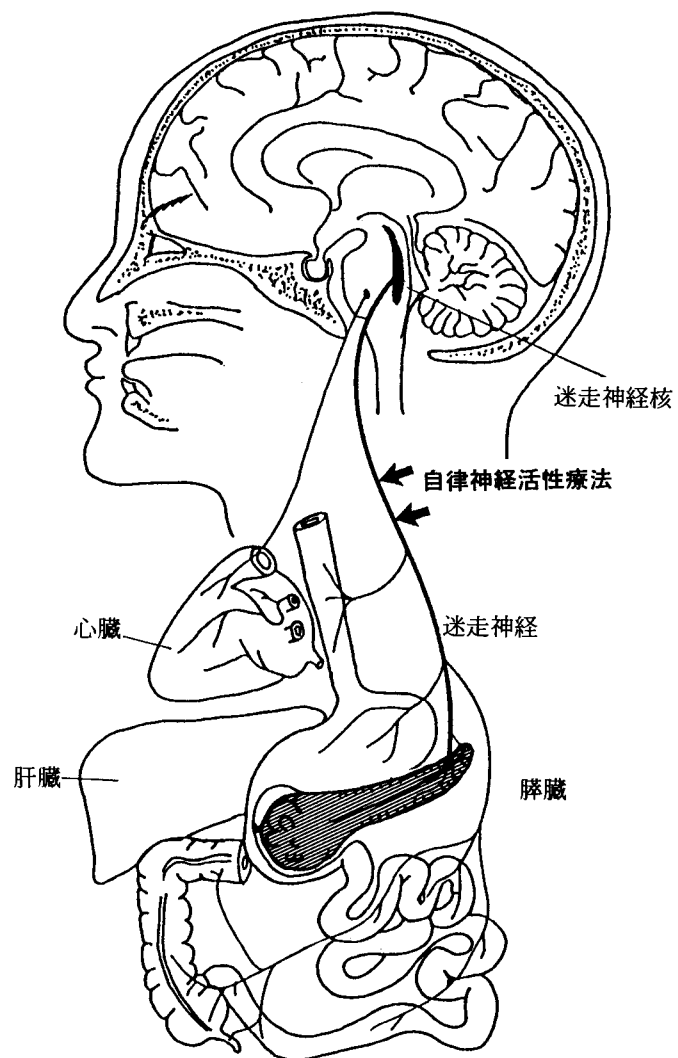
下垂体ホルモンをつくり出す細胞は自律神経の細胞集団である。

つまり自律神経の中枢の細胞は、神経線維を介して臓器を支配すると同時に、ホルモンも産出するという二つの働きをする。自律神経失症になった人は、当然ホルモン障害も発生しています。

女性では、まず月経不順をみるし、それが悪化すると月経停止、あるいは乳房の萎縮、男性では精巣の萎縮、筋肉の萎縮が発生して、男らしい女らしい体型を保つことができなくなる。

とくに多い症状は副腎皮質、副腎髄質の機能障害からくる病気、あるいは脾臓のインシュリンの分泌が少なくなつて発生する糖尿病、この二つがホルモン障害としては非常に多いものです。

癒導術による糖尿病治療の原理



当研究所で治療をしているのはインシュリン系の膵臓ホルモンと副腎ホルモンです。

副腎ホルモンが少なくなると、胃潰瘍になる、疲れやすい、色が黒くなる、あるいは痩せ細ってきたり、低血圧になったりする。

膵臓のホルモンが減少すると、皆さんご存知のように、糖尿病になります。そして痩せたり、疲れやすくなってくる。

なぜ、自律神経失調症が先で糖尿病が後かという点、わたしたちは起きているときも、寝ているときも心臓や、肺や、胃腸などは、一生懸命に動いている。つまり自律神経は二十四時間労働になる。

糖尿病となる前、つまり前糖尿病状態の時には、尿に時々糖が出る、何となくだるい、顔色が冴えない、きつい、音がうるさいなど一般的自律神経失調が生じている。このことは、自律神経に支配されている全臓器の働きが低下している状態。次の段階になると自律神経細胞集団の特定部分が悪化する。糖尿病の場合は迷走神経の膵臓支配核が悪化するのである。そうして糖尿病が固定する。つまり、先ず全般に自律神経が悪くなり、後から各部分に悪化個所が限定してくるのである。

わたしたちの体には脳から発した神経線維が体の臓器、骨格筋、皮膚の表面へと「すじ」と

して通っています。それを普通わたしたちは神経と呼んでいる。

その神経を指、あるいは特別な器具で押してやると、押した刺激が自律神経に影響を与え刺激が走る。それは、まず自律神経へ伝わりつぎに間接的に大脳皮質のほうへ行きます。その順序で刺激が伝わるので療導術で治療すると直接の刺激がいくので、まず自律神経が先に回復してゆきます。

その後、自律神経が正常な働きをすると、さらに間接的に大脳皮質の方へ刺激が行って回復していくようになります。機械的刺激を細胞の各部を支配している小さな神経、軸になる神経、皮膚にきている神経の末端に作用させることによって、この神経細胞を活性化させてゆきます。

Sさんの体験

厳父の子供は自律神経失調症に……

長い間役所に勤めて、その後独立して自分で事務所を開いた六十五歳の男性の例を紹介しよう。

彼は外交的な性格であって、役所の仕事・環境があまり性に合わなかったという。しかし、その仕事場でのストレスのはけ口もなく、そのまま家庭へ向けられた。その犠牲になったのが長男と長女で、あまりにも厳しすぎる躰という特殊な形で現れている。

通常こういう場合には、躰も厳しく何事に対しても厳格で、優しさが無い。このような冷たい家庭環境をつくってしまう。

家庭内の家族全員がおびえた状態で声をひそめて生活をし、その上に亭主だけが君臨して威張りくさっているという状態が続く。

こういう家庭では、その子供たちは、必ずといっていいほど自律神経失調症か心の病気になる。

彼（Sさん）の家庭でも息子さんとSさんが自律神経失調症と糖尿病で治療にこられ、息子さんが二年ほど、糖尿病のSさんは二ヶ月通って回復した。

この息子さんの場合には過去十年間、方々の病院、あるいは良いといわれるところに行ったそうである。

回復したその息子さんから、自分の父親が事務所を独立して開いているが糖尿病であり、体がきつくてうまくいっていないようだという相談があった。Sさんの場合もやはりKさんと似ている体格である。

S氏自身重度の糖尿病

ただ背が低く丸っこい顔で、頭髮は禿げあがり、女性ホルモンが多い体質である。この方も両手両足がシビレ、相当に体重が減少し、六〇キログラムあったのが五一キロに減少していた。とくにきついのが、両手のシビレと足のだるさで仕事ができなく字さえも書けないということが続き、苦勞しておられた。

保健所などで尿の糖量を測定するようにいっておいたのでそれをもってこられた。

「息子から聞きましたので、先生のところで治るかどうかと思ひましてお伺いしたんですが……」。

「そうですね、息子さんも相当長いこと通ってこられましたけど、ほとんど首や肩のこりもなく、仕事で職場の事務作業も十分おきに席を立つ強迫神経症も消え時間まで勤務することができるようになったといっておられますよ」。

「そうなんです、あの子には相当困りました。どこへ行っても思わしくなく、自分が稼いだ給料を全部注ぎ込んだようです。勤め始めて一四〜一五年になりますが、ポリーナスから給料など、全部よいといわれるところに注ぎ込んで、私のほうからも持ち出しでいたい一〇〇万円くらい使ったんじゃないでしょうか」。

「まあ、それは大変でしたが治ってよかったです。ところで、何が一番苦しいんでしょうか」。「わたしは法律事務所を開きまして、字を書く事が多いんです。それも役所へ出す仕事の書類ですから、きちっと書かないとうまくないんです。それがどうしても書けない。またお得意先と役所を飛び歩いているんですが、どうしても足がシビレた感じがあって続かない。いまのところ午前中だけで終わってるんです」。

このように、Sさんはわたしの机にもたれかかりながら話をされた。息子さんも同行してきておられる。

その後、Sさんの奥さん（六三歳）も、高血圧の症状からの極度の頭痛で悩んでおられたのが五回で終了した。

「非常に顔の皺が多いんですが、これは痩せられたんですか？」

「そうです。独立する以前から次第に痩せ始め、少しずつ糖が出たんですが、とうとうこんなになってしまって、仕事から年とったみすばらしい顔つきだとうまくないんですが……」。

ということ、体の検査をした。

両手と両足が感覚麻痺、シビレが発生する、また、運動麻痺がある場合には、糖尿病性の神経炎と考えられ、その検査をした。

自覚症状として、シビレがあるとのこと、神経炎の検査は振動覚では特別に左右の差はなく、感覚が鈍っていることが認められた。

片麻痺のテストでは、麻痺はなく、単なる感覚麻痺の段階であった。

高齢でもあり、慎重に治療をしていかねばならない。糖尿は骨も脆くし、また思い

がけないほかの病気が潜んでいることがある。問診票に記入する状態を観察しながら世間話を通していろいろとその人の生活状態、現在の仕事の進ちょく状態を会話の仕方、思考の速度、および抽象思考の方法などを観察しながら脳の働きの診断をしていた。

問診票を書きおえて、ベッドに横になってもらい、交感神経・副交感神経の検査を行った結果、異常な交感神経緊張症状が出ている。

検査が終わり、Sさんに「三〇歳ならだいたい五回くらいの治療で糖が消えると推測をしますが、六五歳の場合には、その三倍かかると思ってください。一四回の治療で完了するでしょう。ただし、これはタイヤのパンク修理とは違ひまして、確実に絶対この回数で治るとはいえないんです。

生きている人様を治療するわけですから、その生活状態の周辺、また家庭環境の状態など、いろいろと複雑なものとありますと、理論どおりにはいかない場合があります。

二ヵ月で回復

しかし、いままでのわたしの糖尿病治療の経験から、推測して一五回くらいで治る

と判断しております。だいたい週一回通ってきて下さい」

と、話した。

「ええ、息子も完全によくなったことだし、先生をご信頼申しあげておりますのでひとつお願いします」。

ということで毎週土曜日、お出でになることになった。そのときの糖は、五〇〇ほど出ていた。

「それでは一カ月おきに近くの医院などで尿の検査をして、その数字を覚えておいて下さい。できればわたしのところにももってきていただいて私も確認をしたいのです。しかし、面倒であれば特別その必要はありません。糖は確実に減っていきますから」。

と、治療を開始した。

最初の三回は手足のシビレが酷いということで三日おきにきていただいた。

四回目の治療のとき「何かに熱中している時シビレは感じなくなり、ホッと一息着いたとき、また仕事が一段落して疲れたなというときに、そのシビレを自覚する程度です」という程度になり、さらに二か月後には（治療は一〇回目程度）ほとんど

体のきつさ・だるさ・シビレはないというところまで回復した。

体重はどうかということで測っていただいた。一キログラム増加していた。そこで糖尿の量を測定するために病院ではかってもらうようにいっておいた。

つぎにこられたときには糖は一五〇と出ていた。この場合だいたい順調なほうである。

そこで特別な体のだるさ無く、仕事が定時までできるといことでリハビリを指導した。全身の基礎体力が低下し、特別に体力の不足を感じなくとも基礎体力が低下すると目に見えない、集中力とかスタミナの持続ができなくなる。

基礎体力がなくても、瞬間的な力は出すことはできるが、長時間になるとだらだらしたり、また長いこと坐って継続的な仕事を行う能力がなくなってくる。

社会生活は、瞬間的なものではなく、長時間拘束され、また一定の仕事をするためには、必要な体力の三倍の余力を必要とする。こうでなければ毎日続けることは出来ない。

そのためにSさんには基礎体力を向上させるリハビリをやっていただいた。

そうして二か月ほどたち、顔の艶も良くなり、目の輝きと背筋がしゃんとなつてわ

たしとお話ができるようになられた。

「もう大丈夫と思いますが、もう少し三週間に一度程度お出でになったほうがいいでしょう。ただし、その期間少しでも症状の悪化がみられればそれは三週間の治療の期間がもたないということですから、すぐお出でになって下さい」。

というお話をし、一段落とした。

その間、奥さんと嫁にいておられる長女がこられた。このSさん一家は、全員がなんらかの病気をもっておられ、そのために家庭のなかが楽しくない状態であったという。

最近は特別に具体的なこともなく円満な生活をしておられるという。

Sさんのしみじみとした述懐では……知らないうちに家族全員が病気になり、それが家族全員のイライラをつくりだし、家の中に争いが絶えなかったんだな……。といておられた。糖尿病そのものは、尿に糖が出るというだけで、特別に問題にすることもないが、それから誘発されるいろいろな症状やまた神経の症状で性格までおかしくなってしまう。

大切なインシュリンの三大作用

このSさんも前述のKさんとも糖尿病の典型的な病形で、ほかの症状はなかった。しかし、Sさんのほうが年齢も20歳年上とあって、老化とともに症状悪化の進行は早かったのである。膵臓は胃の後ろ、背骨の直ぐ手前にある。ちょうどニンジンの形をしており、三角形の先のほうの尾部からホルモンが出てくる。太いほうは、消化液としてちょっとかための肉でさえすぐにも溶かしてしまうような強力な消化液が分泌される。

膵臓の尾部からホルモンを出すランゲルハンス島という名称の小さな細胞の集団がある。ここからインシュリンとグルカゴンが分泌される。

これらが直接血液の中に入っていく、全身を巡って体の細胞が血液の中の糖分をとり込めるように作用をする。

つまり、インシュリンが細胞の入り口のドアを開けて糖分が入っていくやすいように調節するのである。

グルカゴンはインシュリンの働きよりも多少弱い、逆にインシュリンがドアを開けようとするのを多少引き止めてバランスをとろうとする女房役の働きをする。

体には、いろいろな働きをもっている。意識的な、全身の司令室である頭脳、目で見ると聴く、味を感じる舌、皮膚で外界を感じる、生命体を維持する、内臓の働き全身に栄養など送る、心臓、呼吸する、歩く、姿勢を保つ、手の指を動かして仕事をさせる、筋肉に覆われて体を支える骨もある。さらに脳の命令を伝える神経もある。

これらを構成する根本となる全ての細胞の入り口の扉を開けて、エネルギー源である糖分を十分にとり込ませる働きがインシュリンである。

扉が十分に開かなければエネルギー源である糖分は行くところがない。その通路（血液中）に溢れるのである。この溢れた分は、からだの状態を一定に保とうとする働き（生体恒常性）によって、いつまでも通路にいたることができなくなるから、体の外へ追い出されてしまうことになる。

これが尿の中で糖分が混じって体の外にでる現象である。

しかし、糖分が廊下（血液中）に、いっぱい溢れているのに扉が少ししか開かないのでポツポツとしか細胞の中に入っていかなければ、細胞のなかは当然、エネルギーが不足し

膵臓から分泌されるホルモンと働き

インシュリン		グルカゴン
働 き	欠 乏	血液の中の糖分が使われて、少なくなると肝臓で糖分を作り、取り出し、血液中の糖分量を正常に戻す
血液中の糖分を体の細胞にとりこませる	血液中の糖分が細胞へ入ってゆかない。糖と共に体の水分が尿となり出るため、喉が渇き、水分を多く飲む	
糖分を肝臓で脂肪へ作り替る作用を促進する 血中糖分の30~40%を脂肪にする	糖分が脂肪へ合成されない。また血液中の糖分が利用されないためエネルギー源として脂肪を使うので血液中脂肪が多くなり、コレステロールがたまる	
筋肉の糖分をとりこませ、エネルギーとして利用させると共にグリコーゲンの生産を促進させる		
肝臓で蛋白質を作り出す働きを促進する	蛋白質不足の為、筋肉の蛋白質を分解し体力を低下させ病気になり易くなる	
腎臓で糖分が体外へ出ないように尿細管で再吸収力を高める	糖分が尿へ出てくる	

て十分な働きをしなくなる。

すると、体の各部分を動かす細胞の働きが低下し、たとえば脳の場合には思考が鈍り、無意味にイライラしてみたり、考え方がおかしくなったりと判断も鈍ってくる。

とくに神経は糖分のエネルギー源が十分でなければまいってしまう。

だから、脳細胞および脳の命令を伝える神経の細胞は働きが悪くなり、同様に体各部からの感覚を脳へ伝えることもできなくなってくる。

そうすると手足の感覚がおかしくなったり、シビレてくる。

次に、脳の働きそのものが悪くなり、命令を発する事が不可能となってくるので手足が動かなくなってくる。

さらに体の細胞はエネルギー源の糖分が入ってこないためにそれぞれの働きをすることができなくなる、つまり各機能低下が生ずる。

つぎに糖分をエネルギーとして使うことができなければ、皮下脂肪等燃焼させて使うようになってくる。そのため皮下脂肪がなくなってくる。

そうすると全身の体が細って体重が減少をし、さらにその脂肪を燃やすことが不完全だと、細胞同士がお互いを食いあうことになり、細胞を潰して共食いを始める。

こうなると、次第に筋肉も痩せ細って動けなくなり、職場を去らざるを得なくなる。つまり、時間まで仕事ができない、だるい、眠い、口が渇く、いろいろな症状が発生して、本人としてはどうしようもない状態に陥ってしまうのである。

病院では扉を開ける作用をする工場をつくったインシュリンを注射や口から飲ませる。

そうすると、はいどうぞ、いうことで細胞の扉が開く。一時的にそのインシュリンが体の中で増えるので今度はいっ気に扉から細胞の中に糖分が入ってくる。

夫・インシュリンに妻・グルカゴン

しかし、インシュリン注射に頼りすぎると、体の中で継続的に少しずつインシュリンを作り出す能力がなくなってくる。このため薬が切れると体内のインシュリンは減ってくる。

またインシュリンの量が多すぎると扉を開け過ぎて廊下にいる糖分の量が極端に少なくなったりする。そうすると他のところへ糖分がまんべんなく入っていくことができなくなり部分的に変な状態になってくる。

そのもっとも悪い例が低血糖性の脳障害である。

さらにインシュリンは細胞の入り口の扉を開いてブドウ糖というエネルギー源を入りやすくしたり、入りにくくしたりするほかに、廊下から溢れて尿のほうへ出ようとする糖分をこちらへいらっしやいと連れ戻す働きもある。

これはどこで行うかというと、腎臓の中に尿細管部分があり、いったん外へ出ようとする糖分を中へ連れ戻す働きである。さらに細胞の中に入り、外（血液中）から入ってきた糖分を十分に細胞の中に案内をし、その糖分がエネルギーとしてその中へ入り込みグリコーゲンという形に変化をして細胞の中に貯蔵することの手伝いもする。

この3つの大きな働きはインシュリンが十分に体の中にあり、またその量が極端に変化をしないときに作用をする。

つまり細胞の扉を開けてブドウ糖をエネルギー源として細胞内へ導き入れる。更に導き入れた糖分をエネルギー源としてのグリコーゲンとして貯蔵するように働く。腎臓のなかであふれた糖分をもう一度血液中へそして、体の中へ連れ戻すという作用があるのだ。

先ほどのインシュリンに対して、女房役のグルカゴンは血液中の糖分が少なくなると、自律神経のセンサーで感知し、膵臓のアルファ領域から分泌されてくる。

血液によって肝へ行ったグルカゴンは肝細胞のなかでグリコーゲンとして変化貯蔵されている糖分を取り出し、血液の中へ流し込む。

それで少なくなった糖分を補給するのである。

エネルギー源としての脂肪が血中に多くあると、糖分のエネルギー源の利用は抑制される方向にいき、グルカゴン分泌は少なくなる。当然、血中糖が多いと分泌はなくなる。

現代医学では糖尿病の克服は困難



薬物療法は治すのではなく延命手段

現実的でない食事・運動療法

糖尿病の治療をするために、いろいろな方法が試みられています。これはその治療の方法となる一つの理論的な考え方から出発したもので、有効であることには変わりない。

しかし、わたしたち社会生活を営む者にとって、金の生る木を持っている人ならいざしらず、どうしても仕事をしなければ収入を得られない、とくに男性であれば自分と家族を養いながら、病気を治していかなければなりません。

いま、病院などで実行されていることは、全て病気を治すことを大前提とはするものの、社会生活をしながら治療を実行していくという面では多少のちがいがあある。

そのために、なかなか一般人ではその治療を実行しにくいし、それゆえ完全に治りきらずに半病人のまま社会生活から脱落し、職場からも離れて、収入も跡絶え、次第に生活が苦しくなり、家庭崩壊へと進んでいくケースが、あまりに多い。

病院で第一に行われているのが食事療法。

これは、たくさん食べ過ぎて、体の外から入ってくる糖分の量が多すぎるために、糖が体の中で余っている、という考え方から出発する。この方法では、一キログラムあたりの体重に対して三〇キロカロリーを目安とする食事をします。

つまり、三〇キロカロリーで一キログラムとすれば、五〇キログラムの体重の人なら一五〇〇キロカロリー、六〇キロの人は一八〇〇キロカロリーとなる。

人間の基礎代謝は大体二二〇〇〜二五〇〇キロカロリーだ。基礎代謝というのは、じっと横に寝て、考え事も何もせず、ただ生きているだけに必要なエネルギー量である。

普通の軽作業をする場合の必要カロリー量はこれよりも多く、さらに多少とも人並みの作業をする場合や、女性よりも男性では、はるかに高いカロリー量が必要とするのである。

つまり、病院で言いわたされるカロリー制限を守っていたのでは働くことはできません。じっとしているだけ、ということになります。

そのうち糖分を三〇キロカロリーの半分の約一五〜一八キロカロリーをとり、あとの残りを脂肪あるいはタンパク質から摂取するという計算をする。

しかし、一日三回の食事で、いちいち計算をしてこの食事制限を行うことは大変なこと。ど

の食物にどれだけのカロリーが含まれているかを知っておかなければならないし、またその人の体の状態によって、胃腸の消化吸収に差もある。

すると、計算通りにはいかず、大抵途中で挫折する。

また、食することは動物の本能であり、人間の楽しみの一つです。

とくに年配以降になると、若い人ができるような冬のスキー、スケートまたディスコクラブそのほかのいろいろな楽しみが非常に遠くなる。

そうなってくると、唯一の楽しみは旅行と食すること、これに尽きる。旅行はそうざらには時間が許しません。そうなると、食すること、これが唯一の手軽な楽しみということになる。

これを取り上げられると、これは生きている大きな喜びを取りあげられることになり、何のために生きているかわからなくなってくる。ということ、食事療法というのは理論では十分に成り立つけれども、なかなか実際の生活からはほど遠いものになります。

運動療法の理論的根拠は、体の中のエネルギー蓄積量が多すぎることとは、食べるという外から入ってくる糖分が多すぎること理由の一つだが、運動あるいは仕事をして、その体のエネルギーを使わないために発生をするということからきている。

つまり、運動不足で体のなかにエネルギーがたまり過ぎているということになる。

徳川幕府が参勤交替を命令した目的は、各大名が財力をため込んで、それによって武器などを調達し、徳川幕府に刃向かうことを防ぐことにあった。

それと同じように、体の中の蓄積したものを使ってしまいなさいという考え方だ。毎日毎日運動をしなさい。決まった時間に運動をしなさいということだ。

これは一日に二〇〇キロカロリー消費するというのがだいたいの目的になっている。一日二〇〇という数字の意味は、食事療法の考え方からして相当な運動をしなければならぬ。

たとえば駆け足をする、テニスをする、これを時間単位で計算してみるとカロリーが消費されてゆく。

しかし、わたしたちは前にも述べたように日常生活のなかで仕事をしながら生きているし、家事労働やりながら生活している。

そのなかで、毎日一定の運動量を継続してやるということは、なかなか困難なこと。ほとんどの人が通勤する場合に、自分の家から職場までだいたい一時間から長距離で二時間はついやしているでしょう。

そうすると、八時半に会社にはいるためには、六時に起きなければならない。そして寝るのはだいたい九時か十時。

この人たちに運動を毎日二時間あるいは三時間と義務づけることはとうていむずかしく、理論的には必要とわかっていても、実際にはできない。

ここに、運動療法の欠点がある。だから、何か薬はないか、と短絡的に求めることになるわけだ。

インシュリン療法で大きな代償

その薬とはインシュリン療法である。

これは、体のなかの膵臓のホルモンが不足している、つまりインシュリンホルモンが不足しているために発生するものである。

このインシュリンが不足しているのなら、それを外からつくって注射してやればいいじゃないか、ということがこのインシュリン療法。

とくに運動療法や食事療法がなかなかむずかしい場合には簡単な方法を行っています。工場でつくったインシュリン成分は、体の中で自然につくられて増加しているインシュリンと

ほとんど同じである。

しかし、人間の体というのは生体恒常性によって、死ぬまで体の成分の割合をほとんど一定に保つようにできている。これは自己治療力でもある。

インシュリンの量が増えた。また体の中で糖分が外から入ってきて、それに刺激されてインシュリンが分泌される。そうすると単純にインシュリンだけが分泌されたということだけではなく、インシュリンが増えたためにいろいろ体に歪みが出てくるのだ。

この歪みを修正するために、ほかのホルモンあるいは血圧その他が自動的に調和しあって、そのほかのインシュリン以外のホルモンもわずかに増加したり、あるいは減少したりする機構になっている。

これは自律神経で自動的にコントロールされ、体に異常な状態を起こさないようにできているわけです。

この微妙な調節は徐々にしかできない。しかし、薬を投与すると、当然、急激に反応できず諸々の障害を生じるわけです。

注射、あるいは経口投与（飲むこと）になれば、いきなり大量のインシュリンが入ってきて、ほかの自動調節機能が間に合わない。そのため、いろいろ、障害が発生することになる。

またインシュリンというホルモンは、体の中でつくっている分にはいいのですが、とくにホルモンの働きにはネガティブフィードバックの形式が多い。

一部ポジティブフィードバックがある。

ネガティブフィードバックは、ホルモンの量が増えると、体の中で自動的にそれを出さないようにする調節機能。

出過ぎると体の障害が出るから、インシュリンの血液中の濃度を察知して、神経でそれをコントロールし、あるいはホルモンの別の機構によってインシュリンの出る量を抑制する。

そういう自動調節回路があるが、この自動調節回路に非常に強い刺激を与えると、いわゆるこのインシュリン体制の機構が壊れる。

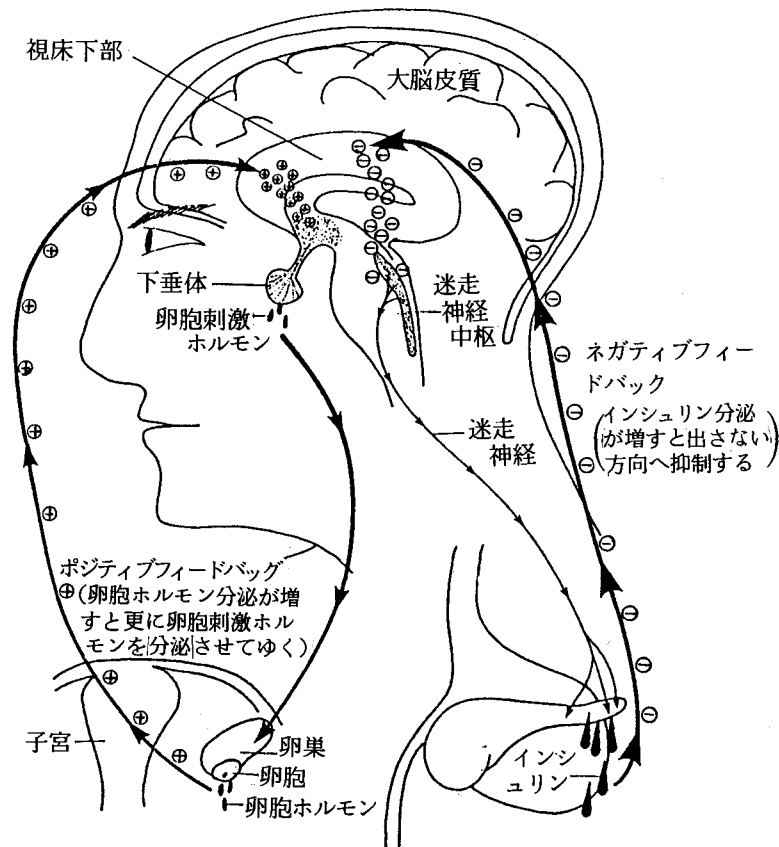
こう考えてくると、いきなり大量のインシュリンを飲んだり、注射したりすることは膵臓でつくるホルモンの働きに比べて、非常に多くの問題を引き起こすことがわかってくるだろう。

つまり、次第に膵臓で本来つくり出す働きは低下してくる。

膵臓のおもな働きはインシュリンを分泌することだ。そうすると血液中の糖分が細胞のなかへ入り込み、血糖値が低くなる。

すると血糖値が低くなったという信号と、インシュリンの量が増えたという信号が、自律神

ネガティブフィードバック と ホジティブフィードバック



経回路の中枢を通じてインシュリンを分泌するランゲルハンス島の細胞に行く。

信号が行くことは、インシュリンの分泌量を少なくする方向に働きます。注射あるいは経口投与で大量に外からインシュリンを与え続けて病気だけを治そうと努力している場合には、このフィードバック、ネガティブフィードバックで常に抑制する方向に働く。

そうすると膵臓の働きは常に抑制され、膵臓はホルモンがあるから出さなくていいという判断をして、しだいに萎縮し、またホルモンを分泌する能力を低下させる。そうして、その状態が固定してしまう。

本来、インシュリンを投与する前は、正常なランゲルハンス島の性能があったにもかかわらず、常に外からインシュリンを投与され続けると、そのためにインシュリンを分泌しなくなる。これが非常に怖いのである。

人間の体は本来すばらしいバランスでなり立っている。

だからインシュリン療法は部分的、短期的には効果があるかもしれないが、そのように全体的、長期的にみた場合、体の中で調節を図っていくとする全体の能力まで失わせてしまう。

これは根本的に治すということからはほど遠く、逆に病状を進行させてしまう結果になる。尿から糖が出ることは少なくなっても、こうした対症療法にとらわれて、根治療法の道を断っ

ことになってしまうのです。

では、永久にインシュリンを投与し続けなければならないか、と反論する人もなかにはいるだろう。しかし、それではほかの分泌機構との調節機能が働かなくなる。インシュリンだけを投与し続けていて根本的に治った人がいるのなら、Mさんの近所の内科のお医者さんのように他界することはない。

命長らえるだけのイ療法

それは、人工心臓の移植がなかなかむずかしいのと同じ原理がある。人工心臓は、自律神経の微妙なコントロールによって働くということではない。

単純なペースメーカーによって、一日中同じリズムで働くわけです。一分間に七〇と設定すればその通り働き続ける。

しかし、わたしたちの心臓もまことに正確で微妙にできている。瞬間的に速く働いたりまたその瞬間的なことがちょっと持続したり、継続的に強く動いたりする。

ビックリしたときドキドキする。あるいは思わず何かにつまづいて床に手をついたとき、起き上がるときには普通に歩いているときよりも脈搏がわずかに速くなる。

このように人間が意識的に心臓を動かそうとしなくても、自律神経は自動的に微妙な体の状態に対して、心臓や呼吸、あるいは筋肉の緊張、血圧などを総合的に自動調節して、正確に対応させている。

ところが、人工心臓は自律神経で行うような微妙な働きができなくて、いつでも同じリズムを打ち続ける。

するとどうなるか。

ちょっと寒い風が当たったとき、体の末端の毛細血管は急に収縮したりする。

すると、ある意味で心臓は強く拍動し、その全身の状態を良くして、冷えた部分の細胞の活動を速く回復させるように働きます。

そうやって、冷やされた部分はなんの障害もなく、一時的に氷をつかんだような冷たい状態で放っておけば、当然冷え過ぎてその細胞が凍死するような状態にあっても、心臓が強く拍動することで体の中の熱の産出量は大幅にそして急速に向上するために、すぐに体の中心部分からの温度が伝わって、細胞が死滅しやすくなるのを防ぐ。

このように親から貰った心臓は総合的に微妙なコントロールをするが、人工心臓ではそれができない。

たとえば、今でも東南アジアの農作業で行っているが、牛や馬にすきを引かせて畑を耕したとする。そのすきが順調に土を耕していくときはいいけれど、大きな石があったり、ちょっと何かに引っかかれば、瞬間的にすきの順調な動きが止まる。

つまり、瞬間的な障害があると、牛や馬は引っ張っている力を瞬間的にグッと大きく出す。これは無意識でやっている。人間の心臓の場合、これが自律神経の働きによって無意識に力が出されて、この障害を多少のことなら乗り切ってしまうという能力がある。

しかし、今の農機具つまり耕運機、あるいはトラクターなどでそれを行った場合、石などにちょっと当たれば同じように負荷がグッとかかる、そうするとエンジンはポトンと止まる。あるいはトントントンとエンジンの回転が落ちる。

ここが自律神経で働いている動物と機械で作用している道具の違いです。

このように人工心臓が人間の体に上手に埋め込まれたとしても、永久に生命体を維持し、調和のとれた存在として、順調に血液が流れていくということは不可能である。

ただ、現在の自律神経の働きを精緻なコンピュータに置き換えて動かすならば、かなりの高

度な働きをするだろうけれど、それでもまだ人間のもつダイナミックで調和ある働きを再現することはむずかしい。

人間の体は個々の組織や機能がそれぞれ独立しながらも、互いに影響し合い、補足しながら調和のとれた働きを維持していく。

インシュリンを分泌する膵臓およびランゲルハンス島も同じように、体のなかの糖分量、および血液のなかの糖分量、細胞のなかの糖分量、また細胞外液のなかの糖分量を総合的にチェックして、ほかのホルモンと相互に連携をとり合い、インシュリンの体に対する副作用、また正しい作用を総合調節して体の機構を保っている。

これでおわかりのように、純粹にインシュリンだけを投与すれば糖尿病が根本的に治せるという理論は正しいとはいえない。

しかし、今の薬物療法ではこれ以外の方法は見当たりにくい。

それで、ひとつの治療法として、放っておけば死んでいく人を、「インシュリン療法によって命を長らせる」という表現が適切である。

糖尿病という病気は治っていくのではなく、軽いものは治るかもしれないが、常に病状が進行する糖尿病のある程度に進んだ状態はこの内科のお医者さんと同じような結果になってしまう

う。それがほとんどのケースなのです。

インシュリン療法の最大の欠点は、インシュリン体制つまりインシュリンが体の中にあるから、自分でインシュリンをつくり出す必要がないと自律神経が判断をして、永久にインシュリンをつくる能力を放棄させてしまうことである。

人間の体はうまくできており、必要なものはどんどん進化していきます。しかし必要でないものはさらに縮小し、ついに消失していつてしまう。

この例は『親しらず』が生えてきたり、こなかったりすることにみられる。人間の噛むという習慣が少なくなると、進化の途中であり、歯が少なくなったり、逆に噛む習慣が十分ある人には親しらずが立派に生えてくる。

また筋肉も、ボディビルのように筋肉を鍛えていくと、生まれたときの状態は皆同じでも、ボディビルで鍛練をしている人は筋肉隆々と筋肉はたくましくなる。

しかし、運動をサボったり寝たきりになると、このボディビルをした人でも筋肉は痩せ細っていく。

つまり、外界の環境に順応し、適応する。これは、人間のからだの外からは見えないが、内臓レベルまた神経細胞の働きとして常に生じている。

だからネガティブフィードバック回路にインシュリンが外から投与されると、不必要になった臓器、つまりインシュリンを産出する必要のない臓器は退化して消えていくことになる。これが生体の自然現象であり、植物でも同じ。

四〇歳以上の頭脳労働者は要注意！

糖尿病の病状をもう少し詳しくみよう。糖尿病が発生しやすい体質をもつ人は全人口の約一パーセントといわれている。

しかし、四〇歳になると、五〜八パーセントに跳ねあがる。

つまり、四〇歳以上になると、それまでの五倍から八倍も発生をしやすくなるということ。それから、肉体労働者よりも頭脳労働者に多い。頭脳労働者に多いということは、今後日本が成熟社会となり、社会基盤が整備されて、昔のように、あくせく働く必要がなくなってくるだろう。そのうえ、機械設備が導入され肉体的労働、つまり筋肉労働というものはすべて機械に置換えることも、すでに現実のものとなってきている。

建築現場をみても昔はスコップ、あるいはショベルを使って大勢の人が働いていた。ビルを建てるときでも鋼材を担ぎ上げ、あるいはセメント、生コンを一輪車に積み換えて持っていた。

しかし、現在のビル建築現場には何人があるだろうか。

実際、手作業でやっている人はとび職さん、この鋼材を最初に組み立てる人、これは全部手

作業になります。

しかし、生コンの輸送はポンプ車。穴を掘ることはパワーショベル、穴の後を埋めるのはグレーザー、土を固めるのは全部、ロードローラーでやっている。

手作業で残る作業といえば、ダンプから洩れ落ちた土を竹ぼうきで掃く作業、あるいは自動車が突っ込んでこないように赤い懐中電灯を振って自動車を誘導する作業、これだけ。

機械を動かす作業は全部建築現場の頭脳担当者である。この職場一つをとってみても肉体労働者というのは極端に少なくなってきた。

つまり、いまや糖尿病はわが日本では今後ますます増加するといえよう。事務所のなかでもコンピューター操作、また発電所や町中の工場でもコンピューターが管理をし、担当者はその画面をみてスイッチを押すだけの作業をしている。

また軍隊においても歩く、走る練習はするが車使用、コンピューター操作による鉄砲の打ち方またロケットの発射は全部レーダーでコントロールしている。

糖尿病が発生すると、どうゆう症状が出るか。これはまず、たくさん水を飲むようになる。そして腎臓の働きが悪くなり、たくさん尿を出すようになる。

たくさんのおしっこをする、またおしっこに異様な臭いがするようになる。一日に何回でも

おしっこにいく、こういう現象になったら要注意だ。

また食事もたくさんとるようになる。

つまりエネルギーが効率よく燃焼しないために、たくさん食べるようになる。

また体の血液のなかの糖分が多いということは、血流の比重が高いといえる。

水分は濃度が低いほうから高いほうへと移動する。

よって、体の中の水分は血液の中へどんどん送りこまれていく。血液中の水分が多くなるから、尿として多く出てくる。

たくさん食べるわりには体の中のエネルギーの消費効率が低いために、肥満となってブクブクと肥っていく。

これが、脂肪肥りといわれるもの。筋肉がたくさんつき、締っている肥り方ではない。

さらに筋肉が減り脂肪がある程度増加してくると体重が減ってくる。

さらにひどくなると、脂肪も燃料として使うのでどんどん体重が減ってくる。そのうえ、体の中の燃焼効率が悪いために、非常に疲れやすくなる。

朝九時から仕事をして、二時あるいは三時ごろ、もう仕事ができなくなったりする。朝、起きたときからけだるく、なんとなく脱力感があって、やる気が出ない。

糖尿病の症状

- 立っておれなく、すぐしゃがみこむ。
- みにくいほど、ブクブク肥ってくる。
- 口が渇く（水、ジュースをガブ飲みする）
- すぐ疲れ、体がきつい、また根気が続かない。
- 尿（多い、泡立つ、水様の尿色、甘い独特の尿臭がある）
- 皮膚のおできが治りにくい。体が、かゆい。
- 腔炎やおりものが多い。口内炎や膀胱炎になる。
- 動脈硬化から脳出血になりやすい。
- ある時突然足が腐ってくる。（壊疽）
- 空気が入って来ないように息苦しい。
- 失神気味、時として意識を失うことがある。
- 次第に目がかすみ、見えなくなる（網膜症、成人失明の70%は糖尿病）。
- 手足がしびれたり、痛む（神経痛、神経炎）。
- イライラして人の話をよく聞かない。
- いつも気嫌が悪い。
- 朝起きづらい（貧血）。
- 顔がむくむ時がある（腎炎、腎症）。
- 生理不順、妊娠しにくい。
- いつも頭が重く、時として痛い。
- あかぎれ、ひびわれができ易い。
- インポテンツや持続力困難、性欲が生じない。
- 自律神経失調症になり易く、手足の冷え、寒がり、便秘など生じる。
- 無感動、無表情となり、感情が不安定。

糖尿病は性欲さえも奪う

また頭皮のできものなどが化膿しやすく、あるいは切り傷、吹き出物などもかなり出てくる
これが非常に治りにくいわけだ。

神経系統にも大きく作用する。

つまり、人間の生殖器系のメカニズムは、自律神経の働きによって副交感神経が興奮してくると女性の性欲や男性の性欲も旺盛になって、男性なら勃起する、また女性は幸せを感じるけれど、糖尿病になるとそういう状態がなくなる。

女性の正しい生理（月経）のリズムも異常になってくる。

眼球は神経の細胞そのものだ。また脳の一部が飛び出たものが眼球でもある。ですから脳は神経の固まりそのもので、脳の働きが悪くなり、視力が低下してかすんでくる。

さらに脳から身体部分へ走っている神経の筋、これが炎症を起こして病気になる。

運動しにくくなり、手足がシビレたり手足が麻痺したりする。

深部反射でだれでも知っている足の膝の上をポンと叩くと足がピョンと上がる。そういう人間のからだ、動物の体に回っている反射機構が崩れてくる。足がピョンとあがらなくなっていく

るのだ。

将来的にはどうなるかという点、ほかの病気が発生して、年齢がいくとともに死亡の確率が高くなっていく。

まず**血管障害**、とくに脳卒中、あるいは血管が詰まる状態になる。それから肺炎になりやすい状態になり、敗血症になって、血が腐っていく。とくに発生しやすいのは**糖尿病性の網膜症**である。

全糖尿病の患者さんのうち、大体二五―三五パーセントくらいがこの糖尿病性の網膜症を生じ、約三分の一の人の目が見えなくなる。

網膜の働きはエネルギー源として糖分を多く利用する。

しかし、糖分が細胞の中に入ってくる量が少ないためにそのエネルギー源は供給されない。それゆえ、見る細胞が崩れてくる。また、くっつけられている細胞が剥れてきたりする。

そうすると、網膜が剥れたり、網膜の感度が低くなったり、網膜そのものの細胞が崩れたりする。

それで血管のつぶつぶが出てきたり、あるいは毛細血管から出血して、網膜の上に血が滲んできたりして失明してゆく。

つぎに糖尿病性の白内障、これは“しろぞこひ”ともいわれて、年齢が高くなるにしたがつて老人性の白内障の傾向が強まり、ほとんどの人に白内障による眼球障害が発生する。

合併症で命取りに

クル病、脱水症をひき起こす

糖尿になるといろいろな体の中に変化が発生をします。

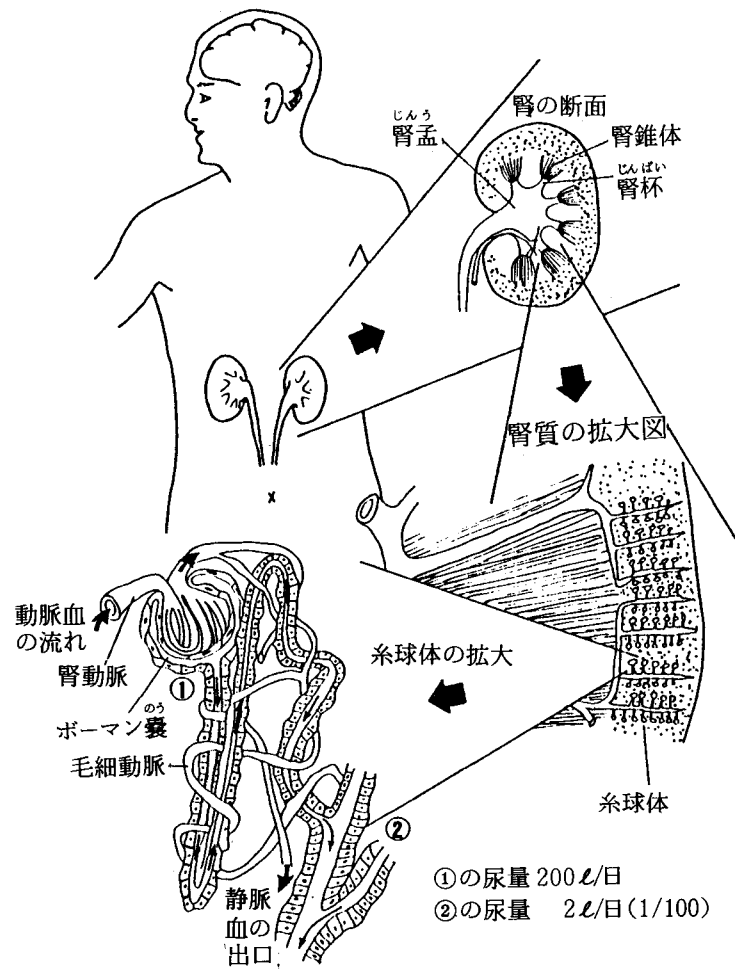
血液の中の糖分が多すぎることは、つまり生体恒常性からいって異常である。そして腎臓の働きがおかしくなる。

血液の中の糖分が多すぎると、腎臓の働きがおかしくなるということは、血液から尿を濾過して取り出す部分、つまり毛細血管が大量に存在する糸球体と尿細管の部分が障害をおこす。

糸球体で血液中のたくさんの成分、いわゆる赤血球あるいは白血球などの固まり以外の液体成分には、糖分であるとか蛋白質、脂肪、それからビタミン、鉄分などいろいろなものが血液の成分として含まれています。

これをすべて血液の成分から分離して、つまり極端な話、赤血球の成分と液体成分を分離して尿細管という次につながる所へ送り込まれる。

腎臓のしくみ



つぎに、尿細管はその液体成分の中のいろいろな物質を再び吸収する。

つまり、糸球体でいったん全部尿として出してしまい、尿をつくった後、尿細管で必要な部分を再吸収している。

その必要部分の再吸収とは自律神経がコントロールする各種のホルモンによって、その度合いや吸収する物質などが決定される。

そうして約一日、この血液から濾過される量は約一五〇リッター。

つまりドラム管に2分の1から、3分の2の量です。

しかし、ホルモンの働きによって水分また塩分、蛋白質などが尿細管から再吸収されるために、実際にはその一〇〇分の一、つまり九九パーセントが再吸収され、残りの一〇〇分の一が尿として出てくる。

尿が出るのは、このような仕組みになっている。しかし、濾過し、再吸収するこの一番大切な部分で、毛細血管の膜に障害が発生したらどうなるだろうか。

そうすると、リン酸塩また有機酸塩が、濾過されることが少なくなって重炭酸塩がたくさん体の外へ出てゆく。

そうすると、体の中でアシドーシスという状態になり、体全体が酸性化方向になってしまう。

表 8 - 1 尿固形成分の組成

成 分	全尿中に含まれる量 (g)	成 分	全尿中に含まれる量 (g)
総 固 形 成 分	50~70	Ca	0.1~0.3
尿 素	25~35	Mg	0.1~0.2
尿 酸	0.6~1	ア ン モ ニ ア	0.5~1.0
ク レ ア チ ニ ン	1.1~1.6	総 硫 酸 (無水硫酸として)	2.0~3.4
ア ミ ノ 酸	0.2~0.4	無 機 硫 酸 (無水硫酸として)	1.7~2.7
フ ェ ノ ール 類	0.1~0.2	エ ー テ ル 硫 酸 (無水硫酸として)	0.15~0.3
ブ リ ン 体	0.01~0.06	中 性 硫 黄 (無水硫酸として)	0.2~0.4
Cl (NaCl として)	10~15	磷 酸 (無水磷酸として)	2.5~3.5
K	1.5~2.5		

人間の体は中性を保っている。酸性でもなければアルカリ性でもない。しかし、アシドーシスになると、いろいろな障害が出てくる。

その第一は脳の働きが異常となります。

吐気や、呼吸中枢異常から呼吸がおかしくなって一分間に一五回〜一六回と正常に行うこともなく、呼吸がしばらくと絶えたり、しばらくして大きな深呼吸をする。(クスマウエル大呼吸)

またいろいろ気持ち悪くなる。こういう状態が起きてきます。

次に、重炭酸塩の吸収が障害されて、体の中で重炭酸塩が少なくなる。

また、水素イオンが外へ出ていく状態、つまり濾過することが障害されて体の中に溜まって、詳しいことは省略するが、いろいろな症状が発生する。

まず簡単な例から、食欲がなくなります、またやる気がなくなって、無気力になる。筋肉の働きが正常でなくなり、筋力が低下する。

その結果、手足が麻痺してくる。一番筋肉の力を必要とする運動は歩くことです。これができなくなる。この歩行障害が発生してくる。そのうえ体を常に支え、姿勢を保つことができない。

また、酸性に傾くと、カルシウムが骨に吸収されなくなって、クル病が発生して、骨が軟かかってくる。

さらにカルシウムが骨につかないということはその分、血液中のカルシウム濃度が高くなる。あるいは極端に血液から出ていく状態になってしまうと、腎臓の中に石灰として沈着する。腎結石、あるいは尿路結石、それから水の再吸収の力が尿管で無くなると、大量に体の中の水が外へ出ていくことになる。

そうすると、真夏の暑いところで水を飲まずに居るような状態になり、体の中の水分が足りなくなると、たくさん水を飲むようになる。

たくさん水を飲み、たくさん尿が出る。これが尿崩症という名称の病気。

当然、水分が再吸収されることなく、体の外へどんどん出ていく。それが脱水症という状態。

一般では脱水症は生まれて間もない赤ん坊に発生しやすい。

たくさん着物を着せ過ぎる、また子供が泣きわめいていても、それをなにか機嫌が悪いんだろくらいにしか思わないで、親が理由がわからないで脱水症状になってグッタリする。

そんなときは、麦茶とか、ミルクなどを飲ませることです。分落ちつく。

この脱水症もいろいろな原因がある。成人で、主なものは糖尿病が発生したときに生ずる脱水症で、これは体の中の水そのものがなくなったことによる。

そのときは口が渇き体がだるくなる。糖尿病の人は常にだるい。

また口が渇くので、いつも水やジュースをガブ飲みする。

つぎに脱水症が発生するのは真夏とか、それから暑いところで作業して、たくさん汗をかいたりすると、いわゆるナトリウムイオンといわれる塩分中に含まれている成分が体の外へ出ていく。

最初、ナトリウムイオンが正常濃度のうちは体の中の水分は不足しているのにもかかわらず喉の渇きをあまり訴えない。ナトリウムが水を保持して体の中に取り入れて持っているからだ。

しかし汗と共にナトリウムイオンが体外へ出て無くなると、水を保持することができなくなって、体の水分が喪失してしまうことになる。

この脱水症には糖尿病の場合「水欠乏性の脱水症」といい、暑さの中の運動とか、激しい労働をしたときに水分が体に足りなくなる場合を「ナトリウム喪失性の脱水症」と、区別をしている。

心臓病、脳内出血で人生の終えん

また高脂血症という体の中に脂肪分がたくさん溜まり過ぎる病気が発生する。

つまり、脂肪分はホルモンの働きによって、血液に運ばれて体の細胞にとり込まれ、エネルギーとして燃焼をする。

しかし、その燃焼速度が低下し、血液中の脂肪量が多すぎるようになる。

つまり、糖分も多すぎるし、脂肪分も多すぎるというわけだ。

そうすると、皮下脂肪あるいは大腸の周囲、腹部の内部には相当、この脂肪分が溜まってしまい、そのあと脂肪分の行くところがなくなる。

そうすると心臓の周り、また肝臓のなか、動脈の壁、こういう場所にこびりつく。これがだれでもよく知っている動脈硬化症の始まり。

動脈硬化症そのものは特別な病気とはいえませんが、これがひき起こす二次的なものが怖い。たとえば、腎臓の血管が詰ってしまう。

すると、腎臓が機能しなくなり、腎不全や、人工透析などをしなければ生きられなくなってしまふ。

つぎに死亡率が非常に高いのが脳出血、脳血栓症。これらの病状になると生命を失うことがほとんどで、よしんば死ななくても半身麻痺で寝たきりの状態で人生が終わってしまう。

さらに心臓の環状動脈が詰まると、心不全。詰まりかけていると狭心症で、これらの心臓発作で死亡していく。

このように脂肪分を体のなかにうまく運び込ませて、燃焼させることができなくなるとコレステロールが体にたまり、非常に血液中の濃度が高くなり、高血圧を引き起こして、その結果が動脈硬化症になる。それらをさかのぼってたルーツは高脂血症であります。

痛風と結石の真犯人

糖尿からくる病気の一つに、痛風という病気がある。

これは体の中にある有害な物質である尿酸の濃度が、体の中で非常に高くなった場合に発生する。この尿酸は、正常の人の体内には一デシリットルあたり二―四ないし五ミリグラムある。しかし、この値が七―一〇ミリグラムも高くなることもある。

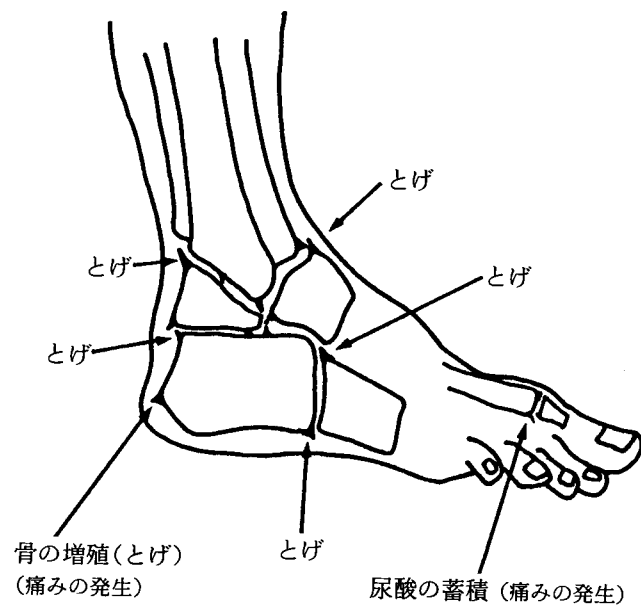
このままでは、特別なことはないけれど、高い尿酸の血中濃度が四年ないし五年も続くと、関節の周りにこの尿酸が結晶となり蓄積してくる。

尿酸は、トゲトゲ状のかたまりとなる。すると、あるとき突然その関節がものすごい痛みを発生し、歩けなくなるほどだ。一番多く発生する部位は、足の親指の付け根、つまり、力が一番加わる箇所。

わたしたちが歩くときには、だいたい内股に力を加えている。足の親指以外の指にはあまり力が加わっていない。

そのために、足の親指の付け根、あるいは親指の周囲の関節が非常に酷使されるため、どうしても血液の循環、関節液の循環が悪くなり、また大きく力が加わるので、そこに尿酸がたまり

足の骨の変型増殖



やすい。

これが痛風という病気である。

痛風は高尿酸血症から発生をみるものです。高尿酸血症になると、さらに別の病いも発生する。関節の周囲に尿酸がたまると、関節が変形してきたり、またグリグリをつくってきたりする。

すると、とくに足の関節などでは、歩くことが困難になる。びっこをひいて歩いたり、多少ひきずり加減になったり、よく捻挫をしたりする。また階段を上がるときに次の階段に爪先をつまづく、このようなことが多く発生をしてくる。

関節の硬い骨の表面が、軟骨、つまり軟らかい骨でつままれており、この軟らかい骨がクッションの役目、あるいは滑りをよくして関節の動きを円滑にしている。

この軟骨の部分に尿酸が蓄積したり、あるいは骨の成分であるカルシウムの成分が尿酸と置き換えられてトゲが発生してくる。すると、関節の形がくずれてくる。

つぎに関節にいろいろ音がしたり、関節の奥のほうがなんとなくシクシクと痛くなったり、また関節の曲げる範囲が狭くなったりする。

これらを痛風結石の発生、あるいは関節の崩れが発生してきたという。

さらに、尿酸はほかの部分にもいろいろな悪さをする。尿酸は腎臓で排泄されるが、腎臓の中の毛細血管がたくさんある糸球体の周辺、あるいは腎杯、尿を集めてくる所などにたくさん尿酸の固まりが発生すると、その周囲にカルシウムやいろいろな物質がとり巻く。

ちょうど、真珠の核の周りに光沢が取り巻いて美しい真珠の輝きをつくり出すように、どんどん取り巻いてきて腎臓結石（腎結石）を発生させる。

このように、高尿酸血症は、関節の周りに痛みを発生させ、関節を形づくっているものを崩してしまい、また体の中のいろいろな部分でつくったりする犯人となる。

神経とホルモン

体のエネルギー源は、まず糖分が燃焼して体のエネルギーが供給される。

つぎに血液の中に溶け込んでいる脂肪分の燃焼が、糖分のエネルギーから逐次切り替わってゆき、円滑にエネルギーの供給がなされて、継続的に人間の体が動いている。

当然、血液の中の糖分は、使われると減っていく。その減った分は、肝臓や筋肉に蓄積されているグリコーゲンをグルコースという成分に変換させて血液中に流れ込ませ、その糖分を一定にしていく。

この血液中の糖分を一定にするために、ある種のホルモンがグリコーゲンを溶かしてくる働きを行っています。

このホルモンは、副腎髄質から放出されるアドレナリンであり、膵臓の細胞から放出されるグルカゴンである。

膵臓はインシュリンと、グルカゴンの両方のホルモンを分泌している。

まず人間が急に走り出したとき、あるいは食事をした後には、体の中の血液は一部筋肉のほうに偏ったり、あるいは内臓のほうに偏ってたりしている。

つまり、そのとき体の中でたくさん働かなくてはならない部分に血液を大量に供給し、そこを重点的に働かせるようにする。

まず運動したときのことを考えよう。急に走り出したとき、筋肉中のエネルギーは筋肉内に含まれている糖分を燃焼してエネルギーとします。

しかし、それは三〇秒か一分間しか続かない。この段階はまだ空気中から取り入れた酸素を必要としない燃焼の仕方。

しかし、それでは効率が悪いので、つぎに酸素を取り入れた燃焼に切り替わる。最後に筋肉細胞の中に持っているエネルギー源を使い果たしてしまうと、つぎに、血液より供給される。

副腎アドレナリン作用

忙しい時、寒い時、受験勉強時、小言を言われる時など多量に分泌され「火事場の馬鹿力」が瞬間的に出る。また、昼間でも労働作業直後急速に体を回復させてゆく。

作 用	目 的
皮膚の平滑筋の収縮→毛髪が立つ、体毛が立つ（鳥肌）	体を保護する
眼の瞳孔が散大し沢山光が入るようになる	外の物がよりはっきり見えるようになる
腹部血管や皮膚血管の平滑筋収縮→恐怖による蒼白状態	
心臓の血管(冠状血管)や骨格筋血管の拡張、即ち緊急時に必要とされる器官へ血液の供給が増大する	スポーツ選手など特に発達
心拍数や心拍出量の増加	体を働かせる準備状態を整えるため、栄養、酸素を大量に供給する
細気管支壁の平滑筋の弛緩→空気が肺胞内へ多量に供給される	体が大量、瞬時に必要とする酸素を取り込む準備
消化管運動の抑制	体を動かす時には、必要でない臓器への血液供給を断ち、必要部位へ多く廻す
膀胱壁の抑制（弛緩）	体の活動の結果生じる大量の老廃物を貯える準備
尿管と膀胱括約筋の収縮	活動時尿が漏れないようにする
筋および肝グリコーゲンの移動化→血糖上昇、代謝の促進	活動時必要なエネルギー源となる糖分の濃度を上昇させ、いつでも供給できる態勢にしておく
骨格筋が収縮する際有効な効果を与える	疲労しにくくする
血液凝固能力の増強	活動中に傷ついて、出血することを想定し、早く止血できるように準備

そうすると細胞の中、あるいは血液の中の糖分が少なくなったことを自律神経のセンサーが測定して、自動的に副腎からアドレナリン、膵臓からグルカゴンを大量に分泌させる。

そのホルモンは肝臓に作用して、肝臓の中に含まれているグリコーゲンを分解して糖分にすることを促進させる。

その結果、グリコーゲンが分解し、血液の中にグルコースとして放出され少なくなった血中の糖分を迅速に正常濃度にする。そうやって全身をめぐり、筋肉の足りなくなった細胞に供給する仕組みになっている。

このように、血液の中の血糖値は常に一定の値で正常範囲の状態を維持することになる。

しかし、自律神経失調症が発生して慢性的な自律神経失調症状があると、このセンサーで測定することがうまくできなくなる。

センサーからホルモンを分泌するように、自律神経の中枢である視床および視床下部に信号がいったとしても、ここで正しく判断をすることができない、つまり、調子を失っている。

当然、副腎髄質や膵臓にホルモンを分泌せよという命令を出すことができなくなってくる。

たとえばできたとしても命令を出す力は弱い。そうするとアドレナリンやグルカゴンの分泌量が不足する。不足すると肝臓から瞬時に糖分が飛び出すことができない。

つまり、肝臓よりのグリコース分泌は不足することになる。

筋肉の細胞はどんどんエネルギーを使っているのに、たとえばこの状態は、軍隊でいう後方支援部隊が食糧を持ってこず、兵力も尽きはてて、壊滅をまつのみといった状態になる。細胞が力尽きるのは時間の問題というわけだ。

運動をするということは、全身の筋肉をバランスよく動かし、また筋肉を緊張させて全ての動作を円滑に行うということ。

たとえば、走る動作は目で地表の状態を観察し、大きな石・小さな石、窪みがある、平坦である、登り坂、下り坂、右へ曲がる自動車がくる、人を避けて行く、これらを自分の六感（目、耳、鼻、口、膚、意識）で受けとめ、行動するということ。

全てを脳で瞬間に察知し、足のほうに信号を伝え、右へ曲がるのか左へ曲がるのか、足首の関節の動き、左右のバランスを調節して走らせている。これは脳をかなり使っていること。

とくに、スキーというスポーツは、脳の細胞を最大限に訓練使用して滑っている。駆け足も同じことがいえる。

このように脳は運動しているときだけでなく、意識するしなやかかわらず、寝ている間でもさえ活動している。

脳の栄養としてグルコース、つまり糖分以外は利用されることはない。もし、これが不足すると脳の機能が障害または、停止される。脳は自身の細胞の中に最大五分、通常は三分くらい動くだけのグルコースと酸素しか蓄えていない。

つまり、体内のグルコース不足ですぐに影響を受けるのが先ず脳の働きである。

低血糖から、不安が発生したり、けいれんを起したり、体の筋肉がピクピク震えたり、あるいは最終的には意識がなくなったりする。

このことは不足して三分ないし四分くらいなら急速に低下する血糖値を点滴などで補ってやればいいが、これが五分あるいは六分以上になると脳に障害が残る。

具体的にいうと脳細胞が死んでしまう。小さな子供では知能障害、また大人になると人格の変化あるいは全身の麻痺を誘発させたりする。

炭鉱爆発や火災で煙にまかれた人たちが、手当てさえすれば、そのまま順調に回復するかどうか、そうではない。

一酸化炭素によって酸素の供給を断たれた脳が、ある部分死滅してしまっている。

その結果、精神障害あるいは全身が円滑に動かないなど、全身麻痺が発生して、後遺症に悩まされてしまう。

低 血 糖 状 態

自律神経失調があると、体の状況に応じて副腎のアドレナリンや、膵臓のグルカゴン分泌が速に行われなため、慢性的低血糖状態となり、性格が偏り変人となる。

食後1～2時間経つと症状が出ることもある。

- ・落ちつきがない。
- ・精神的不安定が著しく、泣き、わめき、怒り、気にいらないとくってかかる。
- ・少々筋道をたてて考えることになると頭が混乱してくる。
- ・人が言ってることを十分に速かに理解できず、同じことを何度も聞き返す。
- ・性格的に先ず「いや」と否定し反抗的である。
- ・理由なく不安がる。
- ・何となくそわそわしており一定場所に止まらない。
- ・皮膚は浅白い。
- ・目をカッと見開いている。
- ・にこやかな表情でなく、固い表情、笑顔が続かない。
- ・よく理解しないうちに早とちりの返事をする。
- ・注意が集中せず、キョロキョロしている。
- ・大声を出して喋り、うるさがれる。

糖尿病は膵臓から分泌されるインシュリンの量が少なくなるといふことと、このような自律神経失調症があると、体から糖分が分解して血中に放出されないという二重の障害に陥ってしまう。

自律神経失調症になると、まず膵臓が働かなくなる。だからインシュリンの分泌が少なくなる。

インシュリンは、血液の中の糖分を体の細胞の中へ入れてあげるためのゲートを開く役割をもっている。

インシュリンがゲートを開いて、中に糖分を入れてやり、細胞がエネルギー源として活動を開始すると、血液中の糖分は減少する。

それを供給するために、今度は次にインシュリンの分泌が少し低下し、今度はグルカゴンあるいは髄質のアドレナリン分泌されるように自律神経が作用する。

そうして血液の中の糖分を増加させる。増加した糖分がつきつぎにまた、インシュリンの働きによって細胞の中へ入っていく。

このように体の中の倉庫に蓄えている糖分を出しては使い、出してきたは使うという運搬作業やいろいろなお手伝いをするのが、ホルモンである。インシュリン、グルカゴン、アドレナ

リンなのです。

このバランスが十分にとれて行われるときに、わたしたちの体は、いつどのような状況におかれても、瞬間に対応し、脳をあるいは、体の筋肉を動かして自分の身を護ったり仕事をすることができるのです。

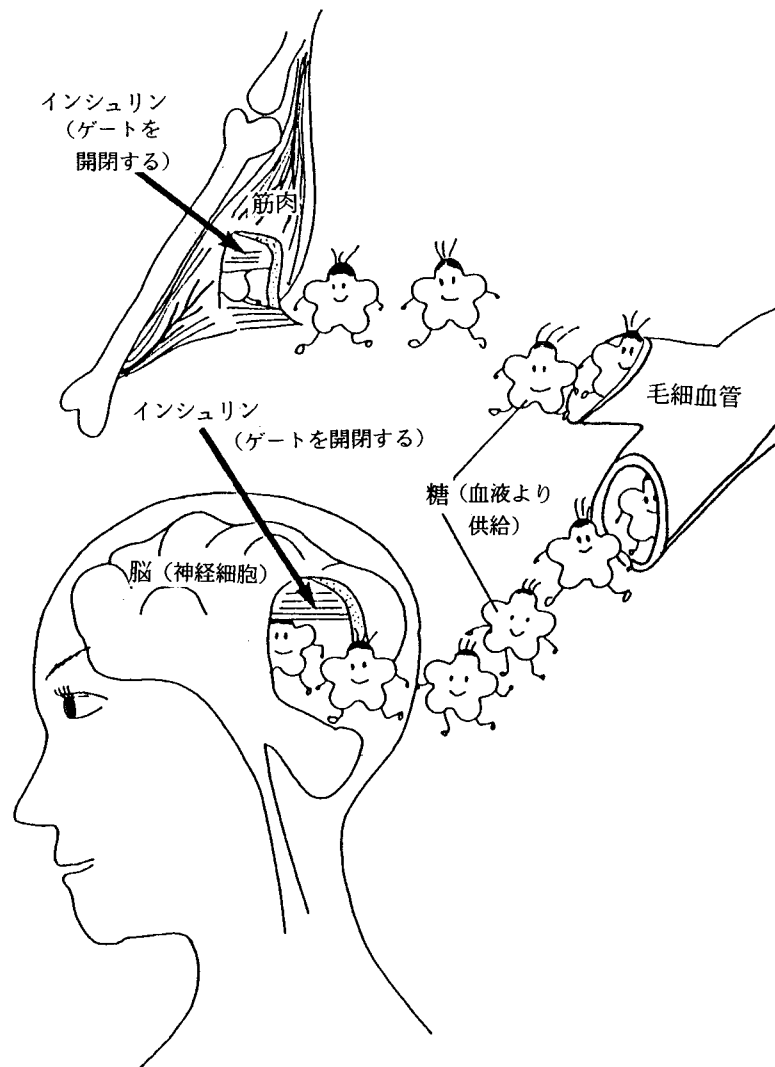
一時的低血糖症状になる病気には、胃癌などで体の一部を切除したときに発生しやすいダンピング症候群や低血糖症候群というのがある。

食事をした後、体の中の血液はほとんど胃および腸に集まり、脳や筋肉の他の臓器にはあまりいかないようになっている。

また急速な運動後、自律神経の作用により血糖量を増すことができないため生じる。

これは自律神経の作用である。これが極度になると、脳細胞のほうへの血液が少なくなったり、糖分不足が生じ、いろいろな症状を発生させる。心臓がドキドキする、あるいは脈が早くなる。体が熱くなったり、冷や汗が出たり、足が震えてみたり、あるいは全身から汗が出てきたりする。さらに不安が発生し、意識を喪失したりします。

インシュリンの働き



やっかいなカンジダ症にとりつかれると……

カンジダ症はカビの一種であり、健康な人の体の中には、どこにでもくっついていて一つの病原体。人間の体のなか、および表面、体の中から出る物質中にはこの真菌類であるカンジダ菌が含まれている。唾液、汗、涙、尿、糞便、これらのすべてに含まれており、また体の表面にもくっついていてる。

通常の場合、人間の体にこのカンジダ菌はなんら害がない。

しかし、自律神経がうまく働かなくなり免疫機構が低下することによって、このカンジダ菌が増殖したりする。

また糖尿病など長期間にわたる感染症でない病気であっても、体の中で繁殖したりする。さらには健康な人でも風邪をひいたり、あるいは一時的に過労になったり、また睡眠不足や仕事のしすぎなどで体力を低下させると、発生してくる。

皮膚に着いているカンジダ菌はその環境によっても発生をし、とくに水仕事をする人、子供で、足を洗った後よく指の間を拭かないでいると、これが発生をしていくことがある。

親指と人指し指の間、あるいは中指と薬指の間など指の股が裂けて、その裂けた周囲が白く

なり、あたかも水でふやけて皮膚が切れたようになる。

これが指の間に発生しているカンジダでビランの状態。また水仕事を多くする人は、手の指の間に割れてきたり、また裂けないまでも水ぶくれのようなものが発生してくる。

糖尿病の場合にはこれから記述する全てが発生しやすい。

夏などの暑いとき、また汗をかきやすい環境にいるときなど、とくに体の各部分で皮膚が擦り合うところは、カンジダ菌が増殖しやすい。まず多いのが肛門および陰部の周囲で、歩くときに摩擦する。女性の場合は陰部と肛門の中間部分に多い。肥った人では腋の下、それから女性の乳房の下、こういう部分が赤くなってただれたり、あるいは化膿したりする。

乾燥している状態になると、フケのようなものがこけ落ちたりして柔らかくなってくる。特に女性、あるいは肥満した男性なら健康な人でもみられる。

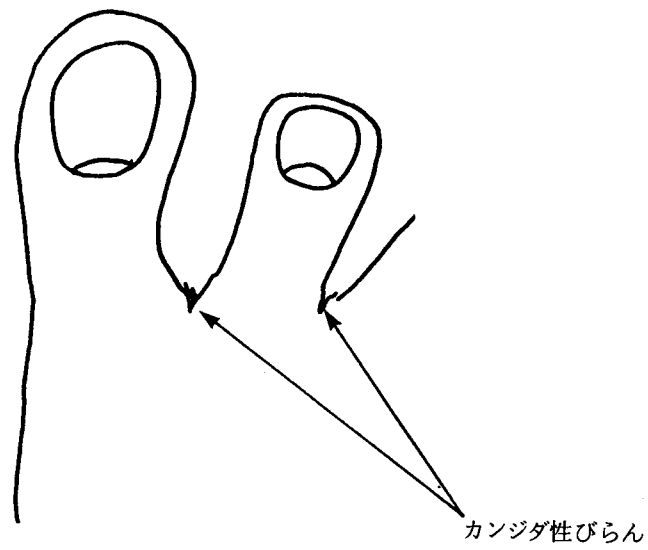
女性では外陰部、膣のカンジダ症と合併して、膣の内部から外陰部にかけて全般にびらんや紅斑などがみられる。

健康な人のこの治療法は、極めて簡単な方法がある。

特別に薬をつけなくとも、真夏でも大体三日から一週間で完全に治ってしまう。

次に男性の場合は陰囊の皮膚に発生することがある。これは赤くなり、かゆくなる。いんきん、

足のカンジダ症



たむし、などと間違いやすいのですが、あまり極度のかゆみがないのが特徴で、夏に多い。

爪に発生する場合もある。それは爪の下がウミをもってくるものだが、爪が白くなってくるのは別。なんの理由もなく爪の中が化膿してくる。これはばい菌がはいったり、あるいは、とげがささったりというふうに考えがちですが、カンジダであることが多い。

またイボのような状態で皮膚がもりあがってくることもある。これは頭の皮膚や顔の表面、生えぎわにイボ状（本当のイボは皮膚が普通の状態でもりあがってくるが）のカサカサしたカリフラワーのような感じで出てくる。

それから案外多いのが口内炎といわれる口の中にできてくるカンジダ症だ。歯茎、頬の内側、舌、そういうところに白く、丸く、また、赤い状態で水疱のように発生する。これがカンジダで、口内炎の一種でもある。

また、胃が悪いときに、昔から口の角が切れるという表現がある。これもいわゆる口角がただれ、ビランを呈したもので、とくにビタミンB₂が欠乏したとき、それから胃が悪い、食べ過ぎた、このような胃腸障害のとき、入れ歯が合わない、このような状態の場合には高い率で発生する。

とくにカンジダと自分で意識しなくても体の表面、粘膜、粘膜と皮膚の間に水疱や多少のた

だれが出てくる。

女性では栄養状態を悪くしたり、月経のときの手当てが不十分で、不潔な状態が続いたり、そのときにもカンジタが発生していると考えてよろしい。

健康な人でも、体力が低下したときには、数多く発生をみるが、当然、糖尿病体質の人は年中、体のどこかに多彩な病気が発生して、いわゆる皮膚病と思い込んでいる場合が多い。

また糖尿になると、体の表面、つまり皮膚の中の糖分含有率が高くなり、ちょうどこの菌が繁殖しやすい状態となる。

皮膚の表面は、乾燥して少し酸性を保っている。しかし、糖尿の人は体の表面がいつも汗ばく、水分が多くなり、その汗や血液の中に糖分が多いために皮膚の表面近くに糖分が多く存在することになる。

この水分と糖分がちょうどカンジダ菌その他の培養基となり、多くの皮膚病を発生させるが、それがなかなか治らない。

健康な人はすぐに治ってしまうが、糖尿病の患者はなかなか治らない。そのうえまたすぐ化膿しやすい。

ちょっとした切り傷でも通常の場合ではかさぶたができて、すぐ修復してしまうが、糖分が

あるために菌が付着して繁殖がさかんになり、さらに自律神経失調症が慢性的にあるから相乗効果で免疫力が低下してくる。

この両面から化膿菌が爆発的に増加をして、いつも傷口がうんでくるようになる。

感染症にかかりやすい体質に

糖尿病になると、またいろいろなバクテリア、あるいは真菌類、このような病原体の攻撃を受けやすく、いわゆる侵襲されやすくなる。

これを感染症に感染しやすい体質と表現している。

感染症の一つに、わたしたちが日常かかっている感冒、つまり風邪がある。

風邪は一般にだれでも、いつでも引いているわけで、夏でも冬でも同じように風邪をひいている。とくに、冬は空気が乾燥し、また気温が低いために上気道、鼻、喉、気管、などの部分に刺激を受けやすく、咳や痰が多く発生する。

夏場も冬と同じように風邪をひいているが、気温が高く、湿度も適当なために炎症を起こした上気道が刺激を受けることもあまり本人としては苦しい症状がなくて、風邪におかされても、

比較的生活は平穩である。

冬場だけが風邪をひくように思っている人が多いが、夏も冬も一年中同じようにわたしたちは風邪をひいている。

風邪のバクテリア、つまり風邪のような症状には、喉が痛く、少し熱が出て、だるく、またその菌毒素のために脳の働きが悪くなり、ボーっとする、頭がさえない。また菌毒素による頭痛、菌そのものによる下痢、菌の種類によっては関節痛、筋肉痛、また肩凝り、涙眼、このようにいろいろな正常とはちょっと異なった体調になってしまう。これが軽い感染症です。

重い感染症とは法定伝染病や届出伝染病で、軽い感染症には、わたしたちは常にかかっており一週間か一〇日で自分の自己回復力、自然治癒力によって治ってしまう。

これは感染をしてバクテリアが体の中で増殖しはじめると、自律神経の働きで自動的に白血球が増殖して数が増え、また菌を食べる力が強まる。

そしてその菌から出てくる毒素に対してリンパ球などから抗体という物質がつくりだされ、その抗体によって菌の毒素から体を守る働きが強くなってくる。

一定期間を過ぎると、体の中の増殖した菌が死滅して数が減少してしまう。すると、症状が峠をすぎて軽くなり、治ったという感じになる。

しかし、自律神経失調症があると、白血球の増加は順調にいかない。

すると、いわゆる体のなかのいろいろな部分が菌でおかされ、腐ってくる。つまり、血液が腐るのが敗血症、肺の部分が腐ったり、炎症を起こすのが肺炎である。

有名な俳優の長谷川一夫さんが亡くなったのは脳膿瘍だ。彼はこの感染症による、感染の菌によって脳の細胞が腐ったために死亡した。

自律神経失調症があると、このように感染症が発生してもそれを食い止めることはできなくなるのだ。

「よくわかる心の病気と自律神経失調症」の著書で紹介したN君について述べたい。

あるとき、突然、右の足首のところから化膿しだした。しかし化膿したということを彼は自分ではわかっていなかった。

プクッとふくれあがって、そこが非常に痛く、ものすごい熱が発生したという。それで風邪だろうと思ったが、その膨れ上がったところが何であるかわからないうちに、二三日放置しておいた。

すると、非常に具合が悪くなって、ついには家族の人が病院へ連れていった。お医者さんの診断は溶連菌感染で、もう少しで敗血症になるところだった。

すぐ、入院をして抗生物質をどんどん注射した。

それで、約二週間ほど入院したがやっと感染の進行を食い止め、治したという。

病院では、当然検査をし、白血球数も検査したが、正常の数よりもわずかに増えただけで、五〇〇〇とか六〇〇〇であったという。それで、お医者も首をかしげておられたそうだ。

このことは自律神経失調があると、白血球を増加させる力が少なくなること示している。そのために菌が蔓延して体で食い止めることができなくなり、いまは抗生物質という菌を殺す薬があるので落命することは少ないが、それが無い時代では、大体人生の終わりと相場が決まっていた。

このように感染症は日常、わたしたちの住んでいるところにも存在しているバクテリア、やウイルス、リケッチャ類が体の中で、あるとき突然増殖し、わたしたちの体を病気にしてしまう。

このような状態で糖尿病になると、体の中全体の糖分量が非常に多いため、バクテリアを増殖させやすい状態になっている。体温が三六度〜三十七度はバクテリアの増殖に最も良い温度だ。

正常では皮膚の表面、体の細胞の外側の液体に糖分はほとんど無い。

しかし、糖尿病になると、ここに糖が充満して、ちょうどバクテリアに栄養を与える材料として非常に都合がよくなる。

また皮膚の表面は弱酸性で、毛穴や、切り傷、皮膚の裂け目からバクテリアが入らないようにしている。

また、皮膚表面ではバクテリアの増殖を防止しているが、糖尿では皮膚表面に糖分が非常に多くなり、それが空気中の湿度を吸収してしっとりと湿ってくる。

水と温度、それに栄養と、三拍子そろえば皮膚の表面でバクテリアが増殖しないほうが不思議だ。

その結果、いろいろな感染症に格段にかかりやすくなって、バクテリアが増加するのを防ぐことができなくなる。

まず、酷くなっているのは尿路感染症である。

尿路感染症とは、体の中で新陳代謝をした結果、出た燃えカスでこれを体の外へ出さねばならない。食べたカスはウンコとして体の外へ出す。

しかし、栄養分を燃やしてエネルギーとした残りのカスは肺から炭酸ガスとして、またそれ以外は腎臓で血液から濾過して、尿として体の外へ出す。

体の外へ有害物質を出す部分が尿路である。尿に長い間、持続的にバクテリア細菌が混ざった尿が出てくる。

それから膀胱炎。

また、女性では妊娠をすると、発生をする尿路感染症が非常に多くなる。この程度であれば案外簡単であるが、つぎにほとんどの人がかかっていく腎炎と並行していく。

つまり上気道感染症、風邪のような症状を発生させるばい菌が唾液や痰つばを飲み込むときに消化管を通じて体の中に入り込み、血液に運ばれて腎臓へと行く化膿性の溶連菌というバクテリアがかなり多い。

そうすると、風邪に似た症状が発生してくる。頭が重い、食べたくない、体がだるい、腰が痛いという症状がそれだ。

つぎにおしっこに血が混じってくる。つまり血尿。これも真っ赤というのではなく、黄色の色が褐色になり、赤に近くなってくる。

もっともよくわかるのが睨だ。これが腫れてくる。

こうなると、もう急性腎炎である。また、尿が少なくなり、ついには尿が出なくなったりする。尿の蛋白が正常ではりなのが、非常に多くなる。この急性腎炎でも普通は薬で回復をして

腎臓が悪い時の症状

軽 い 時 (本人も気づきにくい)	食べたくない、吐気がする、吐く、 口が渇く、下痢気味が治らない、体 がなんとなくだるい、下まぶたがふ くらむ(朝)、物事に関心が無くなる、 頭痛、仕事にあきやすい、考えるこ とが面倒になる、体重が徐々に減っ てくる、貧血気味、ねむくて頭がス ッキリしない、時々尿が少く出ない 時がある
重 症	眠れない(夢を見る)、体がだるく疲 れている、頭が重くボーッとして表 情に乏しい、めまい、頭痛、口の中 が渇きやける感じがある、舌やのど が乾いてヒリヒリする、舌にコケが 生じる、ひどい口臭、尿比重は低い (1.02 以下) PSP テスト不良

いく。

しかし、糖尿病患者が急性腎炎になると、なかなか回復しない。そうすると、つぎには慢性腎炎となっていく。

慢性とは一年や、二年以上尿から蛋白質が出続け、じわじわと侵されていく。こうなるとまず高血圧になる。

高血圧になるとどうゆうことになるか。

心不全、脳出血、あるいは高血圧からくる頭痛、頭重、めまい、こうゆうものが続いて出てくるのだ。

それから慢性腎炎が酷くなると、息が苦しくなる。脈拍が増えてきたり、いろいろと具合の悪いことが多く発生をし、ついには腎臓の働きがゼロになり、体の毒素が体の外へ出なくなってしまう、そのため人工透析といって、機械を体の血管に取りつけて、四日か三日に一ぺん、全身の血液を抜き取り機械で洗い流さねばならなくなる。それに要する時間は5時間も6時間もかかるから、日常生活や社会生活に大変な影響を与えることになる。

また糖尿の人がなりやすい感染症には、胆道炎や胆のう炎がある。

胆道とは肝臓でつくった胆汁を運び出すパイプで、この胆道を通じて胆のうへ、一時的に胆汁を蓄えておき、脂肪を消化する消化液として使われる。

この胆のうが一時期、いわゆる胆汁を蓄え、濃縮しておくための循環をあまりしていないことがある。そのため、胆汁の中に含まれているバクテリアが増殖し、胆道の壁を侵してその流れを悪くしたし、またその溜める袋である胆のう本体を侵襲する。

これらのバクテリアは体の中にもいつもある大腸菌や、連鎖球菌などから出る。そうすると、ほとんどの人が、胆石症になっていく。

右の上のおなかが痛い。また、いつも微熱が出ている。下痢をしやすい。こういうことになっていく。

胆のう炎も、胆石症も教科書では、激痛が発生し、また非常に苦しい状態が出て、立って歩くことができないくらい、きついものだということになっている。それで、これを念頭において病院などでは診察をして、そういう症状が起こればレントゲンで確認をしたりする。

しかし、非常に小さいもの、米粒大、あるいは大豆粒大の石ではあまりその症状は発生しにくい。なんとなく熱っぽい、まただるい、きつい、朝起きづらい。このように自律神経失調症に似たような症状を呈する。二年、三年と、本当の病名もわからず悶々と苦しんでしまう患者

が多い。

ウイルス性肝炎で命とり

この胆のうへの胆汁をつくりだす肝臓も当然、バクテリアやウイルスに侵される。それが非常に恐いのがウイルス性肝炎だ。

俳優の石原裕次郎さんが亡くなった原因は肝臓癌と発表されたけれど、それは、その前にかかっていた慢性肝炎や、肝硬変が肝臓癌へ進行したものだ。

その肝硬変になる原因は、ウイルス性肝炎、つまり肝臓の細胞がウイルスに侵されて炎症を起し、その肝臓の細胞の周辺、また本体が壊されて肝臓の働きをしなくなり、ついには、死んでいくわけだ。

その細胞が死滅したところに繊維が代替されて、硬くなっていき肝臓全体を締め付けていくようになる。

肝炎が生じると、当然胆道炎にもなる。肝臓の細胞一個一個からとり出して胆汁を運び出す

毛細胆道が炎症を起し、ふさがってきたりする。

そうすると、肝細胞でつくられた胆汁が肝細胞の外へ出なくなり、血液の中へ漏れ出るようになる。

その結果、体に具合が悪いことが生じ、黄疸といって体が黄色くなってきたりする。

ウイルス性肝炎は感染症であり、伝染病の一種です。しかし、急速に命を落とすということがないため、法定伝染病ほど患者を隔離したり、近づかないようにする必要はないが、血液、唾液、糞便、あるいは患者から出る汗、この中にはウイルスが多くふくまれている。

よってウイルス性肝炎の患者の家族は、その人が使うハブラシ、寝具、下着類なども一緒に使わないようにしなければならない。

ウイルス性肝炎は、口からはいるもの。経口伝染病であり、輸血によっても発生する。

基本的には、手をよく洗って、その患者の使ったものには触れず、よく煮沸消毒などをして行けばかなり予防する事ができる。

多くの日本人は、このウイルスをもっているでも発生をしていない人が多い。

これは、自分の体の中に入ってきたり、体の中に持っけていても、それを押えこんでいく力がある場合には発生しない。この保持者をキャリアーという。菌を運搬している人という意味。

日本では二百万から三百万がこのウィルスのキャリアーとされているが、実はほとんどの人が病気を発生していない。80%から90%は発生をみていないといわれる。

しかし、糖尿病など免疫力を低下させる病気にかかっていると、必ずといってよいほど発病してくる。

この肝臓の病気は、すぐに死につながらなくとも、確実に死への旅を歩んでいるといっても過言ではない。

それで、私は肝臓についての研究を行い、これを治す方法を長い間考えてきた。肝臓を治す治療法は近い将来出版する予定である。

癒導術（自律神経活性化療法）の 原理と実際

自律神経と糖尿病の関係

一般的な病気とは

一般に病気とは、身体臓器が病原体（菌）に侵されて生じる機能障害で、その結果、痛み、苦しみ、発熱、だるい、きついと各症状が現われて、仕事や家事、勉強などもできなくなる。

身体臓器とは、胃・腸・肺・心臓・腎臓・肝臓・脾臓・膀胱・子宮・骨・筋肉・目・耳・鼻・皮膚・血液など一般的にも数えあげることができる。

これらの臓器に障害が生じ悪くなった状態を病気と呼んでいる。

だが、脳・延髄・脊髄について広がっている神経組織は、臓器の一種であるとの認識がない。これは大きな誤りで、脳も臓器であることをまず認識しなければ「癒導術」はわからない。

脳には、大きく分けて二種類の働きがある。

第一は、金魚、亀、パンダ、猫等にみられるような——動物的本能のまま——に行動し、生命を保っている……大脳の自律神経系統（間脳、延髄、脊髄）がおこなうオートメーション機

能。

第二は、間脳の表面が増殖し、ヒトの進化とともに形成された「皮質」部分である。

この部分は、金魚、亀、パンダ、猫などにもほんの僅かに認められ、生命に密接な関係のある「記憶」、「判断」、人間では会話、創造、忠誠、義務、あわれみ、喜び、悲しみなどを司る。

蛙は産まれた河川を記憶しており、猫や犬は飼主を覚えていて寄ってくる。

われわれ人間も動物の一種類であることを想い直していただきたい。

そうすれば当然、魚や亀などと同じように、本能行動をつかさどって生命を維持している自律神経系統のオートメーション機能(間脳、延髄、脊髄)をもっていること、さらに間脳表面が増殖し「皮質」ができあがっていることも理解できるだろう。

人間の赤ちゃんも、一歳くらいまでは食べ、飲み、ウンコ、オシッコをたれ流していて、まだ言葉もなく、空腹になると泣き、満腹になると眠る。まったくパンダや猫などと同じことをしているわけである。

この一歳くらいまでが完全に自律神経系統(間脳、延髄、脊髄)のみで生きていて、皮質が働いてくるとしだいに笑ったり、意志表示ができるようになってくる。

この——しだいに——という期間に間脳表面に増殖した「皮質」が働き始めたことになる。

働き始める——脳の回路が組み立てられていく——脳細胞が逐次成熟していく——ことである。

人間らしさ——皮質がいろいろな社会的ルールを覚え（学校へ行き、家庭の躰で）、そのとおりに行動し、本能行動を必要に応じて自分で規制していく。反対に、本能的に動きたくない、やりたくないことなど、周囲の状況に合わせていく——この皮質の働きが「心」「性格」部分である。

「皮質」は、訓練されたり、見習うことによって、喜び、悲しみ、愛する、憎む、衰れむなどの感情——心の働き——が芽生え、増幅されていくのである。

前にも述べたが、病気とは臓器の障害から機能を充分に発揮できない状態のことである。

外見からもうかがえるほどに損壊された状態、外見的には何の変化もなく電気的機能低下、他の物質（薬物、アルコール、菌毒素など）が侵入して阻害されている場合、細胞の自己活動の結果生じた物質の停滞で阻害されている状態、これらの異常な状態では、機能を十分に発揮することはできない。

自律神経活性化療法(癒導術)の原理

病気の治療法には各種ある。次にあげてみよう。

薬物療法——わが国では神様の療法のように信奉され、薬を飲んで治らなければ死ぬしかないと思われ、当面の苦しみを消す。

食事療法——食べる物をコントロールすることによって治そうとする。なぜなら、体は食べた物の堆積物であるから、基礎、である材料を調整することで何とかしようとする

作業療法、合宿療法——現実の生活の煩わしさから離れて、身体を休めることで体力を回復させ、また、幼児期の単純生活に戻って、人間生活の在り方をやり直そうとする。

整体・カイロプラクティック(整体の英訳)療法——身体は毎日活動しており、何かのほずみで骨に歪みが生じることがある。病気の根源となっている歪みを調整することで治そうとする。

灸、ハリ、電気療法、温泉、温・冷治療法——身体は熱さや痛みは何らかの反応を示すので、故意に熱さ、痛み、電気等の刺激を与え、良い方か、悪い方か、どちらかに転換する。良い方へ転換することを期待しようとする。

理学療法、光線療法——光線や音響に、目、耳、皮膚が反応し、身体が反応を起こす。身体内に何らかの物質が多量に合成される紫外線のようなエネルギーを与える。

指圧マッサージ療法——身体を柔らかくすることは、気分がよくなる、とくに人間の指先で揉みほぐされることは気持ちがい、身体の筋肉内、皮膚内の老廃物を早く体外へ排出させるように、積極的に働きかけようとする。

絶食、断食療法——空腹状態は身体に刺激となる。飢餓刺激は臓器の変化、ホルモン系の変化、精神的我慢の鍛練となる、身体の変化による好転を期待する。

吸血、吸角療法——一時的に身体患部の血行を機械的に良くして、病氣回復を期待する。

手術療法——悪化している部分を切削して、何らかの別の機能で代償させる。

宗教、神仏への祈願——病いは気から、の言葉もある通り、すべての病氣はその人の気持の持ち方であるものである。だから邪念を払うことで、病氣を治そうとする思想。

心霊、占い、神仏祈願——すべての生き物には、魂や霊というある種の目や耳、味など一般の人々にはわからない物体が宿っており、死ぬのは靈魂が脱けだしたからで、その脱けだした靈魂が空中に浮遊していて、人間にとり憑いて病氣を起こさせる。特殊な能力をもつ人物が靈魂を払い除くと、病氣が治るのだという思想。

自律訓練、心理療法、催眠療法、自己(内)観察(反省)療法——人間の行動は、意識的な顕在面と無意識下の潜在意識から成り立っているとして、意識は無意識の土台がしっかりして正常に作用するもので、この無意識部分を強化させようとする。

以上が世間一般に行われ個々の名称がついているが、大別すると右にあげたようになる。

自律神経活性化療法は、理学的薬物療法である

紫外線を身体に照射すると、ビタミンDが体内につくられる方法と類似していて、身体の神経へ外部から理学的力を加えることによって、体内に薬物的、ホルモンの物質を積極的に産出させる。

産出された薬物物質の長期効果(一週間以内)と、神経刺激による自律神経自体の活性化で、電撃的效果を身体臓器(消化器、心臓、脳など)に即効させるものである。

薬物療法は、工場で合成、生産された薬物を、注射、飲服用、粘膜から吸収させて体内濃度を高めて維持させ、目的とする臓器に作用させて治していくものである。

漢方薬も同様ではあるが、化学薬品のように工場で合成、生産されたものではなくて、自然植物の含有成分を用いた薬物療法である。

自律神経活性化療法は、外部から与える薬物のように人工的なものではなくて副作用はほとんどない。

身体内で自身の機能によってつくられるために、身体自らがコントロールするのである。

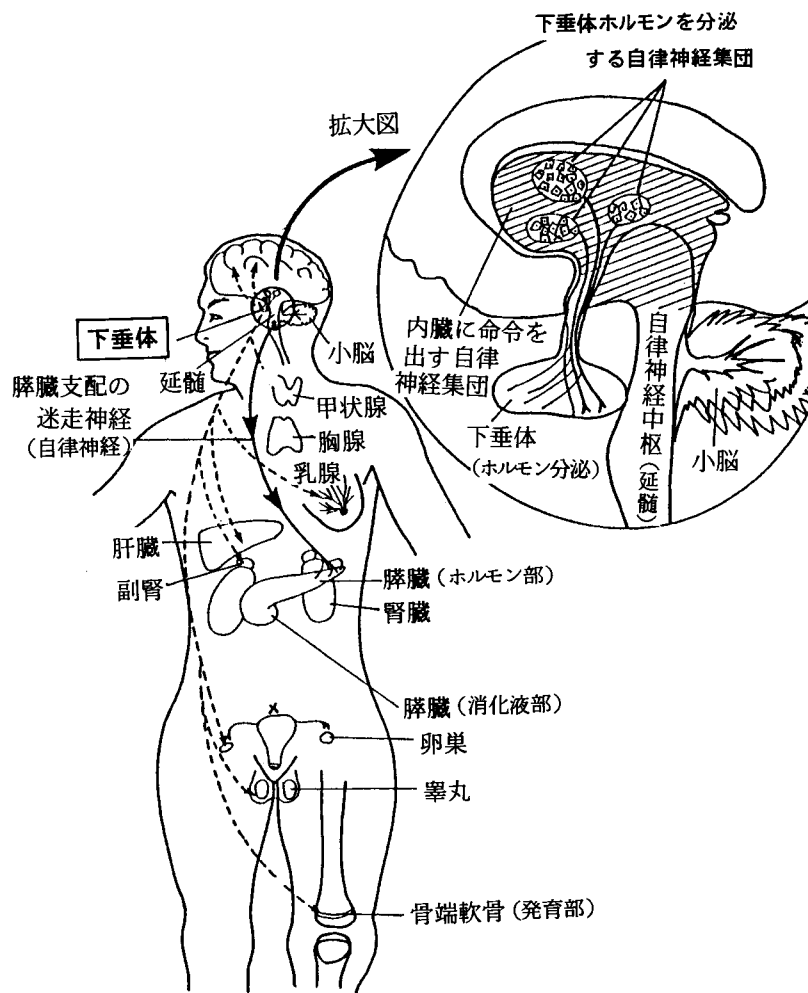
心臓以外のすべての臓器は、中央司令室である自律神経のエネルギーが動かしている。

われわれの日常生活でも同様であり、テレビ、電話、冷蔵庫、電燈などがすべて、それ自体で動いているものではない——発電所からのエネルギーが動かしているのである。

心臓のように独自に働くものは恰かも自動車に似ているようであるが、自動車でも司令者である運転者がコントロールして目的地に着くように、心臓も自律神経の心臓中枢が動きをコントロールしているのである。

自律神経を活性化することによって、食・性・排・睡・人生観など、すべてが好転してくるのである。

自律神経のホルモン産生と臓器支配



自律神経活性療法こそ唯一無二の方法である

「自律神経失調症」は、原因となるはつきりとした理由がわかりにくいものである。身体の表面的な変化、一般的にも病院の検査等でも何一つ確認できない。

しかし、本人が努力すれば、数分間でも好転させることができるなどの理由から、これまでも本当のことがわかっていない人がいないのだ。（本人の努力不足と周囲は責め、自分は悩む）これは治療する側にも、治療を受ける側にもあてはまることだ。

「臓臓の機能障害」から生じているということは、医療関係者は認識している。この症状を抑えるにはよい薬がある。

飲んでいる間は症状はでない。しかし飲み続けている間は病気は治っていないのである。

そして長期間、飲み続けていけば、他の日常面では正常なのだから食事の一部か嗜好品くらいに考えて続けていけばよいという考え方も成り立つであろう。

われわれの脳は約一・四キログラムの重さで、身体的全筋肉三〇キログラムに比べると四・六パーセントの比率となる（体重六〇キログラムの場合）。

心臓から拍出される全血液量のうち、脳には一四パーセント、全筋肉には一五パーセントが

流出している。

一・四キログラムの脳と、三〇キログラムの全筋肉に、ほぼ同じ量の血液が流れ込んでいることは、驚くばかりである。

つぎに、酸素の使用量をみても、脳一八パーセント、全筋肉二〇パーセントである。

僅か一・四キログラムの脳が、三〇キログラムの全筋肉とほぼ同じくらいの酸素量を使用し、そのために同量の血液が流れ込む必要があるのだ。(平常時)

この血液は、頸部を通る細い二系統の血管によってなされている。

酸素の供給を中断されると、大脳(皮質、自律神経中枢)は、約八分間しか生きておられない。

手・足などは、数時間は生き続けているものだ。

こうした多量の酸素を必要とすることは、大量のエネルギー源を必要として活動しているためである。

脳のエネルギー源は糖質のみで、他の臓器が必要とする脂肪質、蛋白質は利用しない。

微妙な血液量の減少は、酸素と糖質エネルギー源の減少に繋がり、たちまち脳機能の障害を生じさせることになる。

自律神経失調性糖尿病の原因には、脳への血液量の減少が深くかかわっている。

この他には、交通事故、落下、脳内出血などによる脳細胞の直接的破壊によるものがある。

この大切な血液は、毛細血管を通して最終的には、直径が赤血球一個が通る程度にまで細くなった部分を二秒間に一ミリくらいの速度で送られている。

心臓から噴出され、頸部の血管を巡って循環し、再び心臓へと還流するのだが、少しでも心臓の噴出する力が弱まったり、頸部の血管が圧迫されると、末端の毛細血管まで血液は行かず、途中のバイパス血管の通り易い個所を巡って心臓へと還流してしまう。

毛細血管の末端組織が細いことは、血液が通りにくいことを意味し、ここを通過させるためには相当の血液の圧力を必要とすることがわかりであろう。

脳の血管は、外部からの衝撃や損傷、圧迫等を防ぐために筋肉の間を通り、骨格によって守られている。

首の筋肉の拘縮（凝り）は、首の血管を圧迫して脳にいく血液量を減少させてしまう。

首の筋肉の固まりについては、姿勢を正しく保つ（首を据える）、筋肉を動かすために常時、自律神経から信号が発せられており、失調が生じると異常に多くだされるために固まってくるものである。

自律神経失調は、脳の使いすぎ(悩み、仕事のしすぎなど)から生じる。

慢性的に失調状態が続くと、じわりじわりと下地がつくられて、何かのきっかけで、ある日あるとき突然に「糖尿病」が生じてくる。

脳の自律神経への血液循環を改善することが、「糖尿病」を完治する唯一無二の方法である。頸部の血管をとり出し動力ポンプの圧力をかりて注入する方法もあるが、これは一般的ではない。(植物人間には試みられている)。

自律神経からでている枝を癒導術で直接刺激して、脳内の毛細血管を拡張し、血液の流れをよくすることによって、たちまち「……頭がスッキリしました」「何だか、治りそうな気がします」「頭の中に何かつまっていたようなものがとれて、サッパリしました」などの言葉が、一〜二回目の治療直後の患者さんの口から聞かれるのである。

ここで早合点をされる方は、「……そうか、それなら、首の筋肉の凝りをマッサージで揉みほぐせば、よいではないか」と実行しても、そうではないのである。

これは、いままでに来られた患者さんの皆さんはよく知っておられることでもある。

治療する側の熱意と、治療を受ける人の

熱意が一致したとき早く完治する

自律神経活性療法（癒導術）は、患者さんがじっと静かにしていれば治るというものではない。

それは「糖尿病」が、他の伝染病などと決定的に異なる点があるからにはかならない。

たとえば、人間でも動物の犬猫でも、大脳皮質をとり除いても生きていけるものである。ただ、呼吸して、食べて、眠るだけの準動物的に――。

“人間らしさ”は皮質が機能しているからで――社会人として、ビジネスマンとして――は、皮質が訓練されて理性的に機能しているためである。

この訓練は自分でもできる。同一行為を二週間連続して反復することで、脳細胞の回路が完成するのだ。

むずかしい漢字や電話番号などを覚えこむときの反復行為を思いだしていただければ、皆さんにも経験のある方法だ。

何回も繰り返し、言葉にしたり、書いてみたり、忘れそうときには見直してみたりするこ

とで、しだいに覚えて(訓練された状態)いくものである。

これを身体の回復訓練に置き換えてみれば、この反覆する行為が「リハビリ」なのである。リハビリは、何回も面白くない方法を繰り返しておこなわなければならないことがある。

基本的動作ほど面白くないものは他にはないであろう。

たとえば、患者さんの家族の方から訓練のことを勧めても、家族同士の「甘え」と「馴れ」から必ず、喧嘩や争いになることが多いものである。

そして、どうしても私から指示して、この訓練によって体をつくり直さなければならなくなるのだ。

本人が本当に治そうと言いだしたのか、周囲の人が世話をやいてそうなったのか、私が引き受ける場合にそのことを確実にしておきたいのである。

治らないものは、お引き受けしても仕方がない。

この病気は、肺炎や急性膵炎のように放置しておけば短期間で死に至るものではない。困るのは本人なのだ。

患者さんが本当に「治さなければ」「治りたい」という一念がある場合には、私にも通じる。そして私の熱意も湧いてくるのである。

治療のときも、リハビリのときでも、また、家庭・職場での注意事項のすべてにわたって、
“治してあげねば”と私もそれを真剣になるのである。

このように一致団結し努力していると、真夜中の三時頃でも患者さんから「……具合が悪いのですが、どうしたらよいのでしょうか？」と電話の問い合わせが寄せられても、親切な指導をしているのである。

レッテル志向（高名な教授や有名人たち、病院神話を

盲信する者）は治らないで不幸な人生を歩む

日本人はブランド好みの嗜好人種であると批判されても、何故かブランド品を買い求めている。

むかしから舶来品（船舶で運ばれて来る品）つまり外国品は、高級なものとしてその所有者のステータスシンボルを満足させてきた。

島国、鎖国、戦争などで物品不足の世相を経験したために、この傾向に拍車がかかったようだ。

横文字の流行も異常な氾濫ぶり、漢字名の煙草などまったく売れないらしい。

徳川時代からの封建的な管理政治、明治政府上層の意向（輸入品、西洋思想重視）で、そのままのものを考えることに馴れてきた民族でもある。

たとえば、官僚（役人）がむかしから支配し、大衆はこれに従っておれば安全という考え方だ。困ったときには役所に泣きついて依存していくという側面もある。

こうした気質がレッテル志向を生じさせる原因にあるようだ。

ブランド品は高級品として盲信する。反対に言えば、自分で中味の良・否を選択し吟味できないのだ。

人間関係のことでも、このブランド志向の目で眺めるのである。

「うちの息子は○○大学をでて、△△会社へ勤めているのですよ」

「アラ、御主人は◎◎大でしょ、それに奥さんも××女子大ご出身だから、スバラシイ。おつき合ひさせていただきたいわ」と階段の踊り場会議の主婦たちの話。

「○○大学病院の○○教授に診ていただいたのよ、だから安心ですわ」となる。

少し極端な表現ではあるが、免許制度というものには、その分野のレベルの維持もあるが、専門知識で素人をケムリに巻いて悪いことのやり易い職業を選んで設けられているようだ。

仮りに、雑貨店、八百屋などでは悪いことをしようにもやりようがないではないか。

こんな場合もある。飲食店などでは、数日前に調理したもので味に変化がなくても細菌の繁殖で食中毒になることもある。真空パックの「辛子レンコン」で食中毒死した事件など、このように生命、健康に重大な影響をもたらす職業で、事故を多く起こすような場合、免許制としておくことも必要である。

高度な内容の作業の場合には、専門知識や技能が必要であり、これを習得するためにはそれなりの基礎的知識と努力を要するものだが、こうして取得した免許等は、これを持たない人にとっては羨望のとなり、いつのまにかシンボル視されるようになってくる。

やたらに他人の身体に針を刺したり、切ったりすることは傷害罪を構成し、何か附着させたり塗布することは暴行罪、何か飲ませることも犯罪、結果として死亡させれば殺人罪である。一般的にこれらの行為は禁止行為である。

傷病部位の改善を目的として、他人の身体に傷をついたり、叩いたり、何かを飲ませる行為では、専門的基礎知識を有し、あるレベルの技術を習得した人には限定的に禁止行為を解除しているのが、免じて許す、つまり免許である。

自動車は速度がはやく人を殺傷するに充分な道具であり、一般的にこの車の使用（運転）は

禁じられている。しかし、利便性が非常に高いところから、法令を学習し、運転技術の基礎を習得した人に限って、禁止行為を免じて許す、つまり免許を与え、証しとして免許証を交付している。そして法律で定められた方法によってのみ行っていく。

しかし、一定の守るべき規程に反したり、使用目的以外に人や物を損傷させたりしたとき――事故のとき――には免許行為の停止や取消しをおこなう。

免許を取得したということは「運転してもよいですよ」という意味であって「運転が上手だ」ということは別である。

自動車の車種は多い。普通車のニッサンブルーバードの運転が上手でも、トヨタクラウンの運転が上手で馴れているということはない。

医療も、これとまったく同じことで、免許があることは「医療行為をおこなってもよろしい」ということであって、特定の「病気が治せる」こと、その病気に対する知識があり、上手に治す方法を知っているということとは別である。

反対に、その病気のことにについては深い知識もあり、治し方も熟知しているベテランであっても、医療行為をおこなえる免許がなければ、他人に施すことはできないのである。

免許がなくても、その道のベテランは、いるものだ。

たとえ社会的に名声を博したある組織体の中に地位があっても、患者が苦しんでいる「病氣」を治せることは全然ちがう場合が多いのである。

患者の期待度では、高名・高位の人では、治せるのではないか、という気持ちがつよくなるのである。

このためにレッテル志向だけでは、本物を見分ける認識力に欠けており、見栄を張っている人間は「糖尿病」を根治することができないのである。

「糖尿病」は、人間らしい生活——希望がある、楽しい、嬉しい、人を愛する、愛される——から遠ざかって暮らしている。体が重く、根気も続かず、怠け者、わがまま人間として不信にみられる世界に住んでいる。

周囲の人々のレッテル志向に惑わされないで、真実の治療を受けなければ、一生涯何の楽しみもない不幸な人生を歩むことになるのである。

これが癒導術(自律神経活性化療法)の実際だ(癒導術の歴史・西洋医学の一分野)

癒導術は、自律神経を活性化して、基本的に非細菌(病原体)性の疾患を治していく治療法であり、一般世間におこなわれている健康法とはまったく異なるものである。

細菌性疾患でも、身体の免疫力を高めることによって治すことのできる疾患であれば、治すことができるのだ。

水虫——身体免疫力が低下したとき、崩壊性に発生し、歩行困難を生じる。

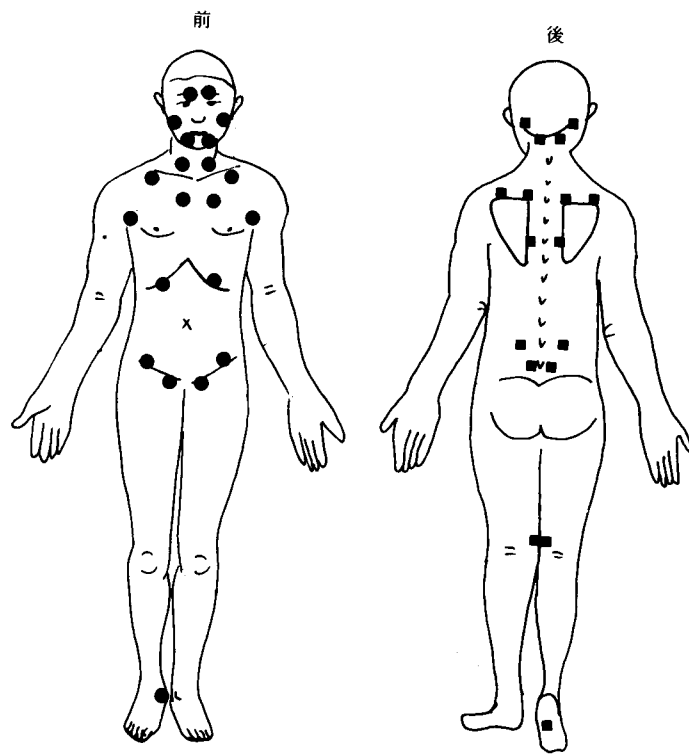
慢性の虫垂炎、膣炎、膀胱炎、口内炎、ヘルペス、扁桃腺炎、皮膚病の一部などには、たいへん有効である。

故・今村喜太郎先生(慶応義塾卒、講道館柔道八段)が、弟子達及びその知人など口こみで知った人々におこなっていた治療法である。

古来、わが国での病氣治療は、体験的に祈禱・温泉浴・按摩・指圧・針・灸や、漢方薬として草根木皮の利用によるものであった。

西欧諸国においても旧世では、これとあまり変わらずマッサージ、温泉・サウナ・体験的な草根木皮の利用が主であった。

自律神経刺激部位



西欧では、歴史的にも宗教的背景が異なるため、人体解剖による客観的な病気の説明が早期から可能となり、自然科学の発達にともなって著しい進歩をみてきた。

わが国では明治時代に政府の積極的な西欧思想の輸入、技術、医学等の導入によって、医療分野も急速な進展をみせたのである。

この導入時期に、西欧医学の理学治療分野と薬物治療分野の両面ではなくて、薬物療法のみが導入されたためにわが国ではこれが主流となって、理学治療分野は副次的・日陰的な存在となつて今日に至っているのである。

この時期に、明治の元勲、高官たちの随員として西欧視察に同行された今村喜太郎先生は、西欧での科学的な病気の理解と合理的な考え方、物の見方、治療法を学んで帰国し、柔道場と診療所を開設して、患者の治療と弟子の養成に盡力したのである。

西欧医学の理学療法分野を主として研究し、人体の解剖・生理・病氣理論・衛生・心理学等によって裏付けし、独自の治療法を完成させた。

大正末期の関東大震災によって、品川の道場、診療所は全壊・全焼してしまったが、このとき、近郊の人々や弟子たちの知り合いの人々に対して無報酬で、創傷、骨折の治療、精神混乱による自律神経失調、心の病氣を治療したのである。

このときの症例が数多くの臨床体験となって、癲導術（自律神経活性化療法）を体系的に一挙に完成させたのである。

地震・火災・恐怖・人間関係の不調（親子、嫁姑、職場、不安、寂しさ、多忙、栄養摂取不良、ストレス）が、自律神経に重大な影響を及ぼして病因となることを明確に観察記録して、自律神経失調性の病状として裏付けたのである。

伝染病以外の病気は、自律神経の機能が低下する諸原因（ストレス・過労・人間関係不調・家庭内問題）によって発生し、薬物療法は症状抑制のみで根治は困難である場合が多い。

これらの症状には、軽い段階では、めまい、凝り、痛み、しびれ、動かすことが困難、気分が悪い、吐き気などが現われて、自律神経失調症状を示してくる。

つぎの段階では、神経症として、イライラ、音がうるさい、潔癖、攻撃的な話し方、歩行困難、外出不能の脳症状となって現われてくる。

最後には各単体臓器の障害、つまり肝障害、胃十二指腸かいよう、ホルモン障害（糖尿、バセドウ）と特定の名称がつけられるような重い症状となってくる。

当時は、軽度のものは特別に治療を施すことはおこなわなかったが、その後を追跡調査した結果、生涯これらの病気で苦しんでいることが判明した。

このときは、生活指導的なことを実施したのであるが、この病気に知識のなかった人々は、指導された方法を日常生活にどう取り入れてよいのか、その具体的な方法がわからなかったのである。

このために、どうしても専門家による具体的指導が必要となり、懇切な指導の手間と時間のかかる病気であることを痛感したと記録されている。

「糖尿病」は、初期には外見上では何ら変化が見られない。出血や腫れ、発熱などの一般的に知られているような病気の症状が現われない。

臓器(脳も含む)を働かせている自律神経の機能障害は、損傷や化膿などが原因で二次的に発生するものに比べると、本当にわかりにくいものである。

たとえば、懐中電灯が点灯しないときに、電池が入っていない、電球の断線などでは誰でもすぐにわかるが、中の電池が消耗している場合には外側から見てもわからないであろう。

装着されている電池の重量や外的な変化が認められないからである。

自律神経の機能障害は、内臓(脳も含む)の働きを低下させ、病原体にも侵されやすい体質へと変化していくことも現在ほど説明されていなかった。

今村先生が体験的に実証されたことであった。

このために、自律神経を刺激して機能を高めることによって、全身を支配している臓器(脳)の働きを活発化し治癒に導く治療法「癒導術」を創始されて、命名されたのである。

「癒導術」は、恰かも消えかかっているたき火に新鮮な空気(酸素)を送り込んで、火勢を旺盛にやみがえらせる方法である。

心身両面の偏りから生じる自律神経の障害、筋肉の拘縮、骨の歪み、ホルモンの分泌、消化液分泌、脳の働きを活発化して、自己能力を回復させるための治療法である。

この結果、**自己免疫力**(病気を排除する能力)と**自己治癒力**が身体に充実してくるのだ。

「病める人」を、身体・環境・人間関係・家庭事情などから判断して、総合的に治していくのが「癒導術」の基本的な考え方で、治療をおこなう側には病氣治療技術とともに幅広い見識と考察力が要求されるのである。

単体臓器の病気を治すのではなくて「**自律神経を治す**」のである。

時計の狂いの場合、個々の歯車(臓器)の不良ではなくて、歯車の噛み合わせや油ぎれ、置き方、置き場所、取り扱い方如何で生じることが多い。

身体全体の調子を健全に整えれば、少しくらいの部分的な障害は克服されるものである。

「癒導術」は、針・灸・按摩・指圧・占い・祈禱・心霊・自律訓練・催眠・心理的方法・作

業療法などとは根本的に基盤の異なる実証的な治療法なのである。

指圧・マッサージとの違い

針・灸・指圧・マッサージ(按摩)は、東洋的思想によって病氣(気の流れで)発生するとされる部位に施すことで、病気を治すとされている。

マッサージ——片仮名で表記されるように西洋医学の一分野である。

古来からわが国でおこなわれてきた按摩の技術と相通じる点が多いので、マッサージ＝按摩と一般に思われて混同されているようだが、本来は別のものである。

東洋医学の思想では、人間は生まれながらにして「気」というものを持っていると考えられている。

「気」とは全身を支配しているエネルギーであって、これが弱まると病気になるという説である。

「気」は人体の三六五の穴部から出入りしていて、この点をツボと呼称している。「気」の

経路は、身体各部にわたって数十本以上を構成して、経絡（けいらく）と呼ばれている。

この「氣」が出入りする穴——ツボが閉じて「氣」の出入りが悪くなった場合に病気になる
と診て、ツボ部に対して、針・灸・指圧・按摩を施術する。

このツボ部が三六五もあれば、解剖学的に合致する部分もあるところから、影響をうける臓器にとっては有効な場合も認められている。

「癒導術」は、解剖学的に走行している神経に対しておこなうものであって、「氣」が身体を走行しているという東洋的観念に基づいたものではない。

こうした思想的観念でも、根本的な相違点がある。

神経の刺激方法によっては、器具でおこなうものもあるが、指で押してもよく、指で圧することとを「指圧」と呼称すれば、指圧の範疇に入るであろう。しかし指圧はツボ以外は押圧しない。針で刺激するのも刺激法の一種であるが、神経に針を刺すことは傷つける場合があるので、実施してはいないのである。

癒導医学(自律神経活性化療法)で治せる病気と、治せない病気

「癒導術」で治すことのできない分野に、法定伝染病、これについて強い伝染性をもっている病気、強力な毒素によって人体を侵すところの蛇毒、ふぐ中毒、蜂毒などによる病気等である。

また、伝染力が弱くて自己体内の免疫力(白血球の殺菌作用)を高めることによって治療していくものには有効で、薬剤よりも根治させることが可能である。

水虫・膀胱炎・腔炎・乳腺炎・口内炎・ヘルペス水泡・慢性虫垂炎・風邪・扁桃腺炎・神経活動低下による歯痛・歯肉炎・歯槽膿漏・他。

「癒導術」にとって基本的対象となるものには、自分の体内で病気の原因を形成する疾病等である。

以下は、私の治療体験ずみのものである。

心の病気(脳の働きを正常にする)、自律神経失調(自律神経の調子を正す)、メニエール(内耳のリンパ液を排出する)、耳鳴り(聴覚神経の正常化)、脱毛(毛根栄養神経の活性化)、てんかん症(脳内てんかん原因部分を正常機能にする)、原因不明の肋間・筋肉痛(痛覚神経

過敏を正常にする)、喘息や気管支拡張症(気管支壁の感受性過敏を正常化する)、過呼吸症候群(CO_2 感受神経過敏を正す)、心臓のドキドキ(心臓中枢自律神経の正常化)、手の麻痺とふるえ(当該神経と伝導障害正常化)、咳(肺内リンパ液の排出と気管壁過敏の正常化)、胃水溜り(幽門括約筋正常化)、下痢と便秘(大腸反射神経の活性化)、糖尿(膵臓支配神経活性化によるインシュリン分泌量増多)、血圧異常——高血圧、低血圧変動差が大きいとき(血圧調節中枢神経活性化と毛細血管拡張法)、慢性風邪(全身自律神経機能を高める)微熱(体温調節中枢正常化)、頻尿(膀胱圧受容脳神経過敏の正常化)、頸と肩凝り(姿勢制御神経正常化)、勃起不全と早漏(副交感神経正常化)、不感・冷感症(脳性興奮中枢受容正常化)、月経不順・痛み(脳下垂体機能向上)、脊柱側彎(脊柱筋矯正とリハビリ)、神経痛としばれ(神経伝達正常化)、白内障・網膜炎(眼内栄養神経活性化)、痩せ(迷走神経活発化)、歯痛(三叉神経過敏正常化)、アトピー(免疫系活力向上)、色黒(副腎強化)、不眠(睡眠覚醒中枢正常化)、冷え(冷覚神経過敏と毛細血管反射の正常化)、どもり(構音筋運動神経と言語中枢の活性化)、頭痛(頭蓋内圧降下と脳血圧の降圧)、乳房痛(腋窩リンパ節狭窄緩解)、乳房發育不全(脊柱側彎修正と乳房栄養神経の活性化)、白なまず(メラニン色素産出神経の活性化)、リウマチ(全身体力向上と免疫力関連神経の旺盛化)、関節痛と腱鞘炎(滑液分泌

促進神経の活性化とリハビリ)、胃・十二指腸潰瘍(胃・十二指腸粘液分泌神経の活性化)、むちうち症(頸骨靱帯と頭蓋内血行の促進)、肺水腫(気管支粘液分泌抑制と肺内リンパ液吸収の促進)。

以上が、私の経験済みの治療例であり、お引き受けできる病気・症状等である。

一般的な病気の場合には、風邪の症状としては、発熱、咳、鼻汁など、虫垂炎ならば、白血球の増加、腹痛、吐き気などの共通部分が多く認められる。

しかし、「糖尿病初期」の場合には、症状は軽微である。

引例すると、喧嘩ばやい、イライラする、集中できない、覚えられない、何もしたくない、無気力、人ごみの中で極度に疲れる、手足のしびれ、神経痛、動悸、手指のふるえ、大汗かき、口が渇く、水が飲みたい、尿の量が多い、大食する、疲れてどうしようもない、視力低下(白内障、網膜炎)、できものができ易く治りにくい、腔炎、貧血、性交渉ができない、音が響いてうるさい、頭がボーッとする、ときどき失神したようになる、などの症状を許えている。

大略以上が、これまでに接してきた患者さんの主な愁訴であり、治療後はそれらの症状が消失してしまう。

数回の治療で改善されたという

自覚がない治療法は、まやかしか気休めである

現実に「糖尿病」にかかって、世間一般では誰でもすぐにピンと思いうかべるのは病院、そして食事療法、インシュリンの薬である。

病院では、体質と思って一生上手につき合うことですよ、と言われ、六カ月、一年、二年、一生涯と薬を飲み続ける。そしてしだいに「……これは治らないな——何か別のことはないか？」と考えはじめ、駅の看板、週刊紙、電話帳広告に惹かれるのである。

時には、「糖尿病ツアー」という海外旅行へ行くようになる。

病院では、糖尿病の体質になってしまったのだから、食事制限をして、インシュリンを飲み続けていけばいいのですよ、と言われる、だが、病気にかかっている人や、その家族たちが必死になって模索しているときに、目に映る広告に心惹かれて其処に行くことになるのだ。

私の「癒導術」は効果が早く現われる。治療がおわったときに、本人は身体の快調さに気づ

いている。治療は四〇分くらいで終了し、そのときに苦しみが消えている。

ながい治療経験から私には、治るものか、治らないものか、本人を診ればすぐわかる。これがプロというものであろう。

自分の技量を知っていて、その病気のことについて明確に熟知していることがその道の達人であることの資格である。

「とにかくやってみましょう、気ながに続けることですよ、この病気は……」と曖昧に言うのは病気の本質が何であるかわかっていないのである。

最初、相談にいられた段階で、治る時期を過ぎておられたりする場合は、お断りすることもある。

結核・肺炎はむかしは不治の病気といわれた。

現在、各種の抗生物質で病原菌を短期間に殺滅させて、長期間にわたる結核療養は殆んど見受けられなくなっている。

本当に治療効果のある薬剤、医療技術を使用すれば、数回の治療、投薬によって患者さんはどんどん回復していくし、患者さんの自覚症状も一日毎に軽減して、数カ月間の治療でほぼ回復してしまうのだ。

三、五年と続けなければならない薬の服用で、患者さんが、

「薬を飲んでいても、特別に変化はないのですが？」と尋ねてみても、

「もう少し頑張って続けなさい。もう少しだから……」と説得したり、何十回も繰り返しておこなう治療技術は、一時しのぎの気休めにすぎないものだ。

私の所ではそんなことはしない。

患者さんは治療に来られるたびに体調が楽になっていくので、

「……このつぎは、いつ来たらよいですか？ 少しずつ身体の調子がよくなっていますので、もう嬉しくて……」と言っておられる。

これまでの症状が消失して、すっかり元気になったときには「もう治った」と思って安心するのは人情であろうが、そのときに、

「基礎体力を、もう少しつけないさい、そのためにしばらくは、一カ月に一度来て経過を充分に見守ったほうがよいですね」と私は患者さんに「骨折」の場合の例を引いて説明してあげている。

「腕や足の骨が折れた場合、痛みがひどくて、痛みのストレスで自律神経の乱れがひどく現われてショック死したり、ほかの臓器の機能障害を起こして、続発的に病気の発生をみるこ

があります。

痛みは苦しいものです。だから、痛みを柔らげる目的で、痛み止めの薬を使います。患者さんはそれで楽になり、治ったような気になります。不自由しておられるのですから、すぐにもとの生活をしたいです。普通の生活に戻りたいのは人情ですよ。

しかし、骨の接合が完全になって、強度も十分になったときに完治したのであって、痛みの苦しさがやわらいだことはまったく別のものです。少くくは動かしても、養生を充分になさることですね」と私は説明している。

専門家が患者さんに懇切にアドバイスするのは、施療者としての良心である。

糖分不足は脳を破壊する

脳は一・四キログラムの重量にすぎないが、筋肉三一キログラムと同じくらいの酸素量を消費することは、詳しく前述しておいた。(安静時)

このために同じ量の血液も流れこんでいるのだ。

このことは、脳が大量のエネルギーを消費していることを裏付けている。

この酸素消費量は、じっと横になっているときのことであって、勉強をしたり、設計図の製作や創作活動を行っているときには、一時的に膨大なエネルギーを消費することになる。

これらの場合、酸素の供給と脳のエネルギー源である糖質が不足したら、どうなるであろうか。

絶食などをおこなったときのことを考えただけで、ゾツとする。脳をいためてしまうことになるのである。

われわれの身体内には二四時間分の糖分をエネルギー源として肝臓に貯え、これを過ぎると、貯蔵分が欠乏して皮下脂肪や腹内の脂肪をつかうことになる。

しかし、脳では脂肪をエネルギー源として消費することができない。

絶食を続けていると、筋肉や赤血球を分解して糖質の確保を行い、脳も代替としてケトン体をつかうようになる。ケトン体とは、脂肪を分解していくときの副産物である。

絶食で外部から糖質が入ってこない時でも、食事を摂ったときと同じように一日一〇〇グラムの使用量は変わりなく、脳細胞はエネルギーの供給が減少し、脳細胞は仮死状態→死滅状態となっていくのだ。

これは恰かも太平洋戦争の末期に、南方の日本軍隊が食糧その他の物質の供給を断たれて、飢死・全滅した状態に似ている。

糖質の不足は眼球の水晶体や網膜を破壊し、失明させ、脳の働きを低下させるため性格が悪くなり、手足のまひや、しびれを発生させ、糖尿病を進行させるのである。

精神的な作業・労働を行う人は、とくにこのことに注意を怠ってはならない重要事項として心得ておいていただきたい。

糖尿病は、自律神経を治し、膵臓の働きを正常にして糖が漏れるのを防ぎ、次は食事を正し身体力の充実で治癒していくもので、十分の栄養を摂り、十分な休息によって、初期のうちは治していけるのだ。

この点に関していちばん困るのは、健康食品、自然食ブームである。

〇〇茶、玄米食、菜食主義と、つぎつぎに宣伝・広告して、最近では大流行のようである。自律神経の機能が低下していると、胃・腸から吸収する力も低下しているので、たくさん食べたからといって、栄養が摂取できたということとは別である。

肝腎なことは、常識的に食物を正しくバランスよく食べていればよいのであって、わざわざ求めて特殊食品、補助食品を用いる必要はまったくない。

脳細胞の死滅・減少は、かなり進行した場合でないとわからない。

大阪から来られた五十六歳の婦人の場合は、半身麻痺、パーキンソンのな歩き方をされていたので、病院でCT写真を撮ってもらってから来られるように言った。

この婦人のCT写真を見ると、脳細胞がゴマ塩を散らしたように点々と映って、しかも死滅していた。

また、横浜近郊の男性四十四歳の場合には、しだいに痩せていくので、少し肥りたいのだと言ってきたのだが、この男性も脳細胞死滅ということではないかと疑い、病院に行ってCTとX線で脳下部の写真を撮ってもらってから来られるように言ったのだが、CT写真を見ると延髄部分に死滅状態があることが認められた。(側索硬化)。

このため、それぞれお二人には詳しく理由を説明してからお断わりしたのである。

この症例では、糖尿病でなかったが、長い間に脳(自律神経)の破壊が進み、やせ細ったり、(側索硬化)、脳の部分的死滅(脳軟化)の結果生じたものである。

このように壊れたものは、治すことはできない。

自律神経失調

自律神経失調の症状は、糖尿病の他にたくさんあるので、それぞれ症状別に列挙して参考にご供することによよう。

耳鳴り

自律神経失調の一症状として生ずるもので、私の治療の中でも、もっとも時間がかかり長期治療を必要とする。

主婦(六八歳)と主婦(五一歳)のお二人の場合は、ひどい耳鳴りで眠れないと訴えて来られた。

寝るときには睡眠薬やお酒の力をかりなければならぬと言っておられた。

週二回の治療をおこなって、五回目くらいから睡眠薬やお酒を飲まなくても眠れるようになった。

それでも、チーチーという音やジー、ピーという低い音が聞えるということだった。

二カ月目には、何かに熱中しているときには気にならなくなって、ふと気がつくと鳴っているのだとじだいに軽減してきたと言う。

五一歳の主婦の方は、一〇回目の治療以降は、月二回とし、四カ月目には寝るときとか、静かなときに、何か音がしているという程度にまで回復された。

年配の主婦の方は、一五回まで連続治療をおこなって、以降は月三回治療、しばらく経過してから月二回に間隔を設けた。

年齢的に若い人ほど回復がはやい。

治療部位は、後頭神経と内耳の間接刺激である。

「耳鳴り」の名称があるために、耳が鳴っていて、耳が悪いように受けとられるが、これは音を感じる神経及び脳の感覚部位に障害があるものであって、耳の中の問題ではないのだ。

夢を見る場合と類似していて、夢は目に見えているのではなくて、脳が勝手に幻像をつくりだしていることを考えてみると理解しやすい。

不眠

不眠の症状にも、寝つきが悪くて夜中まで眠れない、眠りが浅くて熟睡感がない、夢ばかり見て何回も目覚める、などに大別されよう。

原因は、睡眠をつかさどる自律神経の失調で、体重の激減のない体格のよい人ほど早く回復する。

不眠のため体重が一五キログラム以上も痩せる場合には、一〇〜一五回の治療が必要である。

イライラする

これは、交感神経緊張が昼夜つづいて、身体を休息させる副交感神経を抑圧してしまう状態である。

第二は、甲状腺の働きが亢進している場合にも生じる。

甲状腺の悪化は、検査では特別に異常が認められない程度でも、本人にとっては苦しいもの

である。

自律神経失調がながく続くと、とくに腫瘍の発生などが認められなくても、人によっては機能が亢進するのである。

第三は、人間関係（夫婦、親子、職場、学校）での相性が悪いときに生じる。

私が言う相性とは、占いのものではなくて、動物・本能的な意味である。

たとえば、蛇と蛙、犬と兎、猫と鼠などのように共存することができなくて、どちらかかならず負けてしまうような関係のことである。

人間と蛇とは相性はよくないが、兎とはよろしい。部屋の中に青大将がただで落ち着かず、安心して眠れない。

青大将は毒をもっていないし、鼠や害虫を捕食して、人間には有益であるが、相性が悪いために人間の側の行動がおかしくなり、しだいに自律神経失調症が生じてくるのだ。

人間相互間（親子、兄弟姉妹、夫婦、上司部下、担任教師と生徒など）での相性は、負ける側には甚大な結果をもたらすものである。

このことに気づいていないとき、慢性的にイライラが生じて、すべてのことがうまく運ばなくなってしまう。

こうした場合、自律神経失調が生じているので、身体を治していくと同時に、対人関係の改善、適応の技術を体得して、日常的に実行していくことで治っていくのだ。

親子(母——子)の相性で、子供が失調症に陥入る場合がしばしば見受けられるのである。

吐き気

ひどい吐き気を感じても、吐きだすことができない場合は苦しいものである。

二二歳の娘さんの場合は、吐き気が二四時間連続して苦しいので、身悶えするばかりという症状を訴えていた。目が赤くただれて、痩せ細って、父親に背負われて来所された。

これまでもいろいろな所へ治療に行ったが、効果はなかったと言う。

最近では何も食べられなくなって、ここ数日間というものはまったく食べ物を口にしていな
いということであった。

一日五、六回の集中治療を、三日間おこなった。

朝一〇時から夕方六時まで、母親が付き添ってベッドに横臥したままの状態で、少しずつ治療を進めた。

四日目になると、温ためたミルク粥が流しこめるようになって、吐き気も夜間だけにおさまってきた。

五日目には、自宅から車で母親に付き添われて通えるようになり、一〇日目には、吐き気がなくなって集中治療を終了した。

以降は、月二回のリハビリを主体にした治療をおこなって完治された。

自律神経失調には吐き気をとまった場合が多く認められ、極端な船酔い状態のように苦しむのである。

これも治療三〜六回で消失していくものである。

胸痛

自律神経失調が長引いている人に多く認められる。

これは心臓冠状動脈が、自律神経失調性に狭くなったり、痙攣したりするとき生ずるものと、肋骨周辺の呼吸筋などが体力の低下のために活動不能に陥入って、痛み症状となって現われるものである。

失調性では、脳神経を刺激して、失調を除くことによって、胸痛はなくなっていく。

筋肉痛は、打撲によるもの以外は、肋間筋と筋膜間の滑液分泌不足と筋肉代謝不良が原因で生じ、いずれも自律神経の支配下にあって、軽い失調が慢性的に続いている場合に生じてくるものである。

冠動脈性のものは、胸全体にわたって生じるので、ここが痛いというように指摘できない。

筋肉性の場合には、肋骨附近が片手で履えるほど広範囲にわたって痛む。

これらの胸痛は、数回の治療で完治する。

しかし、何の手当ても施さないで放置しておく、数カ月から半年くらい続くことがあり、整形外科や接骨院に通ったりして意外に苦しむことになるのである。

足がだるい

これには原因が多い。

心臓が虚弱、肝臓機能低下、下半身リンパ液貯溜、足筋力低下、足の感覚異常、足の動・静

脈の狭窄と閉塞、足の毛細血管運動不足、などが原因となっている。

肝機能低下でも、急性肝炎は病院で治療すると、足の「だるさ」は消失するが、自律神経の働きが正常でないときには、肝臓の働きも低下してくる。

これはGOT、GPTなど正常値範囲内が多い。

その他の場合では、治療五回くらいで治っていく。

めまい

これも症状を訴える人によってさまざまである。

天井や床がグルグル回る、自分の身体が回る、足もとがフワフワする、景色がチラチラする、気を失いそうになる、など人によって「めまい」の内容が異っているものだ。

回復が比較的はやいものは、メニエール性のもの。時間のかかるのは、首の骨が動きやすく、椎骨動脈を圧迫しているものが挙げられる。（むちうち症に多く見られる）。

いずれの場合でも、早期に手当てをおこなえば七回位で治癒していく症状である。

首・肩の凝り、腰の痛み

人間の身体は、無意識下でも正しい姿勢を保ち続けている。これは目覚めている間でも同様である。

姿勢の保持は、全身の筋肉がバランスよく継続的に緊張していることが必要である。

この筋肉には、自律神経の姿勢保持中枢から連続的にパルス(短い電気信号)が送られている。

姿勢制御中枢に失調が生じると、パルスが多量に発せられ、必要以上に筋肉が常時収縮してしまう。これが「凝(こ)り」となるのである。

たとえば、スポーツ選手の筋肉は、使いすぎから起こるところの「凝り」が生じるので、マッサージ、針、指圧等で即座に消すことができる。

マッサージ等に何回通っても治らない「凝り」は、筋肉に原因があるのではなく、自律神経の姿勢制御中枢にあるのだ。

このために、失調を除けば「凝り」症状も消失する。

人間は、他の四足動物の骨格や筋肉付着のままの構造であって、厳密には二本足で立って歩

くことに無理がある。

われわれは二本足歩行が完全になるまでの進行の途上にあるために、身体構造上、凝り、が生じてくる人もいる。

この場合、自分の身体の操作（使い方）の習慣を改めたり、行動様式を変えることによってスムーズになるものである。

外出できない、人が多い場所を嫌う

他人に接したり、多くの人の顔を見ることは、一種のストレスである。

ストレスに対抗するのは自律神経の直接作用と、副腎ホルモンを分泌させておこなう間接作用とがある。

一〜二歳の幼児の「人見知り」は見馴れない他人の顔への不安と恐怖である。

成人になると、ストレス対抗力が養成されて（自然発育と訓練学習による）、生まれて初めて対面した人とでも上手に話しを始めることができるようになってくる。

ストレス対抗をおこなう神経部分が働かなくなると「人見知り」現象が生じて、親密な人とで

ないと一人では外出できなくなる(幼児は、親しい人——父母や兄弟としか外出できないし、傍にいないと不安や恐怖を覚えて泣きだすのだ)。

しかし、その他の脳の働きは正常であるから、日常生活は普通の状態と変化はない。この症状も一〇〜一五回の治療で改善されていく。

対人恐怖

動物はすべて相対した動物を見ると、相手の目を見ている。つぎに背や足の動きを見る。たとえば、格闘技の柔道、剣道の場合、お互いに相手の目を油断なく睨らみつけて試合をおこなう。

対人恐怖の初期症状では、相手の目が恐くなり、目をそらすようにして話をする——女性では奥床しい振る舞いに見えることもあるが症状——。

この症状が形を変えると、対人赤面、対人冷汗、会議に出られない、異常なあがり、などとなって現われる。

サングラスをかけて歩いている人は、気取りや対人恐怖による場合がある。

日本人は、通常では、太陽の直射下でもサングラスを必要とするほど弱い目をもつ人種ではない。

この症状も、治療五回くらいで完治する。

赤面

対人恐怖の一症状で、顔の毛細血管運動自律神経だけが異常に働く場合に生じる。

「血色がよい」として、赤面だけの症状であればむしろ歓迎されることもあるだろうが、これに異常なあがり方とか、対人恐怖をともなう症状では、治療を受けて治しておかないと、日常生活に支障が起ることもあるので注意すべきであろう。

癒導術(自律神経活性化療法)は

理論的には簡単

施術について

施術しているときに、付き添いの人がときたまカーテンの内側に入って来られることがある。

これは患者の気持ちとしては、自分の治療中に夫婦といえどもじっと見られることは、あまり気持ちのよいものではない。

二、三回目と重なると、自分達でもやれるような気になってくるものだ。

付き添いに来ておられる家族の人、夫や妻がベッドサイドでジーンと注視しておられる。

これは外見上では“指圧”と似ているからである。

私は、自分の手でおこなうことが最上の方法であると考えている。

人間の手指は、大脳皮質という最高のコンピューター以上の装置に直結されている、
治療

器具”である。

手指は訓練し熟達・場数を重ねたとき、最高の「治療器具」となるのであって、素人がにか指圧・マッサージ師となって真似ごとで、「癒導術」の施術がおこなえるわけではない。

見学したいと言われる付き添いの方には、遠慮なく見ていただき、病状によっては「自宅で、こうやると治りが早いので、朝・晩でもおこなわれるとよいですよ」と説明している。

詳しくは「自宅療法の講習」を受けられるか、「自律神経失調症の自宅治療法」の書を参考されるとよい。

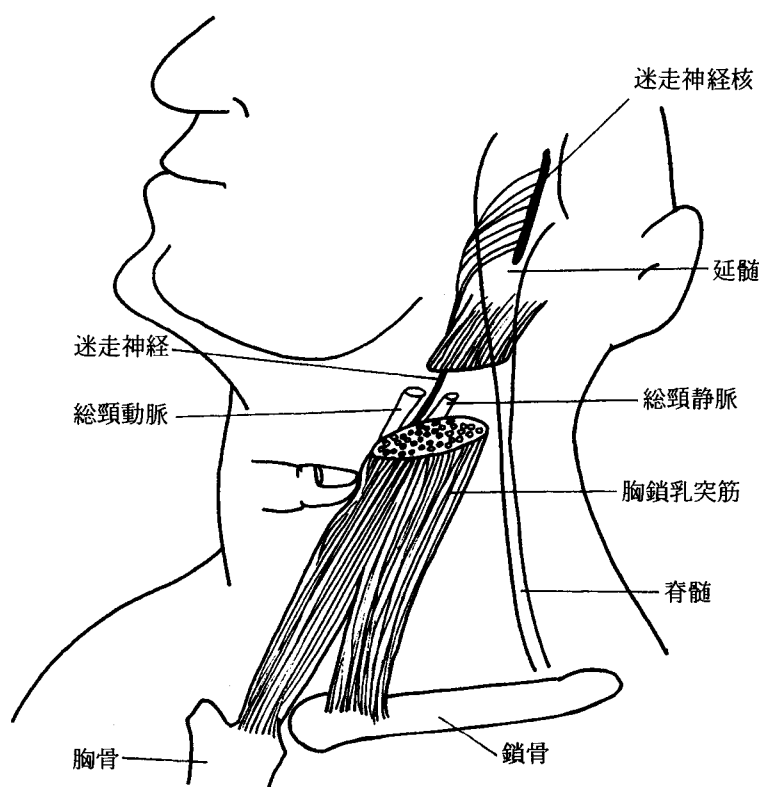
全身を走行している神経の線維部分を指で押圧していけばよいのであるから、理論としては簡単である。

たとえば、白黒の碁石を使用するゲームで、古くから親しまれている囲碁の原理は、自分の石で、相手の石を囲むと取ってよい”と極めて単純明快なものであるが、戦術、戦略等と加われば、コンピュータがおこなうことさえ難しいゲームである。

また、駒の動きに定則のある将棋も、コンピュータでゲームすることができる。

このように、原理が簡単なものほど、自ら体得しなければならない部分が多く、説明や記述では困難を極めるものである。

糖尿病治療部位



神経の「すじ」は、脳や脊髄から発して全身を走行している。

この「すじ」を刺激することで、受けた刺激の信号が自律神経細胞に伝わり、自律神経細胞が活発化され、自律神経細胞の機能障害——「糖尿病」——が治っていくのである。

「そんなバカなことがあるか」と薬物療法一辺倒の勉強を最高と思いきこんでいる理論からすると、これは無理からぬ例であろう。

「……たとえ百の症状のうちの幾つかは治ったとしても、それは放置しておいても治る時期であったものであり、また、それまでに服用した薬の効果が恰度現われたものであって、神経刺激が有効であったものとはとても思えない」との反論があっても当然である。

真実であるかどうかは、治った人々に聞かれるとよろしい。

コロンブスの卵の例でも、簡単に誰でも思いついてやれそうに思えるものだ。

これまでも、ご夫婦の一方が患者さんで、自宅で同じような動作をおこなってみるが、刺激を受けている側の患者さんは「まったく違って」と腹が立ってくると言っておられる場合が殆んどである。

安易に行うと危険

患者さんは施術しているときに、いろいろと自分の感じを言われるが、刺激している部分によっではたいへん痛いと言えられる場所もある。

「……痛いのできつと痣(あざ)ができるものだと思いますが、わたしは女ですから首すじに痣ができると思うと、いやだったんですが、何ともないので安心しました。これまでも指圧やマッサージに行ったのですが、肩や首すじが凝ったときに、強く行ってください」と頼むと、かならず翌日には揉み返しをしたり、痣が残りました。ですからこんどは不思議な気がしますね」と殆んどの方が言われる。

痛いのは神経を軽く押すときで、力を入れているのではないので、痣や揉み返すことはまったく心配ない。——女性が治療師として活躍している。

一般的な指圧・マッサージをしているサウナ、個人の施術所では、健康法として訪れている人が多く、これらの方々はだいたい健康人なのである。

健康な人の場合には、少しくらい強く指圧したり、危険部位に触れても問題ではないし、たとえ間違っって押圧して痛めたとしても、すぐに自然回復してしまうものだ。

しかし、「糖尿病」を患っている人は、骨が弱くなったりしているために慎重におこなわなければならない。

このような人は、外見上には特別な変化があるように見受けられなくても、骨格や筋肉・靱帯の組織に弱化が生じていて、健康な人の場合には何も生じない程度の刺激であっても、重大な影響を与えるものである。

たとえば、指圧に行って、*「骨がギクツと鳴って以来、痛くて痛くて一年くらい治りません」*という訴えや、*「……具合が悪くなってどうしようもない、帰りにタクシーで帰ってきて、車代がすごくかかって、もうコリゴリしました」*という述懐を聞くことがある。

これらは、一種の人気とり*「効かせよう」*と強く揉んだり押したりした結果に起ったことで、百害あって一利なしと言えるだろう。

治療には、ただ押してよいものではなく、痛いから効いていることではないのである。

一種の*「気合い」*とでもいうか、ここでは適切な言葉が見当たらないが、空手道で瓦や煉瓦を打ち割るのも、強い力*「ではないのと同様のことである」*。

危険な例として、*「腰痛」*の場合を掲げておこう。

腰痛は、「肩凝り・腰痛」と一般的に呼ばれているように、*「我慢しなさい、病気ではないの*

だから、と比較的安易に考えられている。

「腰痛」そのものは病気ではない。しかし、その裏側には重大な病気が隠れており、そのサインと受けとることができるのだ。

最悪の場合には、腰骨転移瘤がある。この他にも腰痛を生じる病気としては、腰椎分離症、すべり症、椎間板ヘルニア、腰筋膜炎、腰筋炎、腰筋疲労、骨そしょう症、骨軟化症、腎炎、遊走腎、腎結核、骨盤周囲炎、子宮及び附属器の病気、腰神経痛、腰部エントラップニューロパチー、変形性腰椎症、脊椎管狭窄症、仙腸関節異常、子宮後屈、腎や尿路の結石、胆石、胃・十二指腸潰瘍、円背性、リウマチ、糖尿病、肥満、風邪その他の感染症、腰部捻挫（ギックリ腰）、坐骨神経痛、下腹部結合組織炎、股関節亜脱臼、日常生活での姿勢不良、一側足が短いとき、腹大動脈瘤、腰椎カリエス、などなど。

一般的には、骨と筋肉の異常から「腰痛」が生じると単純に考えやすいが、この場合は痛み止めの薬やハリ、灸、マッサージなどの応急手当てでも軽減できることがあり、強く押したり揉んだりしても原病が悪化することは少ない。

しかし、内臓性腰痛、骨の病気に関係のある腰痛は、原因をつくっている病気が進行する場合もあって、揉んだり、押したりしたために、骨折を起こしたり、この他にも重大な結果を招

いてしまうことになる。

腰痛のみの場合を考えてみても、数多くの原病があるように、「糖尿病」についても、多くの身体内外の環境要因が指摘できるのである。

数年前に中年の主婦が来られて、

「……身体がおもい、疲れやすい、何もしたくない」と自覚症状を訴えていた。

この主婦は、病院で「仮面うつ病」と言われて抗うつ剤を二年くらい続けたが、まったく変化がないので来所しましたと言われた。

問診票などから「自律神経失調症や、心の病気」と考えられるが、身体、脳の働きの検査（反射など）では正常であり、特異体質かと疑いながら、治療を始めた。

症状の消えかたがいままでに私が経験しているものと異っていた。

だが、症状も八〇パーセントくらい消失し、身体も楽になったと言われる。

しかし、少し不審な治りかたなので、病院でCT、X線、白血球の検査をしてもらうように指示した。

検査の対象は、癌、結石、脳腫瘍などを含めて、すべての成人病検査である。

数日後に来られて、胆石（大豆粒くらい）があったと検査結果を報告された。

胆石の慢性腹内痛が自律神経失調を生じ、痛みと自覚しない程度の刺激が年中あったために体調が悪く、「仮面うつ病」的状態で苦しんでいたものであったことが判明した。

自律神経失調が軽度で慢性化していると、いろいろな微小結石を排出できず、胆嚢その他の結石となって肥大化していくもので、つぎには結石刺激が自律神経の働きを弱めることになり、悪循環に陥ってしまうようになる。

「癒導術」は、健康法ではなく、まして健康法を強化した方法でもない。病気を治すために確立された治療方法である。

一般的に、薬でも大量に服用しても生命・健康に重大な影響がないものに限って薬局で売られている。たいへん有効ではあるが量を誤まると危険なものは、医師の処方管理下でなければ一般的に使用できない。

「癒導術」もこの点は同様である。

神経の働きに変化が生じる（初回は、翌日休日がよい）

体質の差は個人によって極めて大きいので、同じように神経転換反応が生じるということはない。

機械を操作する人、精密作業の従事者、交通機関の運転手、計算業務に携わる人などの場合には、治療当日と、翌日は危険な作業は避けてもらうように指導している。

われわれの身体は、運動や作業をおこなうときに、交感神経が緊張し、注意力、集中力、繊細さ等に深くかわり機能している。

健常人では、一日が終わると交感神経緊張が自動的に消退し、代って副交感神経が興奮することによってそれまで消耗した細胞を修復させるのである。

「自律神経失調症」では、常時、交感神経、（副交感神経）が緊張し放し状態となっている。この状態を「異常」として自覚できないで行動している人は、無意識下の行動で誤りを生じる。

たとえば、アルコールが入っていないと思ひ込んで飲物（本当はアルコール飲料）を飲んだとき、酔っていると思わないのに足もとがふらつき、身体にだるさが生じて戸惑う状態に似て

いる。

こんな状態の場合に、車を運転したり、計算業務をおこなったりすると、事故や間違いを起こすのである。

私の所では、待合室に「注意」として

「生体反応としてだるい、ねむい、ボーッとなる、などの自覚症状がでることもあり、自覚しなくても、身体は、動きが鈍くなっていることがありますので、階段の昇降、車の事故などに気をつけてください」と掲げている。

神経の転換反応が、早く強くでる方は回復も早い。

体力があって、皮下脂肪が正常で厚い体質の人や、性格的におっとり型の人では、反応が早くでてくる。

糖尿病も遅い方は、気分的変化が生じてても糖尿の糖量が変化してくるのは、5〜6回目である。

一〇回以上を経過して、少しでてくる例もある。

このように長引く場合には、本人の治療費もかさむし、治療している私も安心することはない。

長引く場合には、自宅治療をお勧めしている。

やはり、毎回、私の顔を見るたびに

「……いやー、〇〇が楽になりましたよ」

「△△症状がなくなってきました」と明るく声をかけられるように、早い回復が望ましい。私が患者さんの顔色や身体の変化を診ても、「なるほど回復してきている」と納得できるようでない。

「では、つぎにはこの症状を消しましょうね、きょうからのリハビリは、少しランクアップしましょう、職場での人間関係をこう改善したらよいでしょうね」と指導する熱意も薄らぐ。また真剣に治療に取り組んでいる側の励みにならないのである。

相談時のこと

「糖尿病」の人は、糖欠乏性脳機能障害から、時間通りに行動することが辛くなり、他人がどう思おうと、どう影響を与えようと、自分勝手気まま状態となっていく。

本能的に、食べ、寝て、排泄し、生きている状態となって、すべてに秩序がない。

病気といえ、病気、そうでないといえ、あのような変な人”ということになる。

病気は、まず本人を診なければ、治療・相談”も不可能である。

治るのか、どうか、どの程度まで進行しているのか、診なければわからないことである。

宝石・指輪などを鑑定するのと同様で、電話や写真だけでは症状を推測できるわけではない。

占い・心霊の刊行物などには、写真や電話にて〇〇可能”と掲載しているが、こと医療に関して病気を治そうとするときには、本人の症状を具体的に診察しないことには不可能である。

このことは法律でも決められている。

患者本人を診ないで、写真、電話、毛髪、爪などを見て、治すことが可能などというのはインチキですと表明していることと同じだと思ってもよいのだ。

治療を前提にという場合には、身体各部の反射検査、尿検査、皮膚・口内の状態、貧血、体内臓器の機能状況、持参された病院検査資料の分析、身体反応、脳の反応速度、過去・現在の自覚症状など、総合的に診るときには時間も費用もかかるのだ。

いずれにしても本人が来られるか、何かの事情で来られないときには国内であれば出張もしているのである。

治療の実際

相談には勿論ご本人の質問にも答えているが、その日は、一度帰宅していただき、一晩よく考えて治療を受けるかどうか、聞いてきたことが本当かどうかを充分に熟考していただくことを原則としている。

しかし、日本各地から来られるので、遠地の方が相談に来てそのまま帰り、また、飛行機代を使って来るなどは不都合でもあるので、診て直後から治療を希望される方は、相談直後納得された場合、治療を希望される方は、お引き受けしている。

私は、相談のときにはすべての質問に答えて、どこが悪いのか、どうしてそうなるのかも詳しく説明してさしあげることになっている。

これまで来られた方は、私の刊行した本を読んでおられない場合が多い。

私は治療をおこなったり、講習をしたり、原稿も書き、地方出張などもしているので、私の本を読まれることによって、すべてが解るように配慮しているのであるが、来所されて私から

直接に話しを聴くことを希望される人も多いのだと思っている。

本人が治療を受けることを充分に納得してから治療をおこなうことにしているのだ。

治療に当っては、持参されたパジャマの上・下に替えてもらうことにしている。女性とはきどきネグリジェなど持参される方もあるが、夏物木綿の上・下パジャマに指定している。

治療当日は、治療のあと家に戻って寝るように、また、翌日も特別にこみ入った作業が避けられるように整えられているかどうか確かめている。

コンタクトレンズ、美容整形したことがあるかどうかもお尋ねする。

付き添いの方は、待っておられてもよい。

最初の治療は、二〜三時間かかるが、そのつぎからは一時間くらいで終わる。

まず、本人の最も苦しい症状を解消することからはじめ、順序によって先に消してはならない症状もあるので、このことは患者さんに了解していただくことにしている。

治療は、各種の症状に応じた神経を、指で押していく。

治療が終了すると、殆んどの方が自然に眠りに入る。反応が強くでる人では、朝いちばんに始めて治療のあと寝入って、夕方六時頃まで高イビキの方もおられる。

眠りを催さない人では、治りも遅くやせて体力が低下している重症の場合が多い。

午前中に治療が終了した場合でも、遠くから来られる方はお弁当を持参されたほうがよろしい。治療終了後にゆっくり食事をされてから帰宅してもらっている。

地方から来られる方は、2泊3日くらいの滞在治療になるので、ビジネスホテル、寮に泊りがけとなる。身体の治療も含めて、リハビリ、病気の知識、食事、物の考え方、適応力養成、自己診断と治療法、その他を日課に従って行い習得していただく。

生身の人間の機能障害を修復するのであるから、自動車のパンク修理などと違って、いろいろ複雑な症状にも当面するが、これまでは予測どおりに完治している。

治療後は自然に眠りに入って、目覚めて着替えなどをすませた方に、私は改めてお尋ねしている。

「気分はいかがですか？」

「……頭がスッキリしました」

「……身体が軽くなった感じ……」

「……首と肩の凝りがなくなりました」

「……何だか、ボーッとしてます……」など、

何かの変化が現われてきている。

こうして階段を昇っていくように、確実に本人に回復途上の実感があって、表情がしだいに明るくなってくる。

「もう少し、我慢してやってみなさい、少しはよくなりますから」などの言葉は、間違っても「癒導術」にはないのである。ただし、回復していく途中で、出現してくる諸症状は悪化していくのと錯覚しやすいので十分説明をしている。

治療に來られない人は、どうするか

主婦の方などは「……小さい子供もいますし、姑もわかってくれないんです。主人は「何とかしたほうがいい」とは言ってくれますが、横浜まで家をあけて行くことは、とてもできません。実家へ行くのさえ難しいのですから……わたしはどうしたらよいでしょうか……」と電話で涙ながらに訴えてこられる方も多い。

こんなことが数年続いた。

その間にも、出張治療などに行って、地方で治った方々からは季節の産物などをよく送って

いただいている。

このことは、患者さんがその後もたいへん身体の具合がよくて喜んでいただいていることの裏づけだと思われる。

出張治療をおこなってから以降の患者さんの治療のことも併せて考えてみると、自宅治療の方法を充実させて、当初からでもおこなえるのではないかと考えたのである。

出張治療は二泊三日の予定で出掛けて行き、集中的な治療を患者の体力・体質に合わせておこなうが、その後には本人や家族の人に指示・指導した方法によって続けてもらうというシステムである。

症状の変化に対応できるように、病気の知識・対策・治し方など、それらを図解説明して置いてくるのである。

そうして手紙やカセットテープ等で連絡をおこない指導している。

「自律神経失調症の自宅治療法」の本は以上のことをまとめて一冊にしたものである。

糖尿病は、自律神経失調であって、これらの症状を抑えてごまかしているうちに、身体保護機構の崩壊によって次第にインシュリン分泌が少なくなり、糖尿病になってしまうのだ。

このために自律神経失調症の治療に準じておこなう治療法によって、糖尿病をカバーでき得

るのである。

病気というものは、専門的知識と技術をもった専門家が治すのが本筋である。

しかし、いろいろな事情で通ってこれられない、また、出張の依頼もできない場合など多い。病気を本当に治したいと思われる方々は、来所されるのがいちばんよい。

それが最も確実な方法である。(入寮滞在する方法もある)。

しかし、来られない事情のある人や、通うことの困難な人達が、病気に対する適切な方法がないままに悪化の方向を辿って、うまいものも食わず、仕事もできず、目も見えなくなり、のけ者になって、寂しく一生を過ごされるより、この『自律神経失調症の自宅治療法』を読まれて、自宅治療を行い、少しでも回復され、苦しい症状の一つでも解消していくために努力するのが、**「正道」**であろうと考えたので、出版にふみきったものである。

現代人に黎明れいめいをもたらす
（自律神経活性化療法）
導医学

望まれる癒導医学の習得

新しい病気発生の兆し

これまで長い間、人類を死に至らしめていた伝染病も、先進文明国においては散発的にしか発生しなくなっている。

最近、新たに「エイズ」が出現して、われわれに試練を課している。

科学の進歩と人間の知性は、医学研究の分野と医療機関の発達によって、どんな困難な病気でも克服していく。そうした努力が社会を発展させているのである。

これまで、薬物による方法、衛生思想の普及、社会的資本である上・下水道設備、汚水処理の充実等が病原体性病気を駆逐していったのである。

しかし、病原体性でない身体内に生じる自家中毒的病気は、薬剤使用に依存して処理してきたこれまでの考え方や方法では、難しい面が残されていることを、ぜひ読者は十分に認識していただきたいのである。

「糖尿病」は、一種の自家中毒的な病気で、自分で自身の病気をつくってしまうものである。精密な機械器具類の導入操作によって、われわれの日常生活は数十年前より飛躍的に安楽になって、肉体の筋肉を使用しなくなっている。

この反面にあつて、高度な器械類の操作（コンピューター、電子器械、自動車等）による頭脳の駆使は、これまでの生活様式に比べようもないほど密度が高く濃厚なものになってきているのである。

このように頭脳の使用密度が高くなっているのに比べて、筋肉の動かし方は格段に減少してきている。

さらに、食事内容が豊かになり、栄養豊富になったことが、これに拍車をかけている。

前述したように、脳の栄養源は糖質のみであり、筋肉が利用しうる他の脂肪質、蛋白質を活用することができないのだ。

パン食の普及は、誤った考え方でわが国へ入ってきて、いまや米穀の代用としてのパン食から、主食に変わりつつある。

本来、西欧人は肉類やバターなどのベトベトした食品の口なおし的にパンを食したのであつて、米食の代用（または主食）にパンを食するのは間違っている。

日本人のパン食の習慣の進行は、とくに青少年において顕著である。

学校、塾などに設置された数多くのファミコン、パソコンによる頭脳の酷使と、食習慣のフ
ァッション化による脳への栄養補給減少は、自律神経機能低下を多発させているのである。

動物は全て「糖尿病」になる可能性がある

自律神経は、前述したように、魚・兎・パンダ・コアラにもある。生命維持装置として機能し、消化吸収・呼吸・循環・睡眠・排泄・生殖・免疫・ストレス対抗等を自動的にこなしている。

そのために、植物以外の生命のある動物は、すべて自律神経失調症から糖尿病となる可能性をもっている。

飼犬や猫が糖尿病になっている。

われわれの文明社会は、社会構造が複雑になり、階級意識が進んで貧富の差も生じてくると、しだいに競争意識、ひがみ・我慢・不必要な向上努力・精密複雑な機械操作の日常化など、か

つての平坦的社会に比較すると、格段にストレス——脳の疲労——が生じてきている。

これが心因性の病気を惹き起こすのである。——心因性糖尿病が最も多い。

神経症・自律神経失調・鬱(うつ)・ノイローゼなどは、こんにちでは避けがたい「病気」であることを是非認識していただきたいとおもう。

そして本人が、改善しようとしてもどうしてもならないことであり、「病気」が治っていけば、特別な努力をしなくとも自然に以前の人格、性質、行動をとり戻していくものであるから、「病気」の完治しないうちに、本人の責任や自覚をせっかちに周囲がうながしたり追究するようなことは、どうか止めてほしい。

大脳皮質(外側)の機能障害——心の病気。

大脳内部と延髄の機能障害——自律神経失調症(糖尿病)である。

これらの「病気」を治すには、脳を働かせている自律神経を活性化し、正常に働かせる以外に方法がないのである。

「自律神経活性化療法」は、痛み止めの一時期、薬を飲んで症状を抑制するように即効的ではないが、早くて二回、症状によってそれ以上の回数を要するが、根源から治していくためには多少の時間を必要とし遠回りのようでもあるが、近道である。

これらの「現代病」に対して明確な認識を持っていただき、正しい理解のもとに「糖尿病」を「自律神経活性療法」によって克服していかれることを、著者は切望してやまない。

カルテより

糖尿病の症例から（掲載分について、全て本人の了解を得てある）

Mさん（七八歳・医師）。この方は五十年余にわたって開業医を続けてこられた。当然、薬での作用については、専門家である。

症状は極めて顕著で、非常に疲れやすい、腰・肩などが痛くて動かしにくい、足が引きつるという症状。

本書の最初に述べたように、薬の使用では治りきらない糖尿病の代表的な症状を示しておられた。

Mさんは自分自身で食事の量、その他を厳重に守り、勤務している看護婦さん達も感心する程健康管理をしておられるので、特に重症糖尿病というほどではなく現役で診療をしておられる。

最初、ご相談に来所されたとき、かなりの高齢なために、私はお話を聞いてお断りするつもりでいた。

Mさんは「これまではインシュリンによって管理してきましたが、あなたの理論からすると糖尿病はインシュリンの不足は結果であって本来の原因は他にあるということがわかってきて、

本当にこの病気があなたの方法で治るものかどうかということを、一つ試してみたい。それともう一つは、自分は九十歳まで生きる目標を立てて、現在いろいろな計画をしているので、是非とも症状をとり、元気になりたい」という話をされた。

高齢の方は、治療の場合にも強い刺激は避けなければならないので、三十歳〜四十歳代の人よりも治療期間が三倍も五倍も要する。よって、半年くらいは一週間に一度は必ず通ってお出でになることができるかどうか、お尋ねしたところ、「それで結構です」というお話なのでお引き受けした。

この方は幸いに関東圏内に住んでおられるので週一回の割合でおいでになれるとご返事され、治療に来られるようになった。

Mさんが最もきついと訴えておられるのは、肩・腰の痛みで、半年くらい前から酷くなって動かせないほどだと困惑しておられた。これらも糖尿病との関連と判断しているのだとおっしゃったが、私の考え方は全く異っている。お釈迦様に説法するような感じがしたが順序であり十分説明完了してから治療にとりかかった。

全身の細胞活動に密接に結びついている自律神経に失調が生じると、それに伴っていろいろ

な苦痛が生じる。また、脾臓を働かせる神経が失調し永く続くと糖尿病になっていく。だから身体を動かす動作もゆっくりとしかできないほどの肩・腰の痛みは、糖尿病から来ているのではなく、自律神経失調症から生じており、糖尿病回復より、早めに消失してしまうことをご説明して、治療を始めていった。

四回目の治療のときには、全身の痛みがほぼ消えて、顔もきつい苦しい表情がやわらいで円満な柔和な容貌に変わってこられた。

これは殆んど患者さんに、認められる回復経過である。相談時持参されたメモには朝食後の血糖値は一時間で二三九ミリ、二時間一八七、三時間一八二、四時間一八二、早朝の空腹時が一六〇と記載されていた。

六回目の治療のときには、肩・腰と身体に感じていた全部の痛みも殆んど無くなり、非常に身体が快調になったと言われた。

そして治療が終わって帰宅されるとき、いろいろとお話をしたが、そのときに自身のメモを示されたが、それには初回から六回目までの早朝の空腹時の血糖値が記入してあった。

数値の多いときで一四七、少ないとき一二五、平均値は一三五になっていた。つまり、三回目の治療以来は血糖値が下がったことを示しているのであった。ご自身で計測しておられるか

ら間違いない。尿にも糖が全く出なくなったと言われた。

尿に糖が多く出ていない場合には案外早く血糖値が下がって、その分が身体の細胞に吸収されエネルギーとして活用されて痛み・だるい・きつい・ひきつる等は消失し快調になる。

このMさんの症例では、高齢にもかかわらず生来の体質で回復の度合いが早かった。この方の治療は七回で終了した。

しかし、この後でも半年くらいの間はきちっと自律神経活性療法を続けていないと、血糖値は下がっても、インシュリンを出し続けているランゲルハンス島の細胞の健全性までを回復し得ることは難しい。

カルテより

患者氏名 〇〇〇〇 性別 〇 年齢 〇 生年月日 〇〇/〇〇/〇〇

住所 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

職業 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

家族構成 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

既往歴 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

現病歴 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

検査結果 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

診断 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

治療 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

経過 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

退院 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

備考 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

カルテより

患者氏名 〇〇〇〇 性別 〇 年齢 〇 生年月日 〇〇/〇〇/〇〇

住所 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

職業 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

家族構成 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

既往歴 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

現病歴 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

検査結果 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

診断 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

治療 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

経過 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

退院 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

備考 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

[illegible]

★通読の方は今の状態を記入して下さい。

★開封前に行っている方は、現在の状態を
⑥〇△×をつけ月1回郵送下さい。

★施設関係相談の方は以下の項目も記入して下さい。

- 1 いっぱいはらばら(はらばら) (はらばら)
- 2 腹のつかえ(つかえ) (つかえ)
- 3 腹のつかえはどのくらいか (つかえ)
- 4 腹のつかえの程度として、結構のつかえと云ふ(つかえ)
- 5 1
- 6 2
- 7 3
- 8 4
- 9 5
- 10 6
- 11 7
- 12 8
- 13 9
- 14 10
- 15 11
- 16 12
- 17 13
- 18 14
- 19 15
- 20 16
- 21 17
- 22 18
- 23 19
- 24 20
- 25 21
- 26 22
- 27 23
- 28 24
- 29 25
- 30 26
- 31 27
- 32 28
- 33 29
- 34 30
- 35 31
- 36 32
- 37 33
- 38 34
- 39 35
- 40 36
- 41 37
- 42 38
- 43 39
- 44 40
- 45 41
- 46 42
- 47 43
- 48 44
- 49 45
- 50 46
- 51 47
- 52 48
- 53 49
- 54 50
- 55 51
- 56 52
- 57 53
- 58 54
- 59 55
- 60 56
- 61 57
- 62 58
- 63 59
- 64 60
- 65 61
- 66 62
- 67 63
- 68 64
- 69 65
- 70 66
- 71 67
- 72 68
- 73 69
- 74 70
- 75 71
- 76 72
- 77 73
- 78 74
- 79 75
- 80 76
- 81 77
- 82 78
- 83 79
- 84 80
- 85 81
- 86 82
- 87 83
- 88 84
- 89 85
- 90 86
- 91 87
- 92 88
- 93 89
- 94 90
- 95 91
- 96 92
- 97 93
- 98 94
- 99 95
- 100 96
- 101 97
- 102 98
- 103 99
- 104 100
- 105 101
- 106 102
- 107 103
- 108 104
- 109 105
- 110 106
- 111 107
- 112 108
- 113 109
- 114 110
- 115 111
- 116 112
- 117 113
- 118 114
- 119 115
- 120 116
- 121 117
- 122 118
- 123 119
- 124 120
- 125 121
- 126 122
- 127 123
- 128 124
- 129 125
- 130 126
- 131 127
- 132 128
- 133 129
- 134 130
- 135 131
- 136 132
- 137 133
- 138 134
- 139 135
- 140 136
- 141 137
- 142 138
- 143 139
- 144 140
- 145 141
- 146 142
- 147 143
- 148 144
- 149 145
- 150 146
- 151 147
- 152 148
- 153 149
- 154 150
- 155 151
- 156 152
- 157 153
- 158 154
- 159 155
- 160 156
- 161 157
- 162 158
- 163 159
- 164 160
- 165 161
- 166 162
- 167 163
- 168 164
- 169 165
- 170 166
- 171 167
- 172 168
- 173 169
- 174 170
- 175 171
- 176 172
- 177 173
- 178 174
- 179 175
- 180 176
- 181 177
- 182 178
- 183 179
- 184 180
- 185 181
- 186 182
- 187 183
- 188 184
- 189 185
- 190 186
- 191 187
- 192 188
- 193 189
- 194 190
- 195 191
- 196 192
- 197 193
- 198 194
- 199 195
- 200 196
- 201 197
- 202 198
- 203 199
- 204 200
- 205 201
- 206 202
- 207 203
- 208 204
- 209 205
- 210 206
- 211 207
- 212 208
- 213 209
- 214 210
- 215 211
- 216 212
- 217 213
- 218 214
- 219 215
- 220 216
- 221 217
- 222 218
- 223 219
- 224 220
- 225 221
- 226 222
- 227 223
- 228 224
- 229 225
- 230 226
- 231 227
- 232 228
- 233 229
- 234 230
- 235 231
- 236 232
- 237 233
- 238 234
- 239 235
- 240 236
- 241 237
- 242 238
- 243 239
- 244 240
- 245 241
- 246 242
- 247 243
- 248 244
- 249 245
- 250 246
- 251 247
- 252 248
- 253 249
- 254 250
- 255 251
- 256 252
- 257 253
- 258 254
- 259 255
- 260 256
- 261 257
- 262 258
- 263 259
- 264 260
- 265 261
- 266 262
- 267 263
- 268 264
- 269 265
- 270 266
- 271 267
- 272 268
- 273 269
- 274 270
- 275 271
- 276 272
- 277 273
- 278 274
- 279 275
- 280 276
- 281 277
- 282 278
- 283 279
- 284 280
- 285 281
- 286 282
- 287 283
- 288 284
- 289 285
- 290 286
- 291 287
- 292 288
- 293 289
- 294 290
- 295 291
- 296 292
- 297 293
- 298 294
- 299 295
- 300 296
- 301 297
- 302 298
- 303 299
- 304 300
- 305 301
- 306 302
- 307 303
- 308 304
- 309 305
- 310 306
- 311 307
- 312 308
- 313 309
- 314 310
- 315 311
- 316 312
- 317 313
- 318 314
- 319 315
- 320 316
- 321 317
- 322 318
- 323 319
- 324 320
- 325 321
- 326 322
- 327 323
- 328 324
- 329 325
- 330 326
- 331 327
- 332 328
- 333 329
- 334 330
- 335 331
- 336 332
- 337 333
- 338 334
- 339 335
- 340 336
- 341 337
- 342 338
- 343 339
- 344 340
- 345 341
- 346 342
- 347 343
- 348 344
- 349 345
- 350 346
- 351 347
- 352 348
- 353 349
- 354 350
- 355 351</

二代目社長の悲劇

Fさん（四十歳・工務店社長）。この方の症状は、口が渇く、肩が凝る、口内炎ができて痛い。体重も減少して五〇キロ。全身倦怠感で、きついということだった。健常なときは体重は六〇キロあった。

いろいろなお話から、発病の原因には、Fさんは二代目の社長で何かと先代社長と比較されるので、先代の業績に追いつこうとして相当に無理をしておられるように見受けられた。

Fさんには、副腎機能低下症状が認められる。

舌の中央部分が灼けるように痛み、これがきつくて我慢のしようがない、「まず、これが楽になれば助かります」と訴えられた。

現在、中部地方の都市に住んでおられるので、自宅治療の講習のために三日間来られたが、その期間の三日の間に症状は軽減し、肩凝りも軽くなって、舌の灼けつく痛みもさほど感じなくなり、食事進むようになってきた。

その後、自宅で治療しながら、更に週一回新幹線を利用して一泊二日で来所され、当日と翌日の二回にわたって治療を受けては帰宅することを続けられた。

六回目の治療のときには、舌の部分の痛みも殆んど消失して、肩凝りも無くなった。身体のだるさも消えて、イライラすることもなく、身体が快調に動くようになったと言われた。

八回目の治療のときは、それまで少し歩いても足がだるく、便秘気味であったのが、これらも消え、総合的に治療前に比べてずっと良好な状態に回復されてきた。

これらの複数の症状が消失していくということは、全身の細胞の中に、血液中の糖分がエネルギー源として入っていき、活動をしている証拠である。

七、八回目の治療で、身体の苦痛が消失し、その時点から本当の意味の治療が必要となってくる。

Fさんに、私がこのときご注意を申しあげたことは、自分がまだ病気であることをよく認識して、来所される前と同じような生活のバランス、仕事の適量を厳守して下さいということであった。

体調が少し良いために、仕事をしすぎたり、夜更かしをして遊び過ぎたりすることは戒めて下さいと注意をした。

無理がきくまでに体調が良くなっている為に、病気を忘れて、病気がまだ完全に治癒してはいないのに、動き回ると病気がぶり返し、症状が出てくることを説明して差しあげた。

症状が軽減して身体が軽快に動くようになればエネルギーを使う。その分だけパクパクと旺盛に食べなければならぬ。

足・腰の痛みもなくなり、食事の後で口が渇く程度だという。肩凝りも舌の痛いのも治って、口内炎もすっかり治った。

しかし、まだ体重が五〇キロというのは、どうもおかしいと不審なので、「食事は、きちっと食べているかどうか」と聞いてみると、他の病院がいう食事制限を守っていて、さらに私の所へも治療に来ているということであった。

両方をやれば早く治るだろうという考え方であったかもしれないが、これは間違っている。

田舎の古いつき合いもあり、その人間関係から病院へも行かざるを得なくなり、

親戚縁者もやいやい言って入院させようとするということだった。本人が本当にしっかりした考え方を持っていればよいのだが、二代目の気の弱い性格から自分の考えを押し通すことができず、そのためにどちらつかずの状態で、体重も増えないという不摂生の間を揺れていたわけである。

Fさんの体調は比較的によく、顔色も良いので、周囲の人々は仕事を押しつけ、仕事の荷重と食事制限からこういう状態に陥っていることがわかった。

私は「どちらか一つ、はっきりさせてください。私の言うことを守るのか、病院の言うことを採用するのか？」と尋ねて、一旦はお帰りを願ったこともあったが、続けて来られていた。しばらくして、「医者からケトン体が出ているから、入院したほうがいい」と言われたというので、詳しく聞いてみると、相変らずきちっと食事を食べていないというのだ。つまり、家庭内で家族がバクバク食べることを許さないらしい。

これまでの症状が消えてしまったので、本人は病気は治ったと思いこみがちになる。だが本当はそうではない。

血糖値が高いというのは、自分の身体の中でつくるインシュリンの量が足りないのです、その分だけ外から補って、必要なインシュリン量を確保しなければならない。そうして自前のインシュリンの量が増えてゆく分だけ外から補給する量を減少させ、体内必要量は常時一定に保つことが必要である。

Fさんは、二代目という立場で、先代社長を取り巻いていた重役達にいろいろと指図され、小さいときから働いていた重役、古参従業員たちへの負い目から全く人生を捨ててしまったような態度になっておられるようであった。

そういうことから、治療を中断し、病院へ入って、何が自分にいま一番必要なのかよくお考

えになってから、また来ていただくように申しあげたのである。

[illegible]

[illegible]

Table 1

[illegible]

財政部 2月11日 20
 查得 某人在日秋
 出外尋人啟事
 某日秋
 某人是日秋
 某人是日秋
 某人是日秋

[illegible]

出生年月	1942. 2. 22
籍贯	湖北咸宁
民族	汉族
文化程度	高中
职业	教师
工作单位	咸宁地区教育局
政治面貌	中共党员
婚姻状况	已婚
家庭成员	妻：李某某，子：李某某
主要经历	1960年高中毕业，1961年参加工作，1962年加入中国共产党。

[illegible]

生年	昭和 6 年	月 27 日	6
姓名字	[REDACTED]		
職業名	無くなつた職状		
出でるべき職状			
調査所	東京府立病院		
調査員	佐々木 清		
調査日	昭和 15 年 11 月 15 日		

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

出でるに因取

國書印の 封入れ

・ 姓名 不明
住所 〇〇

昭和 〇年 〇月 〇日
頁化の因取

三日間の受講中に、頻尿・口渇が消失

Yさん（三三歳・会社員）。この方はサービス業を営む会社の幹部社員で、経営・事務その他も忙しいという。現在、インシュリン一五単位の注射をしていると言っておられた。

Yさんの症状は、身体がだるい、トイレの回数が多く、一、二時間に一回は行く、という大変な状態で、口の中が渇くと訴えておられた。

三日間の自宅治療の講習を受けに来られ、二日目の治療前のお話しでは、それまでの尿の回数が少なくなつて、口の渇きも解消してきたといわれた。

三日目の治療を始める前のお話しでは、身体が何となくだるく、体調が余りよくないような感じがすると言っておられた。

Yさんの場合は、頻尿症状が最も苦痛であったが、三日目の講習終了時には、一回の尿の量も多くなり何回もトイレに行かなくてもすむようになった。「不思議ですネ……」と話された。

そして三日間の受講期間のあいだに先ずは、頻尿症状が解消していった。

このあとは、自宅治療で糖尿病を管理しながら、身体の中のインシュリンの量が増えていくにつれて、自分で体調と相談し、養生管理していくように指導した。

Yさんは、健康なときの体重は七五キロ、現在六〇キロ。

身長一七八センチなので、多忙な人の場合は、体重を標準の二割増しくらいにしておいて丁度よい。つまり、この方の場合八五キロくらいでよいので、これからは体重を八五キロまで努めてもっていくように健康管理するように、いろいろと療養事項をご指導した。

247-13

296

問診票

★自宅治療を行っている方は、現在の状態を
③〇△×をつけ月1回郵送下さい。

1 いっしょから職業病が生まれたか（2 年カ月位前より）

-
- 10月1日
- 10月10日
- 1981

28/11/2020

此

✕ 花が美しいと思えない、動物を可愛いと思えない

- [illegible]

娘さん・母親・父親と一家が治った

〇さん（六〇歳・飲食店経営）。この方の症状は、肩や腕に痛みがあって、少し働いても疲れやすい。

関東地方のある都市で飲食店を経営しておられ、一週間に一度通ってこられた。

この〇さんの娘さんが、母親の付添で別の病状で治療に来ておられたのだが、娘さんの回復具合から母親である自分も失調症とお医者に言われてるので治してほしいと治療が始まり、その回復過程でご主人の〇さんが、糖尿病できついと言っているのを治してほしいと治療が始まった。

〇さんは、三回目の治療のときには、肩の痛みが解消していた。

七回目の治療のときには、首から肩にかけて痛みは無いが、凝った感じがすることもあり、頻尿や口の渇きが多少あって気になる（肩の痛みが無くなった為、別の症状が気になる、感じるようになって来た）と言われた。

九回目の治療のあとは自宅治療に切り替えて、週二回ほど自宅で行うように指導した。

経過は順調で、その後、肩の痛みの再出現もなく、肩こりが生じてきていたのも感じなくな

り、便秘や口の渇きも解消したと言うことであった。

糖尿病の回復の経過は、まずいろいろな苦しい痛みなどの症状が消えて、苦しい症状があまり気にならなくなって、日常生活に差し支えがないようになれば、まず第一段階を完了したことになる。

次には、自分自身の体内のインシュリン産出量が回復してくるまで、外側からの補助薬の使用を続けることが不可欠である。

そうして自分の体重がしだいに増えているかどうかを確認する。

増加していれば血糖値、尿糖値をいちいち測り、あれこれ悩むことはない。

人により少しくらい高めに血糖値になることがある——若い人に多い。それは身体の中で糖分を新しくつくる能力（グルカゴン分泌量も増す）が、自律神経の働きで向上してきたためであって、いろいろ考えたり心配することはない。

いろいろな症状が出なくなって、体重が増えていくとき、一時的に血糖値は多少高めになってくるが、それ以降はインシュリンの自体内生産量が増すにつれ、血糖値が徐々に下降してゆく。

ほぼ完全にインシュリンの量が適切に戻るまでは、年齢差にもよるが一年〜一年半くらいかかる。

そのあいだ顕著な症状の変化がなくても、自宅治療はきちっと一日間隔、あるいは週二回は続けていくことが大切である。

糖尿病になると腎臓障害が残り、尿糖は残ることが多い。また、血糖値も理想値より多少高めになる。

私たちは、生きている限り、何らかの病気をもち、仕事、生活をしている。

尿に糖が少し出ても、血糖値が何割か理想値より高くても、正常体重で、苦痛を感じる事なく仕事、趣味、生活ができれば、それでよい。

食事制限を守ることによって血糖値が理想値内になり、尿糖もゼロとなり、糖尿病で無くなったとしても、やせ細り、寝たり起きたりの障害者となって延命しても何の意味もないし、楽しみもない。この事を全て、治療を始める前に申上げている。

通い (糖)

氏名: [redacted] 性別: [redacted] 年齢: [redacted] 生年月日: [redacted]

住所: [redacted]

電話番号: [redacted]

職業: [redacted]

家族構成: [redacted]

健康状態: [redacted]

アレルギー: [redacted]

その他: [redacted]

医師: [redacted]

薬剤師: [redacted]

検査結果: [redacted]

処方箋: [redacted]

薬名: [redacted]

用法: [redacted]

用量: [redacted]

副作用: [redacted]

禁忌: [redacted]

注意事項: [redacted]

その他: [redacted]

医師のサイン: [redacted]

薬剤師のサイン: [redacted]

検査結果のサイン: [redacted]

処方箋のサイン: [redacted]

薬名のサイン: [redacted]

用法のサイン: [redacted]

用量のサイン: [redacted]

副作用のサイン: [redacted]

禁忌のサイン: [redacted]

注意事項のサイン: [redacted]

その他: [redacted]

② 初めの方は記入下さい (糖)

氏名: [redacted] 性別: [redacted] 年齢: [redacted] 生年月日: [redacted]

住所: [redacted]

電話番号: [redacted]

職業: [redacted]

家族構成: [redacted]

健康状態: [redacted]

アレルギー: [redacted]

その他: [redacted]

医師: [redacted]

薬剤師: [redacted]

検査結果: [redacted]

処方箋: [redacted]

薬名: [redacted]

用法: [redacted]

用量: [redacted]

副作用: [redacted]

禁忌: [redacted]

注意事項: [redacted]

その他: [redacted]

医師のサイン: [redacted]

薬剤師のサイン: [redacted]

検査結果のサイン: [redacted]

処方箋のサイン: [redacted]

薬名のサイン: [redacted]

用法のサイン: [redacted]

用量のサイン: [redacted]

副作用のサイン: [redacted]

禁忌のサイン: [redacted]

注意事項のサイン: [redacted]

その他: [redacted]

氏名 氏名 5月17日 入院 病室 504号病室 出た日 5月17日 退院日 5月17日 病室の 504号病室 病室の 504号病室	氏名 氏名 5月18日 入院 病室 504号病室 出た日 5月18日 退院日 5月18日 病室の 504号病室 病室の 504号病室	氏名 氏名 5月19日 入院 病室 504号病室 出た日 5月19日 退院日 5月19日 病室の 504号病室 病室の 504号病室	氏名 氏名 5月20日 入院 病室 504号病室 出た日 5月20日 退院日 5月20日 病室の 504号病室 病室の 504号病室
--	--	--	--

医師の診断書

（この診断書は記入して下さい）

※ 病名を記載されている方は、医師の診断書（OAG）を必ず提出して下さい。

氏名 氏名 5月17日 入院

病室 504号病室

出た日 5月17日

退院日 5月17日

病室の 504号病室

病室の 504号病室

医師の診断書

（この診断書は記入して下さい）

※ 病名を記載されている方は、医師の診断書（OAG）を必ず提出して下さい。

氏名 氏名 5月18日 入院

病室 504号病室

出た日 5月18日

退院日 5月18日

病室の 504号病室

病室の 504号病室

医師の診断書

（この診断書は記入して下さい）

※ 病名を記載されている方は、医師の診断書（OAG）を必ず提出して下さい。

氏名 氏名 5月19日 入院

病室 504号病室

出た日 5月19日

退院日 5月19日

病室の 504号病室

病室の 504号病室

医師の診断書

（この診断書は記入して下さい）

※ 病名を記載されている方は、医師の診断書（OAG）を必ず提出して下さい。

氏名 氏名 5月20日 入院

病室 504号病室

出た日 5月20日

退院日 5月20日

病室の 504号病室

病室の 504号病室

医師の診断書

（この診断書は記入して下さい）

※ 病名を記載されている方は、医師の診断書（OAG）を必ず提出して下さい。

姓名	姓名	月	日	年
性别	性别	月	日	年
出生年月	出生年月	月	日	年
出生地点	出生地点	月	日	年
职业	职业	月	日	年
住址	住址	月	日	年
电话	电话	月	日	年
其他	其他	月	日	年

まじめな治療で自営業再開できた

Aさん（五七歳・農業）。この方は南九州に住んでおられる。これまで仕事上のことでいろいろと相当な苦勞をされ、現在それらを乗り切って自営しておられる。

Aさんの血糖値は空腹時に一四七、負荷テスト六〇分では二七三、一二〇分では二三〇であった。

自宅治療の講習に來所され、三日間のあいだに治療したが、二日目の治療の後で、もう気分がたいへん良くなってきて、夜間に目覚めたとき、手・足の先の感覚がもとの状態に戻ってきたような感じがすると言われた。

三日目の治療の後、少し疲れたような感じもするが気分は極めて良いといわれ、足指先にも感覚が戻ってきてジンジンと感じはじめたと喜ばれた。（長いこと正座して、しびれが生じた後、回復する時の感じだと言われた）。

Aさん自身は血糖値が少し高いといっておられるが、自分の体がそういう体質に変化したということが最大の苦しみであると訴えておられた。

Aさんは十年前には体重が七〇キロあったが、現在は六四キロ。

自分の仕事に精魂を傾けているAさんは、自宅治療も怠ることなくきちっと続けておられる。そうして、一カ月に一度は問診表をきちっと送ってこられ、指導事項を守り、とくに毎日症状を記載する記録表もきちっと書いてあるので、非常に判断がしやすい。

一月に来所、講習を受けられた。三月になって、左足のしびれの酷い痛みも軽減して、右足にもあったしびれも少なくなつて、体調も良好で、体重は六八キロに増え、しびれ感から解放されたということであった。

これらの順調な回復過程から、八月に、第一段階を完了とし、あとは一週間に一度は必ず治療をすること。また、暇なときにテレビを見ながら寝転び、治療の器具に親しむようにして時々を使うことなど、生涯にわたって留意しなければならない事項なども電話して、治療はひとまず終了した。

Aさんが最初一月に来所されてから、治療が完了したのが八月十九日だ。

Aさんは南九州で仕事も熱心に行っておられ、治療もきちっと長期間にわたって続けてこられた。このために八カ月間ではば治療完了までこられたのである。

Aさん自身は血糖値が少し高いといっておられるが、自分の体がそういう体質に変化したものと考えればよいのだと説明し、人間は年齢をとっていけば自然に白髪も増えるのと同じで、

現実の日常的な生活面で、いろいろなことがらに差し支えさえなければ、それはすべてに完璧を期すという必要はない。放置しておいてもよいことがらを心配の種にする必要のないことを、よく説明して差しあげた。三日間の講習以降、電話連絡だけで指導を受けてた人だが、自宅で筍を早期出荷栽培しておられ、二月中旬に送って戴き、所員一同「本当に喜んでおられるのだ」と私たちも嬉しくなった。

[illegible][illegible]

生化学検査票				受付	
氏名		性別	年齢	年月日	時間
1	検査項目	正常値	検出値	検査項目	正常値
2	血球数	3500-5500	3560	3	白血球数
3	ヘマトクリット	39-50	41.4	4	ヘマトクリット
5	ヘマトクリット	39-50	41.4	6	ヘマトクリット
7	ヘマトクリット	39-50	41.4	8	ヘマトクリット
9	ヘマトクリット	39-50	41.4	10	ヘマトクリット
11	ヘマトクリット	39-50	41.4	12	ヘマトクリット
13	ヘマトクリット	39-50	41.4	14	ヘマトクリット
15	ヘマトクリット	39-50	41.4	16	ヘマトクリット
17	ヘマトクリット	39-50	41.4	18	ヘマトクリット
19	ヘマトクリット	39-50	41.4	20	ヘマトクリット
21	ヘマトクリット	39-50	41.4	22	ヘマトクリット
23	ヘマトクリット	39-50	41.4	24	ヘマトクリット
25	ヘマトクリット	39-50	41.4	26	ヘマトクリット
27	ヘマトクリット	39-50	41.4	28	ヘマトクリット
29	ヘマトクリット	39-50	41.4	30	ヘマトクリット
31	ヘマトクリット	39-50	41.4	32	ヘマトクリット
33	ヘマトクリット	39-50	41.4	34	ヘマトクリット
35	ヘマトクリット	39-50	41.4	36	ヘマトクリット
37	ヘマトクリット	39-50	41.4	38	ヘマトクリット
39	ヘマトクリット	39-50	41.4	40	ヘマトクリット
41	ヘマトクリット	39-50	41.4	42	ヘマトクリット
43	ヘマトクリット	39-50	41.4	44	ヘマトクリット
45	ヘマトクリット	39-50	41.4	46	ヘマトクリット
47	ヘマトクリット	39-50	41.4	48	ヘマトクリット
49	ヘマトクリット	39-50	41.4	50	ヘマトクリット
51	ヘマトクリット	39-50	41.4	52	ヘマトクリット
53	ヘマトクリット	39-50	41.4	54	ヘマトクリット
55	ヘマトクリット	39-50	41.4	56	ヘマトクリット
57	ヘマトクリット	39-50	41.4	58	ヘマトクリット
59	ヘマトクリット	39-50	41.4	60	ヘマトクリット
61	ヘマトクリット	39-50	41.4	62	ヘマトクリット
63	ヘマトクリット	39-50	41.4	64	ヘマトクリット
65	ヘマトクリット	39-50	41.4	66	ヘマトクリット
67	ヘマトクリット	39-50	41.4	68	ヘマトクリット
69	ヘマトクリット	39-50	41.4	70	ヘマトクリット
71	ヘマトクリット	39-50	41.4	72	ヘマトクリット
73	ヘマトクリット	39-50	41.4	74	ヘマトクリット
75	ヘマトクリット	39-50	41.4	76	ヘマトクリット
77	ヘマトクリット	39-50	41.4	78	ヘマトクリット
79	ヘマトクリット	39-50	41.4	80	ヘマトクリット
81	ヘマトクリット	39-50	41.4	82	ヘマトクリット
83	ヘマトクリット	39-50	41.4	84	ヘマトクリット
85	ヘマトクリット	39-50	41.4	86	ヘマトクリット
87	ヘマトクリット	39-50	41.4	88	ヘマトクリット
89	ヘマトクリット	39-50	41.4	90	ヘマトクリット
91	ヘマトクリット	39-50	41.4	92	ヘマトクリット
93	ヘマトクリット	39-50	41.4	94	ヘマトクリット
95	ヘマトクリット	39-50	41.4	96	ヘマトクリット
97	ヘマトクリット	39-50	41.4	98	ヘマトクリット
99	ヘマトクリット	39-50	41.4	100	ヘマトクリット

檢査日 年 月 日

★国宅治療を行っている方は、現在の状態を○△×をつけ月一回報告下さい。

氏名 男・女 年 月 日生 検票日 年 月 日

★訓練の方針は、次の項目に（必ずしも、〇は、△に過ぎたもの）を基として

氏名 女

檢査日 年 月 日

① 花が美しいと思えない、動物を可愛くと思えない ② 足がでかい

- 2) よく考える
- 3) 思いあきらめる
- 4) 身体の一側だけに力を入れて働かせる
- 5) 手足の動きが
- 6) 足で歩く
- 7) 足で歩くが足が痛く
- 8) 足で歩くが足が痛く、足で歩くのをやめる
- 9) 足で歩くのをやめる
- 10) 足で歩くのをやめる
- 11) 足で歩くのをやめる
- 12) 足で歩くのをやめる
- 13) 足で歩くのをやめる
- 14) 足で歩くのをやめる
- 15) 足で歩くのをやめる
- 16) 足で歩くのをやめる
- 17) 足で歩くのをやめる
- 18) 足で歩くのをやめる
- 19) 足で歩くのをやめる
- 20) 足で歩くのをやめる
- 21) 足で歩くのをやめる
- 22) 足で歩くのをやめる
- 23) 足で歩くのをやめる
- 24) 足で歩くのをやめる
- 25) 足で歩くのをやめる
- 26) 足で歩くのをやめる
- 27) 足で歩くのをやめる
- 28) 足で歩くのをやめる
- 29) 足で歩くのをやめる
- 30) 足で歩くのをやめる
- 31) 足で歩くのをやめる
- 32) 足で歩くのをやめる
- 33) 足で歩くのをやめる
- 34) 足で歩くのをやめる
- 35) 足で歩くのをやめる
- 36) 足で歩くのをやめる
- 37) 足で歩くのをやめる
- 38) 足で歩くのをやめる
- 39) 足で歩くのをやめる
- 40) 足で歩くのをやめる
- 41) 足で歩くのをやめる
- 42) 足で歩くのをやめる
- 43) 足で歩くのをやめる
- 44) 足で歩くのをやめる
- 45) 足で歩くのをやめる
- 46) 足で歩くのをやめる
- 47) 足で歩くのをやめる
- 48) 足で歩くのをやめる
- 49) 足で歩くのをやめる
- 50) 足で歩くのをやめる
- 51) 足で歩くのをやめる
- 52) 足で歩くのをやめる
- 53) 足で歩くのをやめる
- 54) 足で歩くのをやめる
- 55) 足で歩くのをやめる
- 56) 足で歩くのをやめる
- 57) 足で歩くのをやめる
- 58) 足で歩くのをやめる
- 59) 足で歩くのをやめる
- 60) 足で歩くのをやめる
- 61) 足で歩くのをやめる
- 62) 足で歩くのをやめる
- 63) 足で歩くのをやめる
- 64) 足で歩くのをやめる
- 65) 足で歩くのをやめる
- 66) 足で歩くのをやめる
- 67) 足で歩くのをやめる
- 68) 足で歩くのをやめる
- 69) 足で歩くのをやめる
- 70) 足で歩くのをやめる
- 71) 足で歩くのをやめる
- 72) 足で歩くのをやめる
- 73) 足で歩くのをやめる
- 74) 足で歩くのをやめる
- 75) 足で歩くのをやめる
- 76) 足で歩くのをやめる
- 77) 足で歩くのをやめる
- 78) 足で歩くのをやめる
- 79) 足で歩くのをやめる
- 80) 足で歩くのをやめる
- 81) 足で歩くのをやめる
- 82) 足で歩くのをやめる
- 83) 足で歩くのをやめる
- 84) 足で歩くのをやめる
- 85) 足で歩くのをやめる
- 86) 足で歩くのをやめる
- 87) 足で歩くのをやめる
- 88) 足で歩くのをやめる
- 89) 足で歩くのをやめる
- 90) 足で歩くのをやめる
- 91) 足で歩くのをやめる
- 92) 足で歩くのをやめる
- 93) 足で歩くのをやめる
- 94) 足で歩くのをやめる
- 95) 足で歩くのをやめる
- 96) 足で歩くのをやめる
- 97) 足で歩くのをやめる
- 98) 足で歩くのをやめる
- 99) 足で歩くのをやめる
- 100) 足で歩くのをやめる

本題既のうは、ぬめに(ゆ)大奴い、Oは、△を助った xなし) 即ち付けて下さい。

- [illegible]

若年性糖尿病からの解放

Kさん（十八歳・高校生）。他の所で治療を受け始めるようになったのは十六歳のときということであった。

私の所に来られる直前まで、骨盤矯正所へ入寮して五日に一度の治療を受けて、骨盤の矯正をして、糖尿病を治すように心掛けておられたということだ。

そこで約一年間くらい治療を続けてみたのだが、何の変化もなかったということである。

Kさんは、父親と一緒に私の所に来られた。

骨盤の矯正をすることによって、神経系からの糖尿病が治るのかどうか、私にはわからないが、本人はこれまで全く効果はなかったとおっしゃっていた。

Kさんは、高校一年生になって、すぐ休学をして矯正所に入寮して骨盤の治療を受けておられたというわけだ。

Kさんは一人息子のために、両親は心配でならないと言っておられた。

しかし、本人は「矯正所へ行っても、薬でも、糖尿病は治らないし、自分は十八歳で終わるだ」と悲観的になって、寂しく笑っておられた。

それでも、私の所に来られたときは、「何とかならないでしょうか？ 少しでも社会復帰はできないでしょうか？ 高校だけは出たいという希望があるのです」と言っておられた。

Kさんの場合は、前の所で治療を受けられた経過が長期間にわたっており、相当な重症と判断されるような記録資料も多いので、ここでは要点をかいつままで説明しておく。

Kさんのいろいろな症状の中でも、一番問題となるのは白内障を併発していることであった。白い霧がかかったようにかすんで、見えにくい。そのために学校にも行けなくなつて、根本的に糖尿病を治さなければならぬという大きな課題を抱えてしまったわけである。

若いことと、目の悪化進行を止めなければならぬことから、少し荒っぽいが、自宅で行いながら来所治療も行うことにした。

最初のうち三日間自宅講習を受け、五日に一度新幹線を通つて来られた。十一月七日には尿糖が全く出ていなかったたので、自発的にインシュリンを少し減らしたが、本人は非常に気分も良いということであった。

月に一回通つて来られるのは、自宅治療のあととやることがないので、症状の記録を毎日書いてもらうことにした。後々、完治しても無理して再発させない為、読み返す為にも必要な事である。

それらの記録を載せたので、これを読まれるとKさんの治療の経過がおわかりになるとおも
う。

まず、目がよく見えるようになって、これを大変喜こんでおられた。犬の散歩で二キロくら
い歩けたが、とても気分が良かったとある。

最初に来所されたときには、インシュリン四〇単位を注射していたが、一年後には二五単位
にした。

しかし、Kさんは十二月頃に一つの失敗をした。

自分の身体の中でつくり出されるインシュリンの量の足りない分は、その分だけ外から補わ
なくてはならないということを、私は口うるさいくらい注意していたのだが、Kさんはとても
体調が良いので、ある日インシュリンを打つのを止めた。

その結果は明瞭に現われて、二三日で体重が五キロくらいも減少してしまったのだ。トイ
レの便器のタイルに糖の白い結晶がプツプツつくほどに、糖が大量に流出してしまったので、
Kさんはあわててインシュリンの注射を始めたという。

そのような如実な反応に出会って、日頃から私の言っていることが正しいということを改め
て実感されたい。人間は、失敗してみないと正しく実行しないことは、多くの患者さんで

私の注意を守らず一時的失敗した例が多く、見ている。

人間は誰でも「ペンキ塗りたて」と書いてあるのを見れば、本当に塗りたてなのか乾いているのか、手にベトベトと付くかどうかを試して触れてみたいものだが、それと同じようなことを、病気の治療の場合には絶対してはならない。

[illegible]

5月10日
 5月11日 体重54.0kg
 5月12日 体重54.0kg
 5月13日 体重54.0kg
 5月14日 体重54.0kg
 5月15日 体重54.0kg
 5月16日 体重54.0kg
 5月17日 体重54.0kg
 5月18日 体重54.0kg
 5月19日 体重54.0kg
 5月20日 体重54.0kg
 5月21日 体重54.0kg
 5月22日 体重54.0kg
 5月23日 体重54.0kg
 5月24日 体重54.0kg
 5月25日 体重54.0kg
 5月26日 体重54.0kg
 5月27日 体重54.0kg
 5月28日 体重54.0kg
 5月29日 体重54.0kg
 5月30日 体重54.0kg
 5月31日 体重54.0kg

5月10日
 5月11日 体重54.0kg
 5月12日 体重54.0kg
 5月13日 体重54.0kg
 5月14日 体重54.0kg
 5月15日 体重54.0kg
 5月16日 体重54.0kg
 5月17日 体重54.0kg
 5月18日 体重54.0kg
 5月19日 体重54.0kg
 5月20日 体重54.0kg
 5月21日 体重54.0kg
 5月22日 体重54.0kg
 5月23日 体重54.0kg
 5月24日 体重54.0kg
 5月25日 体重54.0kg
 5月26日 体重54.0kg
 5月27日 体重54.0kg
 5月28日 体重54.0kg
 5月29日 体重54.0kg
 5月30日 体重54.0kg
 5月31日 体重54.0kg

6月25日 体重20.6kg.
足指に腫れがみられる。

外。いつまでも、こんなか見てくれた佐藤の字が、あつてと
思ふ。
お婆と縁之、家に付いたのや、遅れたのを、
お婆が、明日からやうと思つた。

1/c さわった。けいへんまつとて
か、その運動はそれはいふもあつた。
。ほろり下るゝ。

11/1. 病院へ行くと、入札に成功して1300に買取りが1111
と表示がでた。明日、入札に成功すると思っ
て、未だか、白た。明日、入札に成功すると思っ
て、未だか、白た。

1/2. 水引に込められた。減いた量は、いつも19g以下が、
引にふいてもなかった。
・ ~~水引~~ 始めのときは、乗に乗った。

○國の見方は、あまり狭くないか、どうなつたか。

1/3. 田舎に居るは、
。田舎に居るは、
。田舎に居るは、

7/6・目がたはへん見ゆす、新聞の字が朝見えた。

・自動車に乗ったが、座く狭く、寒い、雪が降いた。一層痛は
 なる、膝がへし、へて、足が冷たかった。

[illegible]

LE. ZIE. 両方は大抵良い。

木の散居云、約2kmくらいいた。樹皮がむかへ

11/3 - これといふ事は、体の細胞子はいう
が、サする。ただ、い、日に二を統て、面の方か。

すけのこをあたふた

→ 2 進化は、偶然だ。

$\frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & -i \\ i & 1 \end{pmatrix}$

また、 α は α の固有値で、 α の固有値 α は、 α の固有値 α である。

いなり、三三三といふ。669(くさ)に於て、811=年
に生る。
左の字が以前は真前田に於て今も、普通の名に
あつた、年かたがたに上り出でる。

1941年12月7日、ハワイに空襲が、日本軍は1度でも本土
 空襲に胆を挫かされた。この空襲は、(1)米国の工業の基
 礎を破壊しようとしたこと、(2)米軍に大損害をあた
 せようとしたこと、(3)米国民に恐怖心をあたへよう
 としたこと、(4)米軍の士気を挫こうとしたこと、(5)

[illegible][illegible][illegible][illegible]

位に於て、例三項の如くである。但し昨日よりも成るに於て見てもよいのである。

例四。天王さま、昨日より「子」をかりた。
目には、成るに於て見てもよいのである。

$\frac{1}{20}$ の生田より、花柳子は、三三三の歌が有る。
因に、三三三と五五五の歌があるが、三三三
の歌のみをいふ。

・天とは天より天化の天化ハクニ天化カダズ。

560より1kgやせたいから、作は全く
つかないし、腹も良い。

イロハニホヘト。カキコホセニテ
イロハニホヘト。

[illegible]

おとが、これにきかぬか、それほごめんというた
まは、これにきかぬか、それほごめんというた

[illegible]

$\frac{1}{n} = \frac{1}{m} + \frac{1}{k}$, n と k は互いに素な自然数.

[illegible]
$$\frac{1}{2} \sqrt{6} \sqrt{2} \sqrt{2} \sqrt{2} = \sqrt{6} \sqrt{2} = \sqrt{12} = 2\sqrt{3}$$

空気が乾いた感じではいかと云ふ感じがする。

[illegible]

日本語検定

（今までの検定結果を記入して下さい）

氏名 年 月 日 検定 8月/21日

本試験の方法は、各級別に（仮定例）、OK、△、×の3つで、×は正解ではない。

- ① 正解ではない、誤解を招いた語句
- ② 正解である
- ③ 誤解を招いた語句
- ④ 誤解を招いた語句
- ⑤ 誤解を招いた語句
- ⑥ 誤解を招いた語句
- ⑦ 誤解を招いた語句
- ⑧ 誤解を招いた語句
- ⑨ 誤解を招いた語句
- ⑩ 誤解を招いた語句
- ⑪ 誤解を招いた語句
- ⑫ 誤解を招いた語句
- ⑬ 誤解を招いた語句
- ⑭ 誤解を招いた語句
- ⑮ 誤解を招いた語句
- ⑯ 誤解を招いた語句
- ⑰ 誤解を招いた語句
- ⑱ 誤解を招いた語句
- ⑲ 誤解を招いた語句
- ⑳ 誤解を招いた語句
- ㉑ 誤解を招いた語句
- ㉒ 誤解を招いた語句
- ㉓ 誤解を招いた語句
- ㉔ 誤解を招いた語句
- ㉕ 誤解を招いた語句
- ㉖ 誤解を招いた語句
- ㉗ 誤解を招いた語句
- ㉘ 誤解を招いた語句
- ㉙ 誤解を招いた語句
- ㉚ 誤解を招いた語句
- ㉛ 誤解を招いた語句
- ㉜ 誤解を招いた語句
- ㉝ 誤解を招いた語句
- ㉞ 誤解を招いた語句
- ㉟ 誤解を招いた語句
- ㊱ 誤解を招いた語句
- ㊲ 誤解を招いた語句
- ㊳ 誤解を招いた語句
- ㊴ 誤解を招いた語句
- ㊵ 誤解を招いた語句
- ㊶ 誤解を招いた語句
- ㊷ 誤解を招いた語句
- ㊸ 誤解を招いた語句
- ㊹ 誤解を招いた語句
- ㊺ 誤解を招いた語句
- ㊻ 誤解を招いた語句
- ㊼ 誤解を招いた語句
- ㊽ 誤解を招いた語句
- ㊾ 誤解を招いた語句
- ㊿ 誤解を招いた語句

日本語検定

（今までの検定結果を記入して下さい）

氏名 年 月 日 検定 8月/21日

本試験の方法は、各級別に（仮定例）、OK、△、×の3つで、×は正解ではない。

- ① 正解ではない、誤解を招いた語句
- ② 正解である
- ③ 誤解を招いた語句
- ④ 誤解を招いた語句
- ⑤ 誤解を招いた語句
- ⑥ 誤解を招いた語句
- ⑦ 誤解を招いた語句
- ⑧ 誤解を招いた語句
- ⑨ 誤解を招いた語句
- ⑩ 誤解を招いた語句
- ⑪ 誤解を招いた語句
- ⑫ 誤解を招いた語句
- ⑬ 誤解を招いた語句
- ⑭ 誤解を招いた語句
- ⑮ 誤解を招いた語句
- ⑯ 誤解を招いた語句
- ⑰ 誤解を招いた語句
- ⑱ 誤解を招いた語句
- ⑲ 誤解を招いた語句
- ⑳ 誤解を招いた語句
- ㉑ 誤解を招いた語句
- ㉒ 誤解を招いた語句
- ㉓ 誤解を招いた語句
- ㉔ 誤解を招いた語句
- ㉕ 誤解を招いた語句
- ㉖ 誤解を招いた語句
- ㉗ 誤解を招いた語句
- ㉘ 誤解を招いた語句
- ㉙ 誤解を招いた語句
- ㉚ 誤解を招いた語句
- ㉛ 誤解を招いた語句
- ㉜ 誤解を招いた語句
- ㉝ 誤解を招いた語句
- ㉞ 誤解を招いた語句
- ㉟ 誤解を招いた語句
- ㊱ 誤解を招いた語句
- ㊲ 誤解を招いた語句
- ㊳ 誤解を招いた語句
- ㊴ 誤解を招いた語句
- ㊵ 誤解を招いた語句
- ㊶ 誤解を招いた語句
- ㊷ 誤解を招いた語句
- ㊸ 誤解を招いた語句
- ㊹ 誤解を招いた語句
- ㊺ 誤解を招いた語句
- ㊻ 誤解を招いた語句
- ㊼ 誤解を招いた語句
- ㊽ 誤解を招いた語句
- ㊾ 誤解を招いた語句
- ㊿ 誤解を招いた語句

上旬 第25頁

今日の内容を要約記入して下さい

★ 毛筆で練習をねがっている方は、練習の成果をここに書くか一紙提出して下さい

姓名 氏名

学年 第 年 学期 第 学期

※ 題名の「マ」は、次の順に (A) 漢字、(B) かな、(C) ひらがな、(D) 英語で書いて下さい

① 正解していると思ひ、誤解を招きやすいと思ひ、
 誤りがある
 ② 正解の一に付いた誤りがある
 ③ 誤解を招いてゐると思ひ、誤りがある
 ④ 正解がある
 ⑤ 誤りがない
 ⑥ 誤りがある、誤りがない
 ⑦ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑧ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑨ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑩ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑪ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑫ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑬ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑭ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑮ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑯ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑰ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑱ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑲ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑳ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉑ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉒ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉓ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉔ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉕ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉖ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉗ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉘ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉙ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉚ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉛ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉜ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉝ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉞ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉟ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊱ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊲ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊳ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊴ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊵ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊶ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊷ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊸ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊹ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊺ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊻ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊼ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊽ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊾ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊿ 正解、誤りがある、誤りがない

① 正解していると思ひ、誤解を招きやすいと思ひ、
 誤りがある
 ② 正解の一に付いた誤りがある
 ③ 誤解を招いてゐると思ひ、誤りがある
 ④ 正解がある
 ⑤ 誤りがない
 ⑥ 誤りがある、誤りがない
 ⑦ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑧ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑨ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑩ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑪ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑫ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑬ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑭ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑮ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑯ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑰ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑱ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑲ 正解、誤りがある、誤りがない
 ⑳ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉑ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉒ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉓ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉔ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉕ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉖ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉗ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉘ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉙ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉚ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉛ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉜ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉝ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉞ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㉟ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊱ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊲ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊳ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊴ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊵ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊶ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊷ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊸ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊹ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊺ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊻ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊼ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊽ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊾ 正解、誤りがある、誤りがない
 ㊿ 正解、誤りがある、誤りがない

325

質問紙

(今の年代層を記入して下さい)

* 回答の際の方針は、次の通りに (○) を打記し、(×) を打記して下さい。

氏名 XXXXXXXXXX 年 月 日 性別 XXXX 年齢 XXXX 職業 XXXX

- ① ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

質問紙

(今の年代層を記入して下さい)

* 回答の際の方針は、次の通りに (○) を打記し、(×) を打記して下さい。

氏名 XXXXXXXXXX 年 月 日 性別 XXXX 年齢 XXXX 職業 XXXX

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

問診票

(今の状況を書き記入して下さい)

* 現在、病状を訴えている方は、現在の病状を○にチェックし、経過を述べて下さい。

氏名 [redacted] 年 月 日 性別 [redacted] 年齢 [redacted] 科 [redacted]

本患歴の方には、次の項目に (○) を記入し、OH、ADL 状況を、(×) を記入して下さい。

① 症状がひどいと思える、診断を可憐に思える

② よく夢がある

③ 食欲が落ち、体重が減少している

④ 夜間の睡眠が浅い、頻りに目覚める

⑤ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑥ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑦ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑧ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑨ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑩ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑪ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑫ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑬ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑭ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑮ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑯ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑰ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑱ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑲ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

⑳ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉑ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉒ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉓ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉔ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉕ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉖ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉗ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉘ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉙ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉚ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉛ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉜ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉝ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉞ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㉟ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊱ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊲ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊳ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊴ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊵ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊶ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊷ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊸ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊹ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊺ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊻ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊼ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊽ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊾ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

㊿ 気分が落ち込み、憂鬱な気分がある

問診票

★ 問診票は正確に記入して下さい

氏名 性別 年齢 職業 住居

★ 通院の方には、次の通りに（※）を記入し、OKAY した後に、医師に提出して下さい

- ① 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ② よく寝る
 ③ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ④ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑤ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑥ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑦ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑧ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑨ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑩ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑪ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑫ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑬ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑭ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑮ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑯ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑰ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑱ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑲ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ⑳ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉑ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉒ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉓ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉔ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉕ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉖ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉗ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉘ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉙ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉚ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉛ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉜ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉝ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉞ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㉟ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊱ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊲ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊳ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊴ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊵ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊶ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊷ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊸ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊹ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊺ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊻ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊼ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊽ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊾ 花が美しいと思えない、花を愛していない
 ㊿ 花が美しいと思えない、花を愛していない

会社解散の危機から脱出

Bさん(五十歳・会社社長)。この方は、一年経った現在でも一カ月に一度は必ず治療に通って来られている。

会社を二つも三つも経営しておられて多忙なお仕事の社長さんであるが、私の顔を見る度に「やあ、本当に助かりました。再起不能かと思っていたのですが、生き返りましたよ。おかげで仕事ができ感謝しております」「先生のおっしゃることをよく守って、無理しないようにやっております」と繰り返し返されるのを聞くと、さすが流石にトップに立つ人の心構えといったものを感ぜられるのである。

最初にご相談に来所されたときには、いろいろな症状が重なり、会社経営の一切の仕事を止めなければならぬというところまで追い込まれ、精神的にも肉体的にも非常に苦しんでおられる最中であつた。

Bさんの治療を私は慎重に(仕事が出来ないほど生体反応が生じる体質である)進めていきながら、体調が良くなられたので、四回目の治療の後で自宅治療に切り替えてもいいがとお話をしたのだが、「早く治したいのもう少し、通って来ますので、よろしく願います」と

いうことで、六回目の治療のあとから自宅治療の講習を受けられるようになった。(風邪をひいてる時はいろいろ覚えられないのと同じく、少し良くなってから講習をする)

Bさんは、自宅で一日間隔に自分で治療を続け、三週間に一度きまった時間に通って来られるようになった。

それからは身体の調子が良くて、しだいに仕事もできるようになってきたと喜こんでおられた。

血糖値や尿に糖が出るのも少しは下がってきた。回復には時間がかかる。

Bさんは「とにかく仕事ができるから」と言っておられた。

そこで私は詳しく病気のメカニズムについて、もう一度お話した。「糖尿病」そのものは身体の中のランゲルハンス島の回復およびその働きを充実して、克服しなければならない。自律神経の働きを十分高めておいてインシュリンを出す細胞を細胞分裂作用で増殖させ、病気を治してゆく必要がある、そのために一定の期間が必要になってくる。

六カ月から一年くらいの期間が最も大切で、その間はきちっと療養をしてくださいと、Bさんに申しあげた。

そしてさらに付け加えて、「いろいろな症状は早く解消していきますが、それで治ったもの

と、決して勘違いなさらないように」と療養期の摂生について注意事項を説明して差しあげたのである。

B 266

初めての(経験)上お出し下さる

2001

自宅

① 氏名 ② 性別 ③ 年齢 ④ 職業 ⑤ 学歴 ⑥ 収入 ⑦ 家族構成 ⑧ 住居 ⑨ 通学 ⑩ 通勤 ⑪ 趣味 ⑫ 特技 ⑬ 資格 ⑭ 免許 ⑮ 外国語 ⑯ 旅行 ⑰ 読書 ⑱ 映画 ⑲ 音楽 ⑳ 運動 ㉑ 宗教 ㉒ 政治 ㉓ 経済 ㉔ 社会 ㉕ 文化 ㉖ 芸術 ㉗ 科学 ㉘ 技術 ㉙ 医療 ㉚ 法律 ㉛ 教育 ㉜ 環境 ㉝ 自然 ㉞ 宇宙 ㉟ 歴史 ㊱ 地理 ㊲ 生物 ㊳ 化学 ㊴ 物理 ㊵ 数学 ㊶ 文学 ㊷ 言語 ㊸ 哲学 ㊹ 心理学 ㊺ 社会学 ㊻ 政治学 ㊼ 経済学 ㊽ 法学 ㊾ 教育学 ㊿ 医学 ㊽㊾㊿ 〇〇〇〇

※ 調査の際のアンケートは、次の項目に 〇(大同意)、△(大同意)、×(大同意)を付けて下さい。

1. 生活の質が向上している。(大同意)
2. 生活の質が向上している。(大同意)
3. 生活の質が向上している。(大同意)
4. 生活の質が向上している。(大同意)
5. 生活の質が向上している。(大同意)
6. 生活の質が向上している。(大同意)
7. 生活の質が向上している。(大同意)
8. 生活の質が向上している。(大同意)
9. 生活の質が向上している。(大同意)
10. 生活の質が向上している。(大同意)
11. 生活の質が向上している。(大同意)
12. 生活の質が向上している。(大同意)
13. 生活の質が向上している。(大同意)
14. 生活の質が向上している。(大同意)
15. 生活の質が向上している。(大同意)
16. 生活の質が向上している。(大同意)
17. 生活の質が向上している。(大同意)
18. 生活の質が向上している。(大同意)
19. 生活の質が向上している。(大同意)
20. 生活の質が向上している。(大同意)
21. 生活の質が向上している。(大同意)
22. 生活の質が向上している。(大同意)
23. 生活の質が向上している。(大同意)
24. 生活の質が向上している。(大同意)
25. 生活の質が向上している。(大同意)
26. 生活の質が向上している。(大同意)
27. 生活の質が向上している。(大同意)
28. 生活の質が向上している。(大同意)
29. 生活の質が向上している。(大同意)
30. 生活の質が向上している。(大同意)
31. 生活の質が向上している。(大同意)
32. 生活の質が向上している。(大同意)
33. 生活の質が向上している。(大同意)
34. 生活の質が向上している。(大同意)
35. 生活の質が向上している。(大同意)
36. 生活の質が向上している。(大同意)
37. 生活の質が向上している。(大同意)
38. 生活の質が向上している。(大同意)
39. 生活の質が向上している。(大同意)
40. 生活の質が向上している。(大同意)
41. 生活の質が向上している。(大同意)
42. 生活の質が向上している。(大同意)
43. 生活の質が向上している。(大同意)
44. 生活の質が向上している。(大同意)
45. 生活の質が向上している。(大同意)
46. 生活の質が向上している。(大同意)
47. 生活の質が向上している。(大同意)
48. 生活の質が向上している。(大同意)
49. 生活の質が向上している。(大同意)
50. 生活の質が向上している。(大同意)
51. 生活の質が向上している。(大同意)
52. 生活の質が向上している。(大同意)
53. 生活の質が向上している。(大同意)
54. 生活の質が向上している。(大同意)
55. 生活の質が向上している。(大同意)
56. 生活の質が向上している。(大同意)
57. 生活の質が向上している。(大同意)
58. 生活の質が向上している。(大同意)
59. 生活の質が向上している。(大同意)
60. 生活の質が向上している。(大同意)
61. 生活の質が向上している。(大同意)
62. 生活の質が向上している。(大同意)
63. 生活の質が向上している。(大同意)
64. 生活の質が向上している。(大同意)
65. 生活の質が向上している。(大同意)
66. 生活の質が向上している。(大同意)
67. 生活の質が向上している。(大同意)
68. 生活の質が向上している。(大同意)
69. 生活の質が向上している。(大同意)
70. 生活の質が向上している。(大同意)
71. 生活の質が向上している。(大同意)
72. 生活の質が向上している。(大同意)
73. 生活の質が向上している。(大同意)
74. 生活の質が向上している。(大同意)
75. 生活の質が向上している。(大同意)
76. 生活の質が向上している。(大同意)
77. 生活の質が向上している。(大同意)
78. 生活の質が向上している。(大同意)
79. 生活の質が向上している。(大同意)
80. 生活の質が向上している。(大同意)
81. 生活の質が向上している。(大同意)
82. 生活の質が向上している。(大同意)
83. 生活の質が向上している。(大同意)
84. 生活の質が向上している。(大同意)
85. 生活の質が向上している。(大同意)
86. 生活の質が向上している。(大同意)
87. 生活の質が向上している。(大同意)
88. 生活の質が向上している。(大同意)
89. 生活の質が向上している。(大同意)
90. 生活の質が向上している。(大同意)
91. 生活の質が向上している。(大同意)
92. 生活の質が向上している。(大同意)
93. 生活の質が向上している。(大同意)
94. 生活の質が向上している。(大同意)
95. 生活の質が向上している。(大同意)
96. 生活の質が向上している。(大同意)
97. 生活の質が向上している。(大同意)
98. 生活の質が向上している。(大同意)
99. 生活の質が向上している。(大同意)
100. 生活の質が向上している。(大同意)

[illegible][illegible]

品名 肉くたつた風状

出工費大區分

共計 12,200 円

出工費大區分

共計 12,200 円

出工費大區分

共計 12,200 円

出工費大區分

共計 12,200 円

姓名: 李永刚 (男) 2011
 出生年月: 1984
 身份证号: 340102198401010011
 联系电话: 13955010011
 联系地址: 安徽省合肥市包河区
 工作单位: 安徽省公安厅

姓名: 李永刚 (男) 2011
 出生年月: 1984
 身份证号: 340102198401010011
 联系电话: 13955010011
 联系地址: 安徽省合肥市包河区
 工作单位: 安徽省公安厅

[illegible][illegible]

昭和 元年 7月 日 (7)

氏名 [REDACTED] 真(う)た雄次

出生地 大塚村

住居 大塚村
大塚 2142

出生期 昭和 12.8.14

昭和 12.8.14

[illegible][illegible]

患者氏名 〇〇〇〇〇〇〇〇 出生年月日 〇月〇日 性別 〇 入院年月日 〇月〇日 退院年月日 〇月〇日 主治医師 〇〇〇〇〇〇 担当医師 〇〇〇〇〇〇 看護士 〇〇〇〇〇〇 薬剤師 〇〇〇〇〇〇 検査技師 〇〇〇〇〇〇 理学療法士 〇〇〇〇〇〇 作業療法士 〇〇〇〇〇〇 言語聴覚士 〇〇〇〇〇〇 栄養士 〇〇〇〇〇〇 社会福祉士 〇〇〇〇〇〇 介護職員 〇〇〇〇〇〇 その他 〇〇〇〇〇〇	入院理由 〇〇〇〇〇〇 病歴 〇〇〇〇〇〇 検査結果 〇〇〇〇〇〇 治療 〇〇〇〇〇〇 経過 〇〇〇〇〇〇 退院理由 〇〇〇〇〇〇 退院時状態 〇〇〇〇〇〇 退院後予定 〇〇〇〇〇〇 医師 〇〇〇〇〇〇 看護士 〇〇〇〇〇〇 薬剤師 〇〇〇〇〇〇 検査技師 〇〇〇〇〇〇 理学療法士 〇〇〇〇〇〇 作業療法士 〇〇〇〇〇〇 言語聴覚士 〇〇〇〇〇〇 栄養士 〇〇〇〇〇〇 社会福祉士 〇〇〇〇〇〇 介護職員 〇〇〇〇〇〇 その他 〇〇〇〇〇〇
--	--

回春で妻の信頼回復できた

Nさん（四十歳・会社社長）。ご相談に来られたときには、既にいろいろな症状が悪い方向にかなり進んでおられた。

Nさんは、創業経営者で、その社長をしておられるのだが、これまで病気のために殆んどの仕事人を任せておられ、従業員からも信頼を失ってきたとおっしゃって非常に落ち込んでおられた。

Nさんの顕著な症状はいろいろあったが、目が見えにくい、身体がだるい、喉が渇く、足のしびれ、インポテンツ、頻尿、根気がなくてすぐ疲れてしまい、仕事にならないと訴えておられた。

現在、Nさんが住んでおられるのは中国地方のある都市で距離的に遠いこともあって、先ず三日間の自宅治療の受講から始めたいと言われた。

三日間の自宅講習によっていろいろな症状も多少は軽減され、夜間も珍しく眠れるようになったと、三日間の治療の後でおっしゃった。

それから一カ月に一度来所され、八月にお出でになったときには、体重も最初より三キロ増

加してきて、体調もよく、好きなアルコールの量が増え、身体も軽やかに動いて、これまでのような疲労感がなくなり、インポテンツであったのも回復してきたようで希望が湧いてきたと嬉しそうにおっしゃっておられた。

Nさんの手・足のしびれは、神経系の栄養障害から発生したものであって、しばらく治療に時間をかけて指導とおりの治療を続けていけば、確実に回復していく。

Nさんは、性格的に多少お人よしなところがあって、会社経営に伴ういろいろなストレスが溜って内攻的に悩まれる傾向が見受けられるので、生活態度の改善について、病気と関連性が生じる事をご指導申しあげた。

その後の回復経過は順調で、もう仕事に携わっても能率的に活動ができるし、仕事がらみの営業は酒席も多く、そのために好きなアルコール量がどうしても増えるとおっしゃっていた。

そうしたNさんの嬉しそうな姿を見ながら、お酒を飲むときのごまかし方や応待どきの息抜き方法も療養の一項目であることをお教えした。Nさんは現在では、何の支障もなく毎日仕事に励んでおられる。

自宅

住所：〒111-0000 東京都千代田区千代田 1-1-1

電話番号：03-1234-5678

家族構成：夫、妻、子（2人）

収入：年収 100万円

支出：月 10万円

貯蓄：100万円

ローン：なし

その他：なし

のにおし下さい。

お名前：〇〇〇〇

住所：〒111-0000 東京都千代田区千代田 1-1-1

電話番号：03-1234-5678

家族構成：夫、妻、子（2人）

収入：年収 100万円

支出：月 10万円

貯蓄：100万円

ローン：なし

その他：なし

自

住所：〒111-0000 東京都千代田区千代田 1-1-1

電話番号：03-1234-5678

家族構成：夫、妻、子（2人）

収入：年収 100万円

支出：月 10万円

貯蓄：100万円

ローン：なし

その他：なし

薬無効の血糖値が下った

SBさん42才、自分で会社を二社経営しておられ、症状がひどく、自宅から電話で会社へ指示を出しておられた。奥さんと相談に来られ、仕事の無理が、たまたまのが原因と思うとのこと。インシュリンなど薬物を使用しても、血糖値が下らないので、どうにも困っている、病院でも、自分も、どうしたものか、治る出口が見つからず、また、体がきつく、足のシビレもひどく、家でゴロゴロしており、『これで終るか』と思い悩んでいる毎日であった。現在治療中で、治療四回目である。

糖 検査項目 通い

氏名 SBさん 年齢 42才 生年月日 2/1/11

性別 女

〒 100-0001 都道府県 東京都 市区町村 千代田区 丁目 1 番 1 号

現在の病状は何ですか。
糖尿病
どのような事を感じたいとおっしゃいますか。
血糖値が下がらない、空腹時に血糖値が150mg/dL以上ある、
それ以外から生じたか
糖尿病 20年経過、
生じたきっかけがありますか
ストレス、食事、運動不足、
体の部分で異常の感じとる(痛み、しびれ、けいれんなど)ありますか。
足指のしびれ、肩こり、腰痛、
持病(糖尿病)がありますか、その発生年を。
糖尿病 20年経過、
血圧(収縮・拡張)にラッパ、糖尿病、高血圧、糖尿病、高コレステロール、脂質異常症、
血圧で治療がある場合、その薬と副作用はありましたか。
降圧剤、
現在の服薬と作用内容、年数をくわしく。
インシュリン、
過去の主な検査結果と作用内容、年数をくわしく。
血糖値、
既往、過去において非常に重たい事がありましたか(多忙、失職、肉親の死、事故)。
住居(糖尿病と過去)を、血糖値(血糖値)。
自宅、

現在の思い、状態を書いて下さい

・体の異常

1. 血糖値が下がらない 2. 空腹時に血糖値が150mg/dL以上ある
3. それ以外から生じたか 4. 糖尿病 20年経過
5. 生じたきっかけがありますか 6. ストレス、食事、運動不足
7. 体の部分で異常の感じとる(痛み、しびれ、けいれんなど)ありますか 8. 足指のしびれ、肩こり、腰痛
9. 持病(糖尿病)がありますか、その発生年を 10. 糖尿病 20年経過

・心の状態

1. 血糖値が下がらない 2. 空腹時に血糖値が150mg/dL以上ある
3. それ以外から生じたか 4. 糖尿病 20年経過
5. 生じたきっかけがありますか 6. ストレス、食事、運動不足
7. 体の部分で異常の感じとる(痛み、しびれ、けいれんなど)ありますか 8. 足指のしびれ、肩こり、腰痛
9. 持病(糖尿病)がありますか、その発生年を 10. 糖尿病 20年経過

67kg 25歳

身長	体重	BMI	年齢	性別	糖尿病	高血圧	脂質異常症	腎臓病	肝臓病	心臓病	脳血管病	がん	その他
165cm	67kg	25.0	42歳	女	糖尿病	高血圧	脂質異常症	腎臓病	肝臓病	心臓病	脳血管病	がん	その他

II 相対表

(今の状況を確認し記入して下さい)

★ 調査対象者名を記入して下さい。調査対象者の氏名を記入して下さい。

氏名: [] 性別: [] 年齢: [] 職業: []

★ 調査対象者の住所を記入して下さい。

住所: []

★ 調査対象者の職業を記入して下さい。

職業: []

★ 調査対象者の家族構成を記入して下さい。

家族構成: []

★ 調査対象者の健康状態を記入して下さい。

健康状態: []

★ 調査対象者の生活習慣を記入して下さい。

生活習慣: []

★ 調査対象者の社会生活状況を記入して下さい。

社会生活状況: []

★ 調査対象者の心理状態を記入して下さい。

心理状態: []

★ 調査対象者の経済状況を記入して下さい。

経済状況: []

★ 調査対象者の教育状況を記入して下さい。

教育状況: []

★ 調査対象者の婚姻状況を記入して下さい。

婚姻状況: []

★ 調査対象者の子育て状況を記入して下さい。

子育て状況: []

★ 調査対象者の高齢者生活を記入して下さい。

高齢者生活: []

★ 調査対象者の障害者生活を記入して下さい。

障害者生活: []

★ 調査対象者の外国人生活を記入して下さい。

外国人生活: []

★ 調査対象者のその他生活を記入して下さい。

その他生活: []

調査対象者の氏名: []

調査対象者の住所: []

調査対象者の職業: []

調査対象者の家族構成: []

調査対象者の健康状態: []

調査対象者の生活習慣: []

調査対象者の社会生活状況: []

調査対象者の心理状態: []

調査対象者の経済状況: []

調査対象者の教育状況: []

調査対象者の婚姻状況: []

調査対象者の子育て状況: []

調査対象者の高齢者生活: []

調査対象者の障害者生活: []

調査対象者の外国人生活: []

調査対象者のその他生活: []

6. 投薬は、61年4月ごろから受けていて4年 ヶ月間ぐらい服用

7. 健康時の体重 (65kg) 現在の体重 (60kg)

● 61.4~63.2g イソシリン量を誤解し、医師指示の $\frac{1}{4}$ のみの投与であった。

● その為、血糖値が下らず、常に400~600以上あった。

● 体重の減少が続く。

● 62年夏、汗がまったく出ず苦しかった。医師による特別な指示ナシ。

● 62年10月頃より掌丸付近が痛みだす。(ヒリヒリする痛み)

● 63年2月頃より首から下、足にかけて電気が走る痛み及びヒリヒリする痛みが強くなり同年4月中旬には歩行困難となる。

● 体重が42kg迄減少、24時間、痛みの為眠ることが出来ない。

● 大学病院にて神経、筋肉、その他の検査をするも異常ナシ。

● 63年5月2日、~~東京大学~~ 医大にて診察後、直ちに関係する東京 ~~大学~~ 病院に入院。歩行訓練を始め、6月中旬退院。体重の増加が始まる。

● 現在、歩行に問題ナシ、小走り程度は出来る。夜も眠れる。

現在 イソシリン量 朝1回 ヒューマリン N24単位

その他 ビタミンE 朝夕 各1 R4単位

通常ビタミン剤

漢方 〃 〃 〃

本問の答えは今の状態を記入して下さい
○△×をつけ月1回調達下さい
本問の答えは今の状態を記入して下さい
1. 現在の体重(65kg) 現在の体重(60kg)
2. 現在の血糖値(150mg/dl) 現在の血糖値(150mg/dl)
3. 現在の血圧(110/70mmHg) 現在の血圧(110/70mmHg)
4. 現在の体温(36.5℃) 現在の体温(36.5℃)
5. 現在の脈拍(70b/min) 現在の脈拍(70b/min)
6. 現在の呼吸数(16/min) 現在の呼吸数(16/min)
7. 現在の尿量(1.5L/day) 現在の尿量(1.5L/day)
8. 現在の食事量(1.5L/day) 現在の食事量(1.5L/day)
9. 現在の睡眠時間(7h/day) 現在の睡眠時間(7h/day)
10. 現在の運動量(1.5L/day) 現在の運動量(1.5L/day)
11. 現在の痛み(1.5L/day) 現在の痛み(1.5L/day)
12. 現在の気分(1.5L/day) 現在の気分(1.5L/day)
13. 現在の健康状態(1.5L/day) 現在の健康状態(1.5L/day)
14. 現在の生活習慣(1.5L/day) 現在の生活習慣(1.5L/day)
15. 現在の家族関係(1.5L/day) 現在の家族関係(1.5L/day)
16. 現在の社会生活(1.5L/day) 現在の社会生活(1.5L/day)
17. 現在の仕事(1.5L/day) 現在の仕事(1.5L/day)
18. 現在の趣味(1.5L/day) 現在の趣味(1.5L/day)
19. 現在の交友関係(1.5L/day) 現在の交友関係(1.5L/day)
20. 現在の結婚状況(1.5L/day) 現在の結婚状況(1.5L/day)
21. 現在の育児状況(1.5L/day) 現在の育児状況(1.5L/day)
22. 現在の介護状況(1.5L/day) 現在の介護状況(1.5L/day)
23. 現在の医療状況(1.5L/day) 現在の医療状況(1.5L/day)
24. 現在の薬物状況(1.5L/day) 現在の薬物状況(1.5L/day)
25. 現在の手術状況(1.5L/day) 現在の手術状況(1.5L/day)
26. 現在の検査状況(1.5L/day) 現在の検査状況(1.5L/day)
27. 現在の治療状況(1.5L/day) 現在の治療状況(1.5L/day)
28. 現在の経過観察状況(1.5L/day) 現在の経過観察状況(1.5L/day)
29. 現在のフォローアップ状況(1.5L/day) 現在のフォローアップ状況(1.5L/day)
30. 現在の評価状況(1.5L/day) 現在の評価状況(1.5L/day)

4月12日 【体調・症状・尿糖 0 + ⊕ ++ +++】 ・前日19:30頃就寝 朝6:00起床 ・朝迄一度も目さめる事はなし ・ぐっすり寝る事が出来た	4月13日 【体調・症状・尿糖 0 + ⊕ ++ +++】 ・前日23:00すぎ就寝 朝6:00起床 ・前日22:00頃160kcal程パンを食べる ・朝尿糖の結果がよいのに驚いた ・体調は変化ナシ	4月14日 【体調・症状・尿糖 0 + ⊕ ++ +++】 ・尿糖の結果が少し良くない ・体調に変化ナシ	4月15日 【体調・症状・尿糖 0 + ⊕ ++ +++】 ・特に変化ナシ ・今日は竹の子持りの予定	4月16日 【体調・症状・尿糖 0 + ⊕ ++ +++】 ・前日、竹の子持りを2時間程実施 ・特に疲労感なし	4月17日 【体調・症状・尿糖 0 + ⊕ ++ +++】 ・体重計測 61kg ・体調に変化ナシ	4月18日 【体調・症状・尿糖 0 + ⊕ ++ +++】 ・尿糖が⊙になった。近年まれである ・体調に変化ナシ	4月19日 【体調・症状・尿糖 0 + ⊕ ++ +++】 ・今日からインシュリンを4単位減らす (R4、N20)
--	---	--	--	---	---	--	--

※尿検査及び体重測定は朝食前に実施

気丈な主婦の糖尿病

四十六歳の家庭の主婦、独身の時は英文タイピストをやっていたというくらいだから、勉強家ではなかなかの働き者であるし、神経を使う仕事をされたに違いない。

少々男っぽい感じがする。男っぽいというのは女性の体格を持っても男性ホルモンが多いということを示している。

つまり、男っぽさ、女らしさは性ホルモンの量によって傾向が決まる。男性も女性も副腎から男性ホルモン女性ホルモンを僅かに分泌しており、腋^{わき}や股間に発毛しているのは男性ホルモンの働きによってであり、体の活動で、活発さの維持は男性ホルモンによって大脳皮質の働きが管理され、『自分から進んで物事をやっていく』状態を作り出す。

女性ホルモンは卵巣等で多く作られ、女性の容貌を維持すると共に、男性同様、当然大脳皮質にも十分働き、女らしさの雰囲気、性格、しぐさ、喋り方、考え方など、をつくり出す。

また、男性ホルモンが男性に多いのは睾丸で多く作られ、多く脳に働きかけ、脳の働きを支配的、冒険に立ち向かいたくなる、危険をかえりみず立ち向かってゆくなど、非常に活発に活動し行動する、そのような脳の状態が発生してくる。

男性でも男性ホルモンを作り出す割合が少ないと女性的傾向の行動や考え方になる。

この相談の方は男性的な体型をして肩幅が広く、臀部や乳房が小さい。

こうゆうタイプの人は非常に働き者で、家の中でも炊事洗濯などテキパキと処理してしまい、時間が余ってしまうから、さらに何か仕事をやったり、その他外へ出て働かないまでも、家中でなんだかんだと捜し出して体を動かすタイプの人である。

どの本にも書いている通り、人間の神経の仕組みというのは体の大きさにより関係なくほとんど一緒であり変わらない。ただ脳の大きさが少し大きい小さいかでその活動をする時間つまり神経的なスタミナが多少は違ってくる。

しかし、スタミナがある人はそれなりにたくさんやってしまうから、少なくやる人と何も変わらないように神経が疲れる。

仕事の結果が多く出るかどうかという事で疲れそのものは同じである。

相談に来られたとき付き添いなしでこられた。家族に迷惑を掛けたくないという気持ちであったので一人で来られたが、治療は付き添いが必要ならば引き受けない。

理由は糖尿病であっても、糖尿病だけが存在している人は極めて稀である。つまり、自律神経失調の結果発生する糖尿病であるから、他の神経や、精神的な症状、あるいは自律神経失調

の症状もある。自覚していないだけの事で、専門的に見ると必ずある。

心の病気や精神的な障害というのは、大脳皮質を管理する自律神経の働きがおかしくなったときに、心の病気として発生をするから、自律神経の障害がある場合には必ず大なり小なり心の病気が発生をしている。

通常の風邪や他の軽い病気であっても精神的な障害は発生をする。例えば風邪をひいて熱があり、咳をしているとき、元気はつらつな気分で将来のことを考えることはできない。

ただ、咳と熱だけが有り他の精神状態にはなにも影響しないことはない。やる気がなくなったり、鬱^{うつ}的症状で将来のことを考えないし、喋りたくない、会社を休みたいなど、沈んでしまう。閃きはストップし、計算間違いが多い、創造的脳の働きの原稿を書いたり作曲をしたりという、ゼロから作り出す能力はまったく出てこない。

だから原稿を書いたり作曲したり、また、絵を書いたりという事をやっている人は、周りの人から見ると非常にだらしがない、どうしようもないような勝手気侷な生活をしているように見えるが、自分の脳がある作品を作り出すために、その脳のコンディションを最高に持っていくために、いろいろなその人の動きのパターンがあり、懸命に最良の状態にする努力をしているのである。だから他の人から見ると勝手きままにやっているように見えてしまう。

そのように物事をゼロから創造する、考え出すということは、大変きついことで机に向かって『サーー始めましょう』とか『時間がきたからやろう』とか、『やらなければならぬからやろう』とか、そういうことではどうしてもできない。

それがもしできる人がいるとすれば、それは創造という、まったくゼロから作り出すことではなく、人の作品を借りてきて少し手直しして書いてみたり、また似たような考え方をアレンジしてそれを作り直しているだけにすぎない。

だから糖尿病で来られたこの人は『糖尿病だから一人で良いでしょう、付き添いはいらなくてしょう』との表現をされたが、『そうではないのです』と、病気になるたとき風邪を引いたときの状態を説明して、『精神的症状というのは自分では分からないが専門的知識がある人が見るときちゃんと分かります。ですから大体説明はしますが付き添いの人を連れてきて下さい』とお話をして一度お帰り願った。

次に電話予約してこられたとき、娘さんと共にこられた。最初の相談のときと同じように独り言を、ぶつぶつぶつぶつ何か言っている。それも不平不満のような言い方。「どうしようもない」とか、「なんだかどうしてこうなるの」というような事を一人でぶつぶつ言っている。そこで「何かありますか」と説明を求めてもあわてて「いいえ、別に何もないんです」と手を

振って打ち消す。

つまり、それは精神症状として、独り言をいっていることで、特別な意味があるのではないので、正常ではない。しかも、本人は『独り言を言っている』という自分で自覚はない。

娘さんに聞くと「そうです。いつも何か言ってますよ」という。「ほら娘さんが言ってるでしょう」と言う。「そんなに何か私、言っているの」と娘さんの顔を隣に座っているのに覗き込む。さも『自分の悪口を言われている』と言わんばかりに。

食事制限は『千六百カロリーでここ二年くらいずっと守っている』『血糖値は百三十五くらい』ただ体の症状で非常に困っているのは『だるい』『疲れやすい』『とにかく人生に張り合いがない』という表現をされた。

顔は黄色くいかにも病人という感じがする。体の自律神経反射の検査では特別に悪いようなところは見受けられないが、何となく全体的に弱く沈んでいる感じがする。

舌の両側に皺がある。これは舌の萎縮で、自律神経が破壊または機能低下がはじまっている徴候を示す。こうなると全体的な神経低下を発生させ全身がほっそり痩せてくる、また体力が低下してくると共にやたらと神経が高ぶりヒステリー状態の性格になる。

相談時、私の質問で、意味には反応せずやたらと言葉に反応し理由なく「はい」「そうでは

ないんです」と言う。

さらに、話し終わらないうちに返事をする。そうして質問した内容には的確に答えない。

これが精神病の症状で『的はずれ応答』

体がきついで何とか治さねばならないと一所懸命通ってこられた。電車で二時間くらいの距離で、埼玉県から通うのはそう無理ではない。

症状がひどく、動けないほどであれば通ってくることはできないが、主婦業は何とかこなしている。「家の中でもただ、だるい」「きつい」「それから食事制限というのは大変だ」「とにかく治さねば」とおっしゃった。

体重は四十六キロ、身長が百六十二センチ食事を普通にしてまず治療を始めた。このくらい痩せてくると胃が小さくなり食事の量が入らない。

そうなってくると食べたものをもどしたりする。そこで多少は吐いてもいいから胃袋を広げるように努力をするために、少し量を多くむりして詰め込むようにお話をした。

5回の施療時話されたことには、「いやあ、食べて良いということを聞いて非常に生き返ったような気がしますよ」「食べるな、食べるなと自分に言い聞かせ、周りの人からも言われた自分が非常につまらなかった」。「それが『一定の施療条件を守れば食べて良い』と聞いただけ

で非常に嬉しいですよ」と窪んだ目を輝かせてお話をされた。

十一月、冬になり始める時から治療を始めた。

三週間程したときに体重が四十七キロ、つまり約一キロくらい増えたり減ったりするようになった。

この頃になると日によって体調が良い日と悪い日が出てきて、いつも悪かったのが時々良い日が出てきた。

さらに一ヵ月たった十二月、『体は少しだるいがよく動けるようになった。毎日が良く動くようになったので非常に楽である。』と、記録してある。体重が四十七キロを中心に推移している。『体は少々だるいが話しは楽にできる』。こうゆう言葉が毎日の記録に書いてある。

さらに十二月の下旬に『精神的に何となく落ち着いてきた』『イライラしない』。

十二月の半ば頃から体重が増えてきたのでリハビリを軽くやるように指導した。

これは基礎的な筋肉の力を付けなければ姿勢を保つために必要な筋肉の働きが悪い。

根からの頑張りやで「毎日、朝夕二回、5回ずつやって下さい」と言う。「先生もっとできますよ。あといろいろと増やしてください」と希望されるので、なぜ最初から多くできないかを説明した。

つまり痩せた人は、カルシウムやリンの付着が少なく、また、骨を構成するにかわ質が弱くなっているから、骨本体の強さが弱くなっていること。そのため、強い筋肉の引っ張りに耐えられないで、筋肉が骨に付着した部分の欠け、はがれたりする可能性が、あること、次には関節部分のなめらかな動きを司る関節軟骨といわれる、軟らかいこんにゃく状態の骨が、少なくなっており、骨と骨が関節でぶつかったとき、硬い骨とぶつかり、軟らかい関節軟骨に穴が開いたり、ひどいときには硬い骨がすり減ったりする可能性がある。

筋肉の強さは十分でも、骨に付着する部分の強さがまだ弱いために、^{けん}腱が切れたり、つまり紐が引っ張りに耐えられないで切れてしまうのと同じ現象が発生しやすい。

別の例で、男性の患者さんで自律神経失調症の酷い状態で来られ、四ヵ月程、家で養生しているとき、指導を受けず、勝手に駆け足や運動をしたためにアキレス腱の断裂をしたケースがある。その人には運動はしないように、ゆるゆる歩くように、あまり早歩きはしないようにと指導していたが、やればできるのでやってしまった。

そういう事故が起きるのである。その事を引例して必ず私が言った状態を守るようにとお話をした。

このリハビリ一つとってみても本に簡単に書くわけにはいかない。多く読者から具体的な詳

細が書いてないところの指摘が時々あるが、それはその人の体の状態によって回数、強さを指導しなければならぬから一概に何回と書けないのである。

つまり効果がきちっとでるものほど、逆に使えば危険なわけで、良く切れるカミソリは正しく使わなければ手を切ったり、髭を剃るとき首の血管を切って死に至らしめる。

しかし、あまり切れない竹で作ったペーパーナイフは少々乱暴に扱ってもお腹に刺さることはないし、手を切ることもない。

その代わり良く切れることはない。それとおなじである。私の本にも読者から記述が不十分だという欲張った指摘がある。これは世間の経済活動を知らない者達のいいぐさだ。

つまり、素人には分かりにくい本を出版するには多額の人件費が掛る。特に永年の研究成果を記述した専門書というのは数多く売れない。印刷代は千部も一万部も余り変わらない。採算がとれる値段ではおのずと少ない発行部数では一冊の単価は高くなる。それでは売れない。有効な物事は、知識がない素人が勝手に真似をした場合には非常に事故に繋がる危険が大きい。

また、『自宅治療の実際』の本も図書館に置きたいという依頼もあるし、会社で購入して娯楽室におきたいと購入希望もある。

しかし、これは個人以外には販売しない。治療指導も併せてする条件で販売しているし、読ん

でもらうからであって、私の本の基本的な考えを知った後の順序が『自宅の本』であって、いきなり『自宅の本』を読んでも事故を起こしたりしてもらっては困るから個人宛ての販売のみである。

二月に入って、「真冬にしては非常に元気なので不思議です、いつもの年はこうでないのに」普通、秋から冬にかけての治療は困難なものがあるが、やはりこういう男っぽい体質の人は精力が強い。つまり神経の働きが強いから回復も早いのである。

二月に入って一段落したので自宅で行う治療方法に切り替えてもらい、後は月二回指導を受けにきてもらうようにした。

さらに三月、四月になり少し暖かくなってきたから、十分な体調となりいつもにこにこして自分から話し掛けてこられる。

治療を始める前は一日十回も十五回も横になって休憩をしていたが、最近では全然横になることなく一日中動く事ができると書いてある。

体重が四十八キロくらいになった。四十歳で終わっていた月経が再び始まった。これがなによりも女性ホルモンと糖尿のインシュリンのホルモン系が回復した証拠となる。

普通五十歳で終了する月経も癒導医学で治療を初めてから、六十二歳の婦人が月経の再開をみたのが最高年齢で、今迄、男女共、回春効果抜群である事は多くの症例で証明されている。

位 置 収 入 票

住所: 東京都千代田区千代田 1-1-1
 建物: 千代田ビル
 部屋: 101号室
 面積: 10.00㎡
 用途: 事務所
 年次: 1991年
 月次: 1月
 日次: 1日

位置収入: 1000円
 位置収入税: 100円
 位置収入税額: 1100円

位 置 収 入 票

住所: 東京都千代田区千代田 1-1-1
 建物: 千代田ビル
 部屋: 101号室
 面積: 10.00㎡
 用途: 事務所
 年次: 1991年
 月次: 1月
 日次: 1日

位置収入: 1000円
 位置収入税: 100円
 位置収入税額: 1100円

位 置 収 入 票

住所: 東京都千代田区千代田 1-1-1
 建物: 千代田ビル
 部屋: 101号室
 面積: 10.00㎡
 用途: 事務所
 年次: 1991年
 月次: 1月
 日次: 1日

位置収入: 1000円
 位置収入税: 100円
 位置収入税額: 1100円

診療記録簿		診療記録簿		診療記録簿		診療記録簿		診療記録簿	
診療日	診療時間	診療日	診療時間	診療日	診療時間	診療日	診療時間	診療日	診療時間
1945.10.1	10:00-12:00	1945.10.2	10:00-12:00	1945.10.3	10:00-12:00	1945.10.4	10:00-12:00	1945.10.5	10:00-12:00
1945.10.6	10:00-12:00	1945.10.7	10:00-12:00	1945.10.8	10:00-12:00	1945.10.9	10:00-12:00	1945.10.10	10:00-12:00
1945.10.11	10:00-12:00	1945.10.12	10:00-12:00	1945.10.13	10:00-12:00	1945.10.14	10:00-12:00	1945.10.15	10:00-12:00
1945.10.16	10:00-12:00	1945.10.17	10:00-12:00	1945.10.18	10:00-12:00	1945.10.19	10:00-12:00	1945.10.20	10:00-12:00
1945.10.21	10:00-12:00	1945.10.22	10:00-12:00	1945.10.23	10:00-12:00	1945.10.24	10:00-12:00	1945.10.25	10:00-12:00
1945.10.26	10:00-12:00	1945.10.27	10:00-12:00	1945.10.28	10:00-12:00	1945.10.29	10:00-12:00	1945.10.30	10:00-12:00
1945.10.31	10:00-12:00	1945.10.32	10:00-12:00	1945.10.33	10:00-12:00	1945.10.34	10:00-12:00	1945.10.35	10:00-12:00
1945.10.36	10:00-12:00	1945.10.37	10:00-12:00	1945.10.38	10:00-12:00	1945.10.39	10:00-12:00	1945.10.40	10:00-12:00
1945.10.41	10:00-12:00	1945.10.42	10:00-12:00	1945.10.43	10:00-12:00	1945.10.44	10:00-12:00	1945.10.45	10:00-12:00
1945.10.46	10:00-12:00	1945.10.47	10:00-12:00	1945.10.48	10:00-12:00	1945.10.49	10:00-12:00	1945.10.50	10:00-12:00
1945.10.51	10:00-12:00	1945.10.52	10:00-12:00	1945.10.53	10:00-12:00	1945.10.54	10:00-12:00	1945.10.55	10:00-12:00
1945.10.56	10:00-12:00	1945.10.57	10:00-12:00	1945.10.58	10:00-12:00	1945.10.59	10:00-12:00	1945.10.60	10:00-12:00
1945.10.61	10:00-12:00	1945.10.62	10:00-12:00	1945.10.63	10:00-12:00	1945.10.64	10:00-12:00	1945.10.65	10:00-12:00
1945.10.66	10:00-12:00	1945.10.67	10:00-12:00	1945.10.68	10:00-12:00	1945.10.69	10:00-12:00	1945.10.70	10:00-12:00
1945.10.71	10:00-12:00	1945.10.72	10:00-12:00	1945.10.73	10:00-12:00	1945.10.74	10:00-12:00	1945.10.75	10:00-12:00
1945.10.76	10:00-12:00	1945.10.77	10:00-12:00	1945.10.78	10:00-12:00	1945.10.79	10:00-12:00	1945.10.80	10:00-12:00
1945.10.81	10:00-12:00	1945.10.82	10:00-12:00	1945.10.83	10:00-12:00	1945.10.84	10:00-12:00	1945.10.85	10:00-12:00
1945.10.86	10:00-12:00	1945.10.87	10:00-12:00	1945.10.88	10:00-12:00	1945.10.89	10:00-12:00	1945.10.90	10:00-12:00
1945.10.91	10:00-12:00	1945.10.92	10:00-12:00	1945.10.93	10:00-12:00	1945.10.94	10:00-12:00	1945.10.95	10:00-12:00
1945.10.96	10:00-12:00	1945.10.97	10:00-12:00	1945.10.98	10:00-12:00	1945.10.99	10:00-12:00	1945.10.100	10:00-12:00

「自己管理」のしっかりした人にも発病

大学で建築士資格取得以来大きな建設会社に入社して、おおくのわれわれが知っている大きなビルや橋の設計をやってこられた。

ビルの設計をやる人である。

三十何年間それを一筋にやってこられた。三年位前糖尿病発見、今では両足の指先が全部しびれども気分がすぐれない

血圧が最近高いのでそれも関係しているのかどうかと相談にお出でになられた。

仕事は忙しく、最近、弟さんが亡くなったりということも重なって、相当な神経の疲労があったといわれる。

身内の人が亡くなったりするというのは、それだけでも大変な心理的な悪影響があり、自律神経の機能を極めて低下させる。

そういうストレス、つまり大脳皮質の疲労。これが自律神経の働きを押さえ込むと遺伝的にその人が弱い自律神経の部分がまず働きの低下をみる。

人によっては低下部分は免疫系のこともあるだろうし、時には癌細胞を食する有益な細胞能

力が低下するため、血液の癌といわれる白血病や肝臓その他の癌、胃癌などが発生しやすいし、さらには軽くは、みず虫が多発するとか、全身的病気ではベーチェット病や膠原病、リウマチ性の病気などが発生をしてくる。

この方の場合には自律神経低下により^{すいぞう}脾臓からのホルモンを出す神経が悪くなり始めたのである。多くの場合は大規模な自律神経の集団で、胃や腸などの消化系統を動かす迷走神経が悪くなりやすい。

だから神経性のストレスで胃に穴が開いたり、ただれができたり、腸が速く動き過ぎて下痢になったり、動かずに便秘傾向になったり、また、あまり直接関係ないと考えられている虫垂炎（盲腸炎）が発生をしてくる。

糖尿病は本文にも書いた通り自律神経の働きの低下によって発生をしてくる。

この方は両足の甲及び足の裏指先の根元、そういうところがじんじん痺れて、きしょく悪く、どうも落ち着いて建築物の設計ができない。

つまり、仕事に差し支えが出てきたという。当然大きな会社にはそれなりの体の状態を検査する制度として掛かりつけの病院もある。そこで治療もうけている。

親指の付け根のあたりからふくらはぎにかけての痛みは運動をし始めると消えてくる。朝起

きたときが一番調子が悪い。

足の具合が悪い時は、足を動かす神経も具合が悪くなっている場合が多いので、坐骨神経が悪くなっているかどうか調べてみたら、これは正常であったので、年齢が五十九歳で老化現象が始まっている年齢であるから、引き受けるかどうか考えたが、坐骨神経の痛みがないので半年くらいで回復するであろうという予測を立てお引き受けすることにした。元来神経の病気は真面目人間が多いたいが、この年齢の人達は小さいときに伝染病である結核、ジフテリア、コレラ、赤痢、などを患っておられることが多い。

この方は、幼稚園の時のジフテリアですっかり治っているが、その菌が排出した毒素で神経を少しずつ痛め付け始める。それが年齢と共に神経痛麻痺しびれなど発生させるのでその点も疑問をもちつつ、足のしびれとの関連を考えた。

父親はやはり建築家で立派な父親であったのであろう。自分も親の仕事をやりたいなと思ってこの道に入られたそうだ。

三歳の頃、つまり幼稚園の頃、自家中毒を起こしたり、ジフテリアに罹^{かか}ったり、小学校の頃、腎臓病で六ヶ月入院したり、結構小さいときに病気がちであったと記録されている。

幼少期の子供に見られるこのような体調は、母親の性格が神経質で几帳面、真面目という昔氣

質のいわゆる女性の優しさというものが少し欠けている家庭の場合には発生をしやすい。

それがいいとか悪いとか分らないが、大人になって働いていく基本的な体力をつけるのは小学校の低学年の頃までである。

五十歳の頃から歯槽膿漏がひどくなり一気に進んで上下共入れ歯である。

歯槽膿漏は自律神経失調から発生する免疫力の低下の結果出るもので、歯医者さんで治すが本来の歯の病気ではない。

顎の骨が痛いという症状と似ていて、それは口の中だから歯医者さんの領域と思いがちであるがそうではない。それと同じ。

神経の反射を調べてみると、全身の神経の働きが非常に悪いということが分かる。それは神経の電気信号が弱いことを裏づける徴候として、舌の先端から少し萎縮が始まっている。

現在の血糖値は三百十六。とにかく足の先が痺れてどうしようもない。カロリー制限千六百を三年間行ったが思わしくないということ。

また、時々全身にピリピリとする毛虫が刺したような感じがある。現在は糖尿病の薬を服用しておられる。

何回も本文に書いているが、われわれが困るのは体温が高いとか低いとか血糖値が高いとか

低いとかいうことではなく、苦しい症状が日常の生活を阻害するのが大変困ることである。

この方も「血糖が高いことは別に問題はないのです。それで障害が発生するのであれば三年もたっているのですからもう何か発生している筈です」「今、本当に困っているのは足のしびれで寝ても起きても立つても座ってもどうしようもない状態で非常に苦しことです」とおっしゃる。それで治療を始めることにした。

最初のうちは奥さんも心配で一緒に付き添いで来られ、『しびれで具合が悪いので途中で歩けなくなると困るから』ということで、二ヵ月間ほど五日にいったぺんの割合で通ってこられた。最初のうちは足の裏の痺れが少しひどくなってきた。これは痛みや痺れを受け取る脳の働きが正常になると、伝わってくるその感覚を正常に受け取るようになる。だから一時的に強まるといった状態になる。

しかし、痛みや痺れの内容が変わってくる。この方もそういうことを少し記録しておられた。夏の終わりごろから治療が始まったが、体調は十分良くなったと二ヵ月くらい経ったときに書いてある。つまり、十一月頃足の裏の痺れ感がだいぶ良くなったと書いてある。

十一月の後半になると血液検査の結果、病院で測ったことには『数字が良いほうに向かっていくことが分かった』と書いてある。それで大変嬉しく感じていると記録をしてある。

その後いろいろ経過があり一年がたった。翌年の十月頃『海外へ出張しても良いか』とお話があった。出張中の治療の方法もお教えして、足の痺れ感も半分以下となり、喜んでイタリアへ仕事で行かれた。帰ってきてても、多少その疲れが残る程度だという。以前は、とにかくどこも、行く気がしないし、行けなかったということである。

治療前には、ここ数年寒くなってくると足の痺れが酷くなり、冷たさも加わって大変苦しい思いをしたそう。しかし、今年は気にならないということである。

一年が経過し血液検査の結果、血糖値は空腹時に百九十四になっていた。しだいに寒くなってきたので冬の対応をお教えして、自宅での養生も気を抜かないように付け加え、お話をした。さらに十二月になると寒くなったというのに痺れ感がなくなり、不愉快な感じが何となく不愉快だという感覚に変わってきた。

寒くなってきた、今までの習慣で冬の状態を過ごしておられたので、着るもの、運動、また寝るときの状態など全てを変更するように指導をし、その通りに行われた。

このタイプの人はいつものことながら、良いとされることは忠実に守られる。しっかりした仕事を続けてゆくためには、自己管理をきちっとしなければ仕事は続かない。そのために良いとされることは忠実に守り『なるほど』というくらいきちっと行われる。

大変不思議なことで、今まで早く治った人は本当に言われた通りにする。そうして、共通することは、自分自身の仕事を何か持っておられる。設計、芸術、あるいは会社の運営管理という重要な立場に居る人ほど治りが早い。

今までも非常に印象深いのは、ジャンボジェット機のパイロットをやっていた人の出張治療に、週一回訪問していたとき、半年間ほど日常生活を観察的に拝見したが、実に日常の生活が大変で、勝手気儘な生活すること無く、自宅で深酒すること無く自己管理された生活。

別の見方をすると無味乾燥ともいえる。本当に空が好きで、飛ぶことが好きだから他のことは欲しないような生活状態であった。

夜遊びや飲み歩くこと。特に飽食等の一時的楽しみや、快楽を得ることをしていない。そういう生活状態であったことを思い出している。実に、何かきちっとやっていく人というのは大変なことだなあと実感をしたことがある。この方も同じように指導したことを忠実に守った人であった。

一月に入って真冬になり、『治療前には、毎年何十年も冬になると、痺れがあり、足が冷たくて真っ白になるほどだった』とおっしゃっていた。

今年の冬はまったく呆れる程痺れ感がほとんどないそうだ。

専門家と言われる人にありがちなことは、『もう少しだ、これが終わったらやめよう』という出来高制の自己管理が体を壊す。

だからよく申しあげる。健康を維持して、仕事を長く続けるために作られている取り決めが、労働基準法。これを守って仕事をおやり下さいといつも話をする。

この法律は工場労働者などに守らせるもの。あるいは監督官庁がうるさいからそれを守るのではなく、『規則とか法律とかいうのは最低の人間の道徳を定めたものである』という我妻栄先生の教えどうりの認識を持つことが必要である。だから経営者自身もそれは守る。健康で長生きする一つのガイドラインである。

二月になって、手指の関節を動かすときにパキンパキンと音がする『ばね指』状態が発生したと書いてある。

つまり、神経が良くなってくると、無意識に体を多く動かしているし、仕事の密度や時間もいつの間にか上がり、今まで隠れていた、つまり感じなかったような症状が出てくる。全体が良くなると部分が目立つことである。

仕事しない人は遊びの量が増える。そうすると体の回復速度と治ってゆく早さのバランスが崩れてきて回復が間に合わない。

「私の人生がまた甦った」と感謝

相談にお出でになったときから私と同じ名字で非常に親しみを感じてお話ししておられた。これは非常に嬉しいことでもあり、先方がそういう気持でおられることは治療も良く進んでいくことが多い。

ただ富永の富で上に点がない富という名字がかなりある。昔を辿れば本家分家という形で、あるいは親分子分の形で名字を偉い人のを貰ったり、あるいは取り立ててもらったときに、その名字を使って良いというようなことが昔はよくあったらしい。そういう点で他の名字も含めて例えばうかんむりの富をわかんむりの富にして点を少なくし謙遜をすとか、みつどもえのもんどころの巴の丸いのを二つにすとか。あるいは丸いのは少し気が引けるので四角にしたり菱形にしたりそういう形がある。まあそういう点でこの方も昔を辿れば同じ仲間であったのかもしれない。ちなみに私の家紋は穀物巴である。

相談にお出でになったとき、お仕事は仏教の関係のお寺をやっていろいろな相談に乗っているとお話があった。

十九歳の時に右の首筋に瘰癧るいれきが発生して全身的には結核となり二十一歳まで養生をした。

その時の気持ちがある現在の宗教家として人に相談に乗り、悩みを説いてあげながら人の幸せに役に立つ。そういうことをしておられる切っ掛けを作ったとお話になった。

糖尿病で困っていることは相談に人がくるときとにかく嫌になる。本来は人に話をするところが仕事であるが、人に会うことがとにかく最近嫌になって仕方がない。

それは糖尿病になり始めてからそういうことが出てきた。さらに奥さんを愛しているが、性生活がまったくできない。それが長いこと連れ添い、また、自分を助けてくれた妻に対して満足させてあげられないので非常に申し訳なく思っている。そういう優しい気持ちの持ち主である。血圧の薬と糖尿病の薬これを注射したり飲んだりいろいろ努力はしておられる。体重は六十キロくらいであまり変化がない。食事制限は特別していない。

酒の量はかなり多く、毎日晚酌ということで酒やビールを大体一合ないしビールを二本くらい飲んでおられる。

この方はやはり遠いところで新幹線で二時間くらいかかる。それで自宅でおやりになることを勧めたが、確実に専門家に治療をして欲しいということで、五日に一度通ってこられることをされたのでそれから始めた。

三回目の治療のときに体が軽くなり食欲も出てきた。特に階段の登りが楽になり、食欲も大

変でてきた。お帰りのとき、大変視力もよく世の中が明るく見え、物がはっきり見えるような感じで嬉しい気持ちになったとお話になった。

その後階段の登り降りが本当に軽く快適になり、今まで感じなかった空腹感の心地よさが非常に出てきた。

さらに夜中一度寝て十二時頃目が覚める。そうすると明け方まで寝付けないことがほとんどであったが、最近ではすぐ寝付くことができるようになった。

しかし、時々寝付きが悪いような日があると話された。十回目の時、お酒の量が減ってきた。それなのに非常に酔いが早く周りその酔いも心地よい感じがある。それから、おしっこの回数が前より大分減ってきた。そういう状態があるという。

足のほうは検査したとき右足に感覚がなく、左足も僅かに感じる程度。そういう状態であったのが、時々足の裏がびくびくして神経が通っているような感じが発生してきたと話しておられる。

治療が始まったときにインシュリンの注射は朝十昼十夜五使用しておられた。三月四月の頃はインシュリンの注射は三十単位から少なくして二十単位くらい自分でコントロールしておられた。

五月に入って付き添いでお出でになる奥さんの話では、感情が非常に穏やかになり落ち着いて話ができるようになってきたそうだ。

最初来られたときはとにかくイライラして怒りっぽく、私が話をすると言話が終わらないうちに返事が出てくる。そういう状態であった。

つまり、糖分が少なくなるとイライラしてくる低血糖症状があったのである。七月に入ってインシュリンが十単位となり七月の末ではゼロにしたとおっしゃった。それでも何ともないから大丈夫になりましたよとこにこしておられた。

ただインシュリンを打って効果がある人、無い人がある。そこいらは私のほうは薬を扱うほうではないので、いろいろ御質問があったが答える立場にないし、私は分かりませんとお話をして、自分の体と相談してお医者さんともよく話し合って実行して下さいと回答をした。

さらに夏が過ぎて夏痩せでだんだん増えてきた体重が一キロ減り、現在の体重が六十二キロとなった。

治療にこられたときは六十キロ身長が百六十である。八月に入ると毎日大変良く眠る快適と書いてある。そうして一日中忙しい。こういう日が数日続いている。

さらに九月に入ったとき、にこにこしてこの方がおっしゃった。先生、女房を満足させることができるようになりましたよ。これで私の人生もまた甦ってきました。

世話になった女房にいやあ喜んでもらって男冥利につきるもんですと嬉しそうに言われたこ

と。いやあ本当に良かったですよと言葉が何度も繰返し出てきた。

その時に私は本当に思う。どうも日本人は気取ってしまっという言葉が出る人が少ない。しかし、記録してある紙を良く見ると、性生活ができないとか、十分満足しないという言葉が方々に書いてあるが、良くなっても悪くなっても口にはなかなか出しにくい。

しかし、はっきりとそう言ってくれる人、これは非常に私も嬉しいことである。悪いことをしたりいろいろするわけではない。本来の生活の基本これは私の性生活の本にも書いてあるが動物的なことをきちっとして、その後人間らしさが甦ってくる。

これはどんな人でも否定することはできないのである。気取って生きているうちはきつい。

さらに「今までの生活の習慣の中で重い靴をもって歩くとか、あるいは夕食後、いろいろと考えごとをする習慣とか、早口で喋る。そういうことを修正して十月に入ったとき、後は季節の変わり目年に三回か四回時々お出でになる方がよろしいです。」

「毎年毎年は老化していきますから、その年の状態をコントロールするということは、自分で分かっているもはっと気がつくことが少ないですから」とお話をし、さらに体力が付いてきたのでリハビリも御指導して終了とすることにした。大体六ヶ月間この方は頑張って完全に元に戻られた。

姓名: 王... 性别: 男 出生日期: 1970-01-01 身份证号: 110101197001010001 住址: 北京市东城区... 联系电话: 13910101234	姓名: 李... 性别: 女 出生日期: 1975-03-05 身份证号: 110102197503050002 住址: 北京市西城区... 联系电话: 13810105678	姓名: 张... 性别: 男 出生日期: 1980-06-15 身份证号: 110103198006150003 住址: 北京市朝阳区... 联系电话: 13710109012	姓名: 赵... 性别: 女 出生日期: 1985-09-20 身份证号: 110104198509200004 住址: 北京市丰台区... 联系电话: 13610103456	姓名: 刘... 性别: 男 出生日期: 1990-12-10 身份证号: 110105199012100005 住址: 北京市石景山区... 联系电话: 13510107890	姓名: 陈... 性别: 女 出生日期: 1995-04-01 身份证号: 110106199504010006 住址: 北京市顺义区... 联系电话: 13410102345	姓名: 周... 性别: 男 出生日期: 2000-07-25 身份证号: 110107200007250007 住址: 北京市昌平区... 联系电话: 13310106789	姓名: 吴... 性别: 女 出生日期: 2005-10-30 身份证号: 110108200510300008 住址: 北京市大兴区... 联系电话: 13210101234	姓名: 孙... 性别: 男 出生日期: 2010-02-18 身份证号: 110109201002180009 住址: 北京市通州区... 联系电话: 13110105678	姓名: 郑... 性别: 女 出生日期: 2015-05-12 身份证号: 110110201505120010 住址: 北京市门头沟区... 联系电话: 13010109012	姓名: 王... 性别: 男 出生日期: 1970-01-01 身份证号: 110101197001010001 住址: 北京市东城区... 联系电话: 13910101234
---	---	---	---	--	---	---	---	---	--	---

住家依親者

姓名: 王... 性别: 男 出生日期: 1970-01-01 身份证号: 110101197001010001 住址: 北京市东城区... 联系电话: 13910101234

住家依親者

姓名: 李... 性别: 女 出生日期: 1975-03-05 身份证号: 110102197503050002 住址: 北京市西城区... 联系电话: 13810105678

住家依親者

姓名: 张... 性别: 男 出生日期: 1980-06-15 身份证号: 110103198006150003 住址: 北京市朝阳区... 联系电话: 13710109012

住家依親者

姓名: 赵... 性别: 女 出生日期: 1985-09-20 身份证号: 110104198509200004 住址: 北京市丰台区... 联系电话: 13610103456

治療成績	
患者氏名	氏名
性別	性別
年齢	年齢
職業	職業
病歴	病歴
検査結果	検査結果
治療経過	治療経過
治療成績	治療成績

患者氏名	氏名
性別	性別
年齢	年齢
職業	職業
病歴	病歴
検査結果	検査結果
治療経過	治療経過
治療成績	治療成績

患者氏名	氏名
性別	性別
年齢	年齢
職業	職業
病歴	病歴
検査結果	検査結果
治療経過	治療経過
治療成績	治療成績

患者氏名	氏名
性別	性別
年齢	年齢
職業	職業
病歴	病歴
検査結果	検査結果
治療経過	治療経過
治療成績	治療成績

九州から飛行機で一カ月に五、六回

九州在住のこの方は奥さんと一緒に三日間の自宅施療受講で治療をしたいと相談にお出でになった。

その時の服装はジャンパー姿でいかにも苦しそう、きついという状態が全身に現れていた。出掛ける時には多少身なりをよくするのが普通の事。身なりをかまわずにというのは、自営業の人の特徴でもあるが、私も特別の訪問以外は背広を着たことがない。

奥さんは出掛ける時の装いできちっとしておられ、付き添いとしてほんとうに親身にいろいろと面倒を見ておられた。

仕事をしておられるとき非常に疲れやすい、手足が痺れる、検査では肝臓の機能が低下して脂肪肝といわれている。

症状が仕事に差し支え、できない。血糖値が高い。体重は九十キロある。

自律神経の検査をしてみると非常に興奮状態にあることを体が反応する。精神症状は話しかけて反射的に返事をする。話を終わらないうちに返事をし始める。そわそわして非常にそっかしい。これは神経の高ぶりからくる強迫神経症といわれるもので、ひどく何かに迫られ、お

いまくられている。そうするとゆっくりと考えることなく返事をするから、変な返事をしたり自分で喋ったことを覚えていなかったりする。そういう奇妙な状態が発生しても本人は別に気にとめない。

自営業のタイプとしては非常に実直な感じがする。あまり生真面目な感じがする人は体を壊す。自分で仕事をやるということは勤め人のようにしてはいけない。例えば魚を捕る漁師さんのことを考えてみれば分かる。九時に出勤して五時に終わるわけではない。潮周りと天候それから季節によって魚の種類が決まる。船に乗って出たときは短時間の真剣勝負であるがあとはいくらだとしていく。

だから漁村のムードも特別にピンと張りつめたような雰囲気はない。それが自営業の基本である。

ところが船に乗っている時も降りたときも常にきちっとしているとかつろぐときがない。それで神経を疲れさせ体をこわしてゆく。

歯槽膿漏は四年前から始まり、相談で話す時や検査時に、大変糖尿病や肝臓が悪いときに発生する体臭や口臭がすごい。本人がいらないところで奥さんに相当体臭がするでしょうと言うと「そうなんです。夫婦だから一緒にいなければいけないと思っていますんですけどもう大変です

よ」とおっしゃった。「そうです同情しますよ。この病気は」と。

「しかし、この病気が良くなっていけばそれも取れますから本人が好きで臭くしているわけではありませんから半年くらい辛抱をして下さい」とお話をした。

相談票に記入してある記録を見ると、案の定こういうタイプの人の父親が公務員をやっている。だからない点は非常に良いが、物事をきちっと考え、やりすぎて規則に照らし合わせて物事をやっていく。これは社会人として基本的に大事なことであってもあまりそれをやりすぎると窮屈になる。

この方が困っていることは、手足の痺れで車の運転ができない状態でそれをなんとかはやくしたい。特にブレーキやクラッチが操作しにくい。仕事で大型トラックを自分で運転することもあるから、その踏んだ感覚が分からない。また、ハンドルを切っているときにどの程度切っているのかその感触が伝わってこない。そういうことであった。

だからとりあえずその手足の感覚を回復させるために、せっかく育て上げた会社をつぶさないために、どんどん通ってこられた。飛行機代も大変である。

しかし、体あってのものだという認識が強く、一ヵ月に五、六回通ってこられた。泊まり込みで連続して治療をやりたいが仕事を放り出すわけには行かない。約一ヵ月したころ、だいぶ

ん、手足の感触が戻ってきたのでご指導した自宅施療を行いつつ月に一回通ってくるようにお話をした。それでも十五日に一回の割合で通ってこられた。

体重があるということは回復させる材料が体に蓄えられていることであって、ぐんぐん治っていった。毎月お出でになる度に顔のどす黒いのが白くなり、太ってどうしようもない体格の人がだんだんスリムになってきた。

四ヵ月くらいしたときに背広を着て来られ、床屋にもいってさっぱりとした感じになって通ってこられるようになった。

最初はジャンパーで来られた。つまり、体がきつくて苦しい時は自分の身の回りのことや身だしなみ、他人との関係をうまく保つ服装など、とにかくそんなことには構っておれないのだ。このことは病気をした人には分かる。

健康な人は初対面の時にはきちっとした服装で会う。しかし、二回三回と気持ちが通じ合うに連れて普段着に近いものを着てくるようになるのが普通である。

しかし、十九、二十の女性でも非常に体調が悪い時には、普段着でも、一番楽なトレーナー上下やパジャマに近い服装でお出でになり化粧もない。こういうことになる。

一年半前に大変なめまいで一ヵ月くらい入院をされたそう。

つまり、これは、自律神経の働きが非常に低下した時、人間の体を水平に保ち、コントロールしていく自律神経の装置、飛行機やロケットでいう、ジャイロスコープ、ジャイロコンパスのような働きをする半器管前庭核はんきかんぜんていかくの部分が悪くなったことでめまいが発生したものだ。

その後なんだかんだと具合が悪く、ついには糖尿病の診断が下った。

肝臓に脂肪が溜まる脂肪肝も自律神経失調症からくるもので、肝臓を働かせる自律神経が低下したとき、肝臓細胞の中で糖分から脂肪を合成し、肝細胞の中から放出して、血液に乗って全身に行き渡り、内臓周囲や皮膚の下に蓄えてふくらとした体型を作る、運動時には脂肪を燃焼させエネルギーに、暑さ寒さから護る断熱材、神経の漏電防止の働きをする。

自律神経低下になると、そういう仕組みの働きが悪くなり、合成した脂肪が肝細胞の外に出ていかない。それで溜まってしまふ。次第にその脂肪によって肝臓の細胞が押し潰され、全体的な働きが悪くなっていく病気である。治療が進んでいくと共に、体がスリムになって体調が良くなるということは、今までの不完全燃焼によって溜まった脂肪が完全に燃焼してエネルギーに変化し、体調が良くなりその不必要な脂肪が取れていくことを示している。

これは自律神経の働きが良くなった証明。そうしていくうちにだんだんと糖分が神経にも入っていき、神経が修復され、手足の痺れが回復をしていく。三ヵ月くらいから一人で来られ、約

七ヵ月くらいたったとき花束を持ってこられた。「この花はうちのが、先生に上げてほしいと地元から持ってきました」と。わざわざ、大きな花束で百合、カスミソウ、こちようランなどたくさん入って、非常に涙が出るほど嬉しかった。奥さんが持たせたことは、回春に対する喜びが含まれているので別の本にも追加して書いた。

つまり、奥さんが『花束を持って行って』と言われたそうだ。花束持参の数回前の治療来所時に私に耳打ちされたことがあった。

「先生あっちのほうもすっかり元気になって私、人生に再び自信が出てきましたよ」と言われた。つまり性生活が満足するようになったということである。

その後しばらくして奥さんから花束がとどいたわけである。つまり、女性としてこの状態は非常に嬉しいことであり、ただ口では言わない日本人の奥ゆかしさから花束が届いたと私は理解をし大変私も嬉しい気持ちになり、奥様宛てに書いた手紙を手渡した。

その後大変元気になられ、二ヵ月にいっぺんはきちっときておられる。もう一つは自営業の場合には、車ばかりで移動し電車に乗る機会が少ないので、気分転換する目的が少ない。私のところに一、二ヵ月に一度飛行機に乗ってお出でになるということは、大変気分転換にもなるしついでに近くの観光地を見て歩く。

「本人も「これが気分転換にもなり治療をかねて出掛けて来るのですよ」と話をされた。この方について自筆の記録が少ないのは性格的に「躁体質」で書くより話しを好む行動派であるから、あまり明確にこまごまと記録に書かれていない。ただ治療の前と後には、非常に雄弁に演説に近いほど語られる。」

つまり、言葉で喋るほうが非常に多いので記録が少ないのである。また、お出でになる度にお土産を持ってきた下さり、私の郷里の産物も多くあったので非常に嬉しい気持ちになり、本人も「病気をして良かったような気がしますよ。先生とお会いすることができて」「そうです、この年齢で一つ病気をし、老後に対する健康管理を習得して長生きする技術を実行することは必要なことです。そうでなければ、半病人のまま突っ走り脳卒中、心臓病などで命を落としたり、寝たきりになったりでつまりませんから。」

本人も「ここで自分が病気をして自分の健康について考えることができるようになって非常に有難いと思っています」「今までは俺は病気になるわけが無いと、過信がありましたからね。今後は今まで通りのためな生活、むちゃくちゃな仕事ではなくきちっと整理整頓した生活をして長く元気に生きたいと思っています」とご感想をのべられた。

[illegible]

姓名: 王明 学号: 123456789 班级: 高一(1)班 日期: 2023.10.27	姓名: 李华 学号: 987654321 班级: 高一(2)班 日期: 2023.10.28
---	---

No.	Name	Age	Sex	Height	Weight	Chest	Arm	Leg	Foot	Hand	Finger	Ear	Nose	Mouth	Throat	Lungs	Heart	Liver	Spleen	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum	Sigmoid	Colon	Small	Large	Appendix	Gallbladder	Bile	Pancreas	Stomach	Intestine	Bladder	Uterus	Vagina	Prostate	Testis	Penis	Clitoris	Labia	Vulva	Perineum	Anus	Rectum
-----	------	-----	-----	--------	--------	-------	-----	-----	------	------	--------	-----	------	-------	--------	-------	-------	-------	--------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------	---------	-------	-------	-------	----------	-------------	------	----------	---------	-----------	---------	--------	--------	----------	--------	-------	----------	-------	-------	----------	------	--------

1. 1-hydroxy-2-naphthol (1,2-NAPHTHOL)
 2. hydroquinone (1,4-DIHYDROXYBENZENE)
 3. resorcinol (1,3-DIHYDROXYBENZENE)
 4. catechol (1,2-DIHYDROXYBENZENE)
 5. phenol (HYDROXYBENZENE)
 6. carbazole (1,2,3-BENZOXAZOLE)
 7. anthracene (1,2,3-BENZOPHENYLENE)
 8. fluorene (9,10-DIHYDRO-9-FLUORENE)
 9. pyrene (1,2,3,4-BENZOPHENYLENE)
 10. quinoline (1,2,3,4-BENZOPYRIDINE)
 11. isoquinoline (1,2,3,4-BENZOPYRIDINE)
 12. acridine (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 13. phenanthrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 14. fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 15. pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 16. benz[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 17. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 18. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 19. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 20. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 21. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 22. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 23. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 24. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 25. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 26. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 27. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 28. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 29. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 30. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 31. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 32. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 33. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 34. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 35. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 36. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 37. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 38. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 39. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 40. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 41. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 42. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 43. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 44. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 45. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 46. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 47. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 48. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 49. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 50. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 51. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 52. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 53. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 54. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 55. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 56. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 57. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 58. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 59. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 60. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 61. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 62. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 63. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 64. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 65. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 66. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 67. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 68. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 69. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 70. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 71. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 72. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 73. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 74. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 75. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 76. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 77. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 78. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 79. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 80. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 81. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 82. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 83. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 84. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 85. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 86. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 87. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 88. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 89. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 90. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 91. benzo[a]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 92. benzo[a]anthracene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 93. benzo[b]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 94. benzo[k]fluoranthene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)
 95. benzo[e]pyrene (1,2,3,4,5,6,7,8,9-OCTALYNE)

指示を守ることが全快への最短距離

最近珍しいと言われている結核で入院したときに糖尿病が発見されたそうだ。

大きな会社の取締役をやっているこの人は、もちまへの働き性分から仕事をやり過ぎ同時に遊び回るのも好きな質で夜遅くまで接待がらみでのみ歩いていたということである。

年齢が四十六歳で四十過ぎてから体のほうはそろそろ限界にきていたわけであるが、普通の人はそれを気がつかない。

三十歳位るときから仕事でも遊びでもどんどん猛烈に飛ばしていると、いつの間にか体が弱くなってきているということが判かりにくい。

そのために次第に神経が疲労し内臓の働きが悪くなり、何となく根気が続かないとか、だいぶん酒に弱くなったとかそういうことで健康時と比較して判かってくる。

同時にテレビのコマーシャルでやっている元氣をつける○○ドリンクとかスタミナ○○錠、そういうものを使うと一時的に元氣になりそれで持ち応えられる。

結核にかかるというのは、体力が極端に低下したとき。日常われわれはいろいろな細菌に感染をしている。がほとんど発病しない。

よく考えてみれば空気中には塵やバクテリア、あるいは、ウイルスなど数多くのものが浮遊している。

公園では犬が撒き散らした糞が、木の下では鳥の糞が乾燥して空中に舞い上がり、風で飛ばされてきたのを、人が道端に吐いた痰も乾燥し病原体が風で飛ばされたのを平気で吸い込んでいる。

山にいけば新鮮なすがすがしい空気だといって深呼吸をして、大きく口を開けて背伸びをする。そこにも小鳥達が撒き散らした糞が乾燥して空中にまい上がって、さらにおびただしい数の昆虫の排泄物が空中に漂い病原菌も一緒に鼻や口から入っているのだ。

それでは室内ならよいだろうと思って部屋の中に入り、エアロビックだのダンスとか体操をやっていると、壁に内張されている壁紙、床の敷物の下は剥がしてみるとダニがうじゃうじゃいる。

つまり、コンクリートの内側の水滴や結露がダニの増殖を促す。そのダニの糞や抜け殻に付着する病原体を吸いながら生活をしているわけである。

周りでは煙草を吸いその煙が入り、道路では自動車が排気ガスを撒き散らし、タール状のべたべたした癌の元とか、一酸化炭素などガスの有害物質、現代病の元凶を吸い込み、生きている。最近はこの家庭も真空掃除機というのがある。

つまり空気を吸い込む掃除機で、このフィルターは一月に一回くらいは目づまりをするから取り替えて捨てる。

人間の体の肺というのは、フィルターと同じように目詰まりをするはずで取り替えなければならぬ筈である。が、それが一生のあいだ「この間安売りバーゲンでついでに買った肺を取り替えましたよ。そろそろ古くなりましてねえ。最近肺の値段が高くなりましてなかなかいい物が手に入りませんよ」と、入れ歯と同じようにカチャカチャと取り替えた人は見たことがない。

それでは同じ空気を吸い込むのに一分間に何回呼吸をするだろうか。一日中休みなく息を吸い込んでいる。

肺の中には相当な量の黴菌、ウイルス、タール状の発癌物質、煙草の灰、動植物の排泄物、塵、砂、それはもう大変な量である。しかし不思議なことにはこれが肺に蓄積しない。一生その肺細胞を使っていく。これは肺にたまった黴菌、ごみ等を自律神経がコントロールしている。免疫系の白血球や食細胞といわれるいろいろな細胞がごみや細菌をその体内に取り込んだり、消化したりして掃除をして肺の外へ出すからである。

自律神経失調症になると免疫系が低下してくる。それは夜更かし、不適當な栄養、休息をし

ない、神経の使い過ぎ、そういうことから免疫力が低下し、肺の中にたまってきた結核菌を取り除くことができなくなって発病となったわけである。その時に血液検査から糖尿病も発見された。

この人の症状は、糖尿病特有のとにかく体がだるく、体のいろいろな部分が痺れている。特に酷いのが両方の手の肘から先が痺れ出して、いつも手を振りたくなくなる感触があるという。

次におなかが減ったとき、舌の中央部分がキリキリとし感覚があつて、とにかく上の前歯でいつも舌をこさぐような癖が抜けない。

「とにかく全身がだるくてどうしようもない。これをなんとかしていただきたい。寝ていても変化なく、だるく、身の置きどころが無い、もう地獄です」とりあえず会社は結核の入院で三ヵ月休職し、現在は出たりでなかったりしている。

最初の頃の自律神経活性化療法の本に書いた、ある保険会社の男性もやはり四十歳ちょっとすぎであった。

この人は糖尿ではないがとにかく体中がいうことがきかなくて仕事にならない。親戚から『変なお前がいるから俺たちまで変な目で見られる』とか電話が掛かってきて、引越す寸前で私のところにこられた。社内でも変人あつかいになり、長い間築き上げた自分の地位や獲得

してきた給料も全部パーにして、新たに日雇い人夫でもしなければというところまで落ちてしまった家族がおられた。

子供さんは短大もやめ、次の子供の高校進学もやめてどこか家族で隠遁生活をしながら今後生きていかなければならないと話合った家族であった。

日本の国の浮浪者というのは自律神経失調症から心の病気になる、人間性が失われ、長い間幼少期から学校にいたりして、脳を訓練してきた人間性、これがゼロになり、単なる二本足で立つ動物となってしまった状態の人達である。

日本の国以外の浮浪者というのはホームレスといわれる人達で失業者、あるいは働く能力があっても働くつもりがない、戦争で追われ住み着けない人たちである。

日本は福祉が充実しておりホームレスはいない。日本人の場合にはそうではなく、心の病気、自律神経失調症のいきついたところである。

横浜山下公園あたりでも三十歳前後の女性や二十七、八歳の若い眼鏡を掛けた、それも度の強いいかにも若いとき猛烈に勉強したようなタイプの人達がいる。

なにをすともなくうろうろしている。丁度、犬猫がしているような状態。これが本能のままに生きている動物的状态なのである。

この方はその通り守られた。この方とほぼ似ているタイプのやはり大手といわれる建設会社
関西地区支店長の方が、半年ほど前に来られた。だれが聞いても知っている大きな建設会社の
取締役であった。私の指導を本当に忠実に守って、感心するほど反論一つ無く、はいはいと実
行され気持ちがよいほど治っていく。やはり『出世する人は違う』というも思う。

冬になり少し寒くなったため、血糖や尿糖が上がってきたが、それは心配しないようにとご
指導した。寒さや日照の短縮が体に無理を掛けるので、夏期中よりストレスが増す。

正月も過ぎて快適に暮らしていると、記録されている。『とにかく快適な体調、それが一番
嬉しい』と。そろそろこれくらい回復してくると、体がいつの間にか動いて物事にも気がつい
て頭も回転してくるようになる。

そうすると養生するのが退屈となって何か気にかかってくるし、何かしたくなる。全ての病
気は症状がひどいとき一日が短い。しかし治りかけてくると一日がながく退屈してくるので何
かやりたくなり、新聞雑誌にもつい目が行く。これが治りを遅くする原因となる。

そこで中途半端な養生となって失敗をする。本人もいつのまにか「やってしまうのですよ」。
だからここで皆さんに駄目押しに一言「もう一度相談に来られた時の体調を思い出してくださ
い。そして自制してください。」「それには、最初の具合が悪かった体調を紙に書き出して見て

下さい。その時の苦しさを記入し壁に張って、それを見ながら生活をしてください」「相当退屈ですよ。」その退屈さを紛らわすために少しづつ基礎体力をつけるリハビリをご指導した。その通り実行してもらった。

体重が六十三キロになり、なんだか会社にくとすっきり治ったように皆に言われ、自分もそういう気になってしまふのをできるだけセーブするように心掛けているとお話。最初にお引き受けするときに、三ヵ月ほど私のところで治療をした時点で、結核の状態がぶり返して悪化してくるようであれば私の糖尿の治療は一時中断するとお話をした。自律神経回復により体内の栄養状態が良くなってくる。しかし、免疫系の回復はその後になってだいぶ遅れる。そうすると結核菌の栄養源が体の中が増えると黴菌が増殖してくる。その時点で体内免疫系がまだ回復していないと結核菌が繁殖して、結核症状がぶり返すことがあるかもしれないと考えたためである。病院での結核検査を勧め、その後結核の動きは何もなかったということであるから、治療をさらに進めていった。

最初尿に出ていたのが毎回プラス2あるいはひどいときはプラス3であったのが、約四ヵ月くらいたったときにゼロになっている日が結構あるとおっしゃった。

自律神経回復により臓腑の働きが上がってくるとインシュリン増加と同時にグルカゴンの分泌

量も増す。これは血糖を上げるように働く。

さらにその他のいろいろな体のストレス状態は血糖を上げるように働いて、体の必要とするエネルギーの供給量を高めるように働くことは十分承知されている事である。療導医学の施療により血糖を下げるインシュリンが十分、自分の体の中に作られ始めたとしても、計算通りにまったくの健康な人と同様に血糖がぐんぐん下がるわけではない。

血糖は大分下がるが高めに推移していく。同時に体重も増えてくる。

体重を減らすために食事制限をして努力しておられたわけだから、体重が上がってくると血糖が上がってどんどん駄目になるのではないかとの考えに当然なる。

しかし、実際は逆であるから最初話した通り、『不思議だな』といっておられた。

半年がすぎ、『とにかく夜中に目覚めることはなく、非常に有難い』とその事ばかり言っておられた。相当きつかったらしい。そうして『快適な朝を迎えている』という事で非常に嬉しがおられる。

この頃になると『非常に酷かった便秘がまったくなくなった』『それから昼間の頻尿も結構有り、とにかく困っていたのがなくなった』と記述してある。

体力のほうも七ヵ月くらいたつと一段落であるから、『後は自分の家でおやりになり通って

こなくて良い』とお話したところ、『とにかく徹底して治さねばならないので、自宅でやりながら通ってきても良いか』と申し出があったのでそろそろ体力もついてきたことであるし、強い治療に耐えられると判断したために、その「両方を平行してやっても良いでしょう」ということで実行を始めた。

体力がある人は非常に回復が早い。この頃の血糖は少ないときで百十。多いときで百五十八、尿糖ゼロのときが数日続くとプラス2になったりいろいろと極端に変化をする。

これはやはり仕事の量が多いとき、風邪など軽い感染症にかかることによってだいたい変化をする。だけどいちいちこれに気を取られることはない。毎回繰り返すが、われわれ生きていくときに必要なのは血糖値が低いとか熱があるとかないとかいうよりも、具体的な体の症状がきついのがなければいいのであって多少具合が悪くてもわれわれは生きている。それは薬で治すときも対症療法として苦しい症状をとりあえず消し去ることとして用いている。そういうお話をするとまったくその通りですとおっしゃった。

「通院の治療を止めると不安だ」ということで、月に二回くらいぼつんと気が済むまで通ってきていただくようにということととりあえずの治療は終了とした。

お同様の書に拝読いただくもの

[illegible][illegible][illegible][illegible]

1. $\text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3 \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3$ (水と硝酸は反応しない)
2. $\text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3 \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3$ (水と硝酸は反応しない)
3. $\text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3 \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3$ (水と硝酸は反応しない)
4. $\text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3 \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3$ (水と硝酸は反応しない)
5. $\text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3 \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3$ (水と硝酸は反応しない)
6. $\text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3 \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3$ (水と硝酸は反応しない)
7. $\text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3 \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3$ (水と硝酸は反応しない)
8. $\text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3 \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3$ (水と硝酸は反応しない)
9. $\text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3 \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3$ (水と硝酸は反応しない)
10. $\text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3 \rightarrow \text{H}_2\text{O} + \text{HNO}_3$ (水と硝酸は反応しない)

1. 姓名: <u>王德明</u> 2. 性别: <u>男</u> 3. 年龄: <u>45</u> 4. 籍贯: <u>浙江杭州</u> 5. 职业: <u>教师</u> 6. 住址: <u>浙江省杭州市西湖区</u> 7. 联系电话: <u>0571-12345678</u> 8. 电子邮箱: <u>wdm@163.com</u> 9. 身份证号: <u>33010619680101XXXX</u> 10. 其他: <u>无</u>		11. 备注: <u>无</u>
---	--	------------------

[illegible]

治螟收獲量

①

1. 種類: 稻
2. 品種: 早稲
3. 栽培地: 早稲
4. 收穫量: 10.5 (kg) 10.5 (kg) 10.5 (kg)
5. 收穫時期: 10月10日
6. 收穫場所: 早稲
7. 收穫者: 早稲

治螟收獲量

②

1. 種類: 稻
2. 品種: 早稲
3. 栽培地: 早稲
4. 收穫量: 10.5 (kg) 10.5 (kg) 10.5 (kg)
5. 收穫時期: 10月10日
6. 收穫場所: 早稲
7. 收穫者: 早稲

治螟收獲量

③

1. 種類: 稻
2. 品種: 早稲
3. 栽培地: 早稲
4. 收穫量: 10.5 (kg) 10.5 (kg) 10.5 (kg)
5. 收穫時期: 10月10日
6. 收穫場所: 早稲
7. 收穫者: 早稲

治螟收獲量

④

1. 種類: 稻
2. 品種: 早稲
3. 栽培地: 早稲
4. 收穫量: 10.5 (kg) 10.5 (kg) 10.5 (kg)
5. 收穫時期: 10月10日
6. 收穫場所: 早稲
7. 收穫者: 早稲

治螟收獲量

⑤

1. 種類: 稻
2. 品種: 早稲
3. 栽培地: 早稲
4. 收穫量: 10.5 (kg) 10.5 (kg) 10.5 (kg)
5. 收穫時期: 10月10日
6. 收穫場所: 早稲
7. 收穫者: 早稲

治螟收獲量

⑥

1. 種類: 稻
2. 品種: 早稲
3. 栽培地: 早稲
4. 收穫量: 10.5 (kg) 10.5 (kg) 10.5 (kg)
5. 收穫時期: 10月10日
6. 收穫場所: 早稲
7. 收穫者: 早稲

治螟收獲量

⑦

1. 種類: 稻
2. 品種: 早稲
3. 栽培地: 早稲
4. 收穫量: 10.5 (kg) 10.5 (kg) 10.5 (kg)
5. 收穫時期: 10月10日
6. 收穫場所: 早稲
7. 收穫者: 早稲

治螟收獲量

⑧

1. 種類: 稻
2. 品種: 早稲
3. 栽培地: 早稲
4. 收穫量: 10.5 (kg) 10.5 (kg) 10.5 (kg)
5. 收穫時期: 10月10日
6. 收穫場所: 早稲
7. 收穫者: 早稲

高齢でも体質によっては回復も順調

七十三歳の男性で体重は五十五キロ。普通この年齢でお出でになっても基本的にお引き受けはしない。理由は体力がなく回復するのに時間が掛かるからである。

しかし、五十歳過ぎて個人差が大変あるというのは、暦の年齢の何年生まれで何歳ですという表現の一般的にああこの程度かと分かるのは大体四十歳くらいまでである。そうすると四十歳という人達は大体、体力と健康状態が見当がつき、たいしてばらつきはない。

しかし、体力が極端に下がる四十五歳以降になると個人差が大変ある。だからその人その人を見て判断をしなければ、年齢だけで一概に良いとも悪いとも言えない。

この方も私の本を読まれた後、お手紙を載いている。その時に高齢者の場合は基本的にお引き受けしない。

しかし、個人差が大きいから本人を見てみないと見当が付きませんと返事を出しておいた。相談には奥さんと来られ、電車で片道二時間くらいのところでもあるから、最初通ってこられるというお話であった。その方が治しやすいし、本人も安心だからということである。

しかし、片道二時間は往復で四時間準備もいれると五時間。普通五時間掛けどこかへ行くと

いうことは若い人でも大変なことである。ましてや病氣や具合が悪い人、年齢が高い人こういう人達は大変なことでもある。だから自宅でおやりになるようにお話しをした。自宅というのは三日間こちらに通ってきて、自宅で治す方法を治療を受けながら教わり、自分の家で指示された通りにやる。

そうして一ヵ月に一回、または二回通ってきて指導を受ける。回復が早い人ほど回数多く指導を受けたほうが良い。こういうふうにお話をした。

症状としては体が非常にだるい。そうして疲れやすい。目が霞む、足の裏が腫れぼったくて気色が悪い、せいせいとした日々が送れないし、そういう気分になれない。こういうことである。

三年程前肩のあたりがすごく痛くなったので診てもらったら糖尿病であったということである。

仕事は自営業で印刷業を三十五年やっておられる。ということとは四十歳くらいから始めたわけで、それまでは公務員をおやりになり、いろいろな会社にも勤めた経験がある。

その後印刷会社は順調で、朝八時頃から夜十一時くらいまでなんだかんだと働いておられるそうだ。

症状としては足の裏の腫れぼったいのが非常に困る。これについていろいろお聞きしたところ、糖尿のせいでおしっこに泡が立つ。つまり、トイレでおしっこを出したとき泡が非常に立つ日は、足の裏が気持ち悪い。通常は夕方だんだん酷くなる。

それでお話のときにこの仕事の時間について奥様にお話を聞いた。そうすると「まあ仕事熱心で仕事ばかりなんです。朝ご飯を食べて昼ご飯の休憩を少しやって、それからぶっ続け夜の十一時くらいまでやっているんです。夕食もそこそこに一所懸命で感謝はしているんですが、いつ体を壊して駄目になるかそれが非常に心配です」といわれた。

当然のことで夜の十一時まで仕事をして、自分の仕事をやる場合はあまり疲れない。計画を立てて自分のペースでやるのは、そんなに疲れることはないが、他人にいわれて期限を切られてやること、これは非常に疲れる。

だからこの本人に聞いても「そんなに大変なことではありませんよ。あはは」と笑っておられる。そこで本人の両親の仕事聞いた。農業でこの働き過ぎの人というのが病気になる場合、大体親の生活習慣が問題となる。

勤勉なことそれは大変良いことで、なまけぐせを持っている人よりもきちっとした生活ができるし、世の中多くの人にも受け入れられる。その点から見ると非常に良いけれど、休息を取

るということをしなければなかなか長続きはしない。どこか故障がくる。

農業を営んでいる人達は、基本的に働くことが習慣づいており、休息あるいは娯楽というのが乏しい。そういう傾向にある。それはどうしても別の職種、別の違った人達と交わることが少ないのでなかなかあちこちへ出歩くことが少ない。

特に七十三歳の人が子供の頃というと、六、七十年前で、その頃の日本というのは暗黒の時代といわれる大正と昭和の初期、これは進路こそ大切、遊ぶのは悪いこと、そういう風潮であったから、その習慣がついてしまっても仕方がないことである。

しかし、世の中が変わって状況も変わってくると、当然自分の考え方や行動、これも変えるのが普通である。それが健全な脳を持った人々。

環境の変化に合わせて自分を順応させることができる、これが健全なことである。昔気質になって昔の良さが忘れられない、これは誰しもあるが、多少健全さを欠く状態であることを知っていないなければならない。

本人が言われるには「とにかく立って仕事をするときに気色が悪くてやっていられないから、足の裏を治してほしい」そういうことが度々口に出てくる。

最初のうち一週間に一度ずつ通ってこられた。そうして七、八回の時、自分の家でも指示通

りやっておられる。足の裏が楽になってきたそう。どこをどうと聞いてもその表現が難しい。特にこの病氣というのは表現が難しいことが多い。そうして体が軽くなってきたと言われる。それで三カ月くらいたったとき足の裏が相当楽になり、体重が二キロ増えた。つまり、神経が正常になると体重が増える。

体重が五十五キロで痩せ気味であつたが、少し太つてないと風邪をひいたりなにか他の病氣に罹つたときに食事が取れない。そういう状態で体力を消耗しすぎて、いろいろと肺炎や他の病氣を発生させ命を落とすことになることを説明して体重を増やすように指導をした。

その後食欲が大變出て体調が良くなり体重も更に増え六十キロ近くなつてきた。六カ月くらいしたとき、すっかり足のほうの腫れも取れ、特別悪いところもなく目の霞みも取れてしまつた。

こういう體質の人は自律神経の力が生まれつき強い。このことを精力が強いと表現をする。一般的に精力が強いといえば、性生活に対して使う言葉と世間では言われているが、正しくは自律神経の力が強くて食欲、性欲、そういうのが旺盛で仕事をやる力それを持続させる力の神経の働きが非常に強いことを意味する。

普通三十五歳平均で治療の回数や症状の回復の状態を説明するが、概ね五十歳過ぎるとその

三倍はかかる。

しかし、この方の場合には、三十五歳ぐらいの人と同じような回復の速度で、私はたまにこういう体質の方がいて羨ましく思うことがある。こういう人達は上手に管理していけば百歳まで仕事ができるタイプで、例えば八十五になってもまったく普通の人で存在することができる。

仕事のほうは長い間、習慣としてだらだらやるように癖がついているから、夜七時過ぎたら特別なことがないかぎり、仕事場から離れて自分の家でごろごろしながら晩酌を楽しんだり、好きなテレビを見たり、また、家族と過ごすような習慣に変えることをお勧めした。実際そういうことをきちっと守った人である。

どの本にも書くが早く治る人は言われた通りにする。そういう人が人生の成功者として楽しく過ごしておられる。

勝手気儘で我が儘を言う。それは大変自由なことのように思える。しかし、物事をやるにはこうすればいいということは基本的に分かり切っていることのほうが多く、人類の文明社会において千五百年か二千年の歴史の中でそのやり方の公式は全て分かっており、その上に乗っかって働くのが楽であり成功を収める。

勝手気儘なことをやるということは失敗をする。

治療成績		治療成績		治療成績		治療成績		治療成績		治療成績	
項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
1. 治療方針	...	1. 治療方針	...	1. 治療方針	...	1. 治療方針	...	1. 治療方針	...	1. 治療方針	...
2. 治療経過	...	2. 治療経過	...	2. 治療経過	...	2. 治療経過	...	2. 治療経過	...	2. 治療経過	...
3. 治療効果	...	3. 治療効果	...	3. 治療効果	...	3. 治療効果	...	3. 治療効果	...	3. 治療効果	...
4. 治療副作用	...	4. 治療副作用	...	4. 治療副作用	...	4. 治療副作用	...	4. 治療副作用	...	4. 治療副作用	...
5. 治療費用	...	5. 治療費用	...	5. 治療費用	...	5. 治療費用	...	5. 治療費用	...	5. 治療費用	...
6. 治療満足度	...	6. 治療満足度	...	6. 治療満足度	...	6. 治療満足度	...	6. 治療満足度	...	6. 治療満足度	...
7. 治療継続率	...	7. 治療継続率	...	7. 治療継続率	...	7. 治療継続率	...	7. 治療継続率	...	7. 治療継続率	...
8. 治療評価	...	8. 治療評価	...	8. 治療評価	...	8. 治療評価	...	8. 治療評価	...	8. 治療評価	...

あとがき

糖尿病の治療は、インシュリン療法及び食事療法で治療方法が確立されたかのように世間一般では思われているが、仕事も楽しみも無く、生き永らえるだけの延命の手段である。

糖尿病は、自律神経失調症の一つの症状であり、自律神経を治していけば、糖尿病を根本的に治していくことができるということがおわかりになったと思う。

長い間、糖尿病の状態が継続していると、膵臓のインシュリン分泌、グルカゴン分泌を行う細胞そのものが退化し、消失してしまうことがある。この場合には、完全な回復は困難である。私は薬物療法であるインシュリンの療法及び食事制限の療法を否定するものではない。当然それで今まで多くの方々に延命効果があるのだから。

私は、糖尿病の治療は知る人ぞ知るというかたちで治療をしてきた。しかしそこで書物として発表をし、公開することにしたのは、本文中にある、Mさんの強いお奨めによることを明記しておきたい。私は人のため、世のためになるようになどという大それた考えは特別にもってはいない。しかし、いいことを良いとして発表することは、必要であると思う。

また、私が出版しているこの糖尿病に関する書物は以前出版したことがある、「よくわかる

心の病氣と自律神経失調症」と重複する点もあり、これは一部引用をしている。また自宅治療を行ないたい人のために「癒導医学自宅治療の実際」の中には、糖尿病を特別にクローズアップはしていないが、自律神経失調症の一症状であるから十分参考にされ、糖尿病の治療として、活用されて構わない。

またこの本は、次の方々の御協力によって完成したものである。小原恭子、香月美佐子、三宅京子、森田ミサオ。これらの方々は、当研究所の職員であるが、本を創っていく段階で自らも学び、また実際の治療に携わりながら、理論の習得、技術の練度を向上されていることを付け加えておく。

本文中治療の細部、具体については、医療知識ある方には解る程度まで、削除したのは、素人が、全身的症状、他の合併症等考慮せず、まねごと治療を行うと危険であることの理由による。癒導医学の方法は健康人、半病人がより良くなる為の方法でなく、病人を治す方法であって、有効なものほど素人のまねごとの方法は病氣の悪化、続発症の出現を惹起します。

著 者 略 歴

富永修侃(とみながしゅうかん)

昭和18年福岡県久留米市生れ、^{ふどう}癒導術(自律神経活性療法)の創始者故今村喜太郎先生の孫、幼少より癒導医学に接し直接癒導医学理論と治療技術、臨床技術を伝授される。

現在、施療院「日本癒導医学研究所」所長。施療と執筆、講習会、研修生養成と多忙

著書『自律神経活性療法』

『自律神経活性療法入門』

『^{癒導}リハビリの実際』

『癒導医学自宅治療の実際』

『日本人の正しい性生活と悩み治療』

『よくわかる心の病気と自律神経失調症』

『めまい・吐き気・不眠(メニエール)の治療法』

『自律神経失調症とよくわかる治療』

『よくわかる心の病気(^{神経症・うつ・分裂・自閉}心身症・困った性格)の治療』

『登校拒否・出勤不能の治療』

〒235-0036 横浜市磯子区中原1-3-41 千代田ビル2F

日本癒導医学研究所

電話 横浜(045)771-8521

FAX (045)771-7855

※「自律神経活性療法」「^{ふどう}癒導術」は商標登録済

パクパク食べて糖尿病の治療

検印略

1991年10月22日第1刷発行

定価 1,050円

1995年6月16日第3刷発行

(税別)

1999年8月25日第4刷発行

著 者 富永修侃

発行者 関 修一

発行所 日本癒導医学研究所

〒235-0036 神奈川県横浜市磯子区中原1-3-41 千代田ビル2F

電 話 (045)771-8521

FAX (045)771-7855

振 替 横浜1—14199

印刷 東京・木場・八紘社印刷

乱丁・落丁のものはお取り換えします

1

2

3

